

高野山大学・大学院
講義概要・授業計画

平成28年度



2016
KOYASAN UNIVERSITY
OVERVIEW LECTURE-LESSON PLANS

講義概要・授業計画

平成 28 年度 (2016)

高野山大学

総目次

- 本誌の利用に際して
 - 入学から卒業までの履修について 密教学科・人間学科
 - 目的を持った学習生活を送ろう！—宗教的教養を持った社会人を目指して
 - 《僧侶実力養成プログラム》
 - カリキュラムマップ 密教学科・人間学科
 - 講義概要・授業計画
- | | |
|---------------|---------|
| 文学部／別科 | 文1～文49 |
| 大 学 院 | 院1～院12 |
| ■ 教員別索引（50音順） | 索引1～索引2 |

— 本誌の利用に際して —

この「講義概要・授業計画」は、平成28年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目の頁を開くことで見ることができます。

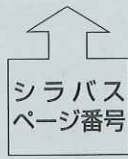
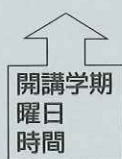
文 学 部

别 科

◆目次について

この『平成 28 年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学年のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門	藤田光寛	2	1年次	-		1



◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

(5ケタ)

課程

- 5 = 文学部生用
- 8 = 別科生用
- 9 = 大学院生用

曜日

- 1 = 月曜日
- 2 = 火曜日
- 3 = 水曜日
- 4 = 木曜日
- 5 = 金曜日
- 6 = 土曜日
- 7 = 集中講義
- 8 = 実習
- 9 = 論文

時限

- 1 = 1 講時
- 2 = 2 講時
- 3 = 3 講時
- 4 = 4 講時
- 5 = 5 講時

通し番号

- 01 ~ 49 = 前期授業
および通年授業
- 51 ~ 99 = 後期授業

◆受講登録について

- 1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、**4月7日（木）から4月15日（金）午後5時まで**に教務係へ提出してください。
- 2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。
 - ① 学籍番号（※ 身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。
 - ② 履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『平成28年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。
- 3 履修登録票を教務係へ提出した学生は、**4月22日（金）から4月26日（火）午後5時まで**に、教務係で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務係へ提出してください。
- 4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。
- 5 後期（9月26日開講）授業科目の追加及び登録変更は、**9月26日（月）から9月30日（金）午後5時まで**の後期履修登録変更期間に、教務係へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

- 「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。
- それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」になりますので留意してください。

◆報恩日（21日）の授業実施について

報恩日（21日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

入学から卒業までの履修について（密教学科）

文学部密教学科では卒業までに130単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第3条）。授業科目は、大きく必修科目と選択科目に分かれ、その中でいくつかはグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための自由科目が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは1年間に44単位までと上限が定められています（自由科目を除く）ので、4年で卒業するには1回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①1回生履修科目、②2回生履修科目、③3回生履修科目、④4回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目には密教学科科目、総合科目などの種類がありますが、基本的には選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程 別表Iに記載していますので参照してください。なお、原則として最終授業時に、期末試験・レポート試験の採点済み答案を返却します。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

必修科目

必修科目とは、卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。学年が上がってくると、「○科目のうちから○科目以上履修すればよい」という場合もありますが、1、2回生では「指定された科目を必ず履修しなければならない」という場合がほとんどです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

1回生必修科目

以下の1回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。それだけ今後の学習において重要な位置を占めると考え、必ず1回生のうちに履修をすませてください。

1) 「建学の精神」科目

空海思想入門

文字どおり本学の教育の基本となる科目で、学長が担当します。空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

2) 語学科目

英語 I

語学はコミュニケーションの手段としても、またそれを通じて世界の見方を広げる手段としても重要です。1回生では高校レベルの復習を中心に学びます。1回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

3) 導入科目

日本語

大学での筆記試験やレポート、ひいては4回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。1回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

4) 基礎講義

現代思想 人間と宗教 釈尊伝 弘法大師伝

本学で学び始めたみなさんに最低限知っておいてもらいたい、考えてもらいたい内容です。一方で、現代の抱える問題、人間が抱えてきた問題を学び、他方で仏教の開祖であるブッダや真言宗の開祖である弘法大師について、名前くらいしか知らないという人を想定して、その時代背景と生涯を学びます。

5) 古典語

漢文Ⅰ・Ⅱ

古典を学ぶのに必須となる漢文の力を養います。1回生では中学・高校レベルの復習を中心に学びます。

2回生必修科目

以下の2回生必修科目もほとんどが合格しないと卒業できない科目です。3回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず2回生のうちに履修をすませてください。

1) 語学科目

英語Ⅱ

2年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。2回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

2) 講義Ⅰ

密教学概論 密教史概説 仏教学概論 仏教史概説

1年次の空海思想入門、釈尊伝、弘法大師伝を基礎として、密教と仏教それぞれについて、その学問分野の全体像と歴史を学びます。

3) 2回生講読

祖典講読Ⅰ・Ⅱ

弘法大師の思想は本学での学習に欠かせない要素です。それを原典の漢文で読み進めていきます。弘法大師の思想に触れると共に、それが漢文でどのように表現されているかについても学びます。

3回生必修科目

いよいよ3回生から本格的な専門の内容を学びます。履修科目の選択にあたっては4回生になってどんな内容で卒業論文を書きたいか、その希望も踏まえてその領域の科目を重点的に学んでください。

1) 3回生講読

祖典講読Ⅲ・Ⅳ

2回生に引きつづき弘法大師の著作を原典で読み、その思想に触れます。漢文の勉強もしっかり進めてください。

2) 講読演習

密教学講読演習 仏教学講読演習 真言密教講読演習

講読演習は卒業論文作成の準備作業としての意義を持つ科目です。1冊または複数の文献を丁寧に読み、要点をまとめ、それを自分の考察や議論に生かしていくための方法を学びます。

3) 講義Ⅱ

密教学特殊講義 仏教学特殊講義 真言密教特殊講義

2回生までに学んだ密教、仏教の基礎的知識を踏まえ、担当教員がそれぞれの得意分野で専門的な講義を展開します。自分の興味や卒業論文のテーマに合わせ、3回生と4回生で必要単位がそろそろ履修してください。

4) 演習Ⅰ

密教学演習

4回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。3回生のうちは特に、4回生の卒論報告を聞いて資料の集め方、議論の進め方、発表の仕方などを学びます。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

4回生必修科目

1) 講読演習

密教学講読演習 仏教学講読演習 真言密教講読演習

3回生必修科目と同じです。

2) 講義Ⅱ

密教学特殊講義 仏教学特殊講義 真言密教特殊講義

3回生必修科目と同じです。

3) 演習Ⅱ

密教学演習

3回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。4回生の卒論報告は3回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

※ 演習の選択にあたって

演習は卒業論文を作成するための科目です。主にどの教員の指導を受けて卒論を書くか、3回生までにいろいろな教員の授業を受けながらよく考えておいて下さい。何か書いてみたいテーマがほんやりとでも見えてきたら、オフィスアワーや授業の前後の時間を利用して、教員に直接相談してみるのもよいでしょう。場合によっては、卒論はこの先生の指導で書くが、あの先生の演習も受けて参考にしたいという希望が出てくるかもしれません。その時にはそれぞれの教員にその希望を伝え、十分に相談してから受講して下さい。

選択科目

選択科目とは、密教学3領域（密教学、人文学、スピリチュアルケア）の他に、本学での学びを支えるために用意された科目です。企画科目や総合科目などいくつかのグループがありますが、グループ分けにこだわらず興味のあるものを選び、卒業までに全体で52単位を履修することが必要です。

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。1学年で履修できる科目の上限が44単位ですから、月曜から金曜まで、1講時から4講時（5講時）まで、すべてを授業で埋めることはできません。受けている授業の予習・復習をしたり、図書館で調べ物をしたり、空き時間をうまく活用して勉強を進めてください。密教合同研究室を覗いて先輩たちにアドバイスをもらったり、学習・就職支援室で就職活動の準備をするのもいいでしょう。

資格科目について

密教学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

- ・教育職員免許（宗教中学校1種、宗教高等学校1種、国語中学校1種、国語高等学校1種）
- ・高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
- ・社会福祉主事任用資格
- ・僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。特に教職免許は卒業単位以外に必要となる科目が多いので、1回生のうちから計画的に履修していくことが重要です。

入学から卒業までの履修について（人間学科）

文学部人間学科では卒業までに124単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第3条）。授業科目は、大きく**必修科目**と**選択科目**に分かれ、その中でいくつかはグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための**自由科目**が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは**1年間に44単位まで**と上限が定められています（**自由科目を除く**）ので、4年で卒業するには1回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①1回生履修科目、②2回生履修科目、③3回生履修科目、④4回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目は、選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『高野山大学要覧』の**高野山大学履修規程 別表I**に記載していますので参照してください。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

必修科目

卒業までに**必ず履修しなければならない科目**のことです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

1回生必修科目

以下の1回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。必ず1回生のうちに履修をすませてください。

1) 「建学の精神」科目

空海思想入門

空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

2) 語学科目

英語 I

1回生では高校レベルの復習を中心に学びます。

3) 学科基礎科目

人間学基礎ゼミ I、II

大学での筆記試験やレポート、ひいては4回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。

4) 基礎講義

現代思想 人間と宗教

人間学科での学びの出発点となる、いろいろな問題を学びます。

5) キャリア教育

キャリアカウンセリング I

働くことの意義を学ぶことで、社会に出る準備を始めます。

2回生必修科目

以下の2回生必修科目も3回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず2回生のうちに履修をすませてください。

1) 語学科目

英語 II

2年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。

2) 講義

人間学概論

哲学、歴史学、文学、心理学、社会学の連続講義で、一つのテーマを5つの学問の視点から考察します。さまざまな角度から人間を見ることを学びます。

3) ゼミ

人間学基礎ゼミⅢ、Ⅳ

人間学概論で学んだ知識を深めるための、人間学概論で取り上げられたテーマに関する文献講読、発表、話し合いを行います。

4) 伝統文化実習

茶道、民俗調査Ⅰ、Ⅱ など

実際に体を使った学びを通して、たんなる座学に留まらない立体的学びを目指します。

5) キャリア教育

キャリアカウンセリングⅡ

職業世界について理解を深め、自己分析を通じた自分の職業的傾向を把握します。

3回生必修科目

いよいよ卒論に向けた準備が始まります。自分なりのテーマを見つけ、卒業論文作成に向けて、計画的に研究を進めましょう。

1) 語学科目

英語Ⅲ

3年次には、ネット上の時事英語の読解など、より実践的な英語を学びます。

2) ゼミ

人間学演習Ⅰ

3, 4年生共通の卒論作成ゼミです。先輩の卒論発表を聴き、議論に参加することで、卒論作成についての準備を開始します。

人間学特殊ゼミⅠ、Ⅱ

哲学、歴史学、文学、心理学、社会学のテーマごとに開講されます。自分の卒論テーマに近い特殊ゼミを受講し、それぞれの専門分野の理解を深めます。

3) キャリア教育

キャリアカウンセリングⅢ

就職活動に必要な知識、技能を学びます。

4回生必修科目

1) ゼミ

人間学演習Ⅱ

3回生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。4回生の卒論報告は3回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。

選択科目

選択科目とは、必修科目に加えて、より広い教養を身につけてもらうための科目です。なお、人間学科生が密教学科科目を履修した場合、選択科目にカウントされます。密教学科科目を含めた選択科目の中から、76単位を履修してください。

各種講座

MOS 検定講座、秘書検定講座、漢字検定講座、公務員試験対策講座、簿記講座

本学では、授業のほかに、さまざまな資格取得を応援する講座を開設しています。これらの講座は、卒業単位とは関係ありませんが、社会に出る準備として、積極的に活用してください。

* 時間割作成上の注意

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。

資格科目について

人間学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

- ・ 高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
- ・ 社会福祉主事任用資格
- ・ 僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。

目的を持った学習生活を送ろう！——宗教的教養を持った社会人を目指して

副学長（教務担当）山脇 雅夫

本学のカリキュラムは「宗教的教養を持った社会人」を育成するよう設計されています。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の知恵を人生の指針とし、それを社会で活かしていける力を持った社会人です。

それは例えば、すべての「いのち」が平等だという弘法大師の教えを具体化し実践できる人です。

カリキュラムマップは、そうした人になるための学習の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開するための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっていきます。

また、こうした勉強を通して、社会人として必要な力も培われます。たとえば、古典を勉強することで古人の英知を身につけることができます。テキストを読解することで論理的に考える力が育ちます。語学の学習はコツコツと一つのことをやり遂げる根気を培います。ゼミでの討論は、人の話を理解し、自分の考えを人に説明する力を育てます。総じて学問を修めることは、何かを絶対視せず、批判的・総合的に物事を考察する習慣を育みます。

こうした力は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人にも役に立ちます。こうした力を基礎に、僧侶を目指す人は僧侶実力養成プログラムを、一般企業を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。大学の学問は難しい。初めはまるでチンプンカンということもあるかもしれません。しかし、そこが大学の学問のいいところなのです。見通しがきかない未知の世界に身を投げ入れ、そこでもがき苦しんで、自分なりのなにかを見つけること、そこに大学の勉強の醍醐味があります。それは社会で生きることに似ていると思います。難しい勉強をあきらめずに続けることが、そのまま、社会に出るためのトレーニングなのです。

大学4年間という時間は、長いようで短いものです。ぼんやりしているとアツと言う間に過ぎてしまいます。しっかりと目的意識を持って、自分を鍛えてください。

《僧侶実力養成プログラム》

密教学科主任

僧階取得を目指す学生は、必ず得度、受戒、加行、灌頂を在学中におこなってください。詳しくは掲示に注意するとともに学生手帳「D 僧侶の道」をよく読んでおいてください。

二年次において専修学院（学外授業実施施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外授業実施施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。学外施設における指定された科目は毎年12月頃に掲示で告知しますので注意しておいてください。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

その他、僧侶として身につけておいた方がよい科目群を「僧侶実力養成プログラム」と題して選び出しています。これらの科目についても積極的に受講してください。

受講モデルケース

1 回生		
常用経典 詠歌	阿字観 法式	声明
2 回生		
布教	声明上級	梵字悉曇
3 回生 4 回生		
法式上級	密教学特殊講義（事相）	一流伝授

僧侶実力養成プログラム

【教学実習科目】

法式 声明 常用経典 布教

【企画科目】

詠歌 阿息観 月輪観と阿字観 法式上級 声明上級 一流伝授

【選択科目】

梵字悉曇

【講義】

密教学特殊講義（事相）

カリキュラムマップ (密教学科)

建学の精神科目 空海の思想入門

		古典に学ぶ	伝統文化を学ぶ	人と関わる	社会に生かす	僧侶
1 回 生	必修	弘法大師伝 釈尊伝	漢文Ⅰ・Ⅱ	日本語 人間と宗教 英語Ⅰ	現代思想	
	選択	総合科目(古文書入門) 総合科目(書誌学) サンスクリット語Ⅰ チベット語 宗教思想史Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ 宗教史Ⅰ・Ⅱ 企画科目(歴史学Ⅰ・Ⅱ)	企画科目(仏教芸術) 企画科目(芸能) 企画科目(茶道) 企画科目(詠歌) 企画科目(舞踊) 漢字Ⅰ かなⅠ 日本文学Ⅰ・Ⅱ 国文法Ⅰ・Ⅱ 国語学Ⅰ・Ⅱ	企画科目(マインドフルネス) 心理学Ⅰ・Ⅱ 企画科目(時事英語) 英会話 中国語(初級) 体育実技	総合科目(デジタルアーカイブ) 情報処理 社会学Ⅰ・Ⅱ 現代の人権 日本国憲法 社会保障総論Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ	常用経典 声明 法式 布教 梵字悉曇 企画科目(阿息観) 企画科目(月輪観と阿字観) 企画科目(声明上級) 企画科目(一流伝授Ⅰ・Ⅱ) 企画科目(住職学講座)
2 回 生	必修	密教学概論Ⅰ・Ⅱ 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ 密教史概説Ⅰ・Ⅱ 仏教史概説Ⅰ・Ⅱ 祖典講読Ⅰ・Ⅱ		英語Ⅱ		
	選択	サンスクリット語Ⅱ	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 国語学講義Ⅰ・Ⅱ 漢文学概論Ⅰ・Ⅱ 漢字Ⅱ かなⅡ 書道史(日本) 篆刻Ⅰ・Ⅱ	中国語(上級) 哲学方法論	社会福祉各論Ⅰ・Ⅱ(地域福祉) 社会福祉各論Ⅰ(障害者福祉) 社会福祉各論Ⅰ(高齢者福祉) 社会福祉各論Ⅱ(児童福祉) 社会保障総論Ⅰ・Ⅱ	企画科目(法式上級) 企画科目(声明上級) 宗教学方法論

		密教学領域	人文学領域	スピリチュアルケア領域
3 4 回 生	必修	祖典講読Ⅲ・ⅣA(辯頭密二教論) 祖典講読Ⅲ・ⅣB(声字実相義)		
	講読演習	密教学講読演習B(金剛頂経) 真言密教講読演習A(インド密教の即身成仏思想) 真言密教講読演習B(十八道次第関連儀軌) 真言密教講読演習C(五秘密儀軌) 真言密教講読演習D(中院流三十三尊法) 真言密教講読演習E(中院流三十三尊法) 真言密教講読演習F(宗義決撰集)	密教学講読演習A(密教図像①) 仏教学講読演習A(続日本後紀) 仏教学講読演習B(日本霊異記) 仏教学講読演習C(日本仏教美術史) 仏教学講読演習D(日本美術史)	
	特殊講義	密教学特殊講義A(事作法伝授①) 密教学特殊講義B(事作法伝授②) 密教学特殊講義G(金剛界伝授次第) 密教学特殊講義H(胎蔵界伝授次第) 仏教学特殊講義E(スッタニパータ) 真言密教特殊講義B(葬送儀礼①) 真言密教特殊講義C(葬送儀礼②)	密教学特殊講義C(高野文化圏の生活文化) 密教学特殊講義D(高野文化圏の信仰生活) 密教学特殊講義E(仏画①) 密教学特殊講義F(仏画②) 密教学特殊講義I(インド・チベット密教の図像資料) 密教学特殊講義J(曼荼羅) 仏教学特殊講義B(仏像のかたち①) 仏教学特殊講義C(仏像のかたち②) 真言密教特殊講義A(密教図像②)	仏教学特殊講義A(スピリチュアルケア) 仏教学特殊講義D(仏教と現代社会)
	演習	密教学演習D(弘法大師の世界観) 密教学演習F(大日経) 密教学演習G(理趣経と密教思想・密教美術) 密教学演習H(宿曜経)	密教学演習B(中国書論) 密教学演習C(近代日本仏教史) 密教学演習E(空海の著作注釈)	密教学演習A(仏教心理学)
選択		日本文化特殊講義A 日本文化講読演習A 日本文化特殊講義B 日本文化講読演習B 中国文化講読演習 中国文化特殊講義A 条幅制作A 中国文化特殊講義B 条幅制作B		

卒業論文

教員・就職(自由科目)			
1回生	2回生	3回生	4回生
教職入門 教育原論 教育社会学 教育課程論	教育心理学 宗教科教育法Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 教育方法論 情報技術論 道德教育の研究 特別教育活動 生徒指導・進路指導 キャリアカウンセリングⅡ	宗教科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 教育相談 教育実習Ⅰ 就職スキル講座	教育実習Ⅱ 教職実践演習 教育実習の研究

カリキュラムマップ (人間学科)

講義・実習をゼミ・卒業論文へつなぐ

- ・哲学、歴史学、文学、心理学、社会学という5つの学問の切り口から、人間性についての理解を深めます。人間学概論、人間学科特殊ゼミで、5つの学問の切り口を学びます。
- ・1回生～4回生までのゼミが学びの中心です。発表・議論を通してコミュニケーション能力を養うとともに、ゼミ生同士や教員とのふれあいによって人間力を向上させます。4年間の総括として卒業論文を作成します。自分なりのテーマを見つけましょう。
- ・伝統文化実習では、茶道や民俗調査によって、体験的に伝統文化や地域の文化を学びます。
- ・キャリアカウンセリングは1回生から始まります。社会人基礎力の習得に向けた段階的指導を行います。
- ・1回生から、一人ひとりの学生にチューターを決め、個人学習支援を行います。個人学習支援では、修学に関することはもちろん、進路のことなども含めた支援を行います。

一回生	人間学科基礎ゼミⅠ・Ⅱ (日本語運用力養成、アカデミックラーニング基礎)	空海の思想入門 現代思想 人間と宗教 英語Ⅰ	キャリアカウンセリングⅠ	心理学 社会学 宗教学 宗教史 宗教思想史
二回生	人間学科基礎ゼミⅠ・Ⅱ (日本語運用力養成、アカデミックラーニング基礎)	人間学概論 (哲・史・文・心・社の オムニバス講義) 伝統文化実習(地域調査) (茶道) 英語Ⅱ	キャリアカウンセリングⅡ	日本国憲法 国文学 情報処理 密教学科目 漢文 サンスクリット語 チベット語 企画科目
三回生	人間学演習Ⅰ(卒論研究) 人間学科特殊ゼミⅠ・Ⅱ (哲・史・文・心・社のテーマ別文献講読)	英語Ⅲ	キャリアカウンセリングⅢ 企画科目(インターン実習)	
四回生	人間学演習Ⅱ(卒論研究)			
養成される力	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性についての理解 ・高度な日本語運用力 ・問題解決力 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養 ・宗教リテラシー

文学部目次

文学部 密教学科

1. 必修科目

[密教学科 1年次履修科目]

1) 「建学の精神」科目(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	水	1	53102	空海の思想入門 A	藤田光寛	2	1年次	-	A・Bどちらか履修すること	1
後期	月	3	51351	空海 of 思想入門 B	藤田光寛	2	1年次	-		1

2) 語学科目(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	金	3	55301	英語 I A	高倉正行	2	1年次	教職基礎	クラス分け有り	1
通年	金	3	55302	英語 I B	静春樹	2	1年次	教職基礎		1
通年	月	4	51403	英語 I (再履修)	高倉正行	2	2年次~	教職基礎		2

3) 導入科目(4)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	月	4	51401	日本語 A	土居夏樹	4	1年次	-	クラス分け有り	2
通年	月	4	51402	日本語 B	櫻木潤	4	1年次	-		2
通年	火	1	52101	日本語 (再履修)	櫻木潤	4	2年次~	-		2

4) 基礎講義(2+2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	火	3	52304	弘法大師伝 A	櫻木潤	2	1年次	-	Aを優先して履修すること	3
後期	火	3	52351	弘法大師伝 B	櫻木潤	2	1年次	-		3
前期	火	1	52103	釈尊伝 A	前谷彰	2	1年次	-	Aを優先して履修すること	3
後期	水	1	53151	釈尊伝 B	前谷彰	2	1年次	-		3
前期	月	2	51201	現代思想 A	山脇雅夫	2	1年次	教免(宗教)	Aを優先して履修すること	3
後期	水	2	53251	現代思想 B	山脇雅夫	2	1年次	教免(宗教)		3
前期	水	2	53206	人間と宗教 A	森本一彦	2	1年次	教免(宗教)	Aを優先して履修すること	3
後期	月	2	51251	人間と宗教 B	森本一彦	2	1年次	教免(宗教)		3

5) 古典語(2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	木	1	54101	漢文 I A	南昌宏	2	1年次	教免(国語)	Aを優先して履修すること	4
後期	月	1	51151	漢文 I B	南昌宏	2	1年次	教免(国語)		4
後期	木	1	54151	漢文 II A	南昌宏	2	1年次	教免(国語)	受講資格: 漢文 I の単位を修得していること	4
前期	月	1	51102	漢文 II B	南昌宏	2	2年次	教免(国語)		4

[密教学科2年次履修科目]

1) 語学科目(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	金	4	55401	英語ⅡA	高倉正行	2	2年次	教職基礎	クラス分け有り	5
通年	金	4	55402	英語ⅡB	静春樹	2	2年次	教職基礎		5
通年	水	2	53201	英語Ⅱ(再履修)	高倉正行	2	3年次～	教職基礎		5

2) 講義Ⅰ(2+2+2+2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	月	2	51202	密教学概論Ⅰ	乾仁志	2	2年次	教免(宗教)		6
後期	月	2	51252	密教学概論Ⅱ	乾仁志	2	2年次	教免(宗教)		6
前期	火	4	52404	仏教学概論Ⅰ	加納和雄	2	2年次	教免(宗教)		6
後期	火	4	52451	仏教学概論Ⅱ	加納和雄	2	2年次	教免(宗教)		6
前期	金	1	55103	密教史概説Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免(宗教)		7
後期	月	3	51352	密教史概説Ⅱ	櫻木潤	2	2年次	教免(宗教)		7
前期	木	4	54402	仏教史概説Ⅰ	前谷彰	2	2年次	教免(宗教)		7
後期	木	4	54451	仏教史概説Ⅱ	前谷彰	2	2年次	教免(宗教)		7

3) 2回生講読(2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	火	2	52205	祖典講読ⅠA	松長恵史	2	2年次	教免(宗教)	クラス分け有り	8
前期	火	2	52206	祖典講読ⅠB	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		8
後期	火	2	52251	祖典講読ⅡA	松長恵史	2	2年次	教免(宗教)	クラス分け有り	8
後期	火	2	52252	祖典講読ⅡB	土居夏樹	2	2年次	教免(宗教)		8

[密教学科3年次履修科目]

1) 3回生講読(2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	月	2	51203	祖典講読ⅢA	土居夏樹	2	3年次	-		8
前期	火	1	52104	祖典講読ⅢB	松長恵史	2	3年次	-		8
後期	月	2	51253	祖典講読ⅣA	土居夏樹	2	3年次	-		9
後期	火	1	52151	祖典講読ⅣB	松長恵史	2	3年次	-		9

2) 講読演習(2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	月	1	51103	密教学講読演習A	松長恵史	2	3年次	教免(宗教)		9
前期	火	3	52305	密教学講読演習B	乾仁志	2	3年次	教免(宗教)		9
前期	水	1	53103	仏教学講読演習A	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		10
後期	水	1	53152	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		10
前期	水	4	53403	仏教学講読演習C	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		10
後期	水	4	53451	仏教学講読演習D	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		10
前期	水	1	53104	真言密教講読演習A	加納和雄	2	3年次	教免(宗教)		11
前期	木	1	54102	真言密教講読演習B	T.ドライトライン	2	3年次	教免(宗教)		11
後期	木	1	54152	真言密教講読演習C	T.ドライトライン	2	3年次	教免(宗教)		11
前期	金	2	55203	真言密教講読演習D	T.ドライトライン	2	3年次	教免(宗教)		11
後期	金	2	55251	真言密教講読演習E	T.ドライトライン	2	3年次	教免(宗教)		12
前期	金	1	55104	真言密教講読演習F	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		12

3) 講義Ⅱ (2+2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	月	1	51104	密教学特殊講義 A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)		12
後期	月	1	51152	密教学特殊講義 B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)		12
前期	月	3	51304	密教学特殊講義 C	森本一彦	2	3年次	教免(宗教)		13
後期	月	3	51353	密教学特殊講義 D	森本一彦	2	3年次	教免(宗教)		13
前期	月	4	51406	密教学特殊講義 E	静 慈 圓	2	3年次	教免(宗教)		13
後期	月	4	51452	密教学特殊講義 F	静 慈 圓	2	3年次	教免(宗教)		13
前期	金	1	55105	密教学特殊講義 G	T.ドライライン	2	3年次	教免(宗教)		14
後期	金	1	55151	密教学特殊講義 H	T.ドライライン	2	3年次	教免(宗教)		14
後期	金	2	55252	密教学特殊講義 I	奥山直司	2	3年次	教免(宗教)		14
前期	金	4	55403	密教学特殊講義 J	中安真理	2	3年次	教免(宗教)		14
後期	火	4	52452	仏教学特殊講義 A	井上ウイマラ	2	3年次	教免(宗教)		15
前期	水	3	53305	仏教学特殊講義 B	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		15
後期	水	3	53352	仏教学特殊講義 C	和田圭子	2	3年次	教免(宗教)		15
後期	木	1	54153	仏教学特殊講義 D	森崎雅好	2	3年次	教免(宗教)		15
後期	木	3	54351	仏教学特殊講義 E	前谷 彰	2	3年次	教免(宗教)		16
後期	月	1	51153	真言密教特殊講義 A	松長恵史	2	3年次	教免(宗教)		16
前期	金	3	55304	真言密教特殊講義 B	齋藤天譽	2	3年次	教免(宗教)		16
後期	金	3	55352	真言密教特殊講義 C	齋藤天譽	2	3年次	教免(宗教)		16

4) 演習Ⅰ (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	火	2	52201	密教学演習 A	井上ウイマラ	4	3年次	-		17
通年	火	2	52202	密教学演習 B	野田 悟	4	3年次	-		17
通年	火	3	52301	密教学演習 C	奥山直司	4	3年次	-		17
通年	火	3	52302	密教学演習 D	前谷 彰	4	3年次	-		17
通年	水	1	53101	密教学演習 E	南昌宏	4	3年次	-		18
通年	水	2	53202	密教学演習 F	乾 仁志	4	3年次	-		18
通年	水	2	53203	密教学演習 G	加納和雄	4	3年次	-		18
通年	水	2	53204	密教学演習 H	佐藤隆彦	4	3年次	-		18

[密教学科4年次履修科目]

1) 講読演習 (2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	月	1	51103	密教学講読演習 A	松長恵史	2	4年次	教免(宗教)		9
前期	火	3	52305	密教学講読演習 B	乾 仁志	2	4年次	教免(宗教)		9
前期	水	1	53103	仏教学講読演習 A	櫻木 潤	2	4年次	教免(宗教)		10
後期	水	1	53152	仏教学講読演習 B	櫻木 潤	2	4年次	教免(宗教)		10
前期	水	4	53403	仏教学講読演習 C	和田圭子	2	4年次	教免(宗教)		10
後期	水	4	53451	仏教学講読演習 D	和田圭子	2	4年次	教免(宗教)		10
前期	水	1	53104	真言密教講読演習 A	加納和雄	2	4年次	教免(宗教)		11
前期	木	1	54102	真言密教講読演習 B	T.ドライライン	2	4年次	教免(宗教)		11
後期	木	1	54152	真言密教講読演習 C	T.ドライライン	2	4年次	教免(宗教)		11
前期	金	2	55203	真言密教講読演習 D	T.ドライライン	2	4年次	教免(宗教)		11
後期	金	2	55251	真言密教講読演習 E	T.ドライライン	2	4年次	教免(宗教)		12
前期	金	1	55104	真言密教講読演習 F	土居夏樹	2	4年次	教免(宗教)		12

2) 講義Ⅱ (2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	月	1	51104	密教学特殊講義 A	中 西 雄 泰	2	4 年次	教免 (宗教)		12
後期	月	1	51152	密教学特殊講義 B	中 西 雄 泰	2	4 年次	教免 (宗教)		12
前期	月	3	51304	密教学特殊講義 C	森 本 一 彦	2	4 年次	教免 (宗教)		13
後期	月	3	51353	密教学特殊講義 D	森 本 一 彦	2	4 年次	教免 (宗教)		13
前期	月	4	51406	密教学特殊講義 E	静 慈 圓	2	4 年次	教免 (宗教)		13
後期	月	4	51452	密教学特殊講義 F	静 慈 圓	2	4 年次	教免 (宗教)		13
前期	金	1	55105	密教学特殊講義 G	T.ドライン	2	4 年次	教免 (宗教)		14
後期	金	1	55151	密教学特殊講義 H	T.ドライン	2	4 年次	教免 (宗教)		14
後期	金	2	55252	密教学特殊講義 I	奥 山 直 司	2	4 年次	教免 (宗教)		14
前期	金	4	55403	密教学特殊講義 J	中 安 真 理	2	4 年次	教免 (宗教)		14
後期	火	4	52452	仏教学特殊講義 A	井上ウイマラ	2	4 年次	教免 (宗教)		15
前期	水	3	53305	仏教学特殊講義 B	和 田 圭 子	2	4 年次	教免 (宗教)		15
後期	水	3	53352	仏教学特殊講義 C	和 田 圭 子	2	4 年次	教免 (宗教)		15
後期	木	1	54153	仏教学特殊講義 D	森 崎 雅 好	2	4 年次	教免 (宗教)		15
後期	木	3	54351	仏教学特殊講義 E	前 谷 彰	2	4 年次	教免 (宗教)		16
後期	月	1	51153	真言密教特殊講義 A	松 長 恵 史	2	4 年次	教免 (宗教)		16
前期	金	3	55304	真言密教特殊講義 B	齋 藤 天 譽	2	4 年次	教免 (宗教)		16
後期	金	3	55352	真言密教特殊講義 C	齋 藤 天 譽	2	4 年次	教免 (宗教)		16

3) 演習Ⅱ (4)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	火	2	52201	密教学演習 A	井上ウイマラ	4	4 年次	-		17
通年	火	2	52202	密教学演習 B	野 田 悟	4	4 年次	-		17
通年	火	3	52301	密教学演習 C	奥 山 直 司	4	4 年次	-		17
通年	火	3	52302	密教学演習 D	前 谷 彰	4	4 年次	-		17
通年	水	1	53101	密教学演習 E	南 昌 宏	4	4 年次	-		18
通年	水	2	53202	密教学演習 F	乾 仁 志	4	4 年次	-		18
通年	水	2	53203	密教学演習 G	加 納 和 雄	4	4 年次	-		18
通年	水	2	53204	密教学演習 H	佐 藤 隆 彦	4	4 年次	-		18

4) 卒業論文 (8)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	-	-	59001	卒業論文	密教学科主任	8	4 年次	-		-
前期	-	-	59002	卒業論文 (前期)	密教学科主任	8	4 年次	-	7月提出許可者に限る	-

2. 選択科目

1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	水	1	53105	総合科目 (書誌学)	坂 口 太 郎	2	1 年次~	-		19
後期	水	1	53153	総合科目 (古文書入門)	坂 口 太 郎	2	1 年次~	-		19

2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備 考	頁
通年	月	3	51301	企画科目 (時事英語)	高 倉 正 行	2	1 年次~	-		19
通年	月	3	51302	企画科目 (舞踊)	高 祖 ・ 辻	2	1 年次~	-		19
前期	月	3	51303	企画科目 (寺院経営講座)	加 賀 博	2	1 年次~	-		20

前期	月	5	51501	企画科目(おもしろ教学思想)	木地茂典	2	1年次～			20
通年	火	4	52401	企画科目(華道)	五味和樹	2	1年次～			20
前期	水	2	53207	企画科目(マインドフルネス)	井上ウイマラ	2	1年次～			20
前期	水	2	53208	企画科目(仏教芸術)	和田圭子	2	1年次～	-		21
通年	水	3	53302	企画科目(法式上級)	測田雲溪	2	1年次～	-		21
通年	水	4	53401	企画科目(芸能)	糺谷有桜	2	1年次～	-		21
前期	木	2	54204	企画科目(阿息観)	佐藤隆彦	2	1年次～	-		21
後期	木	2	54252	企画科目(月輪観と阿字観)	佐藤隆彦	2	1年次～	-		22
通年	木	3	54301	企画科目(詠歌)	上山・辻・村上	2	1年次～	-		22
前期	木	4	54403	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	1年次～	-		22
前期	木	4	54404	企画科目(歴史学Ⅰ)	坂口太郎	2	1年次～	-		22
後期	木	4	54452	企画科目(歴史学Ⅱ)	坂口太郎	2	1年次～	-		23
通年	金	3	55303	企画科目(声明上級)	辻秀道	2	1年次～	-		23
集中	-	-	57001	企画科目(一流伝授Ⅰ)	甲田宥晔	2	1年次～	-	8/1～8/3	23
集中	-	-	57002	企画科目(一流伝授Ⅱ)	甲田宥晔	2	1年次～	-	9/12～9/14	23

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	火	2	52203	サンスクリット語Ⅰ	前谷彰	2	1年次～	-		24
通年	木	3	54302	サンスクリット語Ⅱ	加納和雄	2	2年次～	-		24
通年	木	2	54201	チベット語	加納和雄	2	1年次～	-		24
通年	金	2	55201	英会話	静春樹	2	1年次～	-		24
通年	火	1	52102	中国語(初級)	土生川正賢	2	1年次～	-		25
通年	火	2	52204	中国語(上級)	土生川正賢	2	1年次～	-		25

4) 健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	木	3	54303	体育実技	加陽生子	2	1年次～	教職基礎		25

5) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	木	3	54305	宗教思想史Ⅰ	川崎一洋	2	1年次～	教免(宗教)		26
後期	木	3	54352	宗教思想史Ⅱ	川崎一洋	2	1年次～	教免(宗教)		26
前期	金	2	55204	心理学Ⅰ	戸來知子	2	1年次～	社会福祉主事		26
後期	金	2	55253	心理学Ⅱ	戸來知子	2	1年次～	社会福祉主事		26
前期	月	1	51105	社会学Ⅰ	森本一彦	2	1年次～	社会福祉主事		27
後期	月	1	51154	社会学Ⅱ	森本一彦	2	1年次～	社会福祉主事		27
前期	水	1	53106	国文法Ⅰ	下西忠	2	1年次～	教免(国語)		27
後期	水	1	53154	国文法Ⅱ	下西忠	2	1年次～	教免(国語)		27
前期	水	1	53209	日本文学Ⅰ	浜畑圭吾	2	1年次～	教免(国語)		28
後期	水	1	53252	日本文学Ⅱ	浜畑圭吾	2	1年次～	教免(国語)		28
前期	金	4	55404	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	1年次～	教免(国語)		28
後期	金	4	55452	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	1年次～	教免(国語)		28
後期	水	4	53452	現代の人権	竹村和也	2	1年次～	-		29
後期	水	3	53353	日本国憲法	竹村和也	2	1年次～	教職基礎		29
通年	火	4	52402	情報処理	野口博司	2	1年次～	教職基礎		29
通年	金	2	55202	梵字悉曇	齋藤天譽	2	1年次～	-		29

6) 教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	水	4	53402	常用經典	宮田 永明	2	1年次～	僧階申請		30
通年	金	1	55101	声明	辻 秀道	2	1年次～	僧階申請		30
通年	月	1	51101	法式	内海 周浩	2	1年次～	僧階申請		30
通年	水	3	53303	布教	近藤 堯寛	2	1年次～	僧階申請		30

7) 教育職員免許状関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	木	2	54205	宗教学Ⅰ	川崎 一洋	2	1年次～	教免(宗教)		31
後期	木	2	54253	宗教学Ⅱ	川崎 一洋	2	1年次～	教免(宗教)		31
前期	木	1	54103	宗教史Ⅰ	川崎 一洋	2	1年次～	教免(宗教)		31
後期	木	1	54154	宗教史Ⅱ	川崎 一洋	2	1年次～	教免(宗教)		31
後期	木	4	54453	哲学方法論	山脇 雅夫	2	2年次～	教免(宗教)		32
後期	水	1	53155	宗教学方法論	藤田 光寛	2	2年次～	教免(宗教)		32
前期	月	4	51407	日本文学概論Ⅰ	浜畑 圭吾	2	2年次～	教免(国語)		32
後期	月	4	51453	日本文学概論Ⅱ	浜畑 圭吾	2	2年次～	教免(国語)		32
前期	火	3	52306	日本文学史概説Ⅰ	下西 忠	2	2年次～	教免(国語)		33
後期	火	3	52352	日本文学史概説Ⅱ	下西 忠	2	2年次～	教免(国語)		33
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南 昌宏	2	2年次～	教免(国語)		33
後期	木	3	54353	漢文学概論Ⅱ	南 昌宏	2	2年次～	教免(国語)		33
前期	金	3	55305	国語学講義Ⅰ	上田 恭寿	2	2年次～	教免(国語)		34
後期	金	3	55353	国語学講義Ⅱ	上田 恭寿	2	2年次～	教免(国語)		34
前期	金	4	55405	日本文化特殊講義 A	坂口 太郎	2	3年次～	教免(国語)		34
後期	金	4	55453	日本文化特殊講義 B	坂口 太郎	2	3年次～	教免(国語)		34
前期	金	4	55406	中国文化特殊講義 A	野田 悟	2	3年次～	教免(国語)		35
後期	月	3	51354	中国文化特殊講義 B	南 昌宏	2	3年次～	教免(国語)		35
前期	火	2	52207	日本文化講読演習 A	浜畑 圭吾	2	3年次～	教免(国語)		35
後期	火	2	52253	日本文化講読演習 B	浜畑 圭吾	2	3年次～	教免(国語)		35
前期	月	3	51305	中国文化講読演習	南 昌宏	2	3年次～	教免(国語)		36

8) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	水	2	53205	漢字Ⅰ	野田 悟	2	1年次～	書道師範/教免(国語)		36
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	木本 滋久	2	2年次～	書道師範/教免(国語)		36
通年	木	2	54202	かなⅠ	山本 圭子	2	1年次～	書道師範/教免(国語)		37
通年	木	3	54304	かなⅡ	山本 圭子	2	2年次～	書道師範/教免(国語)		37
前期	火	1	52105	篆刻Ⅰ	野田 悟	2	2年次～	書道師範		37
後期	火	1	52152	篆刻Ⅱ	野田 悟	2	2年次～	書道師範		37
通年	火	3	52303	条幅制作 A	木本 滋久	2	3年次～	書道師範		38
通年	木	4	54401	条幅制作 B	山本 圭子	2	3年次～	書道師範		38
通年	金	1	55102	書道史(中国)	野田 悟	4	2年次～	書道師範		38

9) 社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	水	2	53210	社会福祉各論Ⅰ(障害者福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
前期	水	1	53107	社会福祉各論Ⅰ(地域福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
後期	水	1	53156	社会福祉各論Ⅱ(地域福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
前期	水	3	53306	社会福祉各論Ⅰ(児童福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
後期	水	2	53253	社会福祉各論Ⅱ(高齢者福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		40

前期	火	4	52405	社会保障総論Ⅰ	山口幸照	2	1年次～	社会福祉主事		40
後期	火	4	52453	社会保障総論Ⅱ	山口幸照	2	1年次～	社会福祉主事		40

10) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
後期	金	4	55451	キャリアカウンセリングⅠ	田村美幸	2	1年次～	-	平成27年度以降の	47
後期	金	3	55351	キャリアカウンセリングⅡ	加賀博	2	2年次～	-	入学生のみ履修可	49

11) 他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	水	3	53301	伝統文化実習(茶道)	岡本文音	2	2年次～	-		48
通年	月	4	51404	伝統文化実習(民俗調査)	森本一彦	2	2年次～	-		48

3. 自由科目(卒業要件には参入されません)

1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	水	2	53211	教職入門	嶋田博	2	1年次～	教免必修		41
前期	木	4	54405	教育原論	山脇雅夫	2	1年次～	教免必修		41
後期	木	1	54155	教育心理学	戸來知子	2	2年次～	教免必修		41
後期	木	4	54454	教育社会学	森本一彦	2	1年次～	教免必修		41
後期	水	2	53254	教育課程論	嶋田博	2	1年次～	教免必修		42
前期	月	1	51106	宗教科教育法Ⅰ	乾仁志	2	2年次～	教免(宗教)		42
後期	月	1	51155	宗教科教育法Ⅱ	乾仁志	2	2年次～	教免(宗教)		42
後期	月	4	51454	宗教科教育法Ⅲ	松長恵史	2	3年次～	教免(宗教)		42
前期	火	4	52406	国語科教育法Ⅰ	下西忠	2	2年次～	教免(国語)		43
後期	火	4	52454	国語科教育法Ⅱ	下西忠	2	2年次～	教免(国語)		43
前期	火	5	52501	国語科教育法Ⅲ	下西・浜畑	2	3年次～	教免(国語)		43
後期	火	5	52551	国語科教育法Ⅳ	下西・浜畑	2	3年次～	教免(国語)		43
後期	水	1	53157	教育方法論	山脇・岡本(正)	2	2年次～	教免必修		44
後期	金	3	55354	情報技術論	戸來知子	2	2年次～	教免必修		44
後期	月	3	51355	道德教育の研究	山脇雅夫	2	2年次～	教免必修		44
前期	木	2	54206	特別教育活動	戸來知子	2	2年次～	教免必修		44
後期	木	2	54254	生徒指導・進路指導	戸來知子	2	2年次～	教免必修		45
前期	金	3	55306	教育相談	戸來知子	2	3年次～	教免必修		45
後期	水	3	53354	教職実践演習	戸來知子	2	4年次	教免必修		45
実習	-	-	58001	教育実習Ⅰ	山脇・戸來	2	3年次～	教免必修		-
実習	-	-	58002	教育実習Ⅱ	山脇・戸來	2	4年次	教免必修		-
前期	木	1	54104	教育実習の研究	山脇・戸來	1	3年次～	教免必修		45

2) 就職支援プログラム展開科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
後期	金	4	55451	キャリアカウンセリングⅠ	田村美幸	2	1年次～	-	平成26年度以前の	47
後期	金	3	55351	キャリアカウンセリングⅡ	加賀博	2	2年次～	-	入学生のみ履修可	49
後期	金	3	55355	就職スキル講座	田村美幸	2	3年次～	-		46

文学部 人間学科

1. 必修科目

[人間学科 1年次履修科目]

1) 「建学の精神」科目(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	水	1	53102	空海の思想入門 A	藤田 光寛	2	1年次	-	A・Bどちらか履修すること	1
後期	月	3	51351	空海 of 思想入門 B	藤田 光寛	2	1年次	-		1

2) 語学科目(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	金	3	55301	英語 I A	高倉 正行	2	1年次	-	クラス分け有り	1
通年	金	3	55302	英語 I B	静 春樹	2	1年次	-		1
通年	月	4	51403	英語 I (再履修)	高倉 正行	2	2年次~	-		2

3) 導入科目(2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	月	4	51405	人間学基礎ゼミ I	山脇 雅夫	2	1年次	-		46
後期	月	4	51451	人間学基礎ゼミ II	山脇 雅夫	2	1年次	-		46

4) 基礎講義(2+2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	月	2	51201	現代思想 A	山脇 雅夫	2	1年次	-	Aを優先して履修すること	3
後期	水	2	53251	現代思想 B	山脇 雅夫	2	1年次	-		3
前期	水	2	53206	人間と宗教 A	森本 一彦	2	1年次	-	Aを優先して履修すること	3
後期	月	2	51251	人間と宗教 B	森本 一彦	2	1年次	-		3

5) キャリア教育(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
後期	金	4	55451	キャリアカウンセリング I	田村 美幸	2	1年次	-		47

[人間学科 2年次履修科目]

1) 語学科目(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	金	4	55401	英語 II A	高倉 正行	2	2年次	-	クラス分け有り	5
通年	金	4	55402	英語 II B	静 春樹	2	2年次	-		5

2) 講義 I(4)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	水	3	53304	人間学概論 I	山脇・浜畑	2	2年次	-		47
後期	水	3	53351	人間学概論 II	森本・森崎・坂口	2	2年次	-		47

3) 基礎ゼミ(4)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	木	2	54203	人間学基礎ゼミ III	坂口 太郎	2	2年次	-		48
後期	木	2	54251	人間学基礎ゼミ IV	坂口 太郎	2	2年次	-		48

4) 伝統文化実習(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	水	3	53301	伝統文化実習(茶道)	岡本文音	2	2年次	-		48
通年	月	4	51404	伝統文化実習(民俗調査)	森本一彦	2	2年次	-		48

5) キャリア教育(2)

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
後期	金	3	55351	キャリアカウンセリングⅡ	加賀博	2	2年次	-		49

2. 選択科目

1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	水	1	53105	総合科目(書誌学)	坂口太郎	2	1年次~	-		19
後期	水	1	53153	総合科目(古文書入門)	坂口太郎	2	1年次~	-		19

2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	月	3	51301	企画科目(時事英語)	高倉正行	2	1年次~	-		19
通年	月	3	51302	企画科目(舞踊)	高祖・辻	2	1年次~	-		19
前期	月	3	51303	企画科目(寺院経営講座)	加賀博	2	1年次~	-		20
前期	月	5	51501	企画科目(おもしろ教学思想)	木地茂典	2	1年次~	-		20
通年	火	4	52401	企画科目(華道)	五味和樹	2	1年次~	-		20
前期	水	2	53207	企画科目(マインドフルネス)	井上ウイマラ	2	1年次~	-		20
前期	水	2	53208	企画科目(仏教芸術)	和田圭子	2	1年次~	-		21
通年	水	3	53302	企画科目(法式上級)	湖田雲溪	2	1年次~	-		21
通年	水	4	53401	企画科目(芸能)	糺谷有桜	2	1年次~	-		21
前期	木	2	54204	企画科目(阿息観)	佐藤隆彦	2	1年次~	-		21
後期	木	2	54252	企画科目(月輪観と阿字観)	佐藤隆彦	2	1年次~	-		22
通年	木	3	54301	企画科目(詠歌)	上山・辻・村上	2	1年次~	-		22
前期	木	4	54403	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	1年次~	-		22
前期	木	4	54404	企画科目(歴史学Ⅰ)	坂口太郎	2	1年次~	-		22
後期	木	4	54452	企画科目(歴史学Ⅱ)	坂口太郎	2	1年次~	-		23
通年	金	3	55303	企画科目(声明上級)	辻秀道	2	1年次~	-		23
集中	-	-	57001	企画科目(一流伝授Ⅰ)	甲田宥晔	2	1年次~	-	8/1~8/3	23
集中	-	-	57002	企画科目(一流伝授Ⅱ)	甲田宥晔	2	1年次~	-	9/12~9/14	23

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	火	2	52203	サンスクリット語Ⅰ	前谷彰	2	1年次~	-		24
通年	木	3	54302	サンスクリット語Ⅱ	加納和雄	2	2年次~	-		24
通年	木	2	54201	チベット語	加納和雄	2	1年次~	-		24
通年	金	2	55201	英会話	静春樹	2	1年次~	-		24
通年	火	1	52102	中国語(初級)	土生川正賢	2	1年次~	-		25
通年	火	2	52204	中国語(上級)	土生川正賢	2	1年次~	-		25

4) 健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	木	3	54303	体育実技	加陽生子	2	1年次~	-		25

5) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
前期	木	3	54305	宗教思想史Ⅰ	川崎一洋	2	1年次～	-		26
後期	木	3	54352	宗教思想史Ⅱ	川崎一洋	2	1年次～	-		26
前期	金	2	55204	心理学Ⅰ	戸來知子	2	1年次～	-		26
後期	金	2	55253	心理学Ⅱ	戸來知子	2	1年次～	-		26
前期	月	1	51105	社会学Ⅰ	森本一彦	2	1年次～	-		27
後期	月	1	51154	社会学Ⅱ	森本一彦	2	1年次～	-		27
前期	水	1	53106	国文法Ⅰ	下西忠	2	1年次～	-		27
後期	水	1	53154	国文法Ⅱ	下西忠	2	1年次～	-		27
前期	水	2	53209	日本文学Ⅰ	浜畑圭吾	2	1年次～	-		28
後期	水	2	53252	日本文学Ⅱ	浜畑圭吾	2	1年次～	-		28
前期	金	4	55404	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	1年次～	-		28
後期	金	4	55452	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	1年次～	-		28
後期	水	4	53452	現代の人権	竹村和也	2	1年次～	-		29
後期	水	3	53353	日本国憲法	竹村和也	2	1年次～	-		29
通年	火	4	52402	情報処理	野口博司	2	1年次～	-		29
通年	金	2	55202	梵字悉曇	齋藤天譽	2	1年次～	-		29
前期	木	2	54205	宗教学Ⅰ	川崎一洋	2	1年次～	-		31
後期	木	2	54253	宗教学Ⅱ	川崎一洋	2	1年次～	-		31
前期	木	1	54103	宗教史Ⅰ	川崎一洋	2	1年次～	-		31
後期	木	1	54154	宗教史Ⅱ	川崎一洋	2	1年次～	-		31
後期	木	4	54453	哲学方法論	山脇雅夫	2	2年次～	-		32
後期	水	1	53155	宗教学方法論	藤田光寛	2	2年次～	-		32
前期	月	4	51407	日本文学概論Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次～	-		32
後期	月	4	51453	日本文学概論Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次～	-		32
前期	火	3	52306	日本文学史概説Ⅰ	下西忠	2	2年次～	-		33
後期	火	3	52352	日本文学史概説Ⅱ	下西忠	2	2年次～	-		33
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南昌宏	2	2年次～	-		33
後期	木	3	54353	漢文学概論Ⅱ	南昌宏	2	2年次～	-		33
前期	金	3	55305	国語学講義Ⅰ	上田恭寿	2	2年次～	-		34
後期	金	3	55353	国語学講義Ⅱ	上田恭寿	2	2年次～	-		34

6) 教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	水	4	53402	常用経典	宮田永明	2	1年次～	僧階申請		30
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次～	僧階申請		30
通年	月	1	51101	法式	内海周浩	2	1年次～	僧階申請		30
通年	水	3	53303	布教	近藤堯寛	2	1年次～	僧階申請		30

7) 書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考	頁
通年	水	2	53205	漢字Ⅰ	野田悟	2	1年次～	書道師範		36
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	木本滋久	2	2年次～	書道師範		36
通年	木	2	54202	かなⅠ	山本圭子	2	1年次～	書道師範		37
通年	木	3	54304	かなⅡ	山本圭子	2	2年次～	書道師範		37
前期	火	1	52105	篆刻Ⅰ	野田悟	2	2年次～	書道師範		37
後期	火	1	52152	篆刻Ⅱ	野田悟	2	2年次～	書道師範		37

通年	金	1	55102	書道史(中国)	野田 悟	4	2年次～	書道師範		38
----	---	---	-------	---------	------	---	------	------	--	----

8) 社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	水	2	53210	社会福祉各論Ⅰ(障害者福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
前期	水	1	53107	社会福祉各論Ⅰ(地域福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
後期	水	1	53156	社会福祉各論Ⅱ(地域福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
前期	水	3	53306	社会福祉各論Ⅰ(児童福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		39
後期	水	2	53253	社会福祉各論Ⅱ(高齢者福祉)	山口 幸照	2	2年次～	社会福祉主事		40
前期	火	4	53405	社会保障総論Ⅰ	山口 幸照	2	1年次～	社会福祉主事		40
後期	火	4	53453	社会保障総論Ⅱ	山口 幸照	2	1年次～	社会福祉主事		40

9) 他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	火	3	52304	弘法大師伝 A	櫻 木 潤	2	1年次～	-		3
後期	火	3	52351	弘法大師伝 B	櫻 木 潤	2	1年次～	-		3
前期	火	1	52103	釈尊伝 A	前 谷 彰	2	1年次～	-		3
後期	水	1	53151	釈尊伝 B	前 谷 彰	2	1年次～	-		3
前期	木	1	54101	漢文Ⅰ A	南 昌 宏	2	1年次～	-		4
後期	月	1	51151	漢文Ⅰ B	南 昌 宏	2	1年次～	-		4
後期	木	1	54151	漢文Ⅱ A	南 昌 宏	2	1年次～	-	受講資格：漢文Ⅰの単位を修得していること	4
前期	月	1	51102	漢文Ⅱ B	南 昌 宏	2	2年次～	-		4
前期	月	2	51202	密教学概論Ⅰ	乾 仁 志	2	2年次～	-		6
後期	月	2	51252	密教学概論Ⅱ	乾 仁 志	2	2年次～	-		6
前期	火	4	52404	仏教学概論Ⅰ	加 納 和 雄	2	2年次～	-		6
後期	火	4	52451	仏教学概論Ⅱ	加 納 和 雄	2	2年次～	-		6
前期	金	1	55103	密教史概説Ⅰ	奥 山 直 司	2	2年次～	-		7
後期	月	3	51352	密教史概説Ⅱ	櫻 木 潤	2	2年次～	-		7
前期	木	4	54402	仏教史概説Ⅰ	前 谷 彰	2	2年次～	-		7
後期	木	4	54451	仏教史概説Ⅱ	前 谷 彰	2	2年次～	-		7

別 科 目 次

別科

1. 必修科目

1) 基礎科目 (16)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	読 替 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	備 考	頁
通年	月	2	81201	真言宗の教え (別)	密教学概論Ⅰ 密教学概論Ⅱ	乾 仁志	4	1年次		6
前期	火	1	82101	釈尊の生涯A (別)	釈尊伝A	前谷 彰	2	1年次	A・Bどちらか履修すること	3
後期	水	1	83151	釈尊の生涯B (別)	釈尊伝B		2	1年次		3
前期	火	3	82301	弘法大師空海の生涯A (別)	弘法大師伝A	櫻木 潤	2	1年次	A・Bどちらか履修すること	3
後期	火	3	82351	弘法大師空海の生涯B (別)	弘法大師伝B		2	1年次		3
通年	火	2	82201	真言宗典講読1 (別)	祖典講読Ⅰ 祖典講読Ⅱ	松長恵史	4	1～2年次		8
前期	月	1	81102	真言宗典講読2-1 (別)	密教学講読演習A	松長恵史	2	1～2年次	2-1、2-2は同年に履修すること	9
前期	水	1	83102	真言宗典講読2-2 (別)	真言密教講読演習A	加納和雄	2	1～2年次		11

2) 実習科目 (14)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	読 替 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	備 考	頁
通年	木	2	84201	観法の理論と実習 (別)	企画科目 (阿息観) 企画科目 (月輪観と阿字観)	佐藤隆彦	4	2年次		21 22
通年	金	2	85202	梵字悉曇 (別)	梵字悉曇	齋藤天譽	2	1年次		29
通年	金	1	85101	声明 (別)	声明	辻 秀道	2	1年次		30
通年	水	4	83401	常用経典 (別)	常用経典	宮田永明	2	1年次		30
通年	月	1	81101	法式 (別)	法式	内海周浩	2	1年次		30
通年	水	3	83302	布教 (別)	布教	近藤堯寛	2	1年次		30

3) 実習科目 (18)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	読 替 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	備 考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉 (別)	現代の人権	竹村和也	2	1～2年次		29
通年	木	2	84203	世界の宗教 (別)	宗教学Ⅰ 宗教学Ⅱ	川崎一洋	4	1～2年次		31
通年	木	1	84101	宗教の歴史 (別)	宗教史Ⅰ 宗教史Ⅱ		4	1～2年次		31
通年	金	2	85201	心の科学 (別)	心理学Ⅰ 心理学Ⅱ	戸來知子	2	1～2年次		26
通年	月	4	81401	仏教芸術 (別)	密教学特殊講義E 密教学特殊講義F		静 慈圓	2	1～2年次	
前期	月	2	81202	哲学A (別)	現代思想	山脇雅夫	2	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	3
後期	木	4	84451	哲学B (別)	哲学方法論	山脇雅夫	2	1～2年次		32
通年	火	4	82401	社会保障 (別)	社会保障総論Ⅰ 社会保障総論Ⅱ	山口幸照	4	1～2年次		40
通年	水	1	83101	地域福祉 (別)	社会福祉各論Ⅰ (地域福祉) 社会福祉各論Ⅱ (地域福祉)		4	1～2年次		39
通年	火	2	82202	サンスクリット語 (別)	サンスクリット語Ⅰ	前谷 彰	2	1～2年次		24
通年	木	2	84202	チベット語 (別)	チベット語	加納和雄	2	1～2年次		24
通年	金	3	85302	声明上級 (別)	企画科目 (声明上級)	辻 秀道	2	1～2年次		23
通年	水	3	83301	法式上級 (別)	企画科目 (法式上級)	淵田雲溪	2	1～2年次		21
通年	金	3	85301	密教儀礼の理論と実習 (別)	真言密教特殊講義B 真言密教特殊講義C	齋藤天譽	4	2年次		16
通年	木	3	84301	事相研究 (聖教の伝授と実習) (別)	事相研究Ⅱ -1 (大) 事相研究Ⅱ -2 (大)		佐藤隆彦	4	2年次	

講 義 概 要
•
授 業 計 画

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の密教思想を学ぶための基礎的な知識を身につける テーマ：弘法大師空海とその密教思想
空海 の 思想 入門 A・B	授業の概要 本講義は文学部共通の「建学の精神」科目で、全学生必須である。本学でどのような分野を専攻するにしても、最初に弘法大師空海とその密教思想の概要を学んでおくことは、弘法大師の教育理念に基づく高野山大学で学ぶことの意義を確認でき、より実り多い勉学生活を過ごすことが可能であるからである。大師の著作のいくつかを具体的に取りあげて概観し、大師の密教思想を学ぶ。
学期	授業計画 1. はじめに(オリエンテーション) 2. 密教の種々相(日本密教とチベット密教) 3. 高野山の開創とその意義 4. 弘法大師の生涯(略説) 5. 〃 6. 大師の教育観(『綜芸種智院式』) 7. 三教の比較思想論(『髣髴指帰』『三教指帰』) 8. 真言密教の相承者の系譜と伝記(『広付法伝』『略付法伝』) 9. 顕教と密教(『弁顕密二教論』) 10. 密教の成仏論(『即身成仏義』) 11. 十段階の心のあり方(『十住心論』『秘蔵宝鑰』) 12. 密教経典としての般若心経(『般若心経秘鍵』) 13. 大師の戒律思想(『三昧耶戒序』『梵網経解題』) 14. 〃 15. 筆記試験 16. おわりに(まとめ)
BA 後 前期	テキスト 授業中に適宜指示する。
単位数	参考書・参考資料等 ① 松長有慶『密教』(岩波新書) ② 『弘法大師空海全集』(筑摩書房)など 授業中で適宜指示する。
2	学生に対する評価 期末の筆記試験(70%)、小テスト(30%)によって評価する。
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 弘法大師の思想の基本用語を覚えている。 (良) 弘法大師の思想の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。 (優) 弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ながら自分の言葉で説明できる。
藤 田 光 寛	その他 毎回休まずに出席することを望みます。少なくとも、授業実数の三分の一以上欠席すれば失格です。 担当者のメールアドレスは fujita@koyasan-u.ac.jp です。質問などに遠慮無く利用して下さい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
学期	
単位数	
2	
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：基礎的な英文法の理解。 テーマ：基礎的な英文理解を養う。
英語 I A	授業の概要 基本的な英文法を再確認するとともに、英語文の理解を養う。
学期	授業計画 【前期】 1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。 2. Chapter 1 Freeters and Neetst 3. 同上 4. Chapter 2 Low Birth Rate 5. 同上 6. Chapter 3 Working Poor 7. 同上 8. Chapter 4 Net Cafe Refugee 9. 同上 10. Chapter 5 Loser Dog 11. 同上 12. Chapter 6 False Accusation 13. 同上 14. Chapter 7 Hikikomori 15. 同上 16. 総括
通 年	【後期】 1. Chapter 8 Cults 2. 同上 3. Chapter 9 Baby Boomers Retire 4. 同上 5. Chapter 10 Immigration 6. 同上 7. Chapter 11 Telecommuting 8. 同上 9. Chapter 12 Buying Organs 10. 同上 11. Chapter 13 Surrogate Mothers 12. 同上 13. Chapter 14 Baby Hatch 14. 同上 15. Chapter 15 Eating Disorder 16. 総括
単位数	テキスト Keywords for Japan Today (センゲージ ラーニング) ISBN 978-4-86312-043-3
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
高 倉 正 行	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 基本的な英文法が理解できること (良) 英文の構造が理解できること (優) パラグラフ単位で文章の内容を把握できること その他 必ず予習を行って授業に臨むこと。 授業には、テキストとノート、辞書を持参すること

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：1年間の授業で、それまでコマ付きの自転車に乗っていた子供が、コマを外してしばらく練習した後で、「今コマ無しで走っているよ」と実感できるような、その程度にまでもっていく。 テーマ：【前期】高校までに習った英語を活性化させる。 【後期】英文法の初歩習得
英語 I B	授業の概要 受講生は誰もが最低限6年間の英語学習を経ているはずである。本授業では受講生に関わった中学・高校英語教師の努力に報いるために尽力する。つまり勉強した事柄の想起・活性化・定着である。
学期	授業計画 テキストに沿って行う。
通 年	テキスト 南雲堂 What a Story! (文法・単語で学ぶやさしいパラグラフ・リーディング)。 テキストを持たない学生の受講は認めません。
単位数	参考書・参考資料等 【基礎からの英語入門 First Primer】南雲堂
2	学生に対する評価 前期テスト(50%)、後期テスト(50%)。出席日数が足りている学生のみ受験可能
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 頭からの「英語嫌い」が消えて、英語に触れることへの「拒否反応」が薄くなる。 (良) 上記の「拒否反応」が消えている。 (優) 自分から英語の四能力のすべて、あるいは何れかに向かって努力する姿勢が見られるようになる。
静 春 樹	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：基本的な英文法の理解 テーマ：英文の基本的構文の習得
英語Ⅰ (再履修)	授業の概要 基礎英文法を学ぶ。
学期	授業計画 【前期】 1. 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方等について説明。 2. 動詞と文型 3. 同上 4. 文の種類 5. 同上 6. 動詞と時制 7. 同上 8. 完了形 9. 同上 10. 態 11. 同上 12. 不定詞 13. 同上 14. 動名詞 15. 同上 16. 総括 【後期】 1. 分詞 2. 同上 3. 分詞構文 4. 同上 5. 比較 6. 同上 7. 関係詞(1) 8. 同上 9. 関係詞(2) 10. 同上 11. 仮定法 12. 同上 13. 時制の一致と語法 14. 同上 15. 同上 16. 総括
通年	
単位数	テキスト 最初の授業で説明します。 *テキスト購入に関しては教員の指示に従うこと。
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
高倉正行	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 文の構造が理解できること。 (良) 五文型が理解できること。 (優) 文章のつながりが理解できること。 その他 必ず予習を行って授業に臨むこと。 授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 他人の言いたいことを的確に把握できるようにすること、自分の言いたいことを的確に、かつ論理的に展開できるようにすること。
日本語A・B	授業の概要 大学では、多くの専門的な本を読み、それをもとにレポートを書き、最終的には卒業論文に取り組みます。そのためには専門的知識を身につけると共に論理的に構成された文章を、正確に把握できるようにすることが不可欠です。この講義では新入生を対象として、そのためのトレーニングを実施します。
学期	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 論理的に考える(1) 3. 論理的に考える(2) 4. 論理的に考える(3) 5. 論理的に考える(4) 6. 論理的に考える(5) 7. 小論文を書く(1) 8. 小論文を書く(2) 9. 小論文を書く(3) 10. 小論文を書く(4) 11. 小論文を書く(5) 12. 資料を探す(1) 13. 資料を探す(2) 14. レポートを書く(1) 15. レポートを書く(2) 16. レポートを書く(3) 【後期】 1. ガイダンス 2. 論文を読む(1) 3. 論文を読む(2) 4. 論文を読む(3) 5. 論文を読む(4) 6. 論文を読む(5) 7. 専門用語を調べる(1) 8. 専門用語を調べる(2) 9. 専門用語を調べる(3) 10. 専門用語を調べる(4) 11. 専門用語を調べる(5) 12. 資料を探す(1) 13. 資料を探す(2) 14. レポートを書く(1) 15. レポートを書く(2) 16. レポートを書く(3)
通年	
単位数	テキスト 担当者で用意したものを配布します。
4	参考書・参考資料等 国語辞典・漢和辞典を持参してください。 *電子辞書でもよいが本の辞書を推奨。
担当者	学生に対する評価 毎回の漢字テスト(40%)、課題提出(60%)、で評価します。
BA 櫻木土居夏潤	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 要約文を書くことができる。 (良) 自分の意見を論理的に論じることができる。 (優) 資料を用いつつ自分の意見を論じることができる。 その他 トレーニングは大変かもしれませんが、その成果は必ずみなさんの財産になります。へこたれず、楽しくやってみましょう。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 他人の言いたいことを的確に把握できるようにすること、自分の言いたいことを的確に、かつ論理的に展開できるようにすること。
日本語(再履修)	授業の概要 卒業論文を作成するためには、自分のテーマに関する専門的な本を読んで思索をめぐらし、論理的に構成された文章により自分の考えを表明する力が不可欠です。この授業で、卒業論文作成のためのスキルを身につけます。
学期	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 論理的に考える(1) 3. 論理的に考える(2) 4. 論理的に考える(3) 5. 論理的に考える(4) 6. 論理的に考える(5) 7. 小論文を書く(1) 8. 小論文を書く(2) 9. 小論文を書く(3) 10. 小論文を書く(4) 11. 小論文を書く(5) 12. 資料を探す(1) 13. 資料を探す(2) 14. レポートを書く(1) 15. レポートを書く(2) 16. レポートを書く(3) 【後期】 1. ガイダンス 2. 論文を読む(1) 3. 論文を読む(2) 4. 論文を読む(3) 5. 論文を読む(4) 6. 論文を読む(5) 7. 専門用語を調べる(1) 8. 専門用語を調べる(2) 9. 専門用語を調べる(3) 10. 専門用語を調べる(4) 11. 専門用語を調べる(5) 12. 資料を探す(1) 13. 資料を探す(2) 14. レポートを書く(1) 15. レポートを書く(2) 16. レポートを書く(3)
通年	
単位数	テキスト 担当者で用意したものを配布します。
4	参考書・参考資料等 国語辞典・漢和辞典を持参してください。 *電子辞書でもよいが本の辞書を推奨。
担当者	学生に対する評価 毎回の漢字テスト(40%)、課題提出(60%)、で評価します。
櫻木潤	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 要約文を書くことができる。 (良) 自分の意見を論理的に論じることができる。 (優) 資料を用いつつ自分の意見を論じることができる。 その他 自分を表現するスキルは、卒業論文の作成だけに限らず、「人間力」につながる大切な力です。それは「自分の知らない自分」を見つけることにもなります。「自分とは何か?」を探しに、楽しくやってみましょう。

科目名 弘法大師空海の生涯A・B(別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の足跡をたどりながら、日本の仏教におけるご生涯の意義を考える。 テーマ：弘法大師空海の生涯とその時代
	授業の概要 高野山を開創し、真言密教を大成した弘法大師空海のご生涯を、時代背景をふまえながらたどります。弘法大師の足跡から、本学で学ぶことの意義と、将来への指針を見いだすことを目指します。
	授業計画 1. 授業ガイダンス 2. 弘法大師空海のイメージ 3. 奈良・平安時代の社会と仏教 4. 誕生と青年時代 5. 「沙門空海」の誕生 6. 山林修行と『聲響指帰』の撰述 7. 不空三蔵と恵果阿闍梨 8. 中国への留学 9. 鞍馬の日々 10. 伝教大師最澄との交流 11. 高野山の開創 12. 嵯峨天皇との交流 13. 満濃池と綜藝種智院 14. 真言宗の成立 15. 臨終と入定信仰 16. 定期試験
	テキスト テキストは使用せず、毎回の授業で配布するプリントをもとに進めます。
	参考書・参考資料等 高木神元『空海 生涯とその周辺』(歴史文化セレクション、吉川弘文館、2009年) 高木神元・岡村圭真編『密教の聖者 空海』(日本の名僧4、吉川弘文館、2003年) 武内孝善『弘法大師空海の研究』(吉川弘文館、2006年) 武内孝善『空海伝の研究 後半生の軌跡と思想』(吉川弘文館、2015年) その他、毎回の授業中において適宜紹介します。
学期	2
BA後前期	
単位数	2
担当者	櫻木潤
学生に対する評価	期末レポート(40%)、授業中に行なう小テスト(60%)によって評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 弘法大師空海のご生涯について理解する。 (良) 弘法大師空海のご生涯が日本仏教の歴史の中でどのような歴史的意義があるのかを説明できる。 (優) 弘法大師空海のご生涯から、本学で学ぶことの意義と将来への指針を見いだすことができる。
その他	授業では、日本各地の弘法大師ゆかりの地を紹介します。積極的にその地を訪ね、弘法大師のご生涯について、さらに理解を深めることを望みます。希望があれば、高野山内などの見学会を行います。

科目名 釈尊の生涯A・B(別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：釈尊の思想とその生涯についての基礎知識の養成 テーマ：釈尊の思想とその生涯を概観することによって、初期仏教の思想と歴史についての知識を深める。
	授業の概要 仏教の開祖であるゴータマブツダ(釈尊)の生涯を基本的仏伝資料によって概観し、その後は釈尊のことがば集成された最古層に属する経典とされる『スッタニパータ』から、幾つかの偈頌を抽出することによって、釈尊のこぼれの世界を通してその実像へ迫って行く。
	授業計画 1. オリエンテーション 2. 仏伝資料による釈尊の生涯概観。 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 『スッタニパータ』「蛇の章・慈しみ」を読み、同じ作業を行う。 8. 『スッタニパータ』「小なる章・宝」を読み、同じ作業を行う。 9. 『スッタニパータ』「小なる章・ダンミカ」を読み、同じ作業を行う。 10. 『スッタニパータ』「大なる章・つとめはげむこと」を読み、同じ作業を行う。 11. 『スッタニパータ』「大なる章・矢」を読み、同じ作業を行う。 12. 『スッタニパータ』「大なる章・二種の観察」を読み、同じ作業を行う。 13. いくつかの仏伝記事を紹介・解説することによって、釈尊神格化のプロセスについて解説する。 14. 同上 15. 学習した内容に対する質問や意見を聞き、総まとめをする。 16.
	テキスト 前谷 彰(恵紹)著『ブツダのおしえ ～真訳スッタニパータ』講談社
	参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。
学期	2
BA後前期	
単位数	2
担当者	前谷彰
学生に対する評価	授業への参加度と学期末試験とで総合的に評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 「釈尊伝概要」に関する基本的知識を習得していること。 (良) 「釈尊伝概要」をもとに、講義内容と関連付けて釈尊像を理解していること。 (優) (可)・(良)を踏まえて、個々の疑問を整理し、自分自身の見解で釈尊像を語る能力を持っていること。
その他	

科目名 現代思想A・B(別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：人間観の基礎を構築する テーマ：人々の間の哲学		
	授業の概要 「人の間」と書いて「人間」と読むことは、私たち人間にとって他の人とのかわりが本質的であることをよく示していると思われまます。この授業では、人間関係に関する哲学的問題を中心に、現代に生きていくために必要な思想は何かを考えます。		
	授業計画 1. 赤ちゃんの人間認識 2. 対人関係と言葉 3. 自他の境界 4. いじめ 5. 「自分」の定義 6. 「愛」の諸相 7. 聴くこと 8. 理解と誤解 9. 自己犠牲は可能か？ 10. 待つことの意味 11. 人間関係と時間 12. 死者との共存 13. 切れ字の存在論 14. 実存 15. 住まうこと 16. まとめ		
	テキスト 鷲田清一『聴くこと』(ちくま文庫)		
	参考書・参考資料等 授業中に指示		
学期	2		
BA後前期			
単位数	2		
担当者	山脇雅夫		
学生に対する評価	期末テスト65点、小テスト20点、授業参加への積極性15点		
ルーブリック(目標に準拠した評価)	論理的思考力 講義の内容を理解できる	問題発見力 それぞれのテーマを理解できる	作文力 自分の考えを正確な日本語で表現できる
その他			

科目名 人間と宗教A・B	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：本学で密教を学ぶために、日本の民俗宗教の基礎知識を習得する。 テーマ：日本の民俗宗教
	授業の概要 日本の生活文化の中に根付いた日本の民俗宗教について解説する。
	授業計画 1. 民俗宗教とは 2. 神仏習合 3. 年中行事(1) 4. 年中行事(2) 5. 年中行事(3) 6. 通過儀礼(1) 7. 通過儀礼(2) 8. 通過儀礼(3) 9. 先祖祭祀(1) 10. 先祖祭祀(2) 11. 先祖祭祀(2) 12. 境界と信仰(1) 13. 境界と信仰(2) 14. 境界と信仰(3) 15. 定期試験 16. 民俗宗教を考える
	テキスト 特になし
	参考書・参考資料等 宮本製姿雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』八千代出版 宮家準『日本の民俗宗教』講談社学術文庫 宮田登『はじめての民俗学-怖さはどこからくるのか』ちくま学芸文庫
学期	2
BA後前期	
単位数	2
担当者	森本彦
学生に対する評価	定期試験(70%)、授業中の小テストおよび小作文(30%)で評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 基本的用語の説明ができる。 (良) 日本の民俗宗教について説明ができる。 (優) 日本の民俗宗教の特徴について自身の考えを述べることができる。
その他	祭礼や行事など伝統的社会についてのニュースに注意するのは勿論だが、現在の時事問題についても留意しておくこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：訓点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付ける。 テーマ：漢文訓読の基礎（入門）
漢文ⅠA・B	授業の概要 返り点のとおりで読む練習、返り点を打つ練習を繰り返し行う。また、仏教寓話集『百喻経』を読み、テキストを参照しながら、文法解説をする。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。
学期	授業計画 1. 送りがな・返り点 2. 書き下し文（1） 3. 書き下し文（2） 4. 熟語の構造 5. 漢文の構造 6. 総合演習（1） 7. 再読文字（1） 8. 再読文字（2） 9. 総合演習（2） 10. 否定の形（1） 11. 否定の形（2） 12. 否定の形（3） 13. 否定の形（4） 14. 総合演習（3） 15. 期末試験 16. 答案返却
BA後前期	テキスト 佐藤雅一『発展 30日完成（33） 漢文 高校初級用』（日栄社）書店等で購入。
単位数	参考書・参考資料等 加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）など。
2	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。合格点に満たない者には、宿題1回を1点として加算する。
担当者	ループリック（目標に準拠した評価） （可）訓点を機械的に扱うことができる。 （良）訓点を機械的に扱い、基本的な文法を修得している。 （優）訓点を自在に扱い、高校程度の漢文を十分に理解できる。
南 昌 宏	その他 漢文Ⅰに合格した者のみ、受講を許可する。ただし、4年次生は、その限りではない。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：訓点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付ける。 テーマ：漢文訓読の基礎（初級）
漢文ⅡA	授業の概要 仏教寓話集『百喻経』を読み、テキストを参照しながら、文法解説をする。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。
学期	授業計画 1. 疑問・反語の形（1） 2. 疑問・反語の形（2） 3. 疑問・反語の形（3） 4. 総合演習（4） 5. 使役・受身の形 6. 比較選択・願望の形 7. 仮定・抑揚の形 8. 限定・累加の形 9. 総合演習（5） 10. 文字の整理（1） 11. 文字の整理（2） 12. 文字の整理（3） 13. 文字の整理（4） 14. 文字の整理（5） 15. 期末試験 16. 答案返却
後期	テキスト 佐藤雅一『発展 30日完成（33） 漢文 高校初級用』（日栄社）書店等で購入。
単位数	参考書・参考資料等 加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）など。
2	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。合格点に満たない者には、小テスト1回を1点として加算する。
担当者	ループリック（目標に準拠した評価） （可）訓点を機械的に扱うことができる。 （良）訓点を機械的に扱い、基本的な文法を修得している。 （優）訓点を自在に扱い、高校程度の漢文を十分に理解できる。
南 昌 宏	その他 漢文Ⅰに合格した者のみ、受講を許可する。ただし、4年次生は、その限りではない。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：訓点を使って漢文を訓読する能力を養い、漢文法の基礎を身に付けることを到達目標とする。 テーマ：漢文訓読の基礎（初級）
漢文ⅡB	授業の概要 市販の漢文テキストを使用する。1回に数ページをこなすことで、1冊すべてをやり遂げる。予習が必ず必要である。受講生は、板書によって予習の成果を発表しなければならない。
学期	授業計画 1. 疑問形・反語形（2） 2. 比較形・選択形 3. 仮定形 4. 詠嘆形・推量形 5. 限定形・累加形 6. 抑揚形・願望形 7. 倒置形 8. 漢詩（1） 9. 漢詩（2） 10. 覚えておきたい字（1） 11. 覚えておきたい字（2） 12. 総合演習（1） 13. 総合演習（2） 14. 総合演習（3） 15. 期末試験 16. 答案返却
前期	テキスト 島山利子『徹底 20日間マスター 漢文 基礎編』（日栄社）書店で購入。
単位数	参考書・参考資料等 加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）など。
2	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。
担当者	ループリック（目標に準拠した評価） （可）訓点を機械的に扱うことができる。 （良）訓点を機械的に扱い、基本的な文法を修得している。 （優）訓点を自在に扱い、高校程度の漢文を十分に理解できる。
南 昌 宏	その他 漢文Ⅰに合格した者のみ、受講を許可する。ただし、4年次生は、その限りではない。

科目名	
漢文ⅡB	
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	
南 昌 宏	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：英文内容の理解。 テーマ：長文を読みこなす。
英語Ⅱ A	授業の概要 基礎的な英文の読解・聴解、語彙力強化、質疑応答、および作文・発表を通じて、総合的な英語力を養う。
学期	授業計画 【前期】 1. 予習、復習、授業の進め方について説明する。 2. Chapter 1 Herbivorous Males 3. 同上 4. Chapter 2 Galapagized Japan 5. 同上 6. Chapter 3 Uniformity 7. 同上 8. Chapter 4 Universities in Japan 9. 同上 10. Chapter 5 English as a Lingua Franca 11. 同上 12. Chapter 6 Disaster Sipirit 13. 同上 14. Chapter 7 Immigrants Needed 15. 同上 16. 総括 【後期】 1. Chapter 8 Manga 2. 同上 3. Chapter 9 Lack of Entrepreneurs 4. 同上 5. Chapter 10 Distinctive Kansai 6. 同上 7. Chapter 11 Fewer Japanese Students Studying Abroad 8. 同上 9. Chapter 12 Japanese Quality Food 10. 同上 11. Chapter 13 Craze Culture 12. 同上 13. Chapter 14 Monster Parents 14. 同上 15. Chapter 15 Good News Japan 16. 総括
通年	テキスト Good-bye, Galapagos (センゲージラーニング、ISBN 978-4-86312-216-1)
単位数	参考書・参考資料等
2	学生に対する評価 予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 基本的な英文法が理解できること (良) 英文章の構造が理解でき、内容を把握できること (優) パラグラフ単位で内容を把握でき、著者の主張を読み取れること
高倉正行	その他 必ず予習を行って授業に臨むこと。 授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 【前期】「文法」つまり基本的な「文のしくみ」に焦点を合わせる。 【後期】英語に限らずすべての言語は「音声」「文法」「語彙(単語力)」の三つのアプリケーションから成ると言っても過言ではない。授業では「文のしくみ」に焦点を合わせる。
英語Ⅱ B	授業の概要 授業計画が成立するのは受講生の習得水準が一定の幅に揃っている場合である。本授業の場合、プレイスメントテストがなく、およそ「不揃いな受講生」を相手にしなければならない。従って、授業はあくまで各受講生の力に合わせた個別的な指導となる。勉学の基礎は自学自習である。教師は各受講生の力量・つまずきの箇所・壁を判断し個別に指導する。
学期	授業計画 テキストをユニット0から各自が徹底的に勉強し、教師に理解したと判断された場合に次のユニットへ進む。
通年	テキスト 南雲堂 First Voyage (大学基本英文法&リーディング)。 テキストを持たない学生の受講は認めません。
単位数	参考書・参考資料等 『基礎からの英語入門 First Primer』南雲堂
2	学生に対する評価 前期テスト (50%)、期末テスト (50%)
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 頭からの「英語嫌い」が消えて、英語に触れることへの「拒否反応」が薄くなる。 (良) 上記の「拒否反応」が消えている。 (優) 自分から英語の四能力のすべて、あるいは何れかに向かって努力する姿勢が見られるようになる。
静	その他 「文の仕組み」は人体に喩えると、骨格に相当します。習得言語の場合(母語でないこと)、これをインストールしないと自力で歩くことが出来ません。
春樹	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中級程度の英文法の理解。 テーマ：英文の基本的構文の習得。
英語Ⅱ (再履修)	授業の概要 英文の基本構造を学びつつ、練習問題を行います。
学期	授業計画 【前期】 1. 不定詞 (1) 2. 不定詞 (2) 3. 分詞 4. 動名詞 5. 動名詞と不定詞 6. 時制 7. 未来時を表す表現 8. 進行形 9. 完了形 10. 態 11. 仮定法 (1) 12. 仮定法 (2) 13. 比較構文 14. 否定 15. 名詞 16. 総括 【後期】 1. 代名詞 (1) 2. 代名詞 (2) 3. 形容詞 4. 冠詞 5. 数量詞 6. 副詞 7. 動詞 8. 法助動詞 (1) 9. 法助動詞 (2) 10. 前置詞 (1) 11. 前置詞 (2) 12. 前置詞 (3) 13. 接続詞 14. 関係詞 (1) 15. 関係詞 (2) 16. 総括
通年	テキスト 最初の授業で説明します。 *テキスト購入に関しては教員の指示に従うこと。
単位数	参考書・参考資料等
2	学生に対する評価 予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 文の構造が理解できること。 (良) 五文型が理解できること。 (優) 文章のつながりが理解できること。
高倉正行	その他 必ず予習を行って授業に臨むこと。 授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。

科目名	
英語Ⅱ (再履修)	
学期	
通年	
単位数	
2	
担当者	
高倉正行	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。 テーマ：密教の基礎知識を養成する。
真言宗の教論Ⅰ (別)	授業の概要
	インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教(真言密教)の思想的特徴を概観する。
前期	授業計画
	1. 講義内容の説明 2. 密教とは：①密教・真言宗の意味、密教の分類 3. 密教経典の成立と特色：①密教の源流 4. 密教経典の成立と特色：②仏教のなかでの密教の発展過程 5. 密教経典の成立と特色：③密教経典の分類 6. 密教経典の成立と特色：④密教経典の特色 7. 中国密教の成立：①密教経典の訳出 8. 中国密教の成立：②唐代密教の展開 9. 奈良時代の密教 10. 空海の入唐求法と真言宗の開創 11. 密教思想の教判：①真言密教の教判・顕密二教の教判 12. 密教思想の教判：③顕密二教の教判 13. 十住心の思想：①十住心思想の構成 14. 十住心の思想：②十住心思想の特徴 15. 試験 16. 試験問題の解答と確認
学期	テキスト
単位数	勝又俊教著『密教入門』春秋社
2	参考書・参考資料等
担当者	松長有慶著『密教』(岩波新書) 岩波書店 高神覚昇著『密教概論』大法輪閣 金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫 佐和隆研編『密教辞典』法蔵館 中村元監他編『岩波仏教辞典』岩波書店
	学生に対する評価
乾	試験(80%)、授業参加への積極性(20%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価)
仁志	(可) 密教の基本的な用語を理解している。 (良) 配布した資料の説明ができる。 (優) 密教の基本的な概念に対する理解ができている。
	その他
	講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。 授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートすること。 (注) 上記「授業参加への積極性」はノートを点検して採点します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。 テーマ：密教の基礎知識を養成する。
真言宗の教論Ⅱ (別)	授業の概要
	インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教(真言密教)の思想的特徴を概観する。
後期	授業計画
	1. 講義内容の説明 2. 真言密教の仏陀観：①釈迦如来から大日如来へ 3. 真言密教の仏陀観：②大日如来と四仏(五仏)・密教の仏身観 4. 真言密教の仏陀観：③様々な信仰の対象、密教の祖師 5. 曼荼羅：①二部曼荼羅の成立 6. 曼荼羅：②四種曼荼羅とは 7. 真言密教の人間観：①空海と心の本性の探求 8. 真言密教の人間観：②心性本浄思想の源流 9. 即身成仏への道：①密教の三昧耶戒 10. 即身成仏への道：②浄菩提心と観法 11. 即身成仏への道：③四重禁戒と十善戒 12. 即身成仏思想：①六大・四曼・三密 13. 即身成仏思想：②即身の意味と三種即身成仏 14. 密教の特性 15. 試験 16. 試験の解答と確認
学期	テキスト
単位数	勝又俊教著『密教入門』春秋社
2	参考書・参考資料等
担当者	松長有慶著『密教』(岩波新書) 岩波書店 高神覚昇著『密教概論』大法輪閣 金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫 佐和隆研編『密教辞典』法蔵館 中村元監他編『岩波仏教辞典』岩波書店
	学生に対する評価
乾	試験(80%)、授業参加への積極性(20%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価)
仁志	(可) 密教の基本的な用語を理解している。 (良) 配布した資料の説明ができる。 (優) 密教の基本的な概念に対する理解ができている。
	その他
	講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。 授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートすること。 (注) 上記「授業参加への積極性」はノートを点検して採点します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：インドで生まれた仏教の基礎知識を学ぶ。その歴史と思想を習得し、さらに仏教思想を将来に向けてどのように生かすことができるか深く考える態度を養う。 テーマ：仏教とは何か
仏教学概論Ⅰ	授業の概要
	仏教とは何か。一朝一夕には解決しないこの根本的な問いに向き合うために授業では、仏教が初期、大乘、密教と歴史展開してきた足跡を追い、使い古された俗説を改めながら、仏教の多様なありかたを学ぶ。
前期	授業計画
	1. オリエンテーション 2. 仏教とは何か? - 様々な仏教のありかた - 3. 仏教が誕生した時代とその背景 - パラモンと沙門の宗教 - 4. ゴータマ・シッダールタの生涯 5. 最古層の仏典 - 釈迦の直説は現存するか - 6. 初期仏教の理念 7. アピタルマ仏教の思想体系 - 説一切有部と範疇論的世界観 - 8. アピタルマ仏教の思想体系 - 説一切有部の心の分析 - 9. アピタルマ仏教の思想体系 - 経量部の世界不可知論 - 10. 仏教説話の成立と展開 - 仏の神格化 - 11. 大乘仏教の起源 - 釈迦の生涯を辿り直す - 12. 大乘仏教の教え - 般若空、久遠仏、欣求浄土 - 13. 大乘仏教の教え - 如来蔵と理念先行型一元論 - 14. 大乘仏教の哲学 - 龍樹 - 15. 大乘仏教の哲学 - 空と中観派 - 16. 総括
学期	テキスト
単位数	担当者がコピーを配布する。
2	参考書・参考資料等
担当者	竹村牧男『入門 哲学としての仏教』(講談社現代新書)、田中正人『哲学用語図鑑』(プレジデント社)、大竹晋『宗祖に訊く』(国書刊行会)、『俱舎一絶ゆることなき法の流れ』(自照社)。佐々木開『仏教は宇宙をどう見たか』(化学同人)。大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教の基礎①インド編』(大正大学)、佐々木開『日々是修行』(ちくま新書)。川合伸幸『ヒトの本姓』(講談社学術新書)。
	学生に対する評価
加納和雄	授業時に指示する課題をどれだけこなしているか(50%)、学期末のレポート(50%)によって評価する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価)
	(可) 仏教の基礎語彙を抑えている。 (良) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。 (優) 仏教思想を現代の諸問題に適用して、説明することができる。
	その他
	ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。予習・復習を欠かさない。 その他参考書、『シリーズ大乘仏教』全10巻(春秋社)、『仏教の思想』1-4巻(角川文庫ソフィア)、『講座・大乘仏教』全10巻(春秋社)。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：インドで生まれた仏教の基礎知識を学ぶ。その歴史と思想を習得し、さらに仏教思想を将来に向けてどのように生かすことができるか深く考える態度を養う。 テーマ：仏教とは何か
仏教学概論Ⅱ	授業の概要
	仏教とは何か。一朝一夕には解決しないこの根本的な問いに向き合うために授業では、仏教が初期、大乘、密教と歴史展開してきた足跡を追い、使い古された俗説を改めながら、仏教の多様なありかたを学ぶ。
後期	授業計画
	1. 大乘仏教の哲学 - 唯識の世界 - 2. 大乘仏教の哲学 - 唯識と成仏 - 3. 大乘仏教の哲学 - 如来蔵思想と密教の萌芽 - 4. 仏教の認識論・論理学 - 歴史と人物の紹介 - 5. 仏教の認識論・論理学 - 諸行無常は論証できるか - 6. 密教とその成立背景 - ヒンドゥー・タントリズム - 7. 密教の展開 - 儀礼空間の仏教化 - 8. インド仏教の終焉 - ヴィクラマシーラ大僧院 - 9. チベットの仏教 - 吐蕃王国の仏教 - 10. チベットの仏教 - 仏教の復活 - 11. チベットの仏教 - 諸宗派概観 - 12. 東アジアのなかの日本仏教 13. 日本の仏教 1 14. 日本の仏教 2 15. 現代への応用および従来の方法論への反省 16. ふりかえりと総括
学期	テキスト
単位数	担当者がコピーを配布する。
2	参考書・参考資料等
担当者	竹村牧男『入門 哲学としての仏教』(講談社現代新書)、田中正人『哲学用語図鑑』(プレジデント社)、大竹晋『宗祖に訊く』(国書刊行会)、『俱舎一絶ゆることなき法の流れ』(自照社)。佐々木開『仏教は宇宙をどう見たか』(化学同人)。大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教の基礎①インド編』(大正大学)、佐々木開『日々是修行』(ちくま新書)。川合伸幸『ヒトの本姓』(講談社学術新書)。
	学生に対する評価
加納和雄	授業時に指示する課題をどれだけこなしているか(50%)、学期末のレポート(50%)によって評価する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価)
	(可) 仏教の基礎語彙を抑えている。 (良) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。 (優) 仏教思想を現代の諸問題に適用して、説明することができる。
	その他
	ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。予習・復習を欠かさない。 その他参考書、『シリーズ大乘仏教』全10巻(春秋社)、『仏教の思想』1-4巻(角川文庫ソフィア)、『講座・大乘仏教』全10巻(春秋社)。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：インド・チベット密教史に関する基礎的な知識を身につける。 テーマ：インド・チベット密教史
密教史概説Ⅰ	授業の概要 インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像資料などをまじえながら立体的に講義する。
学期	授業計画 1. イントロダクション 2. インド・チベット仏教における密教経典分類法 3. インド初期密教 萌芽から形成へ 4. インド中期密教 組織化の時代1 5. インド中期密教 組織化の時代2 6. インド後期密教 新たな展開1 7. インド後期密教 新たな展開2 8. 古代チベット王国と仏教の伝来 9. 仏教国教化への道のり 10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興 11. 諸宗派の形成1 12. 諸宗派の形成2 13. ゲルク派の覇権 14. グライ・ラマ法王とは何か 15. 筆記試験 16. まとめ
前期	
単位数	テキスト 特になし。
2	参考書・参考資料等 松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店 奥山直司『チベット [マンダラの国]』小学館
担当者	学生に対する評価 課題レポート (20%)、期末試験 (80%)
奥山直司	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 仏教、大乘仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。 (良) インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。 (優) チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
	その他 遅刻3回で1欠席と見なすので注意。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：インドに生まれた密教が、唐代の中国で隆盛し、弘法大師空海によって日本に伝えられた後、日本仏教の中でどのように根付き、展開を遂げるのかについて、その歴史の変遷を理解する。 テーマ：日本密教 (真言密教、天台密教) の歴史の変遷を知るとともに、真言宗の歴史を知る。
密教史概説Ⅱ	授業の概要 日本密教と真言宗の歴史をテキストにもとづきながら概説する。
学期	授業計画 1. 授業ガイダンス 2. 西域から中国への伝来 3. 唐代の密教 4. 古密教の世界 5. 弘法大師空海による密教の請来 6. 真言宗の成立 7. 空海の後継者たち 8. 天台の密教 9. 東密の分派 10. 覚鑿の改革と挫折 11. 密教と「鎌倉新仏教」 12. 密教と戒律復興運動 13. 根来教団の成立 14. 江戸時代の戒律復興運動と密教 15. 近代社会と密教 16. まとめ
後期	
単位数	テキスト 松長有慶『密教の歴史』(平楽寺書店)
2	参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
担当者	学生に対する評価 期末レポート (40%)、授業中に行なう小テスト (60%)
櫻木潤	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 日本密教と真言宗の歴史を理解する。 (良) 日本密教が日本仏教の歴史の中でどのような役割を担ってきたのかを説明できる。 (優) 日本密教と真言宗の歴史をふまえて、これからの密教や真言宗のあり方を論じることができる。
	その他 授業では、日本密教や真言宗にゆかりの深い寺院なども紹介します。積極的にその地を訪ね、日本密教や真言宗の歴史について、さらに理解を深めることを望みます。希望があれば、高野山内などの見学会を行います。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史の変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。 テーマ：インドにおける仏教誕生とその後の展開
仏教史概説Ⅰ	授業の概要 仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史の変容を被りながら展開して行ったかについて概説する。
学期	授業計画 1. 導入：仏教が興起する以前のインド 2. バラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴 3. ヴェーダの思想的特徴 4. 古ウパニシャッドの思想 5. 古ウパニシャッドの思想 6. 反ヴェーダ思想 (六師外道) 7. ジャイナ教の思想 8. 釈尊の誕生から成道までの歴史概観 9. 初期仏教思想の特徴 10. 初期仏教思想の特徴 11. 初期仏教思想の特徴 12. 大乘諸派の思想的特徴 13. 中国仏教の特徴 14. 大乘非仏説論 15. 初期仏教と大乘の思想的相違点 16.
前期	
単位数	テキスト 担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。
2	参考書・参考資料等 前谷 彰 (恵紹) 著『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』講談社
担当者	学生に対する評価 期末試験 (100%)
前谷彰	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。 (良) (可) の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。 (優) (可)・(良) の理解に加え、初期仏教と大乘の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本仏教の時代的特徴についての基本的知識を身につける。 テーマ：日本仏教思想の特徴
仏教史概説Ⅱ	授業の概要 日本仏教を時代を追って概観し、その思想的かつ歴史的特徴について解説する。
学期	授業計画 1. 仏教伝来 2. 奈良仏教の特徴 3. 奈良仏教の特徴 4. 平安仏教の特徴概観 5. 最澄の思想的特徴 6. 弘法大師の思想 7. 弘法大師の思想 8. 弘法大師の思想 9. 鎌倉仏教の特徴概観 10. 法然の生涯概観 11. 親鸞の生涯概観 12. 浄土思想と真言密教 13. 道元・日蓮・栄西の思想 14. 仏教における救済論 15. 総まとめ 16.
後期	
単位数	テキスト 担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。
2	参考書・参考資料等 前谷 彰 (恵紹) 著『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』講談社
担当者	学生に対する評価 期末試験 (100%)
前谷彰	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 奈良・平安・鎌倉仏教の特徴を理解していること。 (良) 弘法大師と最澄の思想的相違点について理解していること。 (優) 浄土教と真言宗の基本的思想の相違点について、自身の見解を明確にできること。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：弘法大師空海の原典に親しみ、その根本思想を把握することを目標とする。 テーマ：『即身成仏義』を読む
真言宗典講読ⅠA・ⅠB 1・1 (別)	授業の概要
	密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典(漢文)の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。
学期	授業計画
	1. 概論(講義の進め方等) 2. 成仏思想とは? - 三劫成仏と即身成仏 - 3. 『即身成仏義』の撰述時期と異本『即身成仏義』 4. 『即身成仏義』を読む(1) 発端問答 5. " (2) 二経一論八箇の証文① 6. " (3) 二経一論八箇の証文② 7. " (4) 二経一論八箇の証文③ 8. " (5) 二頌八句① 9. " (6) 二頌八句② 10. " (7) 二頌八句③ 11. " (8) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 12. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 13. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」③ 14. " (11) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」④ 15. 前期まとめとテスト① 16. 前期まとめとテスト②
前期	テキスト
単位数	高野山大学編『十巻章』、高野山大学出版部
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 授業中の素読・発表など(40%)、テスト(60%)
BA 土松居長夏恵樹史	ルーブリック(目標に準拠した評価)
	(可) 発端問答と二頌八句を暗誦できる。 (良) 即身成仏思想の特徴を、自分の言葉で説明できる。 (優) 即身成仏思想の特徴を、資料に基づいて説明できる。
	その他 毎回受講者に素読してもらいますので、必ず予習をしてきてください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：弘法大師空海の原典に親しみ、その根本思想を把握することを目標とする。 テーマ：『即身成仏義』を読む
真言宗典講読ⅡA・ⅡB 1・2 (別)	授業の概要
	『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。
学期	授業計画
	1. 概論と前期の復習 2. 『即身成仏義』を読む(12) 「六大能生」① 3. " (13) 「六大能生」② 4. " (14) 「六大の顕密/無碍自在の身」 5. " (15) 「四種曼荼各不離」① 6. " (16) 「四種曼荼各不離」② 7. " (17) 「三密加持速疾顕」① 8. " (18) 「三密加持速疾顕」② 9. " (20) 「三密加持速疾顕」③ 10. " (21) 「三密加持速疾顕」④ 11. " (22) 「法然具足薩般若」① 12. " (23) 「法然具足薩般若」② 13. " (24) 「心数心王過刹塵/各具五智無際智」 14. " (25) 「円鏡力故実覚智」 15. 後期まとめとテスト① 16. 後期まとめとテスト②
後期	テキスト
単位数	高野山大学編『十巻章』、高野山大学出版部
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 授業中の素読・発表など(40%)、テスト(60%)
BA 土松居長夏恵樹史	ルーブリック(目標に準拠した評価)
	(可) 『即身成仏義』全体を素読できる。 (良) 六大・四曼・三密の関係を、自分の言葉で説明できる。 (優) 即身の頌と成仏の頌の関連を、資料に基づいて説明できる。
	その他 毎回受講者に素読してもらいますので、必ず予習をしてきてください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：弘法大師空海の著作に親しみつつ、真言密教の教理と実践との関連を理解する。 テーマ：『呬字義』を読む(1)
真言宗典講読ⅢA	授業の概要
	この講義では、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『呬字義』を原典から読み進め、真言密教の教学における真言の意味と教理が、実践行とのように関連しているのかについて、受講生とともに考えていきます。
学期	授業計画
	1. 概論(講義の進め方等) 2. 仏教の言語観と真言 3. 『呬字義』概要① 4. 『呬字義』概要② 5. 『呬字義』を読む(1) 呬字の字相① 6. " (2) 呬字の字相② 7. " (3) 訶字の字義① 8. " (4) 訶字の字義② 9. " (5) 阿字の字義① 10. " (6) 阿字の字義② 11. " (7) 阿字の字義③ 12. " (8) 汗字の字義① 13. " (9) 汗字の字義② 14. " (10) 汗字の字義③ 15. 前期テスト 16. 前期のまとめ
前期	テキスト
単位数	高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 授業内での素読(40%)、期末試験(60%)で評価します。
土松居長夏恵樹史	ルーブリック(目標に準拠した評価)
	(可) 『呬字義』の素読ができる。 (良) 字相と字義の違いを理解している。 (優) 密教の因果論を理解している。
	その他 ・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名しますので、必ず予習をしてきてください。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する テーマ：『声字実相義』を読む
真言宗典講読ⅢB	授業の概要
	『声字実相義』は、弘法大師空海が著した三部書の一つである。『声字実相義』に説かれる言語観は、密教の教理が、顕教に対していかなる独自性を持つのかを知る上できわめて重要である。 密教の有する言語観を確認しつつ、『声字実相義』の原典を読み進めていく。
学期	授業計画
	1. 概論(講義の進め方等) 2. 『声字実相義』の特色② 3. 『声字実相義』の特色③ 4. 『声字実相義』の基礎知識 5. 『声字実相義』の歴史的背景と内容構成 6. 叙意① 7. 叙意② 8. 叙意③ 9. 釈名体義① 10. 釈名体義② 11. 釈名体義③ 12. 釈名体義④ 13. 釈名体義⑤ 14. 釈名体義⑥ 15. 前期講義のまとめ 16. 記述試験
前期	テキスト
単位数	高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 授業内での講義演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習で判断する 試験(50%) 授業中の演習(50%)
松居長夏恵樹史	ルーブリック(目標に準拠した評価)
	(可) 原典の音読ができる (良) 原典の内容を部分的に理解できる (優) 『声字実相義』を体系的に理解できる
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の著作に親しみつつ、真言密教の教理と実践との関連を理解する。 テーマ：『吽字義』を読む（2）
祖典講読ⅣA	授業の概要 この講義では、前期に続いて『吽字義』を原典から読み進めます。真言密教の教学における真言の意味と教理が、実践行とどのように関連しているのかについて、受講生とともに考えていきます。
学期	授業計画 1. 前期のまとめと概論（講義の進め方等） 2. 『吽字義』を読む（11） 汗字の字義④ 3. 〃（12） 汗字の字義⑤ 4. 〃（13） 汗字の字義⑥ 5. 〃（14） 摩字の字義① 6. 〃（15） 摩字の字義② 7. 〃（16） 摩字の字義② 8. 〃（17） 吽字の合説① 要略・別相・通相 9. 〃（18） 吽字の合説② 字相・字義 10. 〃（19） 吽字の合説③ 諸乗 11. 〃（20） 吽字の合説④ 諸経論 12. 〃（21） 吽字の合説⑤ 余義 13. 〃（22） 吽字の合説⑥ 余義 14. 〃（23） 吽字の合説⑦ 余義 15. 後期テスト 16. 後期のまとめ
後期	テキスト 高野山大学編 『十巻章』 高野山大学出版部
単位数	参考書・参考資料等 中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社、1977年 小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社、1985年 宮坂有勝監修『空海コレクション』2、ちくま学芸文庫、2004年 ※ その他、授業において指示します。
2	学生に対する評価 授業内での素読（40%）、期末試験（60%）で評価します。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）『吽字義』の素読ができる。 （良）字相と字義の違いを理解している。 （優）密教の因果論を理解している。
土居夏樹	その他 ・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名しますので、必ず予習をしてきてください。 ・わからない単語に出会ったら、辞書などを引くこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する テーマ：『声字実相義』を読む
祖典講読ⅣB	授業の概要 『声字実相義』についての概論と、前期の授業で扱った内容の復習から始め、前期に引き続いて『声字実相義』を講読する。前期に引き続き授業を行うので、『祖典講読ⅢB』を受講することが好ましい。
学期	授業計画 1. 概論（講義の進め方等） 2. 『声字実相義』の特色 3. 『声字実相義』の基礎知識 4. 『声字実相義』の歴史的背景と内容構成 5. 釈名体義⑦ 6. 釈名体義⑧ 7. 釈名体義⑨ 8. 釈名体義⑩ 9. 釈名体義⑪ 10. 釈名体義⑫ 11. 『声字実相義』のまとめ① 12. 『声字実相義』のまとめ② 13. 『声字実相義』のまとめ③ 14. 弘法大師空海の『声字実相義』理解の独自性① 15. 弘法大師空海の『声字実相義』理解の独自性② 16. 記述試験
後期	テキスト 高野山大学編『十巻章』 高野山大学出版部
単位数	参考書・参考資料等 宮坂有勝監修『空海コレクション2』 筑摩書房
2	学生に対する評価 授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習および試験で判断する 試験（50%）授業内演習（50%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）原典の音読ができる （良）原典の内容を部分的に理解できる （優）『声字実相義』を体系的に理解できる
松長恵史	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教尊像の基本的な智識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになることを目的とする。 テーマ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその諸系について学ぶ。
真言宗講読演習ⅡA(別)	授業の概要 インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加える。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュバンナヨーガヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどる。
前期	授業計画 1. 概論（講義の進め方等） 2. 漢訳資料の基本的な扱い方 3. 漢文資料の基本的な講読練習① 4. 漢文資料の基本的な講読練習② 5. 尊格表現方法の基本知識① 6. 尊格表現方法の基本知識② 7. 尊格表現方法の基本知識③ 8. 尊格表現方法の基本知識④ 9. 漢訳図像資料講読① 10. 漢訳図像資料講読② 11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察 12. 図像資料講読演習① 13. 図像資料講読演習② 14. 図像資料講読演習③ 15. 図像資料講読演習④ 16. レポート試験
単位数	テキスト 大正新脩大蔵経 図像部
2	参考書・参考資料等 松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年
担当者	学生に対する評価 授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する レポート 60% 授業内演習 30% ノート作成 10%
松長恵史	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）漢訳資料を扱える （良）密教尊像に関する知識を得る （優）密教図像に関する資料を扱える
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言密教の聖典に対する基本的知識の養成 テーマ：『金剛頂経』と金剛界マンダラ
密教講読演習ⅡB	授業の概要 『大日経』と『金剛頂経』は真言密教の根本聖典で、古くから「兩部の大経」と呼ばれ尊崇されてきた。このうち『金剛頂経』を取り上げ、経典の主要部分を読み進めるとともに、とくにその中に説かれる金剛界マンダラについて学習し、真言密教の基本聖典に対する理解を深めたい。
前期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等 2. 『金剛頂経』の成立と伝播 3. 『金剛頂経』の構成と内容 4. 序分（通序） 5. 序分（別序） 6. 正宗分（五相成身観）1 7. 正宗分（五相成身観）2 8. 正宗分（五相成身観）3 9. 正宗分（三十七尊出生）1 10. 正宗分（三十七尊出生）2 11. 正宗分（三十七尊出生）3 12. 正宗分（三十七尊出生）4 13. 正宗分（三十七尊出生）5 14. 金剛界マンダラの代表的な遺品 15. 試験 16. 試験問題の解答と確認
単位数	テキスト 松長有慶他『金剛頂経・理趣経他』 (新国訳大蔵経 密教部4) 大蔵出版
2	参考書・参考資料等 宮坂有勝監修『金剛頂経』上中下（『真言宗教教全書』第五～七巻）四季社 頼富本宏『金剛頂経入門』大法輪閣 不空訳『金剛頂一切如来真実撰大乘現証大教王経』三巻 (大正18巻・865番)
担当者	学生に対する評価 試験（80%）、レポート（20%）
乾仁志	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）密教経典に出てくる専門用語を理解できる。 （良）密教経典の本文の内容をある程度に理解できる。 （優）密教経典の本文の内容を理解でき、また現代の言葉で平易に説明することができる。
	その他 受講生は予習を心がけ、『仏教辞典』を用いて、専門用語の意味を常に確認していただくこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の時代を記述した歴史書の講読を通じて、歴史学の研究手法を身につける。 テーマ：『続日本後紀』を読み、弘法大師空海の活躍した時代を知る。
仏教学講読演習 A	授業の概要 歴史学は、史料にもとづいて歴史的事実を解明する学問です。本授業では、『続日本後紀』を輪読しながら、歴史学の研究手法と、史料としての歴史書の読み方を身につけることを目指します。
学期	授業計画 1. 授業ガイダンス 2. 歴史学とはどのような学問か？ 3. 歴史学研究における史料 4. 『続日本後紀』とはどのような史料か？ 5. 史料を読むための工具書 6. 史料を読むための漢文の練習（1） 7. 史料を読むための漢文の練習（2） 8. 『続日本後紀』を読む① 9. 『続日本後紀』を読む② 10. 『続日本後紀』を読む③ 11. 『続日本後紀』を読む④ 12. 『続日本後紀』を読む⑤ 13. 『続日本後紀』を読む⑥ 14. 『続日本後紀』を読む⑦ 15. 『続日本後紀』を読む⑧ 16. まとめ
前期	テキスト テキストとして、黒板勝美編『新訂増補国史大系 続日本後紀』（吉川弘文館、1981年）を用いますが、プリントとして配布します。
単位数	参考書・参考資料等 小山田和夫『入門 史料を読む 古代・中世』（吉川弘文館、1995年）その他、授業中に適宜紹介します。
2	学生に対する評価 輪読担当部分の発表（40%）・予習・復習などの授業への参加度（60%）によって評価する。 全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）歴史学の研究手法と史料としての歴史書の読み方について理解する。 （良）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を読むことができる。 （優）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を解釈することができる。
櫻木潤	その他 卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。各自に担当箇所を割り当てて史料を読み進めていきます。仏教学講読演習 D とあわせて受講することを勧めます。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の時代に成立した仏教説話の講読を通じて、歴史学の研究手法を身につける。 テーマ：『日本霊異記』を読み、弘法大師空海の活躍した時代の人びとの心のあり様を知る。
仏教学講読演習 B	授業の概要 歴史学は、史料にもとづいて歴史的事実を解明する学問です。本授業では、『日本霊異記』を読みながら、歴史学の研究手法と、史料としての説話や縁起の読み方を身につけることを目指します。
学期	授業計画 1. 授業ガイダンス 2. 史料としての説話・縁起の読み方 3. 『日本霊異記』とはどのような史料か？ 4. 史料を読むための漢文の復習 5. 『日本霊異記』を読む① 6. 『日本霊異記』を読む② 7. 『日本霊異記』を読む③ 8. 『日本霊異記』を読む④ 9. 『日本霊異記』を読む⑤ 10. 『日本霊異記』を読む⑥ 11. 『日本霊異記』を読む⑦ 12. 『日本霊異記』を読む⑧ 13. 寺社の縁起を読む① 14. 寺社の縁起を読む② 15. 寺社の縁起を読む③ 16. まとめ
後期	テキスト テキストとして、『新日本古典文学大系 30 日本霊異記』（岩波書店、1996年）などを用いますが、プリントとして配布します。
単位数	参考書・参考資料等 大隅和雄『日本の中世 2』信心の世界、遁世者の心（中央公論新社、2002年）その他、授業中に適宜紹介します。
2	学生に対する評価 担当の説話についての発表（40%）・予習・復習などの授業への参加度（60%）によって評価する。 全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）歴史学の研究手法と、史料としての説話や縁起の読み方について理解する。 （良）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を読むことができる。 （優）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を解釈することができる。
櫻木潤	その他 卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。各自に担当する説話を割り当てて史料を読み進めていきます。仏教学講読演習 C とあわせて受講することを勧めます。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：代表的な仏教美術を中心に、飛鳥時代前期から平安時代前期までの日本美術の歴史を概観し、仏教美術の基礎的知識の理解と習得を到達目標とする。 テーマ：日本仏教美術史－飛鳥時代前期～平安時代前期－
仏教学講読演習 C	授業の概要 寺院に祀られる仏像や仏画は崇高な礼拝対象である一方、歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、飛鳥時代前期から平安時代前期までの仏教彫像、絵画、工芸の代表的な作品について、画像を提示し、その歴史的背景を踏まえつつ概観する。
学期	授業計画 1. 日本美術史の基礎知識 2. 仏教美術の基礎知識 3. 飛鳥時代前期の仏像 1 4. 飛鳥時代前期の仏像 2 5. 飛鳥時代後期の仏像 6. 飛鳥時代の絵画・工芸 7. 奈良時代の仏像 1 8. 奈良時代の仏像 2 9. 奈良時代の絵画 10. 奈良時代の工芸（正倉院宝物等） 11. 平安時代前期の絵画 1（曼荼羅等） 12. 平安時代前期の絵画 2（仏画等） 13. 平安時代前期の仏像 1 14. 平安時代前期の仏像 2 15. 平安時代前期の工芸 16. レポートの課題に関する解説と講評
前期	テキスト 授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。
単位数	参考書・参考資料等 水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』美術出版社 『日本美術全集』講談社
2	学生に対する評価 授業参加への積極度（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）日本美術史や仏教美術についての基礎知識を理解している。 （良）各時代の歴史的背景や仏教美術の特徴を理解している。 （優）各時代に代表的な作品を見ながらその特徴について説明できる。
和田圭子	その他 仏教美術講読演習 B（後期）を履修・聴講することが望ましい。日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。また、授業中に提示する仏教美術作品に興味を持ち、展覧会等を利用して実際に見学する機会を持ってほしい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：代表的な仏教美術を中心に、平安時代後期から江戸時代に至る日本美術の歴史を概観し、仏教美術を中心とした基礎的知識の理解と習得を到達目標とする。 テーマ：日本美術史－平安時代後期～江戸時代－
仏教学講読演習 D	授業の概要 寺院に祀られる仏像や仏画は崇高な礼拝対象である一方、歴史的文化遺産としても重要な意義を持つ。授業では、平安時代後期から江戸時代までの仏教美術や、その他の絵画、工芸の代表的な作品について、画像を提示し、その歴史的背景や時代の特徴を踏まえつつ概観する。
学期	授業計画 1. 平安時代後期の仏像 1 2. 平安時代後期の仏像 2 3. 平安時代後期の仏画 4. 平安時代後期の絵巻 5. 平安時代後期の工芸 6. 鎌倉時代の仏像 1 7. 鎌倉時代の仏像 2 8. 鎌倉時代の仏画 9. 鎌倉時代の絵画・工芸 10. 室町時代的美術 1 11. 室町時代的美術 2 12. 桃山時代的美術 13. 江戸時代的美術 1（絵画） 14. 江戸時代的美術 2（工芸） 15. 室町～江戸時代の仏像 16. レポートの課題に関する解説と講評
後期	テキスト 授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。
単位数	参考書・参考資料等 水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』美術出版社 『日本美術全集』講談社
2	学生に対する評価 授業参加への積極度（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。講義終了までに各自テーマを設定し、それに関する4000字程度のレポートを提出する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）日本美術史や仏教美術についての基礎知識を理解している。 （良）各時代の歴史的背景や仏教美術の特徴を理解している。 （優）各時代に代表的な作品を見ながらその特徴について説明できる。
和田圭子	その他 仏教美術講読演習 A（前期）を履修・聴講することが望ましい。日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。また、授業中に提示する仏教美術作品に興味を持ち、展覧会等を利用して実際に見学する機会を持ってほしい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言教学の基軸にある即身成仏の思想形成の背景について 真言宗典の講読を通じて理解する テーマ：インド密教における即身成仏思想の形成と展開
真言密教講読演習A 2 2 A (別)	授業の概要 即身成仏は真言教学にとって欠かすことのできない根本思想であるが、正しく理解するためにはその成立の背景をきちんと押さえておく必要がある。授業では、空海の即身成仏思想を確認したうえで、インドの宗教史全体の中で即身成仏思想の位置づけを確認する。具体的には、仏教史における「成仏」観の変遷を辿ることにより仏教内部における背景を探り、その一方でヒンドゥー教シヴァ派の初期タントラ文献類を検討して仏教外部からの影響を探る。その上で真言宗所依の經典『大日経』『金剛頂経』に登場する即身成仏思想を読み解く。さらにインド後期密教への展開を確認し即身成仏思想の総合的な理解を深める。
学期	授業計画 1. 導入 2. 空海の即身成仏思想概観 3. インド宗教史全体からみた即身成仏思想 4. 仏教史全体からみた即身成仏思想の位置づけ1 5. 仏教史全体からみた即身成仏思想の位置づけ2 6. 仏教史全体からみた即身成仏思想の位置づけ3 7. 仏教外部における即身成仏思想1 8. 仏教外部における即身成仏思想2 9. 中期密教經典の即身成仏説1 10. 中期密教經典の即身成仏説2 11. 中期密教經典の即身成仏説3 12. 中期密教經典の即身成仏説4 13. 後期密教經典の即身成仏説1 14. 後期密教經典の即身成仏説2 15. 後期密教經典の即身成仏説3 16. 総括
前期	テキスト 授業で指示します。
単位数	2
担当者	加納和雄
加納和雄	参考書・参考資料等 授業で指示します。
	学生に対する評価 授業中の発表など(60%)、テスト(40%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 基礎用語について説明することができる。 (良) 思想史の変遷を、流れとしてとらえることができる。 (優) 関連する派生的、発展的問題について自発的に調査、追求し、新たな視座を提供することができる。
	その他 授業で指示します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢文読解力、秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。 テーマ：十八道次第の関連儀軌を読む
真言密教講読演習B	授業の概要 十八道次第はいくつかの請求された漢文の秘密儀軌を組み合わせられてきたものである。『請求目録』に列記される、十八道次第の元となった代表的な儀軌を読みながら、十八道次第の構造や真言密教における意義を考察する。主な内容は『観自在菩薩如意輪念誦儀軌』と『無量寿如来観行供養儀軌』を細かく読みながら、『甘露軍荼利菩薩供養念誦成就儀軌』などを多数の儀軌を参考に、四度加行修了者のみが受講できる。
学期	授業計画 1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について 2. 『観自在菩薩如意輪念誦儀軌』1 3. 同上2 4. 同上3 5. 同上4 6. 同上5 7. 同上6 8. 同上7 9. 『無量寿如来観行供養儀軌』1 10. 同上2 11. 同上3 12. 同上4 13. 同上5 14. 同上6 15. 同上7 16. まとめ
前期	テキスト 浄蔵の木版『秘密儀軌』からコピーを配布
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 『真言宗全書』、『統真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など
加納和雄	学生に対する評価 レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 秘密儀軌の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。 (良) 秘密儀軌の漢文を読み上げ、意味を解説できる。 (優) 秘密儀軌の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
	その他 受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。受講者は四度加行修了者のみとする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢文読解力、秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。 テーマ：金剛界次第関係の秘密儀軌を読む
真言密教講読演習C	授業の概要 空海請求の不空訳の『金剛頂瑜伽金剛薩埵五秘密修行念誦儀軌』は空海にとって重要な儀軌の一つで、『即身成仏義』や『弁顕密二教論』に引用され、また『請求目録』においてその重要性が述べられたものである。また、『理趣経』の思想を受けて儀軌化されたものであるため、『理趣経』と『理趣釈』の思想を理解するために不可欠なものでもある。さらに金剛頂経系の秘密儀軌の構造について『蓮華部心軌』等から考察する。四度加行修了者のみが受講できる。
学期	授業計画 1. 空海にとっての『五秘密儀軌』 2. 『理趣経』と『理趣釈』の思想について 3. 同上 4. 金剛頂経系の儀軌の構造について 5. 『五秘密儀軌』1 6. 同上2 7. 同上3 8. 同上4 9. 同上5 10. 同上6 11. 同上7 12. 同上8 13. 同上9 14. 同上10 15. 同上11 16. まとめ
後期	テキスト 浄蔵の木版『秘密儀軌』からコピーを配布
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 『真言宗全書』、『統真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など
加納和雄	学生に対する評価 レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 秘密儀軌の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。 (良) 秘密儀軌の漢文を読み上げ、意味を解説できる。 (優) 秘密儀軌の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
	その他 受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。受講者は四度加行修了者のみとする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中院流の現代における主要の諸尊法次第と『中院流三十三尊法開書』の研究を通じて、真言密教が社会に提供できるものを考察する。 テーマ：中院流三十三尊法の研究
真言密教講読演習D	授業の概要 三十三尊法は中院流において大変重要な位置にある。この授業では、前期・後期で三十三尊の次第のすべてと、『中院流三十三尊法開書』を講読しながら伝授する。已灌頂者のみが受講できる。
学期	授業計画 1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法開書』 2. 諸尊次第と『開書』の講読演習1 3. 同上2 4. 同上3 5. 同上4 6. 同上5 7. 同上6 8. 同上7 9. 同上8 10. 同上9 11. 同上10 12. 同上11 13. 同上12 14. 同上13 15. 同上14 16. まとめ
前期	テキスト 高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法開書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他
加納和雄	学生に対する評価 レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 『開書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。 (良) 『開書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。 (優) 『開書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
	その他 受講者は伝法灌頂入壇者(已灌頂者)のみとする。授業は伝受形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名 真言密教講読演習E	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中院流の現代における主要の諸尊法次第と『中院流三十三尊法開書』の研究を通じて、真言密教が社会に提供できるものを考察する。 テーマ：中院流三十三尊法の研究
	授業の概要 三十三尊法は中院流において大変重要な位置にある。この授業では、前期・後期で三十三尊の次第のすべてと、『中院流三十三尊法開書』を講読しながら伝授する。已灌頂者のみが受講できる。
	授業計画 1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法開書』 2. 諸尊法次第と『開書』の講読演習 1 3. 同上 2 4. 同上 3 5. 同上 4 6. 同上 5 7. 同上 6 8. 同上 7 9. 同上 8 10. 同上 9 11. 同上 10 12. 同上 11 13. 同上 12 14. 同上 13 15. 同上 14 16. まとめ
	学期
	後期
	単位数 2
	担当者 T.ドフライトライン
	テキスト 高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心『中院流三十三尊法開書』、高岡隆心『中院流三十三尊法全』をコピーで配布
参考書・参考資料等 『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛基『中院流院家相承伝授録上』、その他	
学生に対する評価 レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)	
ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 『開書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。 (良) 『開書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。 (優) 『開書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。	
その他 受講者は伝法灌頂入壇者 (已灌頂者) のみとする。 授業は伝受形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。 後期から受講できるが、内容的に前期からの受講を推薦する。 受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。	

科目名 真言密教講読演習F	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山の伝統教学を通して、弘法大師の思想が後世のように問題となり、どのように解釈されてきたかについて理解する力を身につける。 テーマ：『宗義決撰集』を読む
	授業の概要 今日の高野山に伝わる宝門・壽門という2大学派の内、宝門の論義書である『宗義決撰集』には、真言宗の教義を学ぶ上での重要問題が問答形式で多く取められている。この『宗義決撰集』所収の論義には、心・生命・存在などといった今日に通じる問題も数多く含まれている。これらの論義を通して、真言教学の思考方法を受講生とともに学んでいきたい。
	授業計画 1. 概論 (講義の進め方等) 2. 『宗義決撰集』について 3. 心に形は有るのか? - 心法色形 - ① 4. ② 5. 即身成仏に前世の善業は必要か? - 宿善有無 - ① 6. ② 7. 非生物は成仏するのか? - 草木成仏 - ① 8. ② 9. 最悪の人間にも価値があるのか? - 住心教業 - ① 10. ② 11. 煩惱は捨て去られるべきなのか? - 遍計所執捨捨捨義 - ① 12. ② 13. 衆生は救い尽くされるのか? - 一度生願満 - ① 14. ② 15. 期末テスト 16. まとめ
	学期
	前期
	単位数 2
	担当者 土居夏樹
	テキスト 『宗義決撰集』、『真言宗全集』巻19、高野山大学統真言主全書刊行会 ※ 授業中にコピーを配布します
参考書・参考資料等 小田慈舟訳『宗義決撰集』、『国訳一切経』和漢撰述部、『諸宗部』21、大東出版社 ※ その他、授業において指示します。	
学生に対する評価 授業内での発表 (40%)、授業内での質疑応答 (80%)、期末レポート (40%) で評価します。	
ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) テキストの書き下し・語注・典拠調べ・現代語訳ができる。 (良) テキストの内容を、自分の言葉で説明できる。 (優) テキストの内容に関する問題点を、批判的に論じることができる。	
その他 ・授業内でグループを作り、担当を決めた上で、各グループで調査研究の資料を作ってもらいます。 ・資料は、書き下し・語注・考察を含むものとします。 ・上記資料に基づき、発表・ディスカッションをおこなってもらいます。 ・発表担当回に無断で欠席した場合は、失格としますので、注意してください。	

科目名 密教学特殊講義A	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山真言宗の教師 (住職) として必要な作法の習得 テーマ：事作法の伝授を通して教師 (住職) の役割を理解する
	授業の概要 高野山真言宗の教師 (住職) として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授
	授業計画 1. 授業の概要説明 2. 中院流の成り立ちについて (1) 3. 中院流の成り立ちについて (2) 4. 中院流の成り立ちについて (3) 5. 別行次第 (理趣法) 伝授説明 (1) 6. 別行次第 (理趣法) 伝授説明 (2) 7. 別行次第 (理趣法) 伝授説明 (3) 8. 別行次第 (理趣法) 伝授説明 (4) 9. 別行次第 (理趣法) 伝授説明 (5) 10. 開眼作法等日用小作法伝授説明 (1) 11. 開眼作法等日用小作法伝授説明 (2) 12. 開眼作法等日用小作法伝授説明 (3) 13. 開眼作法等日用小作法伝授説明 (4) 14. 開眼作法等日用小作法伝授説明 (5) 15. 16.
	学期
	前期
	単位数 2
	担当者 中西雄泰
	テキスト 中川善教師編『理趣経法』 岩原信師編『真言宗壇用経典』 入手方法は授業で説明します。
参考書・参考資料等 必要に応じてコピーを配布	
学生に対する評価 授業態度出席率 (100%) 伝授の為試験は行いません。	
ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 出席60%以上 (良) 出席80%以上 (優) 出席90%以上	
その他 ・受講者は伝法灌頂受了者に限る。 ・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。 ・前期・後期を通して受講すること。	

科目名 密教学特殊講義B	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山真言宗の教師 (住職) として必要な作法の習得 テーマ：事作法の伝授を通して教師 (住職) の役割を理解する
	授業の概要 高野山真言宗の教師 (住職) として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授
	授業計画 1. 真言宗の葬儀について (1) 2. 真言宗の葬儀について (2) 3. 引導作法伝授説明 (1) 4. 引導作法伝授説明 (2) 5. 引導作法伝授説明 (3) 6. 引導作法伝授説明 (4) 7. 引導作法伝授説明 (5) 8. 不動法伝授説明 (1) 9. 不動法伝授説明 (2) 10. 不動法伝授説明 (3) 11. 不動法伝授説明 (4) 12. 大師法伝授説明 (1) 13. 大師法伝授説明 (2) 14. 大師法伝授説明 (3) 15. 大師法伝授説明 (4) 16.
	学期
	後期
	単位数 2
	担当者 中西雄泰
	テキスト 中川善教師編『理趣経法』 岩原信師編『真言宗壇用経典』 入手方法は授業で説明します。
参考書・参考資料等 必要に応じてコピーを配布	
学生に対する評価 授業態度出席率 (100%) 伝授の為試験は行いません。	
ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 出席60%以上 (良) 出席80%以上 (優) 出席90%以上	
その他 ・受講者は伝法灌頂受了者に限る。 ・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。 ・前期・後期を通して受講すること。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の生活文化について理解し、説明できる。 テーマ：高野文化圏の生活文化
密 教 学 特 殊 講 義 C	授業の概要 高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について生活文化を中心に検討する
前期	授業計画 1. 高野文化圏研究の意義 2. 高野文化圏をめぐる環境 (1) 3. 高野文化圏をめぐる環境 (2) 4. 景観の諸問題 (1) 5. 景観の諸問題 (2) 6. 生業 (1) 7. 生業 (2) 8. 生業 (3) 9. 交通・交易 (1) 10. 交通・交易 (2) 11. 交通・交易 (3) 12. 社会生活 (1) 13. 社会生活 (2) 14. 社会生活 (3) 15. 定期試験 16. 高野文化圏の生活文化の特徴
学期	テキスト プリントを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編 高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。
2	学生に対する評価 定期試験 (70%)、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード (30%) で評価する。
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 高野文化圏の生活文化について基本的事項を説明できる。 (良) 授業内容を理解した上で、高野文化圏の生活文化について説明できる。 (優) 高野文化圏の生活文化について自己の意見を述べるができる。 その他 授業の最初に小テストを行い、前回の授業内容の復習の程度を確認する。授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。
森 本 一 彦	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の信仰生活について理解し、説明できる。 テーマ：高野文化圏の信仰生活
密 教 学 特 殊 講 義 D	授業の概要 高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討する。
後期	授業計画 1. 高野文化圏の信仰生活について 2. 年中行事 (1) 3. 年中行事 (2) 4. 年中行事 (3) 5. 年中行事 (4) 6. 社寺の行事 (1) 7. 社寺の行事 (2) 8. 社寺の行事 (3) 9. 人の一生 (1) 10. 人の一生 (2) 11. 人の一生 (3) 12. 高野山をめぐる信仰 (1) 13. 高野山をめぐる信仰 (2) 14. 高野山をめぐる信仰 (3) 15. 定期試験 16. 高野文化圏の信仰生活の特徴
学期	テキスト プリントを配付する。
単位数	参考書・参考資料等 高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編 高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。
2	学生に対する評価 定期試験 (70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード (30%) で評価する。
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 高野文化圏の社会生活について基本的事項を説明できる。 (良) 授業内容を理解した上で、高野文化圏の社会生活について説明できる。 (優) 高野文化圏の社会生活について自己の意見を述べるができる。 その他 授業の最初に小テストを行い、前回の授業内容の復習の程度を確認する。授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。
森 本 一 彦	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：芸術作品の素晴らしさを味わい、その深さを見つけ出す自分に気づくこと テーマ：仏画を描く
仏 密 教 学 特 殊 講 義 1 (別) 義 E	授業の概要 まず筆を持って描くことから始めよう。白描図像の制作である。敦煌の仏画を中心に、特色のあるものを時代別に選んで、その形を意識しながら線を書く。受講する者は、筆を持って線を書くことによって、その図像が「なぜ素晴らしいといえるのか」を発見するだろう。芸術作品の素晴らしさを味わい、その深さを見つけ出す自分に気づくように指導したい。
前期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方について説明する。 2. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 I・II 3. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 III・IV 4. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 V・VI 5. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 VII・VIII 6. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 IX・X 7. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く I・II 8. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く III・IV 9. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く V・VI 10. 作品 紺地金泥の作品を作る I 11. 作品 紺地金泥の作品を作る II 12. 作品 紺地金泥の作品を作る III 13. 作品 紺地金泥の作品を作る IV 14. 高野山霊宝館の見学 15. 総括 (1) 16. 総括 (2)
学期	テキスト 以下の教材は担当者が用意する。 書写手本作品はコピーを配布。面相筆。薄美濃紙。墨液。色紙。チョコペーパー。パール粉 (金・銀)
単位数	参考書・参考資料等 授業で指示する。
1 :2 :	学生に対する評価 書写作品・毎回の授業時に提出する課題 (70%) 授業参加への積極性 (30%)
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) (良) (優)
静 慈 圓	その他 筆・紙等の教材費として5,000円個人負担となります。初回に納入してください。 どなたでも受講できます。すでに後期を終えた者の受講も可能。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：彩色の方面から芸術品の深さを知る。 テーマ：仏画を彩色する。
仏 密 教 学 特 殊 講 義 2 (別) 義 F	授業の概要 ここでは仏画を描く基本 (線描) を修得した上で、彩色を習います。彩色は説明だけでは理解できませんので、全て実践です。自分で彩色をしながら、各種の仏画を鑑賞し、彩色の方面から芸術品の深さを知ること目標にします。
後期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方について説明する。 2. 用具をそろえる。 3. 膠の溶かし方 4. 絵の具を選ぶ 5. 平塗りとぼかしの技法 6. ぼかしの技法 1 7. ぼかしの技法 2 8. 暈網彩色の実習 1 9. 暈網彩色の実習 2 10. 暈網彩色の実習 3 11. 暈網彩色の実習 4 12. 暈網彩色の実習 5 13. 暈網彩色の実習 6 14. 鑑賞 (1) 15. 鑑賞 (2) 16. 総括
学期	テキスト 以下の教材は担当者が用意する。 彩色手本。彩色筆。薄美濃紙。絵具 (彩色顔料)。絵皿。鹿膠。墨液。チョコペーパー。色紙。
単位数	参考書・参考資料等 授業で指示する。
1 :2 :	学生に対する評価 書写作品 (70%) 授業参加への積極性 (30%)
担当者	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) (良) (優)
静 慈 圓	その他 絵の具・絵の具皿・彩色筆等の教材費として5,000円個人負担となります。初回に納入してください。 どなたでも受講できます。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：中院流の金剛界の伝受次第の研究を通じて、真言密教が社会に提供できるものを考察する。 テーマ：中院流の金剛界の伝受次第の伝受と講義
密教学特殊講義G	授業の概要
	中院流の一流伝受の最初に学習するのは両界の伝受次第である。金剛界の伝受次第は淳祐の『金剛界念誦次第 石山中院』（石山二巻次第）という中院流の本次第とそれを修法しやすくした有快の『金剛界念誦頭次第 中院』（有快和会次第）である。この授業では、金剛界の伝受次第の二種類を講義し、四度加行で使われる『金剛界念誦次第』（大門寺次第）と比較しながら、真言密教における深い意味を講義する。已灌頂者のみが受講できる。
前期	授業計画
	1. 金剛界次第の種類と概略 2. 金剛界伝受次第の講義 1 3. 同上 2 4. 同上 3 5. 同上 4 6. 同上 5 7. 同上 6 8. 同上 7 9. 同上 8 10. 同上 9 11. 同上 10 12. 同上 11 13. 同上 12 14. 同上 13 15. 同上 14 16. まとめ
学期	テキスト
単位数	高岡隆心編『金剛界念誦次第 石山中院』と『金剛界念誦頭次第 中院』
	参考書・参考資料等
2	『中院流聖教』3・4、『真言宗全書』24、『中院流四度有快口傳』、『中院流四度長淳口訣』、『中院流四度有勢口説』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、大山公淳『中院流の研究』、他
担当者	学生に対する評価
	レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)
T.ドライトライン	ルーブリック (目標に準拠した評価)
	(可) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。 (良) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。 (優) 中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
	その他
	受講者は伝法灌頂入壇者 (已灌頂者) のみとする。 授業は伝受形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。 受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：中院流の胎藏界の伝受次第の研究を通じて、真言密教が社会に提供できるものを考察する。 テーマ：中院流の胎藏界の伝受次第の伝受と講義
密教学特殊講義H	授業の概要
	中院流の一流伝受の最初に学習するのは両界の伝受次第である。胎藏界の伝受次第は淳祐の『胎藏界念誦次第 石山中院』（石山次第）という中院流の本次第とそれを修法しやすくした有快の『胎藏界念誦頭次第 中院』（有快和会次第）である。この授業では、胎藏界の伝受次第の二種類を講義し、四度加行で使われる『胎藏界念誦次第』（大門寺次第）と比較しながら、真言密教における深い意味を講義する。已灌頂者のみが受講できる。
後期	授業計画
	1. 胎藏界次第の種類と概略 2. 金胎藏界伝受次第の講義 1 3. 同上 2 4. 同上 3 5. 同上 4 6. 同上 5 7. 同上 6 8. 同上 7 9. 同上 8 10. 同上 9 11. 同上 10 12. 同上 11 13. 同上 12 14. 同上 13 15. 同上 14 16. まとめ
学期	テキスト
単位数	高岡隆心編『胎藏界念誦次第 石山中院』と『胎藏界念誦頭次第 中院』
	参考書・参考資料等
2	『中院流聖教』3・5、『真言宗全書』25、『中院流四度有快口傳』、『中院流四度長淳口訣』、『中院流四度有勢口説』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、大山公淳『中院流の研究』、他
担当者	学生に対する評価
	レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)
T.ドライトライン	ルーブリック (目標に準拠した評価)
	(可) 中院流の各種の胎藏界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。 (良) 中院流の各種の胎藏界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。 (優) 中院流の各種の胎藏界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
	その他
	受講者は伝法灌頂入壇者 (已灌頂者) のみとする。 授業は伝受形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。 受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： ①インド・チベットの仏教図像に関する基礎的な知識と研究方法を身につける。 ②チベットの仏像を見た時に、その名称が言えるようになる。 ③インド・チベット仏教史の流れを理解する。 テーマ：インド・チベット密教の図像資料の研究
密教学特殊講義I	授業の概要
	チベット探検で知られる河口慧海が持ち帰った図像資料などに基づいて、インド・チベット仏教美術の主題と表現形式学び、さらに『三百尊図像集』などを用いて、図像の解説の練習を行う。あわせてインド・チベット仏教史の流れについて基礎的な知識の整理を行う。
後期	授業計画
	1. イントロダクション：チベットのタンカをどう見るか 2. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式 1 3. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式 2 4. 河口慧海とそのコレクション 5. 河口慧海コレクション 1 6. 河口慧海コレクション 2 7. 河口慧海コレクション 3 8. 河口慧海コレクション 4 9. 『三百尊図像集』 1 10. 『三百尊図像集』 2 11. 『三百尊図像集』 3 12. 『三百尊図像集』 4 13. 『三百尊図像集』 5 14. 『三百尊図像集』 6 15. 『三百尊図像集』 7 16. まとめ
学期	テキスト
単位数	『河口慧海请来チベット資料図録』佼成出版社 『三百尊図像集』（ピブリオテカ・ブディカ）
	参考書・参考資料等
2	頼富本宏・下泉全曉『密教仏像図典 インドと日本の仏たち』人文書院
担当者	学生に対する評価
	提出物の評価を含む授業参加状況 (60%)、期末レポート (40%)
奥山直司	ルーブリック (目標に準拠した評価)
	(可) チベット仏教と日本仏教の尊各分類法の違いを述べることができる。 (良) 資料を参照しながら、チベット仏教の尊像を同定できる。 (優) チベットの尊像の特徴が大体において頭に入っている。
	その他
	遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：密教の両部曼荼羅、別尊曼荼羅をはじめとする、各種の「曼荼羅」に関する基礎知識の習得。 テーマ：日本美術における「曼荼羅」
密教学特殊講義J	授業の概要
	密教の両部曼荼羅、別尊曼荼羅のほか、日本美術において「曼荼羅」と呼ばれる作品をとりあげ、成立背景と図像的解釈、思想に関する理解を深め、信仰の多様性を知る。
前期	授業計画
	1. 導入 2. 曼荼羅について 3. 両部曼荼羅の思想と構成 (1) 4. 両部曼荼羅の思想と構成 (2) 5. 両部曼荼羅の思想と構成 (3) 6. 別尊曼荼羅 (1) 7. 別尊曼荼羅 (2) 8. 別尊曼荼羅 (3) 9. 別尊曼荼羅 (4) 10. 浄土曼荼羅 (1) 11. 浄土曼荼羅 (2) 12. 浄土曼荼羅 (3) 13. 垂迹曼荼羅 (1) 14. 垂迹曼荼羅 (2) 15. 垂迹曼荼羅 (3) 16. まとめ
学期	テキスト
単位数	必要に応じて授業中に資料を配布する。
	参考書・参考資料等
2	頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』至文堂、1996年 林温『別尊曼荼羅』至文堂、2002年 その他、授業中に指示する
担当者	学生に対する評価
	レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)
中安真理	ルーブリック (目標に準拠した評価)
	(可) 密教の各種曼荼羅の構成と思想について理解できる。 (良) 密教の各種曼荼羅の構成と思想について理解し、説明できる。 (優) 密教の各種曼荼羅を含む日本美術の「曼荼羅」の構成と思想について理解できる。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：スピリチュアルなケアを展開するために必要な諸理論を学び、支援技法の基礎についての理解を育む。 テーマ：理論と実践をつなぐための学び
仏教学特殊講義A	授業の概要 スピリチュアルケアの歴史的背景とその本質を概観し、仏教理論と瞑想実践が内包しているケアの可能性を検討する。人間の発達段階を知り、理論と実践とのつながりを実感するためのディスカッションを交えながら授業を展開する。
学期	授業計画 1. ホスピス運動の歴史的背景 2. 仏教における「よき看護者となる5条件」 3. 解脱と悟り 4. 悲しむ力と育む力 5. 愛着理論 6. ライフサイクル論 7. 自己実現と欲求の5段階説 8. 人生で大切な5つの仕事 9. 四摂法 10. 移行対象と祈りの力 11. アンビバレンスを受けとめる器 12. 見守る息づかいとしてのスピリチュアリティ 13. ケアが循環する社会へ 14. マインドフルネスの可能性 15. レポート作成のためのふりかえり 16. レポート講評
後期	テキスト 『スピリチュアルケアへのガイド』窪寺俊之・井上ウィマラ 青海社 『看護と生老病死』井上ウィマラ 三輪書店（書店で購入）
単位数	参考書・参考資料等 『仏教心理学キーワード事典』春秋社
2	学生に対する評価 授業への参加態度（30%）と期末レポート（70%）によって評価する
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 仏教瞑想ならびにスピリチュアルケアについて基本的な理解ができている。 (良) 自分の言葉で仏教瞑想やスピリチュアルケアについて説明できる。 (優) 臨床現場で実践できるであろうことが感じられる程度に理解が深められている。
井上ウィマラ	その他 授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏尊の種類や像容の特徴を学び、その功德や信仰の歴史についての基礎的な知識を培うことを到達目標とする。 テーマ：仏像のかたち-その姿と意味 如来・菩薩編
仏教学特殊講義B	授業の概要 仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。授業では、現存する仏画、仏像等の画像資料を示しつつ、各尊の姿や手印・持物の意味を確認し、その信仰の歴史などについて概観する。
学期	授業計画 1. はじめに：仏教美術の基礎知識 2. 釈迦如来 3. 薬師如来 4. 阿彌陀如来 5. 毘盧遮那仏と大日如来 6. 弥勒仏と弥勒菩薩 7. その他の如来 8. 十一面観音 9. 千手観音 10. 不空罽索観音 11. 文殊菩薩 12. 普賢菩薩 13. 地藏菩薩 14. 虚空蔵菩薩 15. その他の菩薩 16. レポートの課題に関する解説と講評
前期	テキスト 授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。
単位数	参考書・参考資料等 至文堂編『日本の美術』ぎょうせい 関根俊一編『仏尊の事典』学習研究社 『日本美術全集』講談社
2	学生に対する評価 授業参加への積極度(40%)、期末レポート(60%)の比率で評価する。後期授業終了までに各自テーマを設定し、それに関する4000字程度のレポートを提出する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 仏教美術に関する基礎的な知識がある。 (良) 各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。 (優) 各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。
和田圭子	その他 仏教美術特殊講義B（後期）を履修・聴講することが望ましい。霊宝館等で実際の仏像や仏画を積極的に見学し、尊像のかたちについて研究してください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏尊の種類や像容の特徴を学び、その功德や信仰の歴史についての基礎的な知識を培うことを到達目標とする。 テーマ：仏像のかたち-その姿と意味 明王・天・その他編
仏教学特殊講義C	授業の概要 仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。授業では、現存する仏画、仏像等の画像資料を示しつつ、各尊の姿や手印・持物の意味を確認し、その信仰の歴史などについて概観する。
学期	授業計画 1. 不動明王 2. 五大明王1 3. 五大明王2 4. 愛染明王 5. 孔雀明王 6. 梵天・帝釈天 7. 四天王 8. 毘沙門天 9. 吉祥天・弁才天 10. 十二天 11. 十二神将 12. 閻魔・十王 13. その他の天 14. 仏弟子・祖師等 15. 垂迹神等 16. レポートの課題に関する解説と講評
後期	テキスト 授業内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を配付する。
単位数	参考書・参考資料等 水野敏三郎監修『カラー版日本仏像史』 至文堂編『日本の美術』ぎょうせい 『日本美術全集』講談社
2	学生に対する評価 授業参加への積極度(40%)、期末レポート(60%)の比率で評価する。後期授業終了までに各自テーマを設定し、それに関する4000字程度のレポートを提出する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 仏教美術に関する基礎的な知識がある。 (良) 各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。 (優) 各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。
和田圭子	その他 仏教美術特殊講義A（前期）を履修・聴講することが望ましい。霊宝館等で実際の仏像や仏画を積極的に見学し、尊像の特徴について研究してください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教における苦への理解、対処姿勢を学ぶ テーマ：仏教思想を現代社会に活かすための力を身につける
仏教学特殊講義D	授業の概要 仏教は、生老病死を苦と捉え、その苦からの解放を説きます。仏教を学ぶことは、臨床現場での問題と対峙する時に大きな示唆を与えてくれます。本講義は適時、仏典をひも解きながら、共に苦に臨む智慧を学びます。
学期	授業計画 1. 現代社会の問題 2. 宗教に臨むこと：宗教学の知見から 3. 宗教の役割：心の支えとしての宗教 4. 仏教・密教の思想：基本的な概念 5. 仏弟子の振る舞いと苦惱（1）：仏教説話から 6. 仏弟子の振る舞いと苦惱（2）：仏教説話から 7. 苦について（1） 8. 苦について（2） 9. 病と自殺について（1） 10. 病と自殺について（2） 11. スピリチュアルケアとは 12. スピリチュアルケアにおける仏教の有用性 13. 仏教・密教の宇宙論・世界観（1） 14. 仏教・密教の宇宙論・世界観（2） 15. 現代社会と仏教・密教の思想 16. まとめ
後期	テキスト 講師作成資料を配布する。
単位数	参考書・参考資料等 仏教思想研究会編『仏教思想5 苦』平楽寺書店、1984年。 他は授業中に紹介する。
2	学生に対する評価 レポート（100%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 仏教思想の基本的概念を理解している。 (良) 現代社会の諸問題への興味関心を向ける。 (優) 現代社会の諸問題への仏教思想の活かし方について思索する力が身につけている。
森崎雅好	その他 現代社会の様々な問題に対処するためには、多くの知識が必要です。その知識から智慧が生まれます。まずは知識習得のための努力をお願いいたします。

科目名 仏教学特殊講義E	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教の基礎知識を徹底的に習得する。 テーマ：仏教における解釈学の問題点を探る。
	授業の概要 仏教における様々な解釈困難な用語を、『スツクニパータ』を中心に検証する。
	授業計画 1. オリエンテーション 2. 『スツクニパータ』の特徴について概説する。 3. 同上 4. 『スツクニパータ』をパーリ語原典・漢訳を比較対照しながら、読み込んで行く。 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 総まとめ
	学期
	後期
	単位数 2
	担当者 前谷 彰
	学生に対する評価 学期末のレポート(100%)によって評価する。
	養成をめざす力 仏教思想の基礎知識を養う。日本語を読む力・聴く力
	その他

科目名 真言密教特殊講義A	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：各種曼荼羅における密教尊像の基本構成を学習し、図像学の立場から密教の流伝を学ぶことを目的とする。 テーマ：図像学における密教尊格の表現、および尊格構成とその譜系について学ぶ。
	授業の概要 密教学講読演習 真言宗典講読2-1(別)で学んだ知識を基本とし、図像学的見地から各種曼荼羅の尊像の成立に関して様々な角度から比較研究を行う。 本授業では、前期で行った図像資料講読演習を基礎とし、曼荼羅に登場する尊格についての譜系を総合的に学習する。そのため、基礎知識として前期の授業での講読演習が不可欠となるので通期で受講することが望ましい。
	授業計画 1. 概論(講義の進め方等) 2. 曼荼羅尊像に関する基礎知識① 3. 曼荼羅尊像に関する基礎知識② 4. 曼荼羅尊像に関する基礎知識③ 5. 曼荼羅尊像に関する基礎知識④ 6. 曼荼羅尊像に関する基礎知識⑤ 7. 曼荼羅尊像に関する基礎知識⑥ 8. 密教の流伝に関する基礎知識① 9. 密教の流伝に関する基礎知識② 10. 密教の流伝に関する基礎知識③ 11. 密教の流伝に関する基礎知識④ 12. 密教の流伝に関する基礎知識⑤ 13. 密教の流伝に関する基礎知識⑥ 14. 密教の流伝に関する基礎知識⑦ 15. 密教の流伝に関する基礎知識⑧ 16. レポート試験
	学期
	後期
	単位数 2
	担当者 松長 恵史
	学生に対する評価 授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する レポート 60% 授業中の演習 30% ノート作成 10%
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 曼荼羅に関する基礎知識を習得する (良) 密教尊像に関する基礎知識を習得する (優) 尊像の流伝に関して理解する
	その他

科目名 真言密教特殊講義B 密教儀礼の理論と実習1(別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：引導作法と葬儀に関する知識の習得 テーマ：葬送儀礼の実践習得
	授業の概要 葬送儀礼に関する様々な知識を習得し、高野山の寺家の葬儀等も学ぶ。
	授業計画 1. 葬送儀礼の歴史 2. 真言宗の葬儀 3. } 4. } 5. } 6. } 7. 導師と職衆の心得 8. 高野山の寺家の葬儀(1)～(9) 9. 戒名について 10. 葬儀に用いる梵字と書き様(塔婆等) 11. 葬儀に関する質疑応答 12. } 13. } 14. } 15. } 16. }
	学期
	前期
	単位数 2
	担当者 齋藤 天譽
	学生に対する評価 レポート提出により採点(100%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 「高野山の寺家と在家の葬儀」について理解している。 (良) 「高野山の寺家と在家の葬儀」について大まかに説明できる。 (優) 「高野山の寺家と在家の葬儀」についてよく理解し、詳しい説明が出来る。
	その他 【受講資格について】 原則として伝法灌頂修了者であるが、加行前期修了者も受講可とします。 但し、已灌頂者と未灌頂者は、きっちり区別して講義します。(詳細は開講時に説明します)

科目名 真言密教特殊講義C 密教儀礼の理論と実習2(別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：引導作法と葬儀に関する知識の習得 テーマ：葬送儀礼の実践習得
	授業の概要 『引導略作法(二巻疏)』を基に、引導作法の伝授と葬儀に関する知識の習得を目的とする。
	授業計画 1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 7. } 8. } 9. 『引導略作法(二巻疏)』の伝授と解説(1)～(15) 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. } 16. }
	学期
	後期
	単位数 2
	担当者 齋藤 天譽
	学生に対する評価 レポート提出により採点(100%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 「二巻疏」と「葬儀の構成」を理解している。 (良) 「二巻疏」について説明が出来る。 (優) 「二巻疏」の詳しい説明を後進の者に伝えられる。
	その他 【受講資格について】 原則として伝法灌頂修了者であるが、加行前期修了者も受講可とします。 但し、已灌頂者と未灌頂者は、区別して講義します。(詳細は開講時に)

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】：卒業論文を書くために必要なアイデアを膨らませる力、関係資料や先行研究についての情報収集力、分析力、そして論文として表現するための構成員力を養う。 【後期】：テーマにしたがって先行研究を整理し、分析し、論文として自らの考えを構成し表現していく力を身につける。 テーマ：【前期】：卒業論文作成のための準備トレーニング 【後期】：卒業論文作成の実際
密 教 学 演 習 A	
学期	授業の概要 前期は、各自の研究テーマについて情報を集めるためのブレイン・ストーミングやKJ法によるマッピングなどを紹介する。その後、図書館やインターネットを利用して情報を収集し、整理して、ショートプレゼンテーションを行い、ディスカッションすることで知識が有機的につながってゆくように工夫する。 後期は、毎回授業のはじめに各自の進行状況を報告しあう。実際に論文を作成するプロセスにしたがって、個人指導をしながら進めてゆく。
学年	授業計画 1. 自己紹介と授業の流れについて 2. 書いてみたいテーマについて 3. ブレイン・ストーミング 4. KJ法によるマッピング 5. アイデアを膨らませるために 6. 図書館の利用法 7. インターネットの利用法 8. 先行研究を知る 9. 資料の読み込み方 10. 分析と構成 11. プレゼンテーションとディスカッション1 12. プレゼンテーションとディスカッション2 13. プレゼンテーションとディスカッション3 14. 目次作成 15. レポート作成のためのふりかえり 16. レポート講評
単位数	1. 授業の流れと各自の進行状況の確認：前期レポートのふりかえり 2. タイトルについて 3. 章立てについて 4. 序章の意味について 5. 論文の格闘的側面について 6. 資料の活かし方 7. 引用法 8. 論旨の浮かび上がらせ方 9. 書きながら修正していくこと 10. 読み合わせ1 11. 読み合わせ2 12. 個人指導1 13. 個人指導2 14. 個人指導3 15. ふりかえりとまとめ（質問に向けて） 16. レポート講評
4	テキスト 『仏教心理学キーワード事典』春秋社（書店で購入）
担当者	参考書・参考資料等 適宜紹介する
井 上 ウ イ マ ラ	学生に対する評価 授業への参加態度（30%）と期末レポート（70%）で評価する。 ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）テーマを選び、論理的な展開でレポートが書ける。 （良）自分の主張を浮かび上がらせるために、先行研究を使いこなせている。 （優）論考のオリジナリティと未解決の課題を含めた将来への展望が明確になっている。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：唐代の中国書論の重要性を理解し、読解を通じて議論し合い、書学における論文執筆のための研究ノウハウの習得。卒業制作の指導。 テーマ：中国書論を読み、討論し合う。
密 教 学 演 習 B	
学期	授業の概要 長安へ留学した空海が、中国式仏教ではなくインド仏教を学んだのは、それが原点だからである。書においても、中国最古の書体、篆書を学び、正鋒と呼ばれる筆法を日本に伝えた事を念頭に、当時空海が読んだとされる中国書論を輪読し、書の各分野における本質を分析する。その他、随時受講者の卒論進捗状況をうかがう。
学年	授業計画 1. オリエンテーション 2. 中国の書論について① 3. 中国の書論について② 4. 中国の書論について③ 5. 孫過庭「書譜」① 6. 孫過庭「書譜」② 7. 孫過庭「書譜」③ 8. 孫過庭「書譜」④ 9. 孫過庭「書譜」⑤ 10. 孫過庭「書譜」⑥ 11. 孫過庭「書譜」⑦ 12. 孫過庭「書譜」⑧ 13. 孫過庭「書譜」⑨ 14. 孫過庭「書譜」⑩ 15. 予備 16. 総括
単位数	1. 卒業論文の中間報告① 2. 卒業論文の中間報告② 3. 空海の書論① 4. 空海の書論② 5. 空海の書論③ 6. 空海の書論④ 7. 空海の書論⑤ 8. 空海の書論⑥ 9. 空海の書論⑦ 10. 空海の書論⑧ 11. 空海の書論⑨ 12. 空海の書論⑩ 13. 空海の書論⑪ 14. 空海の書論⑫ 15. 予備 16. 総括
4	テキスト 『精萃図説書法論』（西東書房）、「中国書画全書」（上海書画出版社）、（宋）陳思「書苑菁華」（北京図書館出版社）、「歴代書法論文選」（上海書画出版社）等からコピーを配布する。
担当者	参考書・参考資料等 『書譜序注疏』（上海古籍出版社）、中国書法ガイド38「書譜」（二玄社）、「中国書論大系」（第二巻、第三巻）（二玄社）
野 田 悟	学生に対する評価 ・定期試験（60%）+それぞれの発表及び提出物（40%）での評価。 ・それぞれの発表を10点満点とする。 ・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。 ・欠席（各-3点）、遅刻・欠席（-1点）を素点から引く計算で成績をつける。 ・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。
	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）書論の原文を自分自身の解釈で発表できる。 （良）自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。 （優）研究執筆において、目新しい独自の観点を発見することができる。
	その他 ・書または篆刻に関する論文を希望する受講生が望ましく、書道史を受講していることが相応しい。 ・随時、書道作品に関する課題を課し、授業の中でその進行状況を確認する。 ・人数や能力によっては相談により、テキスト等を変更する場合もある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：明治・大正期の文語を読解し、内容をまとめ、それを史的 文脈に当てはめて解釈できるようになること。 テーマ：土宜法龍の研究
密 教 学 演 習 C	
学期	授業の概要 土宜法龍（どぎ・ほうりゅう、1854 - 1923）は日本近代の代表的な真言僧の一人である。彼は真言宗法務所課長から仁和寺門跡・御室派管長、真言宗各派連合総裁、金剛峯寺座主・高野派管長などの要職を歴任し、明治から大正にかけての真言宗をリードした。その生涯には、シカゴ万国宗教会議への出席、真言宗僧侶初の世界一周、博物学者南方熊楠との交流など注目すべき事績が多い。本授業は、彼の思想と行動を遺文集『木母堂全集』の読解を通じて探っていく。基本的には、当番制発表形式で授業を進めるので、十分な予習が必要である。
学年	授業計画 前期 1. ガイダンス 2～4. 土宜法龍の生涯 5～15. 『木母堂全集』を読む 16. まとめ 後期 1. ガイダンス 2. 土宜法龍と近代真言宗史 3～15. 『木母堂全集』を読む 16. まとめ
単位数	テキスト 釈雲照「 」
4	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 予習・発表準備状況（60%）、授業参加状況（40%）
奥 山 直 司	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）法龍の書いた文章を声に出して正確に読むことができる。 （良）法龍の書いた文章の内容を理解し、まとめることができる。 （優）法龍の書いた文章の内容を分析し、そこに込められた思想のアウトラインを描くことができる。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師の書簡を読む。 テーマ：弘法大師の世界観を知る。
密 教 学 演 習 D	
学期	授業の概要 前期は弘法大師の書簡を通して、思想書とは異なる視点から弘法大師の世界観（自然観や国家観）を探っていく。後期は学術論文の書き方や個々の論文指導卒論指導を行う。
学年	授業計画 1. オリエンテーション 2～15回（前期）は、弘法大師の書簡を読む。 後期15回分は論文指導を行う。
単位数	テキスト 高木神元『弘法大師の書簡』（法蔵館）
4	参考書・参考資料等 必要に応じて担当者が紹介する。
担当者	学生に対する評価 学期末のレポート（100%）によって評価する。
前 谷 彰	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）講義で指示する課題をこなすこと。 （良）弘法大師の書簡を通して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。 （優）講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査手法を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。
	テーマ：「高野春秋編年輯録」を読む。
密教学演習E	授業の概要 受講者は、授業に際して、文献の書き下し文、語彙の解説などを作成し、必要に応じて、補助的な資料を準備しなければならない。受講生相互の質疑によって、理解を深める。受講生には、板書による発表を求める。小テストを毎回行う。
	授業計画 1. ガイダンス 2. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 3. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 4. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 5. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 6. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 7. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 8. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 9. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 10. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 11. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 12. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 13. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 14. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 15. 期末試験 16. 答案返却
学期	17. ガイダンス 18. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 19. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 20. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 21. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 22. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 23. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 24. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 25. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 26. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 27. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 28. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 29. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 30. 「高野春秋編年輯録」巻第12の読解 31. 期末試験 32. 答案返却
通年	テキスト 日野西眞定『高野春秋編年輯録』のコピーを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 『密教大辞典』『仏教語大辞典』『大漢和辞典』『国史大辞典』など。
4	学生に対する評価 発表50%。発表回数最多の者を50点とし、回数に応じて比例配点する。期末試験50%。授業中に発言しなかった者は欠席とする。合格点に満たない者には、小テスト1回を1点として加算する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 漢文を書き下し文にできる。 (良) 専門用語を除けば、漢文を読解できる。 (優) 専門用語を十分に理解し、漢文を読解できる。
南	その他 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。 予習の際、不明なことは、密教合同研究室の大学院生に尋ねると良い。
昌宏	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：未註書を通じて漢文読解力と密教経典や註釈書等に対する知識を培う テーマ：「大日経」を読む
	授業の概要 空海の代表的な著作に「十住心論」がある。悟りにいたるまでの心の過程を十段階に分け、それらの十段階に教理的な説明を加えて、当時の諸思想を批判し、真言密教の深義を宣揚したものである。この十住心思想の骨格を形成するための典拠となっているのが「大日経」および「大日経疏」である。本年度も「大日経疏」の未註書の一つである春快口説「大日経疏鈔」を読み進めながら、「大日経」についての理解を深めていく。後期に卒論の中間報告会を実施する。
密教学演習F	授業計画 【前期】 1. シラバスの説明、講義の進め方等 2. 「大日経」の原典資料と研究資料の紹介 3. 「大日経」の内容概略の説明 4. 「大日経疏鈔」を読む1 5. 同上2 6. 同上3 7. 同上4 8. 同上5 9. 同上6 10. 同上7 11. 同上8 12. 同上9 13. 同上10 14. 同上11 15. レポート提出 16. レポート講評
	【後期】 1. 卒論・修論 中間報告会 2. 卒論・修論 中間報告会 3. 「大日経疏鈔」を読む1 (前期分の確認) 4. 同上2 (前期分の続き) 5. 同上3 6. 同上4 7. 同上5 8. 同上6 9. 同上7 10. 同上8 11. 同上9 12. 同上10 13. 同上11 14. 同上12 15. レポート提出 16. レポート講評
学期	テキスト 春快口説「大日経疏鈔」大正 60巻・2218番 (主に高野山大学図書館版本を使用。コピー配布) 【付】1) 善無畏・一行共訳「大毘盧遮那成佛心摩訶持経」大正 18巻 848番 2) 一行記「大毘盧遮那成佛心摩訶持経疏」大正 39巻 1796番
通年	参考書・参考資料等 福田亮成訳「大日経」(新訳大蔵経 密教部1)大蔵出版 神林隆平訳「大日経疏上」(国訳一切経 和漢撰述部 経疏部14)大東出版社 松長有慶「密教経典解説」(現代密教講座 第二巻)大東出版社 頼富本宏著「大日経」入門 大法輪閣、他
単位数	学生に対する評価 レポート (80%)、授業参加への積極性 (20%)
4	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) テキストの漢文を調読することができる。 (良) テキストの漢文を調読し、用語について説明できる。 (優) テキストの漢文を調読し、用語について説明でき、引用文の典拠を確認できる。
担当者	その他 授業に望むにあたっては、予め漢文が読めるように予習してくる。その上で、用語の意味を調べ、内容が理解できるように努めること。また引用文については典拠を確認してくる。
乾	
仁志	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言宗の常用経典である「理趣経」原典の読解を通じて仏教学を学ぶための文献学的・図像学的方法論を習得する。 テーマ：「理趣経」と密教思想・密教美術の形成、およびその背景にある初期仏教・大乘仏教・ヒンドゥー教を理解する
	授業の概要 仏教思想を学ぶための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書など、研究に必要な「工具」について学び、その基礎知識を活用して、各自が実際に論文を作成してゆくための方法を習得する。そして一例として梵文および漢文にて「理趣経」原典を読み進めながら、文献に接する態度、基本的な読み方、難解な箇所に関連した際の対処方法を身につけてゆく。出席者は授業で扱う文献または各自が選んだテーマについて調査結果を発表することを通じて、方法論を習得する。
密教学演習G	授業計画 1. 導入 2. 仏教を学ぶための基礎知識 (1) 3. 仏教を学ぶための基礎知識 (2) 4. 「理趣経」原典の読解 (1) 5. 「理趣経」原典の読解 (2) 6. 「理趣経」原典の読解 (3) 7. 「理趣経」原典の読解 (4) 8. 「理趣経」原典の読解 (5) 9. 「理趣経」原典の読解 (6) 10. 「理趣経」原典の読解 (7) 11. 「理趣経」原典の読解 (8) 12. 「理趣経」原典の読解 (9) 13. 文献読解の結果を分析する (1) 14. 文献読解の結果を分析する (2) 15. 文献読解の結果を分析する (3) 16. 総括
	1. 導入 2. 仏教を学ぶための基礎知識 (1) 3. 仏教を学ぶための基礎知識 (2) 4. インド大乘仏教文献の読解 (1) 5. インド大乘仏教文献の読解 (2) 6. インド大乘仏教文献の読解 (3) 7. インド大乘仏教文献の読解 (4) 8. インド大乘仏教文献の読解 (5) 9. インド大乘仏教文献の読解 (6) 10. インド大乘仏教文献の読解 (7) 11. インド大乘仏教文献の読解 (8) 12. インド大乘仏教文献の読解 (9) 13. 文献読解の結果を分析する (1) 14. 文献読解の結果を分析する (2) 15. 文献読解の結果を分析する (3) 16. 総括
学期	テキスト 授業において指示します。
通年	参考書・参考資料等 高野山大学仏教学科編『卒業論文の手引き』。 松長有慶、「理趣経講義」、大法輪閣。 松長有慶、「理趣経」中公文庫 BIBLIO。 Toru Tomabechi, <i>Adhyardhasatika Prajnaparamita</i> , Vienna/Beijing, 2009.
単位数	学生に対する評価 授業中の発表など (60%)、レポート (40%)
4	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 自らテーマを選び、調査し、プレゼンテーションするための基礎を抑える。 (良) 十分な調査と所定時間に沿ったプレゼンテーションができる。 (優) 高度な内容を平易に説明する高度なプレゼンテーション能力を備える。
担当者	その他 主にインド・チベットのことを卒業論文で扱いたい人を対象としますが、熱意のある学生であれば歓迎します。参加者の人数に偏りがある場合は、他の演習との調整をすることがあります。
加納和雄	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教経典を解説することによって漢文読解力と卒業論文を作成するための力を養いたい。 テーマ：「宿曜経」を読む。
	授業の概要 『宿曜経』を講解することによって漢文文献を取り扱う方法論を身につけてもらいたい。あわせて、卒業論文についての個別指導を行なう。
密教学演習H	授業計画 【前期】 1. オリエンテーション 2. 「宿曜経」講読演習 3. 「宿曜経」講読演習 4. 「宿曜経」講読演習 5. 「宿曜経」講読演習 6. 「宿曜経」講読演習 7. 卒論中間発表 8. 卒論中間発表 9. 「宿曜経」講読演習 10. 「宿曜経」講読演習 11. 「宿曜経」講読演習 12. 「宿曜経」講読演習 13. レポート、論文の書き方 14. レポート、論文の書き方 15. レポート提出 16. 講評
	【後期】 1. オリエンテーション 2. 卒論目次の作成 3. 卒論目次の作成 4. 「宿曜経」講読演習 5. 「宿曜経」講読演習 6. 「宿曜経」講読演習 7. 卒論発表 8. 卒論発表 9. 「宿曜経」講読演習 10. 「宿曜経」講読演習 11. 「宿曜経」講読演習 12. 「宿曜経」講読演習 13. 卒論発表 14. 卒論発表 15. レポート提出 16. 講評
学期	テキスト 『宿曜経』(大正 21 No. 1299 担当者がコピーを配布します)
通期	参考書・参考資料等 森田龍徳著『密教占星法』(臨川書店) 矢野道雄『密教占星術』(東洋書院) 松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館)
単位数	学生に対する評価 レポート (60%) 演習発表討論参加 (40%)
4	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 漢文を辞書を引ながら読める。 (良) 「宿曜経」の大意を把握し説明できる。 (優) 先行研究を調べた上で「宿曜経」の内容を合理的に解説することが出来る。
担当者	その他
佐藤隆彦	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：古典籍をめぐる諸問題を通して、古典籍を調査・研究する上での学問的素地をつちかう。 テーマ：「古典籍と書誌学・文献学」
総合科目（書誌学）	授業の概要 古典籍の伝来過程、卷子装・折本装などの諸形態を学ぶとともに、著名な蒐書家とその蔵書、古典籍の収蔵機関とその調査方法についての専門的知識を習得する。また、文献学に必要な本文批判の技法についても学ぶ。
学期	授業計画 1. 書誌学と古典籍 2. 古典籍の諸形態 3. 古典籍の保存と伝来の原因 4. 古典籍と紙・筆 5. 近世の蒐書家たち① 6. 近世の蒐書家たち② 7. 近現代における古典籍① 8. 近現代における古典籍② 9. 卷子装と冊子装 10. 古典籍の書き方と種類 11. 古典籍の取り扱い方 12. 文献学と本文批判① 13. 文献学と本文批判② 14. 文献学と本文批判③ 15. 期末試験 16. 試験解説 ※内容は進度によって変わる場合がある。
前期	テキスト プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。
単位数	参考書・参考資料等 橋本不美男『原典をめざして』（笠間書院、1974年） 山岸徳平『書誌学序説』（岩波書店、1977年） 川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』（ベリかん社、1999年） 藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』（至文堂、2002年） 藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』（至文堂、2008年） 藤本孝一『本を千年伝える』（朝日新聞出版、2012年）
2	
担当者	学生に対する評価 レポート（100%）
坂口太郎	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 古典籍について基礎的な知識を習得している。 (良) 古典籍の諸形態について理解し、系統的に説明できる。 (優) 古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。 その他 私語厳禁。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本中世・近世の古文書に関する基礎知識や読解能力を身につける。 テーマ：「日本中世・近世の古文書を読む」
総合科目（古文書入門）	授業の概要 この授業では、中世・近世の古文書を教材として、「変体漢文」やくずし字を理解する基礎を養う。
学期	授業計画 1. 古文書序説 (古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など) 2. 「くずし字」に親しむ① 3. 「くずし字」に親しむ② 4. 「くずし字」に親しむ③ 5. 中世文書を読む① 6. 中世文書を読む② 7. 中世文書を読む③ 8. 近世文書を読む① 9. 近世文書を読む② 10. 近世文書を読む③ 11. 古文書の「かたち」① 12. 古文書の「かたち」② 13. 古文書の原本に触れる① 14. 古文書の原本に触れる② 15. 期末試験 16. 試験解説 ※内容は進度によって変わる場合がある。
後期	テキスト 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年） 書店で購入 また、教材プリントを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 日本歴史学会編『演習古文書選 古代・中世編』（吉川弘文館、1971年） 『演習古文書選 近世編』（吉川弘文館、1976年） 青木和夫ほか編『文献史料を読む—古代から近代—』（朝日新聞社、2000年）
2	
担当者	学生に対する評価 授業中の参加態度（予習および発言、50%） 期末試験（50%）
坂口太郎	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 基礎的なくずし字を理解している。 (良) くずし字で書かれた古文書の内容を理解できる。 (優) 古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の形態に関する専門的な知識を習得している。 その他 私語厳禁。毎回、宿題としてプリントを配付するので、必ず答案を作成して次回の授業に持参すること。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。継続的な自習が肝心！

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中級程度の英字新聞の理解。 テーマ：必要な英語の情報を素早く読み取る。
企画科目（時事英語）	授業の概要 ネット上に流れる英字新聞を読む。
学期	授業計画 学生諸君の英語能力に応じ、下記のアドレスの英字新聞を読む。 NHK World English: http://www.nhk.or.jp/english/index.html Daily Yomiuri Online: http://www.yomiuri.co.jp/dy/ The Asahi Shimbun http://www.asahi.com/english/ Japan Times: http://www.japantimes.co.jp/
通年	
単位数	テキスト テキストはありませんが、USBメモリーを用意すること。
2	参考書・参考資料等
担当者	学生に対する評価 授業態度と提出物で評価する。
高倉正行	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 短い英文を理解でき、まとめることができること (良) パラグラフごとに内容を把握できること (優) 英文を的確な日本語に訳すことができること その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心、技、体を磨く。 テーマ：御詠歌に合わせた舞い、宗教舞踊の楽しさを感じ得る。
企画科目（舞踊）	授業の概要 宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・法具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。 御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。
学期	授業計画 1. 宗教舞踊を見てみる。基本的 理念・法具（持ち物）の扱い 方の解説。「同行二人」 2. 「同行二人」により身体の動 かし方の基本を学ぶ。 3. 「同行二人」(1) 4. 「(2)」 5. 「(3)」 6. 「(4)」の歌詞を学ぶ 7. 「(5)」の歌詞を学ぶ 8. 「三宝和讃」(1) 9. 「(2)」 10. 「(3)」 11. 「(4)」の歌詞を学ぶ 12. 「(5)」の歌詞を学ぶ 13. 「(6)」の歌詞を学ぶ 14. 「(7)」の歌詞を学ぶ 15. 教典の譜の見方を学ぶ。 16. 復習 17. 「めぐみの光かがやきて」(1) 18. 「(2)」 19. 「(3)」 20. 「(4)」 21. 「(5)」の歌詞を学ぶ 22. 「(6)」の仕上げ 23. 「相互供養和讃」(1) 24. 「(2)」 25. 「(3)」 26. 「(4)」 27. 「(5)」 28. 「相互供養和讃」の歌詞を学ぶ 29. 「(6)」の仕上げ 30. 復習 31. 実技試験 32. 登壇の仕方を学ぶ
通年	
単位数	テキスト 舞踊1曲ずつの教典（大師教会で購入）
2	参考書・参考資料等 高野山金剛流宗教舞踊基本教典 『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版
担当者	学生に対する評価 授業中の技術の習熟度（30%） 努力度（30%） 実技試験（40%）
辻高祖 佐彩恵子	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 基本的動作（合掌の形・立座の仕方・法具の扱い方）が出来る (良) 御詠歌に合わせて舞う事が出来る (優) 歌詞を理解し、心を表現しながら舞う事が出来る その他 単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の【入門】と【初伝】が取得出来る

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標・テーマ 21世紀に期待される寺院の経営マネジメントの基本知識を学び、今後の寺院経営に必要な経営戦略の立て方とマネジメントの方法を修得する。
企画科目(寺院経営講座)	授業の概要 現在の寺院の経営課題の分析方法を学び、解決方法として期待される寺院の経営理念設計および経営戦略の具体的立案方法と寺院経営マネジメントの方法を講義とグループワーク方式で実践的に学ぶ。
学期	授業計画 1. 21世紀寺院の抱える問題と課題 2. 21世紀寺院の重要性と期待される役割 3. 寺院の経営戦略①-寺院の経営戦略の重要性と立て方 4. 寺院の経営戦略②-寺院の期待されるビジネスモデルの設計方法 5. 寺院の経営戦略③-寺院の広報戦略の重要性と方法 6. 寺院の経営戦略④-寺院の経営組織戦略の重要性と方法 7. 寺院の経営戦略⑤-寺院の人材採用戦略と育成方法 8. 寺院の経営マネジメント①-寺院の総資産内容とマネジメント方法 9. 寺院の経営マネジメント②-寺院の会計内容とマネジメント方法 10. 寺院の経営マネジメント③-寺院のキャッシュフロー内容とマネジメント方法 11. 寺院の経営マネジメント④-寺院の税務内容とマネジメント方法 12. 寺院の経営マネジメント⑤-寺院のコンプライアンス内容とマネジメント方法 13. 寺院の経営マネジメント⑥-寺院の経営チェック診断の内容と方法 14. 寺院の経営マネジメント⑦-寺院のアントレプレナーの重要性と内容 15. 寺院の経営マネジメントの総合レポート 16. 期末試験
前期	テキスト 講師作成資料を配布する。
単位数	参考書・参考資料等 「せとぎわの仏教」-僧侶と寺院の未来- 財団法人 全国青少年教化協議会 編(鎌倉新書 発行) 他は講師が授業内で紹介する。
2	学生に対する評価 授業態度・自己チェックレポート(毎回提出)(40%) 期末試験(60%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 講義内容を理解でき、積極的意見発表、質問ができる。 (良) 講義テーマについてセルフワークが十分でき、グループワークで議論ができる。 (優) 講義テーマについてプレゼンテーションやマネジメントができる。
加賀	その他 将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考え、学生相互に刺激し合い、啓発し合うことを望みます。
博	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標: 数学がこんなところにもという感性づくり、何よりも数学的判 断により事がすすんだという実践感をもてることである。 テマ: 人間学部のなかで自然科学の基礎となる教養をこの大学で哲 学・宗教の枠を超えた森羅万象すべてに通じる数学の概念を解 いていく。
企画科目(おもしろ数学思考力)	授業の概要 人間が生きていく上で知っておきたい概念のひとつに数学の考え方があ る。それが大学でも必要としてほしい概念のひとつでもあります。日常の 生活の中でも【こんなところにも数学が!】を感じながら自然と使われて いる考え方をこの講座を通して知っていき楽しさを得られる感性づくりを 学び理解していくことを目標として計画していく。そのうえで【人生にな ぜ数学が必要か】をまとめていきたいと考えている
学期	授業計画 1. 高野山大学における数学の必要性(序章) 2. 教養の数学(基礎)~代数編(1) 3. 教養の数学(基礎)~代数編(2) 4. 教養の数学(基礎)~幾何編(1) 5. 教養の数学(基礎)~幾何編(2) 6. 教養の数学(基礎)~確率編(1) 7. 教養の数学(基礎)~確率編(2) 8. 日常的なものとの対比編(1) 9. 日常的なものとの対比編(2) 10. 日常的なものとの対比編(3) 11. 応用編(1) 12. 応用編(2) 13. 応用編(3) 14. 総括まとめ(1) 15. 総括まとめ(終章) 16.
前期	テキスト 秋山仁著【こんなところにも数学が!】扶桑社文庫
単位数	参考書・参考資料等 秋山仁著【数学ワンダーランド一日冒険旅行】近代科学社
2	学生に対する評価 数学的思考力という堅いイメージですが、日常【こんなところにも数学 が!】を認識していくと意外なことに気づくはず。そこから数学がス ウガクに変換されて興味関心がわいてきます。それを期待して講座を展開 していきます。その理解度が評価に繋がっていきますが、それに対する関 心度も重要と考えます。積極的な意見を期待します。
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 日常【こんなところにも数学が!】を授業を通じて認識・理解でき ること。 (良) 積極的に日常【こんなところにも数学が!】を認識・理解し探究で きること。 (優) 日常【こんなところにも数学が!】をより一層調査研究し求める姿 勢が感じられること。
木地茂典	その他 数学的な活動を含めた内容を提示していきます。思考力ということを認 識していく中で【こんなところにも数学が!】を日常的なかで感じる必要 がある。テキストにあげた本は必需必読を心がけること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標: 【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的 実技の修得。 【後期】高野山の伝統行事(年中行事)に生けられる伝統 華・荘厳真華の理解 テマ: 【前期】日本の華道史と華道実技の基本 【後期】華道高野山の代表華である真華の修得
企画科目(華道)	授業の概要 【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。 【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。
学期	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 華道高野山についての解説 3. 供華様式から投入花の解説 4. 投入花から現代花の解説 5. 盛花の解説 6. 盛花の実技実習 7. 盛花の変化態の解説と実習 8. 投入花の解説と実習 9. 投入花の変化態の解説と実習 10. 格花の解説と実習 11. 格花の変化態の解説と実習 12. 自由化の解説と実習 13. 自由化のテーマのまとめ方と実習 14. 実技テスト 15. 格花 寸胴での実習 16. 前期全体の補足 【後期】 1. 真華の解説 2. 五段華の解説 3. 五段華の実技実習 4. 真華実習(1) 5. 真華実習(2) 6. 二つ真の解説 7. 仏生会の華の解説 8. 白羽の矢竹の解説 9. 小品真華の解説と実習 10. 法印転衣式の華の解説 11. 合真の解説 12. 元三の花の開設 13. 万年青の解説と実技 14. 実技テスト 15. 水仙の薬組 16. 後期全体の補足
通年	テキスト 華道高野山教本
単位数	参考書・参考資料等 特に無し
2	学生に対する評価 実技定期試験(60%)、小試験(40%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。 (良) 作品に創意・工夫が見られる。 (優) 高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる。
五味和樹	その他 実技実習時に花材費 800円~1,000円必要です。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標: 仏教のヴィパッサナー(観)瞑想による意識の保ち方を学 ぶことによって、自分を知る能力(自己覚知)を養う。 テマ: 自分を知ることについて
企画科目(マインドフルネス)	授業の概要 最初にみんなの息を合わせるために「三宝帰依の歌」を歌い、 Ānāpānasati-suttaの「16の観察法」を説誦し、15分ほど呼吸瞑想を する。その後瞑想的エクササイズを行い、ふりかえりをしながら体 験学習を深めてゆく。
学期	授業計画 1. 自己紹介と授業の進め方について(仏教瞑想について) 2. 如実知見と自分を知ることの大切さ 3. Ānāpānasati-sutta(出入息念経)から学ぶ 4. 身体感覚に心を開く: Vedanā(受)を理解する 5. 呼吸に触れる 6. 呼び名の息遣い 7. 瞑想中の雑念への対処法: 気づきの作法 8. 自尊心について 9. 食べる瞑想: Ahāra(四つの栄養素)の教えについて 10. マインドフルネス瞑想の射程 11. 三業の心理学 12. 思いやりの育み方: 慈悲喜捨の教えについて 13. 神秘体験について 14. 悟りと解脱 15. ふりかえりとまとめ 16. レポート返却と講評
前期	テキスト 井上ウイマラ『呼吸による気づきの教え』俊成出版社(書店で購入)
単位数	参考書・参考資料等 『仏教心理学キーワード事典』春秋社 井上ウイマラ『人生で大切な5の仕事』春秋社(書店で購入)
2	学生に対する評価 授業への参加態度(30%)と期末レポート(70%)で評価する。
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 授業の内容が理解できている。 (良) 授業内容をよく理解し、自分を見つめることにつなげることができている。 (優) 授業内容に基づき、自己覚知を育て、日常生活に応用する術がわかっている。
井上ウイマラ	その他 動きやすい服装で参加すること。 仏教瞑想を学びたいという明確な動機を持ち、体験学習に積極的に参加する心構えを持っていることが望ましい。

科目名 企画科目 (仏教芸術)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山内に伝わる仏教美術について学び、さらに実際に仏像、仏画等に接することによって、より深い仏教美術の知識を学び、培うことを到達目標とする。 テーマ：高野山における仏教美術研究
	授業の概要 高野山霊宝館の所蔵品を中心に、高野山における仏教美術、特に密教美術について作品の特徴や歴史的意義について学ぶ。特に高野山霊宝館において実際に仏像、仏画等を鑑賞しつつ知識を深める。
	授業計画 1. はじめに：仏教美術作品鑑賞に関する基礎知識 2. 高野山の仏教美術の歴史 3. 高野山霊宝館での作品研究 (1) 4. 高野山の仏教美術1：別尊曼荼羅 5. 高野山の仏教美術2：別尊曼荼羅 6. 高野山の仏教美術3：一切経等 7. 高野山霊宝館での作品研究 (2) 8. 高野山の仏教美術4：如来 9. 高野山の仏教美術5：菩薩 10. 高野山の仏教美術6：明王 11. 高野山霊宝館での作品研究 (3) 12. 高野山の仏教美術7：天部 13. 高野山の仏教美術8：祖師等 14. 高野山の工芸：密教法具等 15. 高野山霊宝館での作品研究 (4) 16. レポートの課題に関する解説と講評
	テキスト 授業内容に沿った参考資料(文字資料・画像資料)を配付する。
	参考書・参考資料等 『日本古寺美術全集』集英社、『高野山秘宝大観』フジタ
	学生に対する評価 期末レポート(60%)、霊宝館見学と授業への参加度(40%)の比率で評価する。 霊宝館において見学した作品を1点選び、それに関する4000字程度のレポートを提出する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 仏教美術鑑賞に関する基礎知識を理解している。 (良) 高野山の仏教美術作品について概略を簡単に説明できる。 (優) 高野山の仏教美術作品を見ながら自分の言葉で説明することができる。
	その他 履修する学生は社会経験と就業経験を身につけるために、授業とは別に指示に従って高野山霊宝館の受付や案内業務を体験する。様々な観点から積極的に作品を鑑賞する態度が望ましい。
	担当者 和田 静 主 子 慈 園
	前期 2 単位数 2

科目名 企画科目 (別) 法式上級	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：修法における次第の組み立てを理解し、その行法をより深めることを目的とし、重ねて代表的な密教法会である理趣三昧法会を実修し、職業及び導師の心得を身につける。 テーマ：行法や荘厳の理解と理趣三昧法会の実修
	授業の概要 四度の加行において自らが実践した所の十八道や金剛・胎藏の両部の次第、護摩の次第における行法の展開や内容を考察し、行法をより深く実践できるように試みる。 また、理趣三昧法会の実践をとおし、実際の法要の流れを理解し、導師や職業としての作法を習熟する。
	授業計画 【前期】 道場や壇上の荘厳の解説・実践 【後期】 理趣三昧を解説する。 また、伝法灌頂に入壇後、理趣三昧の次第を解説する。 また、法会における作法等を解説し、職業として法会を実修する。 【その他】 追悼法会、また報恩日の法会に職業としての積極的な参加(出仕)を求める。
	テキスト 『真言宗常用経典』、『四度加行 次第』、中川善教編『理趣経法』
	参考書・参考資料等 『声明類聚』等 他は授業中で紹介し、適宜コピー等を配布する
	学生に対する評価 期末の課題レポートと法要作法の習熟度
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 加行等とおして実習した、密教における道場や壇上の荘厳を理解できる。 (良) 加行等において実習する行法の組み立てを理解できる。 (優) 行法や法会における荘厳や所作の意味付けを理解できる。
	その他 ・ 空衣(尼僧は褌衫でも可)・白袈裟(または如法衣)を着しての受講となる。 ・ 以下の事項を受講の条件とする。 ① 法式A またはB の単位を取得しておくこと。 ② 伝法灌頂を終えていること。少なくとも前期加行(十八道・金剛界)を受けた上で受講し、今年度内に伝法灌頂に入壇すること。 ・ 学内での追悼法会や報恩日など、積極的な出仕をお願いする。
	担当者 和田 雲 溪
	通年 2 単位数 2

科目名 企画科目 (芸能)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：初年度は基本的な奏法の習得・初歩的な曲の合奏と、邦楽の歴史・日本音楽の特徴理解。 二年目履修の際は、「六段の調べ」を習得し、初伝免許取得相当の技術を身につける事。 テーマ：地歌箏曲入門一巻(琴)を弾いてみよう。日本音楽の素晴らしさに触れてみよう。
	授業の概要 音楽楽理と、邦楽の歴史に関する講義を交えながら、箏の演奏実習を中心に進めていく。箏に触れ、演奏することで、伝統文化に共通する精神性へと、学生諸氏の思考深化を促したい。
	授業計画 【前期】 1. 爪をつけて、箏をならしてみよう。 2. 柱の立て方、はずし方。 3. 楽譜の見方、楽器の扱い方を学ぼう。 4. 琴とは、楽器の部位の名称等。 5. ビデオ鑑賞。 6. 「さくら」「荒城の月」を弾こう。(1) 7. 「さくら」「荒城の月」を弾こう。(2) 8. 「さくら」「荒城の月」を弾こう。(3) 9. 邦楽の歴史を学ぼう(講義)。 10. 「三段の調べ」を弾こう。(1) 11. 「三段の調べ」を弾こう。(2) 12. 「三段の調べ」を弾こう。(3) 13. 「三段の調べ」を弾こう。(4) 14. 邦楽の歴史を学ぼう(講義)。 15. 筆記・実技試験 16. 前期の復習 【後期】 1. 「三段の調べ」の復習をしよう。 2. 「三段の調べ」の他パートと合奏しよう。(1) 3. 「三段の調べ」の他パートと合奏しよう。(2) 4. 邦楽の歴史を学ぼう(講義)。 5. 「さくら変奏曲」を弾こう。(1) 6. 「さくら変奏曲」を弾こう。(2) 7. 「さくら変奏曲」の他パートと合奏しよう。 8. 邦楽の楽理を学ぼう(講義)。 9. 「笛の音」を弾こう。(1) 10. 「笛の音」を弾こう。(2) 11. 「笛の音」を三味線と合奏しよう。 12. 試験に向けての復習。(1) 13. 試験に向けての復習。(2) 14. 試験に向けての復習。(3) 15. 実技試験 16. 後期の復習
	テキスト 楽譜は講師を通じて随時一括購入する。爪は初回授業で各自の指の号数を確認して注文する。
	参考書・参考資料等 吉川英史『日本音楽の歴史』創元社。他は授業で紹介する。
	学生に対する評価 音楽を真剣に楽しむ授業態度(70%) 演奏技術(10%) 筆記・実技試験(20%) 但し、上記%に関係なく、欠席1回マイナス5点とする。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 音楽を楽しみ、楽器の特徴や扱い方を習得している。 (良) 箏(琴)の基本的な奏法を習得し、楽譜を見ながら演奏することができる。 (優) 他パートの音を聞きながら、自分の奏でる音楽を表現することができる。
	その他 「箏は女性が弾くもの」という誤った通念があるようだが、実態は全く異なる。偏見を捨てて、音楽好きな学生は、男女を問わず、積極的に受講してほしい。 二年目の単位を取得した場合、本人が希望し、かつ技能が相当と認められる者には、有料で、経楽教育奨励会認定の「初伝」免許を認認する。
	担当者 糺 谷 有 桜
	通年 2 単位数 2

科目名 企画科目 (別) 観法科目 (阿息観)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：阿息観の修得 テーマ：阿息観の理論と実習
	授業の概要 阿字観の前行と位置づけられている阿息観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。 テキストにしたがって講義を進める。
	授業計画 1. オリエンテーション 2. 阿息観と悟り 3. 真言密教と釈迦 4. 瞑想の目的と種類 5. 修行の基本 6. 弘法大師空海の宗教体験 7. 阿息観について 8. 阿息観について 9. 阿息観の実習 10. 阿息観の実習 11. 討論 12. 阿息観の実習 13. 阿息観の現代的意義 14. 阿息観の現代的意義 15. レポート作成 16. 講評
	テキスト 山崎泰廣『阿字観瞑想入門』(春秋社) ※ 生協取り扱い
	参考書・参考資料等 『密教福祉Ⅰ』『密教福祉Ⅱ』(密教福祉研究会編)
	学生に対する評価 期末レポート(80%)、討論小テスト(20%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 瞑想の三要素について説明できる。 (良) 阿息観の特徴について説明できる。 (優) 阿息観の現代的意義について理解し説明できる。
	その他
	担当者 佐 藤 隆 彦
	前期 2 単位数 2

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：阿字観の修得 テーマ：阿字観の理論と実習
企画科目 （月輪観と阿字観） （別）	観法の理論と実習
学期	後期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦
授業の概要	阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 阿息観について 3. 阿息観の実習 4. 月輪観について 5. 月輪観について 6. 月輪観実習 7. 『大日経』と阿字 8. 阿字観について 9. 阿字観について 10. 阿字観実習 11. 自由討論 12. 阿字観の口訣 13. 阿字観の口訣 14. 阿字観実習 15. レポート作成 16. 講評
テキスト	山崎泰廣『阿字観瞑想入門』（春秋社）
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	期末レポート（80%）、討論小テスト（20%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）月輪の意味について説明できる。 （良）実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。 （優）密教瞑想法の思想的背景について説明できる。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：将来の御詠歌指導者の養成を目指す。 テーマ：高野山が伝承する心の宗教音楽「御詠歌」を学ぶ。
企画科目 （詠歌）	詠歌の概要
学期	通年
単位数	2
担当者	村上上山 公秀雄 教道慈
授業の概要	【前期】 プロジェクター等で譜の見方、楽理等解りやすく解説する。詠歌と和讃の歌詞・旋律から作者の意図を汲み取り自分なりに表現しその方法を研鑽させる。 【後期】 前期の目標、テーマの完成を目指す。決して急がずに一曲を時間を掛けて指導し習得させる。そして一曲は得意な曲を持たせて詠歌、和讃を積極的に唱えられる様に研鑽を深めさせる。
授業計画	【前期】 1. 詠歌、和讃の概要（譜の見方、歴史など） 2. いろは歌（曲） 3. いろは歌（曲・所作） 4. 相互供養和讃（解説・曲） 5. 相互供養和讃（曲） 6. 相互供養和讃（曲・所作） 7. 追弔和讃（解説・曲） 8. 追弔和讃（曲） 9. 追弔和讃（曲・所作） 10. 地蔵菩薩児童向き（解説・曲） 11. 地蔵菩薩児童向き（曲・所作） 12. 龍華（解説・曲） 13. 龍華（曲） 14. 龍華（曲・所作） 15. 前期履修曲復習 16. 実技及び筆記試験 【後期】 1. 前期総括 2. 地蔵菩薩（解説・曲） 3. 地蔵菩薩（曲） 4. 地蔵菩薩（曲・所作） 5. 観音大慈（解説・曲） 6. 観音大慈（曲） 7. 観音大慈（曲・所作） 8. 父母感恩和讃（解説・曲） 9. 父母感恩和讃（曲） 10. 父母感恩和讃（曲・所作） 11. 楊柳（解説・曲） 12. 楊柳（曲） 13. 楊柳（曲・所作） 14. 前期履修曲復習（曲・所作） 15. 後期履修曲復習（曲・所作） 16. 実技、筆記試験
テキスト	高野山金剛流御詠歌教典 同和讃集、楽理教典、法具（鈴鉦）（鈴鉦は教務課にて貸出し有り）
参考書・参考資料等	金剛講必携、鈴鉦のひびき 高野山金剛流和讃の解説
学生に対する評価	実技、筆記試験（70%） 技術の習熟度（30%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）曲の最後までお唱え出来る。 （良）お唱え・所作が少し出来る。 （優）身・口・意（所作・お唱え・気持ち）が合致している。
その他	1. 後期履修希望者は前期履修の後、受講すること 2. 詠歌は一年間履修し合格点に達すれば准教師、二年間履修し合格点に達すれば詠歌、三年間履修し合格点に達すれば詠歌、四年間履修し合格点に達すれば詠歌の申請資格を与える。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山大学が立地する地域に関する理解を深める。 テーマ：地域社会を知ろう
企画科目 （地域連携）	企画科目
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦
授業の概要	高野山の職員や関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行う。テーマによっては現地見学も実施する。
授業計画	1. 地域社会から考える 2. 地方行政－高野町の事例 3. 明治近代の思想と高野山概 4. 近代から現在までの地方行政概論 5. 高野町の財政（ふるさと納税） 6. 参拝と観光 7. 高野町の産業 8. 高野町の文化財行政 9. 高野町の町並み（建築） 10. 高野町のごみ処理 11. 地域と教育 12. 集落支援の実態 13. 高野町の地域創生（人口問題） 14. 地域社会の課題（1） 15. 地域社会の課題（2） 16. 地域社会の可能性
テキスト	テキストを指定せず、プリントを配布する。
参考書・参考資料等	授業中に紹介する。
学生に対する評価	最終レポート（70%）、小レポートなどの課題（30%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）地域社会に関する基本用語を説明できる。 （良）地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。 （優）地域社会に対して自分の考えを提案できる。
その他	・将来公務員などの職に就き、地域社会で活躍したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。 ・高野町役場のインターンシップを希望する者は、必ず受講すること。 ・授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第1回目の授業において指示をする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：鎌倉時代の政治史の流れや鎌倉仏教の実態を学習し、その歴史的特徴を理解する。 テーマ：「鎌倉時代の政治と文化」
企画科目 （歴史学Ⅰ）	企画科目
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口太郎
授業の概要	本講義では、朝廷と幕府の関係（公武関係）を通して鎌倉時代の政治史の流れを概観する。また、顕密仏教と新仏教との関係や、蒙古襲来が鎌倉仏教に与えた影響、女性と仏教との関係についても考えたい。
授業計画	1. 鎌倉時代の政治構造 2. 源頼朝の上洛 3. 建久七年政変 4. 後鳥羽院政 5. 執権政治の成立 6. 承久の乱 7. 九条道家政権と鎌倉幕府 8. 得宗専制政治の成立 9. 蒙古襲来 10. 兩統迭立と鎌倉幕府 11. 鎌倉仏教論の現状 12. 鎌倉時代の寺社勢力 13. 鎌倉時代の女性と仏教 14. 蒙古襲来と鎌倉仏教 15. 期末試験 16. 試験解説 ※内容は進度によって変わる場合がある。
テキスト	プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。
参考書・参考資料等	上横手雅敬ほか『日本の中世 8 院政と平氏、鎌倉政権』第2部（中央公論新社、2002年） 村井章介『北条時宗と蒙古襲来』（日本放送出版協会、2001年） 平雅行『親鸞とその時代』（法蔵館、2001年） 川添昭二『日蓮と鎌倉文化』（平楽寺書店、2002年）
学生に対する評価	期末試験（100%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）鎌倉時代に関する基礎的事項を理解している。 （良）鎌倉時代の政治過程や鎌倉仏教について、講義の内容を踏まえて説明できる。 （優）鎌倉時代の政治構造や鎌倉仏教の特徴について、講義の内容や参考文献を踏まえ、総合的かつ論理的に説明できる。
その他	私語厳禁。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：南北朝動乱の政治過程について学習し、その歴史的意義について考える。 テーマ：「南北朝動乱の政治過程」
企画科目 (歴史学Ⅱ)	授業の概要 本講義では、後醍醐天皇による建武政権の成立・崩壊から、足利義満の権力確立に至るまでの政治史を概観する。とくに、近年研究の盛んな室町幕府だけではなく、これまで実態が不明とされてきた南朝の動向にも焦点を当てたい。
学期	授業計画 1. 建武政権の成立 2. 建武政権の崩壊 3. 室町幕府の成立 4. 初期室町幕府と南北朝の分裂 5. 南朝の劣勢 6. 後醍醐天皇の死と室町幕府 7. 北畠親房と『神皇正統記』 8. 観応の擾乱と正平一統 9. 北朝の再建と京都争奪戦 10. 征西府と室町幕府の再編 11. 応安大法と康暦の政変 12. 義満政権の確立と南北朝合一 13. 南北朝内乱と『太平記』 14. 南北朝内乱と観音・地藏信仰 15. 期末試験 16. 試験解説 ※内容は進度によって変わる場合がある。
後期	テキスト プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。
単位数	参考書・参考資料等 佐藤進一『日本の歴史9 南北朝の動乱』(中央公論新社、2005年。初刊1965年) 村井章介『日本の中世10 分裂する王権と社会』(中央公論新社、2003年) 森茂暁『皇子たちの南北朝』(中央公論新社、1988年) 小川剛生『南北朝の宮廷誌』(臨川書店、2003年)
2	学生に対する評価 期末試験(100%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 南北朝動乱に関する基礎的事項を理解している。 (良) 南北朝動乱の政治過程や関係史料について、講義の内容を踏まえて説明できる。 (優) 南北朝動乱の歴史的意義について、講義の内容や自分の見解を踏まえて論ずることができる。
坂口太郎	その他 私語厳禁。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：祭文(各種)・表白・神文・佛名・教化の習得 テーマ：初級の声明で学べなかった南山進流声明の習得
企画科目 (別)声明上級	授業の概要 初級に於いて学べなかった声明及び今後法要や導師として必要となる声明を研鑽する。
学期	授業計画 【前期】 1. 誕生会祭文 2. 〃 3. 〃 4. 御影供祭文 5. 〃 6. 〃 7. 涅槃講祭文 8. 〃 9. 〃 10. 〈御影供〉表白・神文・佛名・教化 11. 〃 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 〃 16. 〃 【後期】 1. 〈大般若〉表白・神文・佛名 2. 〃 3. 〃 4. 〃 5. 〈理趣法〉表白・神文 6. 〃 7. 〃 8. 〃 9. 理趣経(中曲)後半 10. 〃 11. 云何唄 12. 〃 13. 出家唄 14. 伽陀 15. 〃 16. 〃
通年	テキスト ・「祭文集」-高野山出版社発行=各自高野山出版社にて購入の事 ・「大般若法則/御影供表白」(高野山専修学院発行)及び「理趣法」は講義中に伝達する
単位数	参考書・参考資料等 宮野春智編「南山進流声明類聚」
2	学生に対する評価 授業中の発表・習熟度(40%) 期末テスト(60%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。 (良) 南山進流声明を概ね理解しているが、複数の人と合わせて唱える事が出来る。 (優) 南山進流声明上級として理論・唱え方を十分理解し、一人で唱える事が出来る。
辻秀道	その他 受講資格を下記の通り設ける 1. 本学「声明」初級を習得した者(75点以上の者) 2. 高野山専修学院及び尼僧学院を終了した者 3. 高野山高等学校宗教科を終了した者 4. その他同等の研鑽を終了した者

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：伝統的な事相門の教授方法を体験し、且つ日常の修法・実践法への教理的意義に基づいて理解を深め、実際の所作・作法を習得する。 テーマ：密教の修法を実践するに当り、基礎的な知識・理解を深める。
企画科目 (一流伝授Ⅰ)	授業の概要 真言宗の伝統的な宗学の内、事相門の教授方法に則り、日常の実践法である一修行法等を、中院流に基づいて伝授・解説する。自行のみならず、法会等の導師に必要な作法も指導し、時間の許す限り、主要な本尊の尊法を伝授する。
学期	授業計画 1. 講義の概要、略許可 2. 伝授についての序説 3. 一修行法の伝授・解説(1) 4. 一修行法の伝授・解説(2) 5. 一修行法の伝授・解説(3) 6. 一修行法の伝授・解説(4) 7. 一修行法の伝授・解説(5) 8. 一修行法の伝授・解説(6) 9. 一修行法の伝授・解説(7) 10. 一修行法の伝授・解説(8) 11. 一修行法の伝授・解説(9) 12. 一修行法の伝授・解説(10) 13. 一修行法の伝授・解説(11) 14. 一修行法の伝授・解説(12) 15. 一修行法の伝授・解説(13) 16. テスト
(前)集中	テキスト 中川善教編『諸尊通用次第(中院)』3帖1帙 東方出版 価格10,000円程度(※入手方法に就いては、事前に公示する)
単位数	参考書・参考資料等 中川善教『諸尊通用次第撮要』 東方出版 大山公淳『中院流の研究』 高野山大学、東方出版 等
2	学生に対する評価 講義に臨む姿勢(出欠席を含む)(50%)、テストによる採点(50%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 密教及びその実践法についての基礎的な知識を習得している。 (良) 密教の実践法についての基礎的な知識を有するのみならず、その内容をよく理解している。 (優) 密教の実践法についての教理的な理解を自分の言葉・文章で説明することができる。
甲田宥咩	その他 1. 受講者は真言宗の僧侶で、已灌頂者(※伝法灌頂修了者)に限る。 2. 受講時は高野山における平衣(空衣・白袈裟等)又は黒衣・如法衣(尼僧は灰色の褌衫も可)を必ず着用すること。改良服・作務衣等での受講は不可。 3. 前後期通して受講すること。前期のみの受講はできない。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：伝統的な事相門の教授方法を体験し、且つ日常の修法・実践法への教理的意義に基づいて理解を深め、実際の所作・作法を習得する。 テーマ：密教の修法を実践するに当り、基礎的な知識・理解を深める。
企画科目 (一流伝授Ⅱ)	授業の概要 真言宗の伝統的な宗学の内、事相門の教授方法に則り、日常の実践法である一修行法等を、中院流に基づいて伝授・解説する。自行のみならず、法会等の導師に必要な作法も指導し、時間の許す限り、主要な本尊の尊法を伝授する。
学期	授業計画 1. 一修行法の伝授・解説(14) 2. 一修行法の伝授・解説(15) 3. 一修行法の伝授・解説(16) 4. 一修行法の伝授・解説(17) 5. 一修行法の伝授・解説(18) 6. 一修行法の伝授・解説(19) 7. 一修行法の伝授・解説(20) 8. 一修行法の伝授・解説(21) 9. 一修行法の伝授・解説(21) 10. 諸尊法の伝授(1) 11. 諸尊法の伝授(2) 12. 諸尊法の伝授(3) 13. 諸尊法の伝授(4) 14. 諸尊法の伝授(5) 15. 諸尊法の伝授(6) 16. テスト
(後)集中	テキスト 中川善教編『諸尊通用次第(中院)』3帖1帙 東方出版 価格10,000円程度(※入手方法に就いては、事前に公示する)
単位数	参考書・参考資料等 中川善教『諸尊通用次第撮要』 東方出版 大山公淳『中院流の研究』 高野山大学、東方出版 等
2	学生に対する評価 講義に臨む姿勢(出欠席を含む)(50%)、テストによる採点(50%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 密教及びその実践法についての基礎的な知識を習得している。 (良) 密教の実践法についての基礎的な知識を有するのみならず、その内容をよく理解している。 (優) 密教の実践法についての教理的な理解を自分の言葉・文章で説明することができる。
甲田宥咩	その他 1. 受講者は真言宗の僧侶で、已灌頂者(※伝法灌頂修了者)に限る。 2. 受講時は高野山における平衣(空衣・白袈裟等)又は黒衣・如法衣(尼僧は灰色の褌衫も可)を必ず着用すること。改良服・作務衣等での受講は不可。 3. 前後期通して受講すること。後期のみの受講はできない。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：サンスクリット語の短文読解能力を身につける。 テーマ：サンスクリット語音論トレーニング
サンスクリット語Ⅰ(別)	授業の概要 サンスクリット語における音論を中心に、サンスクリット語という古典言語のダイナミズムに触れ、ことばの本質的な世界の楽しさを味わい、様々な言語に対する豊かな感性を養う。
学期	授業計画 1. 導入：サンスクリット語とは？ 16. 動詞組織 2. アルファベットとデーヴァナガリー文字 17. 動詞組織 3. Guza・V3ddhi 法則 18. 動詞組織 4. 動詞の現在組織 20. 複合語トレーニング 5. 語根類推トレーニング 21. 複合語トレーニング 6. 語根類推トレーニング 22. 複合語トレーニング 7. 語根類推トレーニング 23. 物語文学読解トレーニング 8. 連声 (Sandhi) 法則 24. 物語文学読解トレーニング 9. Sandhi 法則トレーニング 25. 仏教文献読解トレーニング 10. Sandhi 法則トレーニング 26. 仏教文献読解トレーニング 11. 代名詞、前置詞、副詞 27. 仏教文献読解トレーニング 12. 短文読解トレーニング 28. 仏教文献読解トレーニング 13. 短文読解トレーニング 29. 仏教文献読解トレーニング 14. 短文読解トレーニング 30. 仏教文献読解トレーニング 15. 短文読解トレーニング
通年	テキスト 担当者作成『サンスクリット語サブグラマー』 辻直四郎『サンスクリット文法』 (絶版のため、担当者がコピーして配布する)
単位数	2
2	参考書・参考資料等 必要に応じて担当者が指示する。
担当者	学生に対する評価 課題に対する予習・復習 (30%)、期末試験 2 回 (70%)
前谷彰	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) Guza・V3ddhi法則に基づく語根類推能力を身につける。 (良) (可) の能力に加え、Sandhi法則を理解し、複合語を分ける能力を身につける。 (優) (可) (良) の基礎知識をもとに、短文読解能力を持つこと。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：文法の基礎と応用を学び、サンスクリット文学を独学できるように必要な実践的知識 (文法書・辞書の使用法) を習得することを目標とする。 テーマ：仏教の韻文作品、散文作品を読む
サンスクリット語Ⅱ	授業の概要 サンスクリット語の精緻な文法体系に慣れ親しみ、読解のためのコツをつかんでインド古典の深みを感じようことをめざす。前期はサンスクリット語初級の授業において培った基礎を確認した後、基礎的な短文からはじめて、簡単な仏典作品の読解を通じて、文章把握の手がかりをつかむ。後期は、基礎的な散文の読み方を学ぶために、『理趣経』と『金剛頂経』の後、そして『大日経』の断簡などを読む。授業のレベルおよび読解する作品は、出席者の希望を尊重する。
学期	授業計画 【前期】 1. 導入 2. 基礎文法の確認 1 3. 基礎文法の確認 2 4. 短文読解練習 インドのことわざ 1 5. 短文読解練習 インドのことわざ 2 6. 短文読解練習 インドのことわざ 3 7. 短文読解練習 インドのことわざ 4 8. 仏典作品を読む 1 9. 仏典作品を読む 2 10. 仏典作品を読む 3 11. 仏典作品を読む 4 12. 仏典作品を読む 5 13. 仏典作品を読む 6 14. 仏典作品を読む 7 15. 仏典作品を読む 8 15. テスト 【後期】 1. インド古典概論 2. サンスクリットの散文、注釈文の様式 3. 散文作品読解 1 4. 散文作品読解 2 5. 散文作品読解 3 6. 散文作品読解 4 7. 散文作品読解 5 8. 散文作品読解 6 9. 散文作品読解 7 10. 散文作品読解 8 11. 散文作品読解 9 12. 散文作品読解 10 13. 散文作品読解 11 14. 散文作品読解 12 15. 散文作品読解 13 16. テスト
通年	テキスト 辻直四郎『サンスクリット文法』岩波書店。その他のテキストは、コピー配布する。
単位数	2
2	参考書・参考資料等 吹田隆道編著『実習サンスクリット文法』春秋社。 アプテ『梵英辞典』(附録 サンスクリットのことわざ)。 ランマン『サンスクリット読本』 G.A. Tubb, Scholastic Sanskrit: A Handbook for Students, Columbia Univ Pr 2007.
担当者	学生に対する評価 授業中の発表など (60%)、レポート (前期・後期に各一回ずつ) (40%)
加納和雄	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 辞書を使って簡単なサンスクリット文を読むことができる。 (良) 辞書を使って通常のサンスクリット文を読むことができる。 (優) 辞書を使って難解なサンスクリット文を読むことができる。 その他 サンスクリット語の基礎に自信のない学生も歓迎します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】古典チベット語の基礎文法の習得 【後期】簡単な文学作品にたしなみながら古典チベット語の文献の読解力を養う。 テーマ：【前期】チベット語文法入門 【後期】チベット語文献に親しむ
チベット語(別)	授業の概要 近年注目をあつめるチベット情勢。いっぽうはるか昔から伝統が培われてきたチベットの仏教。そのいづれを知るためにもチベット語は必須となる。前期は、文字の書き方や、古典チベット語の文法の基礎を解説しながら、チベット語の特徴を学ぶ。また、発音やアクセントについてはラサ地方の口語チベット語を参考にしながら、チベット語の生きた姿にも慣れ親しむ。後期は、前期の講義で学習した文法を復習しながら、仏典、伝記、詩を中心に、チベット語 (文語) の文献を少しずつ読む。はじめてチベット語を学ぶ人のための入門クラス。
学期	授業計画 【前期】 1. オリエンテーション 2. 文字を学ぶ 3. 構字法と発音 (1) 4. 構字法と発音 (2) 5. 辞書の引き方 6. 名詞、人称代名詞 7. 数詞と数の表現 8. 指示代名詞と形容詞 9. 動詞と助動詞 (1) 10. 動詞と助動詞 (2) 11. 動詞と助動詞 (3) 12. 格助辞 (1) 13. 格助辞 (2) 14. その他の辞、副詞 15. 疑問代名詞 16. 関係代名詞 ※折に触れて、チベットの文化や歴史についても紹介します。 【後期】 1. 導入 2. 重要文法事項の再確認 3. チベット語短文作品を読む - 仏典 - (1) 4. チベット語短文作品を読む - 仏典 - (2) 5. チベット語短文作品を読む - 仏典 - (3) 6. チベット語短文作品を読む - 仏典 - (4) 7. チベット語短文作品を読む - 伝記 - (5) 8. チベット語短文作品を読む - 伝記 - (6) 9. チベット語短文作品を読む - 伝記 - (7) 10. チベット語短文作品を読む - 伝記 - (8) 11. チベット語短文作品を読む - 韻文作品 - (9) 12. チベット語短文作品を読む - 韻文作品 - (10) 13. チベット語短文作品を読む - 韻文作品 - (11) 14. チベット語短文作品を読む - 韻文作品 - (12) 15. チベット語短文作品を読む - 韻文作品 - (13) 16. テスト ※折に触れて、チベットの口語会話についても紹介します。
通年	テキスト コピーを配布する。 H.A. イェシケあるいはチャンドラ・ダスの『蔵英辞典』(臨川書店) または『蔵漢大辞典』を購入のこと。
単位数	2
2	参考書・参考資料等 山口瑞鳳『概説チベット語文法』(春秋社) 松本栄一・奥山直司『チベット「マンガラの国」』(小学館) ※その他、必要に応じて講義の中で指示します。
担当者	学生に対する評価 授業中の発表など (60%)、レポート (40%)
加納和雄	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) チベット文字を発音できる。 (良) チベット文字の読み書きができる。 (優) 辞書を引ながらチベット文を読むことができる。 その他 チベットに興味のある方は、どなたでも歓迎いたします。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】外国人旅行者と接する状況で簡単な会話ができるようになる。 【後期】高野山で外国語旅行者を案内する際に使える英語を身につける。 テーマ：【前期】高野山で外国人旅行者に英語で「おもてなし (合掌)」 【後期】英語で外国人と高野山めぐり
英会話	授業の概要 【前期】外国人旅行者が困っているとき何か手助けできるのは嬉しいことです。必要な情報を英語で提供できれば、相手は喜び、自分も世界が広がるチャンスにもなります。練習しましょう。 【後期】高野山を訪れた外国人旅行者に伽藍・奥の院などの案内で使える英語を勉強しましょう。
学期	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. もう一度と聞き返すには 3. I would like to~ 4. Would you~ 5. ~を英語ではどう言いますか。 6. 高野山はいかがですか。 7. どこが？何が？ 8. どちらからお越しですか？ 9. 各国・地域名を英語で言えるようにしたい。 10. 道を尋ねられたら (1) 11. 道を尋ねられたら (2) 12. これまで日本のどこへ行きましたか？ 13. これからどこへ行かれますか？ 14. ロールプレイで練習しよう (1) 15. ロールプレイで練習しよう (2) 16. 前回の総括 ※プログラムは改訂される場合があります。 【後期】 1. ガイダンス 2. 英語で日本について話す (1) 3. 英語で日本について話す (2) 4. 自己紹介 (1) 5. 自己紹介 (2) 6. 英語で高野山について話す (1) 7. 英語で高野山について話す (2) 8. 英語で仏教について話す (1) 9. 英語で仏教について話す (2) 10. 英語で空海について話す (1) 11. 英語で伽藍を案内する (1) 12. 英語で伽藍を案内する (2) 13. 英語で奥の院を案内する (1) 14. 英語で奥の院を案内する (2) 15. まとめ英語スピーチ (2) 16. 後期の総括
通年	テキスト 必要に応じて担当からプリントを配布します。
単位数	2
2	参考書・参考資料等 英和辞典を持参してください (電子辞書も可)。
担当者	学生に対する評価 会話練習の積極性 (40%)、試験 (60%) で評価します。
静春樹	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 外国人から逃げる気持ちが薄くなる。 (良) 外国人に話しかけてみたくなる。 (優) 機会を逃さず会話がしたくなる。会話がラリーのようにつづく感じがする。 その他 【前期】恥ずかしがっているのは上達しません。教室でたくさん失敗し、覚えた表現は積極的に実際に使ってみましょう。ためらいなく、Do you need any help? と言えるようになりましょう。 【後期】普段からインターネットのラジオを利用し、英語音声に耳を慣らしていきましょう。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：「学問のための学問」ではなく、実社会で使える語学の習得。 外国語学習を通して母国語と自国文化をより深く理解した国際的視野を有する人材を育成。
中国語（初級）	テーマ：中国語の基礎学習
授業の概要	視覚的に「漢文」として中国語をとらえるのではなく、「聞く」「話す」に重点をおいた授業を行う。 正確な発音を習得し、日常の挨拶語など平易な文を用いて基本的文型の修得を目指す。
授業計画	【前期】 1. 年間授業計画。中国に関する一般常識、中国語の特性、外国語学習の方法と意義。 2. 「四声」と呼ばれる声調と、中国語発音記号「ピンイン」の母音の習得。 3. 「四声」と「ピンイン」の子音の習得。 4. 中国特有の漢字「簡体字」の学習。 5. 電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方の説明。 「簡体字」と「ピンイン」で書いた受講者のネームカードを配布。名前を使った発音練習。以後出欠は中国語でとる。 6. 「四声」「ピンイン」「簡体字」を学びつつ、テキストに従って挨拶や基本文型を学習。 7-14. テキストを中心とした授業。 前期はテキスト第1～4課を学習。文法解説は必要最低限とし、「聞く」「話す」に重点をおいた授業。 常用文の暗誦（文章丸暗記こそ語学習得の近道！）を義務付け、実際に使える中国語の習得をめざす。 15. 前期試験について。アンケート。 16. 前期試験（筆記）。
学期	【後期】 1. 前期の復習と前期試験の反省 2-14. テキストを中心とした授業。 後期はテキスト第5～8課を学習予定。 文法解説を加えつつも煩雑にならない程度とし、既習文が実際に通じるかを詳細に検証する。 学生の発言機会を増やし、発音・文法を正しつつ、「聞く」「話す」に重点をおいた授業に徹する。 常用文の暗誦を義務付け、実際に「聞ける」「話せる」中国語の習得をめざす。 15. 後期試験について。アンケート。 16. 後期試験（筆記）。
通年	随時、日中関係など国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても考えてゆきたい。
単位数	2
担当者	喜多山幸子・鄭幸枝『はじめて！中国語』白水社 ※生協で購入 参考書・参考資料等 辞書（小学館『中日辞典』等）。電子辞書や参考書籍は随時紹介。
土生川正賢	学生に対する評価 ①試験（評価60%）②受講姿勢（評価20%）③既習項目の習熟度（評価20%） ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができ、簡体字を理解している。 （良）挨拶語や基礎的な構文を正しく発音でき、基本的な文法を理解している。 （優）基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や教科書程度の内容を聞いて話せる会話力がある。 その他 開けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：国際的な視野をもち、中国語を使って仕事ができる人材を育成したい。 我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で堂々と主張できる国際人の養成。 テーマ：実践的中国語 中国語で意思表示！
中国語（上級）	授業の概要 基本的には初級クラスの延長であり、受講生の語学力にあわせた個別指導を行うので安心して受講して頂きたい。
授業計画	【前期】 1. 年間授業計画。初級クラス程度の語学力チェック。 2. 初級クラスの基礎復習。発音再チェック。辞書・参考文献の紹介。 3-8. 初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置く。文法の基礎固めをしながら、初級クラスで未習のテキスト単元を学習。 9-14. 受講生の語学力に適した教材を配布する。 学生による中国語作文発表やディクテーション強化等、実際に使える中国語の習得をめざす。 常用文の暗誦を活用し、学生個々が中国語で自己の意思表現ができるようにつとめたい。 ヒアリング能力向上のため、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。 15. 前期試験について。アンケート。 16. 前期試験。
学期	【後期】 1. 前期既習単元と試験内容、基本文型の総復習。 2-14. 受講生の語学力に適した教材を配布。 学生による中国語作文発表やディクテーション強化等、実際に使える中国語の習得をめざす。 常用文の暗誦を義務付け、それを基礎に段階的に応用を磨く。学生個々が中国語で自己の意思表現ができるようにつとめたい。各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。 15. 後期試験について。アンケート。 16. 後期試験（面接）。 年間を通して、日中関係など国際社会における中国の立場を検証。現代中国の抱える諸問題や時事問題にも言及するので、共に考えてもらいたい。
通年	
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 上記テキスト終了後は、その都度必要な教材・資料を配布。 辞書は毎回必携（電子辞書可）。電子辞書や参考書籍は随時紹介。 学生に対する評価 筆記試験と中国語による個別面接試験、授業中の発表やレポート、受講態度等を加味して総合的に判定。 ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）正しい発音ができ、自己紹介など簡単な会話ができる。 （良）中国語の基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。 （優）新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・説・読・写」の総合的な力がある。 その他 受講生のレベルにあわせた個別指導を心がけるのでご心配なく！ 諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し学位取得した者もいる。井の中の蛙で終わらないでほしい。
土生川正賢	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 様々なスポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、生涯スポーツに活かしていく。
体育実技	授業の概要 【前期】 様々なスポーツを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得。 【後期】 様々なスポーツを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得。
授業計画	【前期】 バレーボール 1. 指導概要についての説明 2. ルール、基本動作の徹底 3. 個人的技能の習得（1） 4. 個人的技能の習得（2） 5. 試験（ラリー） 6. 個人的技能の習得（1） 7. 個人的技能の習得（2） 8. 個人的技能の習得（3） 9. 試験（アタック） 10. 集団的技能の習得（1）（連携プレー） 11. 集団的技能の習得（2）（連携プレー） 12. 集団的技能の習得（3）（連携プレー） 13. 集団的技能の習得（4）（連携プレー） 14. 集団的技能の習得（5）（連携プレー） 15. 試験（連携プレー） 16.
学期	【後期】 フットサル 1. フットサルのルールとボール慣れ 2. チーム作り・個人的技能の習得 3. ゲーム、技術の向上（1） 4. ゲーム、技術の向上（2） 5. ゲーム、技術の向上（3） 6. ゲーム、技術の向上（4） 7. ゲーム、技術の向上（5） 8. ゲーム、技術の向上（6） 9. ゲーム、技術の向上（7） 10. ゲーム、技術の向上（8） 11. ゲーム、技術の向上（9） 12. ゲーム、技術の向上（10） 13. ゲーム、技術の向上（11） 14. ゲーム、技術の向上（12） 15. ゲーム、技術の向上（13） 16.
通年	
単位数	2
担当者	テキスト なし 参考書・参考資料等 なし 学生に対する評価 実技試験（100%） ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）ルールを理解し、意欲的に参加している。 （良）基本的な技術を身に付け、ルールを理解している。 （優）ルールを理解し、仲間と協力し合いながら連携プレーが出来る。 その他
加陽生子	

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：ヒンドゥー教の代表的な神々の姿と性格を理解する。 テーマ：ヒンドゥー教の神様を知る
宗教思想史Ⅰ	授業の概要 ヒンドゥー教ではたくさんの神々が信仰されており、それらの神々はユニークでバラエティーに富んだ個性を有しています。また、ヒンドゥー神は密教にも取り入れられ、天部の尊として日本でも盛んに信仰されています。この講義では、ヒンドゥー神話をひとときながら、インドやネパールに残る神像や日本の密教図像を紹介しつつ、個々のヒンドゥー神の図像学的特徴と性格を学びます。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. ヒンドゥー教とヒンドゥー神話 3. ヴェーダの神々① 4. ヴェーダの神々② 5. ブラフマー 6. ヴィシュヌとその化身 7. シヴァの諸相 8. シヴァの家族 9. ヒンドゥーの女神たち① 10. ヒンドゥーの女神たち② 11. 天体の神々 12. その他のヒンドゥー神 13. 胎蔵曼荼羅のヒンドゥー神 14. 金剛界曼荼羅の五類諸天 15. 日本における天部信仰 16. まとめ
前期	テキスト なし（プリントを配布）
単位数	参考書・参考資料等 立川武蔵『ヒンドゥー神話の神々』（せりか書房） 立川武蔵・石黒淳・菱田邦男・島岩『ヒンドゥーの神々』（せりか書房） 立川武蔵『女神たちのインド』（せりか書房）
2	学生に対する評価 数回の課題レポート、学期末のレポートにより評価
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）ヒンドゥー教諸神の図像学的特徴を理解している。 （良）ヒンドゥー教諸神の図像学的特徴と出自や性格を理解している。 （優）ヒンドゥー教諸神の特徴を、インドの文献と照らし合わせながら説明できる。
川崎一洋	その他 なし

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：曼荼羅を、図像学のみならず宗教学の立場から考察し、その機能と象徴性を理解する。 テーマ：曼荼羅の理論と実践
宗教思想史Ⅱ	授業の概要 密教において曼荼羅は、単なる礼拝の対象となる絵画ではなく、宗教的世界観や思想を象徴させた「悟りへ至るための補助装置」と考えることができます。この講義では、近年に出版された代表的な曼荼羅の解説書を読みながら、最新の研究成果も紹介しつつ、インドにおける曼荼羅の成立と展開を考察し、曼荼羅とは何か？を学びます。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. いろいろな曼荼羅を見てみよう 3. 曼荼羅の思想的基盤① 4. 曼荼羅の思想的基盤② 5. 曼荼羅の象徴性① 6. 曼荼羅の象徴性② 7. 曼荼羅の象徴性③ 8. 曼荼羅の儀礼① 9. 曼荼羅の儀礼② 10. 曼荼羅の儀礼③ 11. 身体曼荼羅 12. 胎蔵曼荼羅と『大日経』の思想 13. 金剛界曼荼羅を読み解く① 14. 金剛界曼荼羅を読み解く② 15. 『理趣経』の曼荼羅を読み解く 16. まとめ
後期	テキスト 正木晃著『楽しくわかるマンダラ世界』（春秋社）
単位数	参考書・参考資料等 マルティン・ブラウエン著・森雅秀訳『曼荼羅大全』（東洋書林） 立川武蔵編『マンダラ宇宙論』（法蔵館） 立川武蔵編『曼荼羅と輪廻』（佼成出版社） 森雅秀『マンダラの密教儀礼』（春秋社） など
2	学生に対する評価 数回の課題レポート、学期末のレポートにより評価
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）曼荼羅とは何か？を説明できる。 （良）曼荼羅の象徴性と、曼荼羅の儀礼について、密教経典を参照しながら説明できる。 （優）種々の密教経典を参照しながら、インドにおける曼荼羅の思想的展開を説明できる。
川崎一洋	その他 なし

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：心理学の基本的な知識を習得する。 テーマ：フロイトに始まる心理学の系譜に沿って、自己心理学や発達心理学を中心に心理学を理解する。
心理科学Ⅰ（別）	授業の概要 この授業では、心理学全般について紹介する。フロイト由来の自己心理学や発達心理学を中心に、人間の心の成長を考える。人間存在の実相を概観しながら、心のしくみとその成長のプロセスを理解する。
学期	1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。 2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の多様性とその関連性について。フロイトの思想とその人生について。 3. フロイトの心的構造論について。自我、エス、超自我など基本的な用語の理解。 4. フロイトの考えた意識・無意識の理論、リビドー、タナトスという概念について。 5. 心的外傷理論、エディプスコンプレックスなど、フロイト由来の様々な概念について。 6. ユング心理学の紹介。ユングの生い立ち。コンプレックスの捉え方など。 7. ユング心理学の獨創性について。アニマ・アニムス。ペルソナなどについて。 8. エリクソンのライフサイクル論について（その1）エリクソンの人生と研究について。乳児期、幼児期初期、児童期。 9. エリクソンのライフサイクル論について（その2）、青年期、前成人期、アイデンティティの考察。 10. エリクソンのライフサイクル論について（その3）、成年期、老年期。超高齢期。 11. ビアジェの子どもの発達理論の紹介。発生的認識論、シエマという捉え方について。 12. ビアジェの発達段階について。 13. コールバーグの道徳性心理学の紹介。自尊感情、正義、倫理観の発達。 14. ノディングスの「ケアリング」論、「善い」と「正しい」の関連性。 15. 試験。 16. 試験の返却と解説。
前期	テキスト 特に指定しない。授業の中で適宜、プリントを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 小此木啓吾著『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書 放送大学テキスト『精神分析とユング心理学』『心理学概論』 他は授業中に紹介する。
1:2	学生に対する評価 授業中の小レポートを学期末試験の10%として加算する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）フロイトの心的構造の図の見方を理解している。心理学における無意識の働きを理解している。 （良）ユング心理学の元型・エリクソンのアイデンティティについて説明できる。 （優）フロイト、ユング・エリクソンの流れを説明できる。心の防衛機能を説明できる。
戸來知子	その他 毎回、出席をとる。配布した資料や参考文献を必ず読むこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：心理学とは、どのような学問かを理解し、その基本的な知識を習得する。カウンセリングの理論の基礎知識を学ぶ。 テーマ：フロイト由来の心理学から派生した様々な心理学の理論を学ぶ。臨床心理学やカウンセリングの分野を中心に学ぶ。
心理科学Ⅱ（別）	授業の概要 前期の「心理学Ⅰ」に続く授業内容である。自己心理学の系譜にそって、臨床心理学やカウンセリングの理論を学習する。また、人間の心の概念の他、性格や人格についても学習する。
学期	授業計画 1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。 2. 様々な心理学の紹介。現在の臨床心理学の成り立ちについて。 3. 人間の心についての理解。フロイトやユングの心の概念。 4. マスローの自己実現の理論の紹介。（その1） 5. ロジャースのカウンセリングの理論（その1） ・フロイト由来のカウンセリングとの相違点。 6. ロジャースのカウンセリング理論（その2） ・クライエント中心療法について。 7. ロジャースのカウンセリング理論（その3） ・カウンセリングの技法。専門用語について 8. 認知行動療法など、様々な心理療法を紹介する。 9. アドラー心理学の基礎理論の紹介。（その1） ・アドラーの考える劣等感について。 10. アドラー心理学の基礎理論の紹介。（その2） ・アドラーの考える「治る」ということについて。 11. オールポートの人格心理学について。 12. パーソナリティの障害について。 13. 境界性人格障害について。 （ダルトチャイルド・アルコール依存症・DVを含めての解説。） 14. エリスの論理療法の紹介。 15. 試験。 16. 試験の返却と解説。
後期	テキスト 特に指定しない。授業の中で適宜、プリントを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 放送大学テキスト 『臨床心理学特論』（改訂新版） 『心理学カウンセリング序論』（改訂新版）
1:2	学生に対する評価 授業中の小レポートを学期末試験の10%として加算する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）ロジャースのカウンセリングの特徴を言える。 （良）カウンセリングの専門用語を説明できる。アドラー心理学の特徴を言える。 （優）パーソナリティの障害を理解し、境界性人格障害の説明ができる。
戸來知子	その他 毎回、出席をとる。理解を深めるために、授業中に配布する資料を必ず読むこと。

科目名	社会学Ⅰ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会学の基礎を学ぶことを通して、大学教育で必要とされる考え方を習得する。また公務員試験に対応する基本的な力を養成する。 テーマ：社会学の基礎（Ⅰ） 授業の概要 授業計画 1. 社会学とは 2. 社会集団（1） 3. 社会集団（2） 4. 家族（1） 5. 家族（2） 6. 労働 7. 階級・階層 8. 社会組織 9. 逸脱行動（1） 10. 逸脱行動（2） 11. 社会変動（1） 12. 社会変動（2） 13. 都市（1） 14. 都市（2） 15. 定期試験 16. 社会学の見方 テキスト プリントを配布する。 参考書・参考資料等 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま文庫 竹内洋『社会学の名著30』ちくま新書 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 全10巻+別巻1』世界思想社 その他授業中に紹介する。 学生に対する評価 定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%） ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）社会学の基本用語を説明できる。 （良）社会学の理論を自分の言葉で説明できる。 （優）現実の現象を社会学の理論を使いながら説明できる。 その他 ・公務員や就職試験に対応することを目指すので、真面目に受講することが必要である。 ・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起きているのかを確認しておくこと。
学期	前期
単位数	2
担当者	森本一彦

科目名	社会学Ⅱ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会学の基礎を学ぶことを通して、大学教育で必要とされる考え方を習得する。また公務員試験に対応する基本的な力を養成する。 テーマ：社会学の基礎（Ⅱ） 授業の概要 授業計画 1. 社会心理（1） 2. 社会心理（2） 3. 文化（1） 4. 文化（2） 5. マスメディア（1） 6. マスメディア（2） 7. 古典理論（1） 8. 古典理論（2） 9. 中期理論（1） 10. 中期理論（2） 11. 現代理論（1） 12. 現代理論（2） 13. 基礎概念 14. 社会調査 15. 定期試験 16. 社会学の考え方 テキスト プリントを配布する。 参考書・参考資料等 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま文庫 竹内洋『社会学の名著30』ちくま新書 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 全10巻+別巻1』世界思想社 その他授業中に紹介する。 学生に対する評価 定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%） ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）社会学の基本用語を説明できる。 （良）社会学の理論を自分の言葉で説明できる。 （優）現実の現象を社会学の理論を使いながら説明できる。 その他 ・公務員や就職試験に対応することを目指すので、真面目に受講することが必要である。 ・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起きているのかを確認しておくこと。
学期	後期
単位数	2
担当者	森本一彦

科目名	国文法Ⅰ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：古文を正しく解釈できるように、古典（文語）文法の正しい知識を得ること。 テーマ：用言の活用 授業の概要 文語文法（古典文法）の知識を習得する。前期はおもに用言、つまり述語になる動詞・形容詞・形容動詞の活用とその種類を中心にそれぞれの品詞の特質を考える。 授業計画 1. 古典文法は何のために学ぶのか 2. 文語文法と口語文法のちがいが 3. 文節とはなにか 4. 動詞とはどのような品詞か 自動詞と他動詞 5. 動詞の活用（1）四段活用 6. 動詞の活用（2）上一段活用と上二段活用 7. 動詞の活用（3）下一段活用と下二段活用 8. 動詞の活用（4）変格活用 ナ変とラ変 9. 動詞の活用（5）変格活用 サ変とカ変 10. 形容詞とはどのような品詞か 11. 形容詞のク活用とシク活用 12. 形容動詞とはどのような品詞か 13. ナリ活用とタリ活用 14. 用言の総合問題 15. まとめ 16. 確認テスト テキスト 教員が作成した教材を配布する。 参考書・参考資料等 （1）高校で使用した「古典文法」の本（どこの出版社のものでも可） （2）古語辞書（電子辞書でも可） 学生に対する評価 （1）定期試験（50%） （2）2回の小テスト（50%） ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）動詞の活用の種類についての基礎的知識 （良）上記に加えて形容詞についての基礎的知識 （優）上記二つに加えて、形容動詞についての基礎的知識 その他 受講者についてはとくに限定しないが、国語の教育免許状を取得しようとする学生は必ず受講してください。
学期	前期
単位数	2
担当者	下西忠

科目名	国文法Ⅱ 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：助動詞の正しい知識と敬語の基礎、とりわけ敬意の対象を理解すること。 テーマ：文語の助動詞と敬語法 授業の概要 古典（漢文もふくめて）を正しく解釈するためには、古典文法の正しい知識は必須条件である。 とくに助動詞の知識は大切である。接続・活用形などの正しい理解に注意しながら、丁寧に講義をすすめていく。途中で理解度を確かめる意味で小テストを3回、また敬語の基礎も1回の小テストを実施する。 授業計画 1. 助動詞とはどのようなものか 2. 受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」「らる」、打消「ず」、打消推量の助動詞「じ」 3. 使役・尊敬の助動詞「す」「さす」「しむ」、願望の助動詞「まほし」 4. 推量の助動詞（1）「む」「けむ」「らむ」 5. 推量の助動詞（2）「らし」「めり」、反実仮想「まし」 6. 推量の助動詞（3）「べし」 7. 完了の助動詞（1）「つ」「ぬ」 8. 完了の助動詞（2）「たり」「り」 9. 過去の助動詞「き」「けり」、願望の助動詞「たし」 10. 伝聞・推定の助動詞「なり」 11. 断定の助動詞「なり」「たり」、比況の助動詞「ごとし」 12. 敬語の基礎 尊敬語・謙譲語・丁寧語とはどのようなものか 13. 敬意の主体と対象 14. 「給ふ」「奉る」「聞こゆ」の識別 15. 敬語の課題 16. 確認テスト テキスト 教員が作成した教材を配布する。 参考書・参考資料等 （1）高校で使用した「古典文法」の本（どこの出版社のものでも可） （2）古語辞書（電子辞書でも可） 学生に対する評価 （1）4回の小テスト（80%） （2）定期試験（20%） ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）推量の助動詞の基礎的知識 （良）上記に加えて、時制にかかわる助動詞の基礎的知識 （優）上記二つに加えて敬語の基礎的知識 その他 受講生についてはとくに限定しないが、国語の教育免許状を取得しようとする学生は必ず受講してください。
学期	後期
単位数	2
担当者	下西忠

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：『発心集』の構造を理解する。また、仏教と文学の関わりについても理解する。 テーマ：仏教説話の魅力
日本文学Ⅰ	授業の概要 『発心集』巻5と巻6を読む。毎回いくつかの説話をとりあげ、その魅力について考えてみる。その際、それぞれの説話の背景にも触れる。
前期	授業計画 1. ガイダンスー講義の進め方、『発心集』序文を読むー 2. 巻5を読む① 1 「唐房法橋、発心の事」 2 「伊家並びに姿、頓死往生の事」 3. 巻5を読む② 3 「母、女を如み、手の指舐に成る事」 4 「亡表現身、夫の家に帰る来たる事」 4. 巻5を読む③ 5 「不動持者、牛に生る事」 6 「少納言公経、先世の願に依つて河内の寺を作る事」 7 「少納言統理、道世の事」 5. 巻5を読む④ 8 「中納言顯基、出家・籠居の事」 9 「成信・重家、同時に出家する事」 6. 巻5を読む⑤ 10 「花園左府、八幡に詣で往生を祈る事」 11 「日上人、法成寺供養に参り、堅固道心の事」 7. 巻5を読む⑥ 12 「乞児、物語の事」 13 「貧男、差関を好む事」 8. 巻5を読む⑦ 14 「勤操、榮好を憐れむ事」 15 「正算僧都の母、子の為に志深き事」 9. 巻6を読む① 1 「証空、師の命に替る事」 2 「后宮の半者、一乗寺僧正の入滅を悲しむ事」 10. 巻6を読む② 3 「堀川院藏人所の衆、主上を慕ひ奉り、入海の事」 4 「母子三人の賢者、衆罪を遁るる事」 11. 巻6を読む③ 5 「西行が女子、出家の事」 12. 巻6を読む④ 6 「侍従大納言幼少の時、駿者の改請を止むる事」 7 「永秀法師数寄の事」 8 「時光・茂光数寄天竺に及ぶ事」 13. 巻6を読む⑤ 9 「宝日上人、和歌を詠じて行とす事 并蓮如、讃州崇徳院の御所に参る事」 14. 巻6を読む⑥ 10 「室の泊の遊君、鄭曲を吟じて上人に結縁する事」 11 「乞食の尼、単衣を得て寺に参加する事」 12 「佛邦院の侍良、武蔵の野に住む事」 15. 巻6を読む⑦ 13 「上東門院の女房、深山に住む事 穢土を厭ひ、浄土を欣ぶ事」 16. まとめ
学期	テキスト 教員が用意する。
2	参考書・参考資料等 上川通夫『平安京と中世仏教』（吉川弘文館）
担当者	学生に対する評価 毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）
浜畑圭吾	ループリック（目標に準拠した評価） （可）『発心集』巻5、6の内容を理解している。 （良）『発心集』巻5、6のテーマ、仏教と文学の関わりについて理解している。 （優）『発心集』巻5、6について、他文献を参考にして、その特徴を説明できる。
	その他 私語厳禁。わからないことがあればリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を望む

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：児童文学の魅力を知る。この講義をきっかけにして、様々な近現代文学を読んでみたい。 テーマ：児童文学の魅力
日本文学Ⅱ	授業の概要 大正7年(1921)7月1日に鈴木三重吉によって創刊された雑誌『赤い鳥』は、昭和11年(1936)に廃刊となるまで、多くの作品を世に送り出してきた。芥川龍之介、有島武郎、北原白秋など、多くの作家が寄稿したことで知られている。講義では、いくつかの作品を取り上げ、児童文学の魅力について考える。
後期	授業計画 1. ガイダンス 2. 児童文学概説 3. 児童文学を読む① 4. 児童文学を読む② 5. 児童文学を読む③ 6. 児童文学を読む④ 7. 児童文学を読む⑤ 8. 児童文学を読む⑥ 9. 児童文学を読む⑦ 10. 児童文学を読む⑧ 11. 児童文学を読む⑨ 12. 児童文学を読む⑩ 13. 児童文学を読む⑪ 14. 児童文学を読む⑫ 15. 児童文学を読む⑬ 16. まとめ
学期	テキスト 教員が用意する。
2	参考書・参考資料等 数研出版『クリアカラー国語便覧』
担当者	学生に対する評価 毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）
浜畑圭吾	ループリック（目標に準拠した評価） （可）作品のテーマを理解している。 （良）作品の魅力について、他文献を参考にしながら、述べるができる。 （優）作品の魅力について、自分の考えを述べるができる。
	その他 私語厳禁。わからないことがあればリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を望む

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。 テーマ：言語としての日本語
国語学Ⅰ	授業の概要 テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。
前期	授業計画 1. 言語と人間 二重分節性、言語の機能（1） 2. 言語と人間 二重分節性、言語の機能（2） 3. 日本語の音声・音韻 音声と音韻、単音の分類、母音（1） 4. 日本語の音声・音韻 音声と音韻、単音の分類、母音（2） 5. 日本語の音声・音韻 音声器官、子音の基本事項（1） 6. 日本語の音声・音韻 音声器官、子音の基本事項（2） 7. 日本語の音声・音韻 清濁、拗音（1） 8. 日本語の音声・音韻 清濁、拗音（2） 9. 日本語の音声・音韻 拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1） 10. 日本語の音声・音韻 拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（2） 11. 日本語の文字表記 日本語の表記の特色、漢字の将来（1） 12. 日本語の文字表記 日本語の表記の特色、漢字の将来（2） 13. 日本語の文字表記 漢字の構造と用法(六書)、音と訓、国字・国訓（1） 14. 日本語の文字表記 漢字の構造と用法(六書)、音と訓、国字・国訓（2） 15. 日本語の文字表記 平仮名・片仮名、ローマ字 16. 試験
学期	テキスト 藤田保幸『緑の日本語』和泉書店、2010年 書店で購入
2	参考書・参考資料等 ジョージ・ユール『現代言語学 20章ー言葉の科学ー』（大修館書店） 小泉保『教養のための言語学コース』（大修館書店） 他は授業中に紹介。
担当者	学生に対する評価 都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。
上田恭寿	ループリック（目標に準拠した評価） （可）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。 （良）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。 （優）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
	その他 授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。 テーマ：言語としての日本語
国語学Ⅱ	授業の概要 テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。
後期	授業計画 1. 日本語の語彙 語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1） 2. 日本語の語彙 語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2） 3. 日本語の語彙 語種（和語・漢語・外来語）（1） 4. 日本語の語彙 語種（和語・漢語・外来語）（2） 5. 日本語の語彙 語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1） 6. 日本語の語彙 語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2） 7. 日本語の文法 学校文法とその限界、文法と言語生活（1） 8. 日本語の文法 学校文法とその限界、文法と言語生活（2） 9. 日本語の文法 現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1） 10. 日本語の文法 現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2） 11. 日本語の方言 方言とは、東西差、方言区画、方言圏論（1） 12. 日本語の方言 方言とは、東西差、方言区画、方言圏論（2） 13. 日本語の位置 世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1） 14. 日本語の位置 世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2） 15. まとめ 16. 試験
学期	テキスト 藤田保幸、『緑の日本語教本』、和泉書店、2010年 書店で購入
2	参考書・参考資料等 ジョージ・ユール、『現代言語学 20章ー言葉の科学ー』（大修館書店） 小泉保、『教養のための言語学コース』（大修館書店） 他は授業中に紹介。
担当者	学生に対する評価 都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。
上田恭寿	ループリック（目標に準拠した評価） （可）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。 （良）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。 （優）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
	その他 授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名 現代の人権と福祉 (別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解すること、及び批判的思考ができること。 テーマ：現代社会における人権
	授業の概要 授業はパワーポイントを利用して講義形式とします。 現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきています。本講義は、憲法上の権利、特に新しい人権と、権利の現代的展開に焦点を当てながら、法的な側面から現代社会を理解しようとする試みです。 講義形式での授業ですが、授業の中で議論を試みます。
	授業計画 社会において現代の人権に関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、参加する学生諸君の関心にもなるべく、応えていこうと思いますので、適宜変更の可能性がります。 1. イントロダクション(人権概念) 2. 国際的人権保障(紛争と人権) 3. 国際的人権保障(国際的な人権保障の枠組み) ① 4. 国際的人権保障(国際的な人権保障の枠組み) ② 5. 憲法総論(幸福追求権・自己決定権) 6. 医療における自己決定権(治療選択の権利・死ぬ権利) 7. 新たな医療技術とそれを用いる権利(子どもを産む権利) ① 8. 新たな医療技術とそれを用いる権利(子どもを産む権利) ② 9. 臓器移植と臓器の売買? 10. クローン技術規制法 11. 人の選別と優生思想(選択的堕胎と受精卵診断) ① 12. 人の選別と優生思想(選択的堕胎と受精卵診断) ② 13. 公害問題と環境権(日本の環境保護法制) 14. 地球温暖化問題と京都議定書(国際社会の取り組み) 15. 中間評価 16. まとめ
	テキスト 特に指定しない。
	参考書・参考資料等 竹下賢・沼口智朗・角田猛之・竹村和也【入門法学】(第四版)2014年
	学生に対する評価 定期試験もしくは最終レポートにより(80%) 授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加により(20%) 授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではありません。 授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合があります。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) 期末筆記試験の形式やレポート課題により若干異なりますが、 (可) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合 (良) 内容を概ね理解したと思われる場合 (優) それなりの努力が読み取れる場合
	その他 受講者は(あるいは大学生はそもそも)新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。
	学期 後期
	単位数 2
担当者 竹村和也	

科目名 日本国憲法 (別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：憲法の基本的な枠組みと幾つかの権利に関して基本的な理解を得ること、及び批判的な思考ができること。 テーマ：憲法と人権
	授業の概要 憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法です。本講義では憲法の中の人権規定とそれに関連するほかの法分野について、特に現代社会において問題となっている権利に焦点を当てます。特に、裁判員制度の開始を迎え刑事裁判に社会の関心があつまり、また、この数年冤罪問題がクローズアップされるなか、捜査・裁判における人権である身体的自由権に焦点を当てて予定。さらに、財産権との関係で経済的自由権、家族関係における法との関係で平等権も取り扱う予定です。
	授業計画 社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、進度により適宜変更の可能性はありますから、あくまで目安として、 1. イントロダクション(法の体系と憲法の特質及び財産権) 2. 財産権と私法①(物権) 3. 財産権と私法②(契約) 4. 財産権と私法③(消費者契約) 5. 財産権と私法④(不法行為) 6. 平等権と家族①(家族法) 7. 平等権と家族②(家族法) 8. 刑事司法の過程と身体的自由権(捜査と憲法上の被疑者の権利) ① 9. 刑事司法の過程と身体的自由権(捜査と憲法上の被疑者の権利) ② 10. 刑事司法の過程と身体的自由権(裁判と憲法上の被告人の権利) ① 11. 刑事司法の過程と身体的自由権(裁判と憲法上の被告人の権利) ② 12. 国民の司法参加①(陪審制度・参審制度) 13. 国民の司法参加②(裁判員制度) 14. 犯罪被害者の権利と立憲主義 15. 中間評価 16. まとめ
	テキスト 特に指定しない。
	参考書・参考資料等 竹下賢・沼口智朗・角田猛之・竹村和也【入門法学】(第四版)2014年
	学生に対する評価 定期試験により(80%) 授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により(20%) (昨年度は、学期途中で前半の試験、学期末に後半の試験と、2度の試験を実施しています。) 授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではありません。 授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合があります。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) 期末筆記試験の形式により若干異なりますが、 (可) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案 (良) 内容を概ね理解したと思われる答案 (優) それなりの努力が読み取れる答案
	その他 受講者は(あるいは大学生はそもそも)新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。
	学期 後期
	単位数 2
担当者 竹村和也	

科目名 情報処理 (別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：各自がホームページを公開して、管理、更新を行うこと。 【前期】プレゼンテーションの計画能力とパワーポイントのスキルの習得。 【後期】コンピュータの情報編集と動画編集についてのスキルを養成する。 テーマ：コンピュータの情報編集と動画編集についてのスキルを養成する。
	授業の概要 【前期】画像情報編集。(I:DrawソフトII:Retouchソフト) (画像処理編集の過程でドロー系、タッチ系のアプリケーションなどのスキルを習得する。) 【後期】電子メディアの活用及び、編集・発信。動画編集及び、撮影のスキル 個人動画チャンネルソーシャルメディアの活用、及び映像編集についての一連のスキルを習得する。
	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. ソーシャルメディアの活用 3. 画像編集基礎Ⅰ 4. 画像編集基礎Ⅱ 5. 画像編集基礎Ⅲ 6. 画像編集基礎Ⅳ 7. 完成プレゼンテーション(1) 8. 完成プレゼンテーション(2) 9. 画像編集基礎Ⅴ 10. 画像編集基礎Ⅵ 11. 画像編集基礎Ⅶ 12. 画像編集基礎Ⅷ 13. 画像編集応用 14. 画像編集応用 15. 完成プレゼンテーション(3) 16. 完成プレゼンテーション(4)
	【後期】 1. ガイダンス 2. Google Apps(予定) 3. Google Apps活用(予定) 4. 映像編集基礎(ビデオ) 5. 映像編集基礎(動画サイト) 6. 映像編集(編集ソフト基礎) 7. 映像編集(編集ソフト基礎) 8. 映像編集応用(コンテ提出、撮影) 9. 映像編集応用(コンテ提出、撮影) 10. 映像編集(撮影) 11. 映像編集 12. 映像編集 13. 映像編集 14. 映像編集及び、動画サイトアップ 15. 完成プレゼンテーション(2) 16. 完成プレゼンテーション(3)
	テキスト 必要に応じ授業中にプリントを配布する。
	参考書・参考資料等 USB及び、クラウドの利用方法についてはガイダンスにて説明
	学生に対する評価 通年評価：画像処理Ⅰプレゼン 25点、画像処理Ⅱプレゼン 25点、動画プレゼン 50点 ※詳細はガイダンスで説明する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 作品の完成度、及びプレゼン能力 (良) 制作に対する取り組み方、作品の完成度、及びプレゼン能力 (優) 作品の総合的なデレクション能力とデザイン力、及びプレゼン能力
	その他 その他使用予定アプリケーション 【前期】：画像処理ソフト(Draw系・Retouch系ソフト) 【後期】：EDIUS Premiere 画像編集ソフト
	学期 通年
単位数 2	
担当者 野口博司	

科目名 梵字悉曇 (別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】梵字悉曇の基礎知識の修得 【後期】梵字悉曇(応用編)・真言、陀羅尼の書法実践 テーマ：【前期】梵字悉曇の基礎知識 【後期】梵字悉曇の応用
	授業の概要 【前期】摩多・体文・切継など、書法を実践しながら基礎知識を修得する。 【後期】前期で修得した文字を基本に、常用經典にある真言・陀羅尼を学び、その書法を実践する
	授業計画 【前期】 1. 年間授業計画の説明 2. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(1) 3. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(2) 4. 5. 6. 7. 8. 9. 文字の修得(1)~(12) 10. (字母五十一字(摩多・体文)) 11. (悉曇十八章(切継について))
	【後期】 1. 2. 3. 4. 5. 文字の修得(13)~(22) 6. 7. 8. 9. 10. 11. 常用經典所載の真言・陀羅尼 12. 塔婆の書様 13. 葬儀に用いる梵字 14. 15. 以上の書法を実践する。 16.
	テキスト 児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房「小堀南岳堂」で購入 中川善教編『真言宗常用諸経要聚』「中本名玉堂」で購入
	参考書・参考資料等 静慈園著『梵字悉曇』朱鷺書房
	学生に対する評価 作品提出100%「毎回の授業時に提出する作品」
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 習った「梵字」を書くことが出来る (良) 文字の上達はまだまだであるが「梵字」の基礎は理解している。 (優) 真言・陀羅尼についても「文字」との関連を理解し、きれいな梵字を書くことが出来る。
	その他 筆と半紙を準備(授業の最初に説明します)
	学期 通年
単位数 2	
担当者 齋藤天譽	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務めます。 テーマ：真言宗の常用經典の読誦法（お経の読み方）の習得（他）
常用經典（別）	授業の概要 『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の修行・法要などに用いる諸經典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務めます。 『真言宗常用諸経要聚』等の經典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、經典が描く仏教・密教的世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこないます。 また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』、『金胎礼懺』、『三陀羅尼』、『梵讚』に務めます。
学期	授業計画 【前期】 『真言宗常用諸経要聚』に収録される經典や偈文の読誦法を順次教授し、稽古します。また、読誦する經典や偈文の内容（意味）基礎的知識を簡単に概説します。 僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『金胎礼懺』『三陀羅尼』『諸真言』読誦に務めます。 1 『開経偈』 2 『懺悔文』 3 『回向文』 4 『礼文』 5 『般若心経』、6 『立義分』 7 『観音経』 8 『梵網経』 9 『理趣経』 10 『三陀羅尼』、11 『九条錦杖』 12 『舍利礼』 13 『梵讚』 14、15、16. 読誦の稽古 【後期】 『理趣経』を中心に、前期に学んだ諸經典の読誦の稽古を、引き続き行います。 僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『金胎礼懺』『三陀羅尼』『諸真言』読誦に務めます。
通年	テキスト 中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用います。 その他、資料を配布する。
単位数	参考書・参考資料等 必要に応じて講義の中で指示します。
2	学生に対する評価 授業態度（30%）、実技（70%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）『理趣経』が滞りなく読める。 （良）可は当然として、三陀羅尼が読め、梵讚が暗唱できる。 （優）常用經典が全てスラスラ読める。
宮田 永明	その他 講義には、念珠と輪袈裟、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参してください。經典の不所持は、出席を認めません。また、伽藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」に入壇することを原則として義務付けます。 ICレコーダー等の用意があれば使用を許可します。なるべく持って来ることを勧めます。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：基本の法要となる「理趣三昧法会」に使われる声明を研鑽する テーマ：僧侶として必ず必要な声明を基礎から学ぼう
声明（別）	授業の概要 日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。
学期	授業計画 【前期】 1. 声明の楽譜、音階、唱え方（旋律型）の解説及びオリエンテーション 2. 三礼・四智梵語 3. 四智梵語・大日讀 4. 大日讀・不動讀 5. 四智漢語 6. 心略漢語 7. 心略漢語 8. 仏讀 9. 仏讀 10. 散華（初段目） 11. 散華（初段目） 12. 散華（二段目） 【後期】 1. 散華（二段目） 2. 散華（二段目） 3. 散華（三段目） 4. 散華（三段目） 5. 対揚 6. 対揚 7. 対揚 8. 対揚 9. 唱礼（金剛界） 10. 唱礼 11. 唱礼 12. 唱礼 13. 唱礼 14. 理趣経（中曲） 15. 理趣経（中曲） 16. 理趣経（中曲）
通年	テキスト 宮野有智編『南山進流声明類聚・附伽陀』を事前に購入しておくこと。 （注：必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事）
単位数	参考書・参考資料等 小山公淳著『真言宗法儀解説』
2	学生に対する評価 授業中の発表・習熟度（30%） 期末試験（70%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）南山進流声明の習熟度は不十分だが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。 （良）南山進流声明を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。 （優）南山進流声明の理論・唱え方を理解し、一人でも唱える事が出来る。
辻 秀道	その他 筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：僧侶としての基礎を学ぶ テーマ：道場莊嚴の基礎
法（別）	授業の概要 真言宗の僧侶として必要な道場莊嚴の基礎知識と道場莊嚴の意識を解説する。
学期	授業計画 【前期】 1. 講義内容の説明 2. 道場莊嚴の解説について（1） 3. 道場莊嚴の解説について（2） 4. 道場莊嚴の解説について（3） 5. 道場莊嚴の解説について（4） 6. 道場莊嚴の解説について（5） 7. 道場莊嚴の解説について（6） 8. 道場莊嚴の解説について（7） 9. 道場莊嚴の解説について（8） 10. 道場莊嚴の解説について（9） 11. 道場莊嚴の解説について（10） 12. 道場莊嚴の解説について（11） 13. 六種供養について（1） 14. 六種供養について（1） 15. 前期試験 【後期】 1. 講義内容の説明 2. 壇莊嚴の解説（1） 3. 壇莊嚴の解説（2） 4. 壇莊嚴の解説（3） 5. 壇莊嚴の解説（4） 6. 壇莊嚴の解説（5） 7. 壇莊嚴の解説（6） 8. 壇莊嚴の解説（7） 9. 壇莊嚴の解説（8） 10. 壇莊嚴の解説（9） 11. 壇莊嚴の解説（10） 12. 諸法会の解説（1） 13. 諸法会の解説（2） 14. 諸法会の解説（3） 15. 後期試験
通年	テキスト 大山公淳著『真言宗法儀解説』 他コピーを配布
単位数	参考書・参考資料等
2	学生に対する評価 定期試験（80%） 授業参加の積極性（20%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）道場莊嚴・壇莊嚴に関する基本用語の理解が出来ている。 （良）道場莊嚴・壇莊嚴の様式について理解が出来ている。 （優）道場莊嚴・壇莊嚴の基礎を理解した上で、説明することが出来る。
内海 周浩	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：布教原理の学習と実習を通して伝道的重要性を認識し、真言法話を語れるようにする。 テーマ：空海の名言を語る
布（別）	授業の概要 本講義は布教初心者の科目である。布教の知識と方法を学び、空海名言に基づいた法話づくりの授業である。
学期	授業計画 【前期】 1. 布教の原理 2. 世界宗教者サミット 3. 宗教と科学 4. 釈尊成道と初転法輪 5. 説法の方法 6. 弘法大師胎動 7. 弘法大師入唐の準備 8. 入唐の風景 9. 師資相承 10. 密教伝来 11. 真言密教の宣布 12. 即身成仏 13. 供養と信仰 14. 遍路・巡礼 15. 原稿の書き方① 16. 原稿の書き方② 【後期】 1. 威儀・態度・発声（実習） 2. 駐在布教の見学 3. 提出レポートの感想 4. 話題のまとめ方（実習） 5. 三分法話（実習） 6. 布教の心得 7. 発表布教① 8. 発表布教② 9. 発表布教③ 10. 発表布教④ 11. 発表布教⑤と再発表 12. 発表布教⑥と再発表 13. 発表の所感 14. 般若心経の法話① 15. 般若心経の法話② 16. 講義の総括
通年	テキスト 近藤堯寛著『空海名言辞典』高野山出版社／配布プリント ※ 生協で購入可
単位数	参考書・参考資料等 寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社／近藤堯寛著『弘法大師を歩く』宝島社／川喜田二郎著『続・発想法』中公新書 210
2	学生に対する評価 授業中の質疑応答 20%・文書レポート 30%・発表布教 50%で評価する。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）密教の基本用語が読み書きできて、意味も理解できる。 （良）空海名言一句について、資料を見ながら説明できる。 （優）空海名言の法話を創作して、それを人々に語って共感させることが出来る。
近藤 堯寛	この授業の特徴 現代布教とは、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を利用することである。集めた資料は、推敲とヒラメキと直感によって個性的な内容になる。書き方と話し方にはコツがある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：ネパール仏教の特質を探りながら、東洋人の宗教観を理解する テーマ：ネパールの仏教を学ぶ
	授業の概要 ネパールのカトマンドゥ盆地では、仏教とヒンドゥー教が混在して信仰され、独特の宗教形態を形成しています。この講義では、その実態を紹介しながら、チベット仏教などと比較しつつ、ネパールの仏教（ネパール仏教）の特質を明らかにします。
世界 の 宗 教 Ⅰ （ 別 ）	授業計画 1. オリエンテーション 2. ネパールはどんな国か？ 3. インドの仏教史概観 4. チベットの仏教史概観 5. ネパールの仏教史① 6. ネパールの仏教史② 7. カトマンドゥ盆地の仏教寺院① 8. カトマンドゥ盆地の仏教寺院② 9. ネパールの仏教聖地 10. ネパール仏教の儀礼と行事① 11. ネパール仏教の儀礼と行事② 12. ネパール仏教の尊格と美術① 13. ネパール仏教の尊格と美術② 14. ヒンドゥーの神々 15. ネパールに残る仏教文献資料 16. まとめ
	学期
単位数	2
担当者	川崎一洋

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：さまざまな宗教の死生観を理解する。 テーマ：死後の世界を考える
	授業の概要 この講義で教科書に使用する『大師はいまだおわしますか』は、高野山・蓮華定院の住職である添田隆昭師が、弘法大師の入定信仰を出发点として、「死後の世界」について調査、思索された記録です。講義では、「大師はいまだおわしますか」を読みながら、西洋人、東洋人、そして日本人の死生観を考えます。仏教者（仏教の僧侶）がお葬式に臨む姿勢、葬儀の意義についても考えます。
世界 の 宗 教 Ⅱ （ 別 ）	授業計画 1. オリエンテーション 2. 弘法大師の靈験譚 3. 弘法大師の入定信仰 4. 西洋人の臨死体験 5. 東洋人の臨死体験 6. 閻魔王（ヤマ）について 7. 輪廻転生説のゆくえ 8. 中国で成立した『盂蘭盆経』 9. 日本人の「あの世」① 10. 日本人の「あの世」② 11. 日本人の「あの世」③ 12. 日本人にとって仏教とは① 13. 日本人にとって仏教とは② 14. 葬式仏教を考える 15. 死者の行方 16. まとめ
	学期
単位数	2
担当者	川崎一洋

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：インド後期密教のさまざまな聖典の概要を把握し、その成立の基盤にあるインドの思想を学ぶ。 テーマ：インド後期密教入門
	授業の概要 弘法大師によって日本に伝えられた『大日経』と『金剛頂経』を中心とする中期密教は、その後（8世紀以降）のインドにおいて後期密教へと展開し、タントラと呼ばれる数多くの聖典が誕生しました。この講義では、代表的な後期密教の聖典を紹介しながら、それらの聖典の成立の過程や基盤となった思想を考察します。
宗 教 の 歴 史 Ⅰ （ 別 ）	授業計画 1. オリエンテーション（インド密教史概観） 2. 『大日経』と『真実撰経』① 3. 『大日経』と『真実撰経』② 4. 『金剛頂経』の展開（瑜伽タントラに属する聖典） 5. 『秘密集会タントラ』① 6. 『秘密集会タントラ』② 7. その他の父タントラ系聖典 8. 『理趣経』と『サマーヨーガ・タントラ』 9. 『ヘーヴァージュラ・タントラ』 10. 『チャクラサンヴァラ』系のタントラ① 11. 『チャクラサンヴァラ』系のタントラ 12. 『チャトウシュビータ・タントラ』 13. 『カーラチャクラ・タントラ』 14. その他の母タントラ系聖典 15. インド後期密教に属するその他の文献 16. 現在の後期密教研究の状況と今後の展望
	学期
単位数	2
担当者	川崎一洋

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。 テーマ：四国遍路の歴史を学ぶ
	授業の概要 平成26年、四国では四国霊場開創1200年の行事が催されました。この講義では、弘法大師によって開かれたといわれる霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を、江戸時代に出版された各種の霊場記などを読みながら学び、宗教と巡礼の関係を探ります。
宗 教 の 歴 史 Ⅱ （ 別 ）	授業計画 1. オリエンテーション 2. 四国遍路とは 3. 四国遍路の起源 4. 補陀落信仰と四国霊場 5. 熊野信仰と四国霊場 6. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程① 7. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程② 8. 四国霊場の確立①（澄禅の記録） 9. 四国霊場の確立②（真念の業績1） 10. 四国霊場の確立③（真念の業績2） 11. 四国に残る弘法大師の霊跡 12. 四国遍路の習俗 13. 近世から近代にかけての四国遍路 14. 現代の四国遍路 15. 四国霊場巡拝の作法 16. まとめ
	学期
単位数	2
担当者	川崎一洋

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：合理的思考法を学ぶ テーマ：政治哲学入門																
哲学B(別)	授業の概要 現代の政治哲学の基礎的理論と、いくつかの基本テーマを学びます。 授業計画 1. 政治哲学とは？ 2. 功利主義とは？① 3. 功利主義とは？② 4. 自由主義とは？① 5. 自由主義とは？② 6. 義務論とは？ 7. コミュニタリアニズムとは？① 8. コミュニタリアニズムとは？② 9. 平等主義の問題点 10. 多文化主義の問題点 11. 宗教的多元主義の問題点 12. 民族主義の問題点 13. 市民社会とは？① 14. 市民社会とは？② 15. プラグマティズムとは？ 16. テストと総括																
学期	後期																
後期	テキスト 小川仁志『はじめての政治哲学』（講談社現代新書） 参考書・参考資料等																
単位数	2																
2	学生に対する評価 期末テスト65点、小テスト20点、授業参加への積極性15点 ルーブリック（目標に準拠した評価）																
担当者	山脇雅夫																
山脇雅夫	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>論理的思考力</th> <th>問題発見力</th> <th>作文力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>講義の内容を理解できる</td> <td>それぞれのテーマを理解できる</td> <td>自分の考えを正確な日本語で表現できる</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる</td> <td>自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる</td> <td>自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他 提供された資料を読み解くことで、論理的思考力を高めてください。</p>		論理的思考力	問題発見力	作文力	可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	自分の考えを正確な日本語で表現できる	良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる	優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる
	論理的思考力	問題発見力	作文力														
可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	自分の考えを正確な日本語で表現できる														
良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる														
優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる														

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：宗教の働きを学ぶことを通して、宗教学の視座と研究方法を理解すること。 テーマ：宗教学研究法を学ぶ
宗教学方法論	授業の概要 指定テキストのトピックスにもとづいて講義する。 授業計画 1. オリエンテーション 宗教学とは？ 2. 生と死の意味 3. 生命の循環と継承 4. 救いと癒しの現場 5. 政治と宗教の相克 6. 現代社会における宗教 7. 宗教における実践 8. 宗教における言葉 9. 宗教における世界像 10. 宗教における本質と規範 11. 諸宗教の見取り図 12. 心理、社会、思想と宗教 13. 新しい問いと宗教学 14. 宗教学の実践 15. 筆記試験 16. まとめ
学期	後期
後期	テキスト 高瀬進 編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）1,900円（税別） （小堀書店で購入すること） 参考書・参考資料等 ① 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫） ② 岡田典夫 他編『はじめて学ぶ宗教』（有斐閣）など
単位数	2
2	学生に対する評価 期末の筆記試験（70%）、小試験（30%）によって評価する。 ルーブリック（目標に準拠した評価）
担当者	藤田光寛
藤田光寛	<p>(可) 密教学の基本用語を覚えている (良) 密教学の基本用語について、テキストを見ながら説明できる (優) 密教学の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ながら自分の言葉で説明できる</p> <p>その他 毎回、指定テキストや参考文献に目を通して授業に出席することが基本的な条件です。授業ではノートを取り、整理をしておいて下さい。毎回休まずに出席すること。 担当者のメールアドレスは fujita@koyasan-u.ac.jp ですから、質問等があれば遠慮無くこれを利用して下さい。</p>

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本文学（上代・中古文学）の生成基盤と特徴を理解する。 テーマ：日本文学の魅力
日本文学概論I	授業の概要 日本文学とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその生成基盤を理解し、その特徴について考えてみる。前期は上代・中古文学を取り上げる。 授業計画 1. ガイダンス 2. 文学のかたち 3. 文学と思想 4. 文学と四季 5. 文学と地理 6. 万葉集の世界 7. 王朝和歌の世界 8. 紀貫之 9. 清少納言と紫式部 10. 源氏物語の誕生 11. 「あはれ」と「をかし」 12. 日記文学の誕生 13. 後宮記録と女房たち 14. 平安後期物語の世界 15. 歴史物語と説話集 16. まとめ、院政期の文学
学期	前期
前期	テキスト 教員が用意する。 参考書・参考資料等 教研出版『クリアカラー国語便覧』 学燈社『古典文学基礎知識必携』
単位数	2
2	学生に対する評価 毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%） ルーブリック（目標に準拠した評価）
担当者	浜畑圭吾
浜畑圭吾	<p>(可) 上代・中古文学の作品を覚えている。 (良) 他文献を参考にしながら上代・中古文学の特徴を述べるができる。 (優) 上代・中古文学の生成基盤と特徴を理解している。</p> <p>その他 私語厳禁。わからならないことがあればリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を望む。</p>

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本文学（中世・近世文学）の生成基盤と特徴を理解する。 テーマ：日本文学の魅力
日本文学概論II	授業の概要 日本文学とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその生成基盤を理解し、その特徴について考えてみる。後期は中世・近世文学を取り上げる。 授業計画 1. 中世の歌壇と歌論 2. 中世和歌の世界 3. 「幽玄」 4. 史論と歴史物語 5. 軍記物語と説話 6. 「無常」 7. 兼好と頼阿 8. 文学の継承 9. 中世の芸能 10. キリシタン文学と宣教師 11. 町人の文学 12. 江戸の詩歌 13. 松尾芭蕉 14. 近世の芸能 15. 国学 16. まとめ
学期	後期
後期	テキスト 教員が用意する。 参考書・参考資料等 教研出版『クリアカラー国語便覧』 学燈社『古典文学基礎知識必携』
単位数	2
2	学生に対する評価 毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%） ルーブリック（目標に準拠した評価）
担当者	浜畑圭吾
浜畑圭吾	<p>(可) 中世・近世文学の作品を覚えている。 (良) 他文献を参考にしながら中世・近世文学の特徴を述べるができる。 (優) 中世・近世文学の生成基盤と特徴を理解している。</p> <p>その他 私語厳禁。わからならないことがあればリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を望む。</p>

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本の文学のなかで、古代から中世までの文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特徴を理解する。 テーマ：日本文学史概観
日本文学史概説Ⅰ	授業の概要 上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世（鎌倉時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識だけではなく、可能な限り作品の一部でもとりあげてその作品を鑑賞したい。作品の成立背景なども注意しながらその作品の文芸的価値を考えてみたい。
学期	授業計画 1. この講義の目的・目標について 2. 上代文学の概観、古事記と日本書紀 3. 万葉集について 4. 中古文学の概観、勅撰集について、古今集について 5. 竹取物語、伊勢物語など 6. 枕草子、源氏物語前後 7. 日記文学について 土佐日記・蜻蛉日記など 8. 説話文学 日本霊異記・今昔物語集など 9. 歴史物語、中世文学の概観 10. 新古今集とそれ以後の和歌集 11. 連歌の発生とその展開 12. 日記・紀行・能狂言について 13. 随筆文学について 14. 軍記物語について 平家物語など 15. 説話文学について 16. 確認テスト
前期	
単位数	テキスト 教員が作成した教材を配布する。
2	参考書・参考資料等 1、日本文学全史（至文堂） 2、日本古典文学史（双文社）
担当者	学生に対する評価 定期試験（50%）と小テスト（50%）
下西忠	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）日本文学史の基礎的な知識だけのもの （良）その時代の背景にまで言及しているもの （優）日本文学史全体の中での位置づけにまで言及しているもの その他 とくに受講生の制限はしないが、国語の教育免許状を取得したい者は必ず受講すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本の文学のなかで、中世後期文学（室町時代）ら明治時代まで文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特徴を理解する。 テーマ：
日本文学史概説Ⅱ	授業の概要 中世後期文学（室町時代）と近代文学（明治時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識だけではなく、可能な限り作品の一部でもとりあげてその作品を鑑賞したい。作品の成立背景なども注意しながらその作品の文芸的価値を考えてみたい。
学期	授業計画 1. 勅撰集の終焉とその時代の和歌 2. 御伽草子の世界 3. 近世（江戸時代）文学の概観、江戸時代の和歌 4. 貞門俳諧と談林俳諧 5. 芭蕉の世界 6. 与謝蕪村・小林一茶、狂歌と川柳 7. 仮名草子、浮世草子など 8. 近松門左衛門の世界 9. 読本（上田秋成の世界）、洒落本・人情本など 10. 明治初期の文学と文学改良運動 11. 浪漫古典主義文学 12. 自然主義文学の位置づけと前期自然主義文学 13. 後期自然主義文学 14. 与謝野晶子の世界 15. 総括 文学史の意義 16. 確認テスト
後期	
単位数	テキスト 教員が作成した教材を配布する。
2	参考書・参考資料等 1、日本文学入門（小峰書店） 2、日本文学全史（至文堂）
担当者	学生に対する評価 定期試験（50%）と小テスト（50%）
下西忠	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）日本文学史の基礎的な知識だけのもの （良）その時代の背景にまで言及しているもの （優）日本文学史全体の中での位置づけにまで言及しているもの その他 前期と同様、受講生についての制限はないが、国語の教育免許状を取得したい者は必ず受講すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢文で書かれた散文作品を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。 テーマ：漢文の散文を読む。
漢文学概説Ⅰ	授業の概要 志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊齋志異』を読む。和訳を参照しながら、漢文を訓読する訓練をする。受講生には、板書による発表を求める。小テストを毎回行う。
学期	授業計画 1. ガイダンス 2. 「汾州狐」(1) 3. 「汾州狐」(2) 4. 「汾州狐」(3) 5. 「汾州狐」(4) 6. 「汾州狐」(5) 7. 「汾州狐」(6) 8. 「汾州狐」(7) 9. 「巧娘」(1) 10. 「巧娘」(2) 11. 「巧娘」(3) 12. 「巧娘」(4) 13. 「巧娘」(5) 14. 「巧娘」(6) 15. 期末試験 16. 答案返却
前期	
単位数	テキスト コピーを配布する。
2	参考書・参考資料等 携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。
担当者	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。合格点に満たない者には、小テスト1回を1点として加算する。
南昌宏	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）訓点を的確に扱うことができる。 （良）国語教員として必要最低限の漢文法・国文法を修得している。 （優）漢文法・国文法の用法を、文章に即して説明できる。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：漢詩を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。 テーマ：『唐詩選』を読む。
漢文学概説Ⅱ	授業の概要 『唐詩選』の作品から、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。受講生には、板書による発表を求める。小テストを毎回行う。
学期	授業計画 1. ガイダンス 2. 「酌酒与裴迪」(1) 3. 「酌酒与裴迪」(2) 4. 「酌酒与裴迪」(3) 5. 「酌酒与裴迪」(4) 6. 「酌酒与裴迪」(5) 7. 「酌酒与裴迪」(6) 8. 「酌酒与裴迪」(7) 9. 「酬郭給事」(1) 10. 「酬郭給事」(2) 11. 「酬郭給事」(3) 12. 「酬郭給事」(4) 13. 「酬郭給事」(5) 14. 「酬郭給事」(6) 15. 期末試験 16. 答案返却
後期	
単位数	テキスト コピーを配布する。
2	参考書・参考資料等 携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。
担当者	学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。期末試験の素点を評点とする。合格点に満たない者には、小テスト1回を1点として加算する。
南昌宏	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）漢詩の基本事項を修得している。 （良）国語教員として必要最低限の漢文法・国文法を修得している。 （優）漢文法・国文法の用法を、文章に即して説明できる。 その他

科目名	国語学講義 I 国語学講義 I 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：物語（小説）テキストの生成の機構について理解を深める テーマ：物語（小説）構造と物語（小説）テキスト
学期	前期
単位数	2
担当者	上田 恭寿
授業の概要	この授業では、これまでの物語構造の研究を踏まえながら、物語構造を設定し、それに基づいて語りとしての小説テキスト生成の機構を導き出し、また、その機構に沿った物語（小説）テキストの分類を行う。また、その機構に沿っていくつかの作品を分析し、そこから日本語小説テキストに見られる特性について確認する。
授業計画	1. 物語テキストと日常会話テキスト 2. これまでの物語構造モデル研究（1） 3. これまでの物語構造モデル研究（2） 4. 志賀直哉、『僧の神様』／芥川龍之介、『羅生門』の構造分析 5. 村上春樹、『風の歌を聴け』／ドラマ『古畑任三郎』の構造分析 6. 『和泉式部日記』における物語性 7. 語りとしての物語（小説）テキストの生成機構 8. 語りとしての物語（小説）テキストの分類 9. 藤沢周平作品テキストに見られる日本語小説の特性 10. 北原亞以子作品テキストに見られる日本語小説の特性 11. 宮部みゆき作品テキストに見られる日本語小説の特性 12. 接続構文とは 13. 日本語小説における時制 14. 日本語小説における自由間接テキスト 15. まとめ 16. 試験
テキスト	なし。都度、プリントを配布する
参考書・参考資料等	ジェラルド・プリンス『物語辞典』（松柏社）、石原千秋他『読むための理論』（世織書房）、山岡實『語り』の記号論』（松柏社） 他は授業中に紹介。
学生に対する評価	期中でのテキスト分析課題（40%）、および、期末のレポート（60%）による。 ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）従来の語り論の理解。 （良）小説における世界構造と小説テキストの産出機構の理解。 （優）小説テキストの産出機構を用いた小説作品のテキスト分析。
その他	授業の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学講義 II 国語学講義 II 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本語小説テキストの特質、およびその背景としての日本文化について理解を深める テーマ：日本語小説の特質
学期	後期
単位数	2
担当者	上田 恭寿
授業の概要	日本語の物語（小説）テキストに見られる特質と日本語や他の文学ジャンル、建築や絵画等、日本文化に見られる特質との共通点を抽出、そこから日本語の小説、日本文化の特質について考察する。
授業計画	1. 日本語の物語（小説）テキストの特質 2. 日本語の特質 3. 日本文学の他のジャンルに見られる特質 4. 日本の建築、庭園、都市づくりに見られる特質 5. 日本の身体表現、音楽、絵画に見られる文化的特質 6. 「共通感覚」（中村雄二郎） 7. 俳句における共通感覚の表現 8. 藤沢周平作品における共通感覚の表現 9. 「共通感覚」と「純粹体験」（西田幾多郎） 10. 「こと」と「もの」と「ことば」 11. 日本文化における自己中心的志向性と時間、空間認識様式 12. 声の文化と文字の文化 13. 日本文学、日本文化における声の文化の特質 14. 明治期以後の日本語の言文一致体 15. まとめ 16. 試験
テキスト	なし。都度、プリントを配布。
参考書・参考資料等	藤井貞和『物語論講義』（東京大学出版会）、加藤周一『日本文化における時間と空間』（岩波出版）、木村敏『時間と自己』（中公新書）、オング『声の文化と文字の文化』（藤原書店） 他は授業中に紹介。
学生に対する評価	期中でのテキスト制作の課題（40%）、および、期末のレポート（60%）による。 ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）日本文化の特質に関する議論の理解と批判。 （良）自身で選んだ分野に見られる日本の文化の現象を通しての日本文化の特質の考察。 （優）日本文化の特質の背景について考察。
その他	授業の進行の都合により一部の変更があり得る。

科目名	日本文化特殊講義 A 日本文化特殊講義 A 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本古代・中世の古文書に関する専門的な知識を身につける。 テーマ：「日本古代・中世の古文書と、その様式・機能・形態」
学期	前期
単位数	2
担当者	坂口 太郎
授業の概要	この授業では、日本古代・中世の公式様文書・公家様文書・武家様文書などの古文書の様式と機能について学ぶ。また、古文書の形態面についての理解を深めることも目指す。
授業計画	1. 古文書と日本史研究 2. 公式様文書 3. 符・移 4. 牒・解 5. 公家様文書 6. 宣旨・官宣旨 7. 摂関家政所下文・院庁下文 8. 書札の公文書化 9. 論旨・院宣 10. 武家様文書 11. 将軍家政所下文 12. 関東御教書 13. 関東下知状 14. 御判御教書 15. 期末試験 16. 試験解説 ※内容は進度によって変わる場合がある。
テキスト	教材プリントを配布する。
参考書・参考資料等	日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年） 佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年） 青木和夫ほか編『文献史料を読む－古代から近代－』（朝日新聞社、2000年） 見玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年）
学生に対する評価	授業中の参加態度（予習および発言、30%） 期末試験（70%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）古文書の様式を理解できる。 （良）古文書の様式・機能について理解し、系統的に説明できる。 （優）古文書の様式・機能を通して、日本の古代・中世史の特質を論ずることができ。
その他	私語厳禁。毎回、宿題としてプリントを配付するので、必ず答案を作成して次回の授業に持参すること。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読むこと。 本講義は、日本史および古文書に対する基礎的知識を習得していることを前提として進めるので、受講希望者は注意すること（できれば、総合科目の「古文書入門」を履修していることが望ましい）。単に「くずし字」の読解能力を高めただけの人は、本講義ではなく「古文書入門」の方を履修されたい。

科目名	日本文化特殊講義 B 日本文化特殊講義 B 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：慈円の歴史思想・宗教思想に触れるとともに、中世前期の政治史を学ぶ。 テーマ：慈円『愚管抄』とその周辺
学期	後期
単位数	2
担当者	坂口 太郎
授業の概要	天台座主慈円の『愚管抄』は、日本中世を代表する歴史書である。この講義では、『愚管抄』巻第5や『慈円願文』の読解を通して、院政期から鎌倉期に至る政治史について考察するとともに、慈円の歴史思想・宗教思想について探求したい。
授業計画	1. 慈円の生涯① 2. 慈円の生涯② 3. 『愚管抄』の構成 4. 『愚管抄』の歴史思想 5. 『愚管抄』巻第5を読む① 6. 『愚管抄』巻第5を読む② 7. 『愚管抄』巻第5を読む③ 8. 『愚管抄』巻第5を読む④ 9. 『愚管抄』巻第5を読む⑤ 10. 『慈円願文』を読む① 11. 『慈円願文』を読む② 12. 『慈円願文』を読む③ 13. 『慈円願文』を読む④ 14. 『慈円願文』を読む⑤ 15. 期末試験 16. 試験解説 ※内容は進度によって変わる場合がある。
テキスト	プリントを配布する
参考書・参考資料等	黒板勝美校訂『新訂増補国史大系 19 古今著聞集・愚管抄』（吉川弘文館、1930年） 丸山二郎校註『愚管抄』（岩波文庫、1949年） 岡見正雄・赤松俊秀校注『日本古典文学大系 86 愚管抄』（岩波書店、1967年） 中島悦次『愚管抄全注』（有精堂出版、1969年） 大隅和雄『愚管抄を読む』（講談社学術文庫、1999年） 大隅和雄『愚管抄 全現代語訳』（講談社学術文庫、2012年） 多賀宗準『慈円』（吉川弘文館、1959年）
学生に対する評価	授業時に課す発表（50%）、期末試験（50%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）『愚管抄』や慈円に関する基礎的事項を理解している。 （良）『愚管抄』の原文について、講義の内容を踏まえて正確に読解できる。 （優）『愚管抄』を正確に読解するとともに、自分の調査成果を踏まえて新たな解釈を示すことができる。
その他	私語厳禁。本講義は、中世史料の読解能力を養うことや文献学的研究法の習熟に重点を置くので、おのずと講義的な要素が強くなる。受講生には発表を求めると、毎回予習が必要である。 熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標： 1. 『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容(漢文)の読解力を向上させる。 2. 東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国文化へ目を向ける第一歩とすることを到達目標とする。 3. 説文の研究において、漢字の正・俗を理解する。 テーマ：許慎『説文解字』とその背景及びその講読と篆書体の基礎的知識の修得。
	授業の概要
	〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした最古の文字学の専門書である。特に許慎『説文解字』とその背景、またその部首の基礎的知識の修得。
	授業計画
	1. オリエンテーション・漢字の変遷と『説文解字』前世 2. 『説文解字』の背景とその関連書① 3. 『説文解字』の背景とその関連書② 4. 部首と重文について 5. 『六書』について① 6. 『六書』について② 7. 説文部首 第一巻の部目を読む① 8. 説文部首 第一巻の部目を読む② 9. 説文部首 第一巻の部目を読む③ 10. 説文部首 第一巻の部目を読む④ 11. 説文部首 第一巻の部目を読む⑤ 12. 説文部首 第二巻の部目を読む① 13. 説文部首 第二巻の部目を読む② 14. 説文部首 第二巻の部目を読む③ 15. 予備 16. テスト
	学期
	前期
	単位数
	2
担当者	野田 悟

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：漢籍を読むために必要な語彙・知識を修得し、専門的な論文や研究書などを読むための基礎力を養うことを到達目標とする。 テーマ：『新釈漢文大系』を読む。
	授業の概要
	『新釈漢文大系』の中から、受講生個々の興味に応じてテキストを決める。授業に際しては、語釈の解説を中心とした資料を作成し、受講生相互の質疑に応じてもらう。
	授業計画
	1. ガイダンス 2. 『論語』の読解 3. 『大学』の読解 4. 『中庸』の読解 5. 『小学』の読解 6. 『孟子』の読解 7. 『荀子』の読解 8. 『老子』の読解 9. 『莊子』の読解 10. 『古文真宝』の読解 11. 『韓非子』の読解 12. 『伝習録』の読解 13. 『文選』の読解 14. 『文章軌範』の読解 15. 期末試験 16. 答案返却
	学期
	後期
	単位数
	2
担当者	南 昌宏

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：『建礼門院右京大夫集』を読み、その魅力について考える。また、和歌の基礎知識なども身につける。 テーマ：『建礼門院右京大夫集』の魅力(その1)
	授業の概要
	建礼門院に仕えた右京大夫がその晩年編纂した『建礼門院右京大夫集』を読む。詞書と和歌の繋がり、和歌の配列などから、同集の魅力について考える。
	授業計画
	1. ガイダンス 2. 建礼門院右京大夫を取り巻く環境 3. 『建礼門院右京大夫集』読解① 4. 『建礼門院右京大夫集』読解② 5. 『建礼門院右京大夫集』読解③ 6. 『建礼門院右京大夫集』読解④ 7. 『建礼門院右京大夫集』読解⑤ 8. 『建礼門院右京大夫集』読解⑥ 9. 『建礼門院右京大夫集』読解⑦ 10. 『建礼門院右京大夫集』読解⑧ 11. 『建礼門院右京大夫集』読解⑨ 12. 『建礼門院右京大夫集』読解⑩ 13. 『建礼門院右京大夫集』読解⑪ 14. 『建礼門院右京大夫集』読解⑫ 15. 『建礼門院右京大夫集』読解⑬ 16. まとめ
	学期
	前期
	単位数
	2
担当者	浜畑 圭吾

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：『建礼門院右京大夫集』を読み、その魅力について考える。また、和歌の基礎知識なども身につける。 テーマ：『建礼門院右京大夫集』の魅力(その2)
	授業の概要
	建礼門院に仕えた右京大夫がその晩年編纂した『建礼門院右京大夫集』を読む。詞書と和歌の繋がり、和歌の配列などから、同集の魅力について考える。前期開講「日本文化講読演習Ⅰ」の続きだが、後期から受講しても問題はない。
	授業計画
	1. ガイダンス 2. 建礼門院右京大夫を取り巻く環境 3. 『建礼門院右京大夫集』読解① 4. 『建礼門院右京大夫集』読解② 5. 『建礼門院右京大夫集』読解③ 6. 『建礼門院右京大夫集』読解④ 7. 『建礼門院右京大夫集』読解⑤ 8. 『建礼門院右京大夫集』読解⑥ 9. 『建礼門院右京大夫集』読解⑦ 10. 『建礼門院右京大夫集』読解⑧ 11. 『建礼門院右京大夫集』読解⑨ 12. 『建礼門院右京大夫集』読解⑩ 13. 『建礼門院右京大夫集』読解⑪ 14. 『建礼門院右京大夫集』読解⑫ 15. 『建礼門院右京大夫集』読解⑬ 16. まとめ
	学期
	後期
	単位数
	2
担当者	浜畑 圭吾

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中国学の諸分野（哲学・歴史・文学など）を研究するために必要な基礎的知識・語彙・方法を修得することを到達目標とする。 テーマ：『漢文大系』を読む。
中国 文化 講義 読 演 習	授業の概要 『漢文大系』の中から、受講生個々の興味に応じてテキストを決める。授業に際しては、文献の書き下し文、語彙の解説、文章の解釈などを作成し、受講生相互の質疑に応じてもらう。
学期	授業計画 1. ガイダンス 2. 『大学説』の読解 3. 『中庸説』の読解 4. 『論語集説』の読解 5. 『孟子定本』の読解 6. 『箋解古文真宝』の読解 7. 『増註三体詩』の読解 8. 『箋解唐詩選』の読解 9. 『唐宋八家文』の読解 10. 『十八史略』の読解 11. 『小学箋註』の読解 12. 『御註孝経』の読解 13. 『弟子職』の読解 14. 『史記列伝』の読解 15. 期末試験 16. 答案返却
前期	テキスト 『漢文大系』のコピーを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 『大漢和辞典』『アジア歴史事典』『中国学芸大事典』など。
2	学生に対する評価 発表50%。発表回数最多の者を50点とし、回数に応じて比例配点する。期末試験50%。授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は2分の1欠席と計算。授業中に発言しなかった者は欠席とする。
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 漢文を書き下し文にできる。 (良) 専門用語を除けば、漢文を読解できる。 (優) 専門用語を十分に理解し、漢文を読解できる。
南 昌 宏	その他 授業計画に挙げた文献は一例である。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
漢字 I	到達目標： テーマ：【前期】今年が書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。 【後期】上記2書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。
学期	授業の概要 臨書中心の実技の授業である。臨書作品を授業中に添削し、参考指導者が目の前で書いてみせる。授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達しない。自宅でも筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。
通年	授業計画 【前期】 1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。 2. 法帖の臨書 3. 法帖の臨書 4. 法帖の臨書 5. 法帖の臨書 6. 法帖の臨書 7. 法帖の臨書 8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 9. 法帖の臨書 10. 法帖の臨書 11. 法帖の臨書 12. 法帖の臨書 13. 法帖の臨書 14. 法帖の臨書 15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 16. 法帖の臨書
単位数	2
担当者	木本滋久

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：【前期】1 回生……唐代楷書：顔真卿『多寶塔碑』、褚遂良『雁塔聖教序』。2 回生以上……北魏系楷書『張猛龍碑』、『張玄墓誌』。 【後期】1 回生……(篆書) 秦代『嶧山刻石』、清代鄧石如『白氏草堂記』、吳讓之『崔子玉璽石銘』。2 回生以上……(隸書) 漢代『禮器碑』(必須)、『曹全碑』、『張遷碑』、『石門頌』(三点の中から2つを選ぶ)
漢字 I	授業の概要 本講座は基本的に古典臨書を根拠とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。方法としては、国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根拠にした指導を行う。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 顔真卿『多寶塔碑』(2回生以上は『禮器碑』)① 3. (2回生以上は『張猛龍碑』)① 4. 顔真卿『多寶塔碑』()② 5. 顔真卿『多寶塔碑』()③ 6. 褚遂良『雁塔聖教序』()④ 7. 褚遂良『雁塔聖教序』()⑤ 8. 前半半紙臨書作品の提出。 9. 二つの法帖を比較臨書① 10. 二つの法帖を比較臨書② 11. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書する。 12. 写経創作① 13. 写経創作② 14. 写経創作③ 15. 予備 16. 写経作品提出
通年	テキスト ・二玄社法書選(二玄社)： 1 回生……40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56 『鄧石如集』、58 『吳讓之集』 2 回生以上……23 『張猛龍碑』、26 『藝誌録集・下』/3 『石門頌』、5 『禮器碑』、8 『曹全碑』、9 『張遷碑』 ※写経用紙セット LA26-59
単位数	2
担当者	野田悟

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：【前期】今年が書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。 【後期】上記2書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。
漢字 II	授業の概要 臨書中心の実技の授業である。臨書作品を授業中に添削し、参考指導者が目の前で書いてみせる。授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達しない。自宅でも筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。
学期	授業計画 【前期】 1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。 2. 法帖の臨書 3. 法帖の臨書 4. 法帖の臨書 5. 法帖の臨書 6. 法帖の臨書 7. 法帖の臨書 8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 9. 法帖の臨書 10. 法帖の臨書 11. 法帖の臨書 12. 法帖の臨書 13. 法帖の臨書 14. 法帖の臨書 15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。 16. 法帖の臨書
通年	テキスト 各自が二玄社あるいは別の法帖から1冊選ぶ。
単位数	2
担当者	木本滋久

科目名 かなⅠ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】「かな」成立の歴史を知り、実習を通して書きのかな創作ができることを目標とする。 【後期】前期で身につけた技術により高め「ちらし書き」の創作、及び古筆の臨書技術を身につけることを目標とする。 テーマ：【前期】細筆の使い方・墨の使い方をも身につけ、かなの美を知る。 【後期】「ちらし書き」による白と黒の美の世界を表現する。古筆にそれを見る。
	授業の概要 【前期】日本独自の文字「かな」の成立の歴史を知り、その字母を覚える。かなの技術を身につける。 【後期】かな独自の構成法を知り、それを身につけ、その美が「余白」「流麗」「簡素」であることを知るために粘り強く実習する。
	授業計画 【前期】 1. 講義目標・概要の解説 ・書歴のアンケート 2. かな成立の歴史を解説 ・かなの基本線の練習 3. 「いろは歌」による単体練習・字母説明 4. いろは歌 清書 5. 連綿の解説・実習 字母テスト 6. 変体かな解説 7. 行書きをプリントNo1～5より3枚選び実習(1) 8. 行書きをプリントNo1～5より3枚選び実習(2) 9. 行書きをプリントNo1～5より3枚選び実習(3) 10. 行書きをプリントNo1～5より3枚選び実習(4) 11. 行書きをプリントNo1～5より3枚選び実習(5) 12. 行書きをプリントNo1～5より3枚選び実習(清書(6)) 13. 行書き創作(1) 14. 行書き創作(2) 15. 行書き創作(3) 16. 行書き創作(4)
	テキスト プリント
	参考書・参考資料等 古筆全般・かな字典 後期は古筆(三色紙・高野切第2種)
	学生に対する評価 提出作品の枚数がそろった上で、用筆・墨の変化・字形・構成、それぞれ20%。 識字・精神性(線質)各10% 1/3以上欠席者は評価しません。
学期	【後期】 1. 「ちらし書き」の解説・実習 2～6。 「ちらし書き」の様々な形を手本とともに練習 7～11。 「ちらし書き」作品の創作 12～16。 古筆・高野切の解説 高野切第1種・第3種の原寸大臨書 実技テストあり
通年	
単位数	
2	
担当者	
山本圭子	

科目名 かなⅡ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】かなⅠの基本の上に個性豊かな古筆の原寸大臨書をし、それをもとに創作すること。 【後期】各自が選んだ古筆を拡大し、自己表現の技術を身につけること。 テーマ：【前期】三色紙の中から各自一つを選び臨書をくり返し、その特徴をとらえること。 【後期】古筆を基本とした自己表現の方法を見つける。
	授業の概要 【前期】かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象にかなの技術知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆を知り、各自、よりひかれるもの一つを選び練習する。臨書から創作へと進む。 【後期】決定した古筆を形式をかえて拡大臨書から創作へ、そしてより大きな料紙へと移っていき、これが自分独自の自己表現の形だと納得するまで練成する。
	授業計画 【前期】 1. 講義目標、概要の解説、書歴アンケート 2. 三色紙の解説、各自の古筆を決定する。 3. 選んだ古筆を原寸大臨書(1) 4. 選んだ古筆を原寸大臨書(2) 5. 選んだ古筆を原寸大臨書(3) 料紙解説 6. 選んだ古筆を原寸大臨書(4) 古筆名由来の解説 7. 選んだ古筆を原寸大臨書(5) レポート提出 8. 選んだ古筆を原寸大臨書(6) 9. 選んだ古筆を原寸大臨書(7) 10. 選んだ古筆を原寸大臨書 清書(8) 11. 古筆をもとに創作(1) 12. 古筆をもとに創作(2) 13. 古筆をもとに創作(3) 14. 古筆をもとに創作(4) 15. 古筆をもとに創作 清書(5) 16. 実技テスト
	テキスト 三色紙
	参考書・参考資料等 古筆全般
	学生に対する評価 1/3以上欠席者は評価しません。 臨書50%(形(連綿等)20%、構成20%、墨の変化構成10%) 創作50%。(独創性10%、構成・古筆の雰囲気各20%)
学期	【後期】 1. 大色紙に拡大臨書(1) 2. 大色紙に拡大臨書(2) 3. 大色紙に拡大臨書(3) 4. 大色紙に拡大臨書 清書(4) 5. 半襖紙に拡大臨書(1) 6. 半襖紙に拡大臨書(2) 7. 半襖紙に拡大臨書 清書(3) 8. 半襖紙に拡大臨書 清書(4) 9. 大色紙または半襖紙に創作(1) 10. 大色紙または半襖紙に創作(2) 11. 大色紙または半襖紙に創作(3) 12. 大色紙または半襖紙に創作 清書(4) 13. 実技テスト 14. 全襖紙または半切に拡大臨書(1) 15. 全襖紙または半切に拡大臨書(2) 16. 全襖紙または半切に拡大臨書 清書(3)
通年	
単位数	
2	
担当者	
山本圭子	

科目名 篆刻Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 1. 古代文字(小篆および摹印篆)の基本的認識。 2. 東洋文化における印章の重要性及び毛筆との関連性の理解。 3. 各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。 テーマ：篆刻の理論と実践
	授業の概要 ・篆刻の一番基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。 ・国内の他大学にはない中国伝統的方法を前提とした指導を行う。
	授業計画 1. オリエンテーション・印材・工具等の紹介 2. 古代印章の起源と歴代墨印の変遷 3. 毛筆にて篆書の練習① 4. 毛筆にて篆書の練習② 5. 毛筆にて篆書の練習③ 6. 双稿填墨・印稿の練習 7. 刀法と簡款の練習 8. 漢印① 9. 漢印② 10. 漢印③ 11. 秦印 12. 漢印または秦印による創作 13. 將軍印① 14. 將軍印② 15. 予備 16. これまでの摸刻をもとに創作・作品提出
	テキスト ・書道講座第6巻 篆刻(二玄社刊)*生協にて購入。
	参考書・参考資料等 ・「説文解字」(中華書局) ・「印学史」(西泠印社) ・「故宮博物院藏古璽印選」(文物出版社) ・「上海博物館藏印選」(上海書画出版社) ・袁牧政編「必携篆書印譜字典」(柏美術出版) ・「書の基本資料14・篆刻」(中教出版) ・「図解 篆刻入門」(木耳社) ・その他必要に応じてプリントを配布
	学生に対する評価 ・基本的に提出作品による評価。(素点) ・欠席各-3点、遅刻・早退-1点として計算する。 ・素点から欠席及び遅刻・早退の点数を引いて成績を出す。
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	
野田悟	

科目名 篆刻Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 1. 古代文字(小篆および摹印篆)の基本的認識。 2. 東洋文化における印章の重要性及び関連性の理解。 3. 各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。 テーマ：篆刻の理論と実践
	授業の概要 ・篆刻の一番基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。 ・国内の他大学にはない中国伝統的方法を前提とした指導を行う。
	授業計画 1. 前期の復習と双稿填墨・印稿の練習 2. 將軍印③ 3. 將軍印④ 4. 將軍印での創作 5. 流派印の出現とその変遷(理論) 6. 浙派印① 7. 浙派印② 8. 浙派印③ 9. 徽派印① 10. 徽派印② 11. 徽派印③ 12. 浙派印または徽派印による創作 13. 肖形印① 14. 肖形印② 15. 予備 16. これまでの摸刻をもとに創作・作品提出
	テキスト ・書道講座第6巻 篆刻(二玄社刊)*生協にて購入。
	参考書・参考資料等 ・「説文解字」(中華書局) ・「印学史」(西泠印社) ・「故宮博物院藏古璽印選」(文物出版社) ・「上海博物館藏印選」(上海書画出版社) ・袁牧政編「必携篆書印譜字典」(柏美術出版) ・「書の基本資料14・篆刻」(中教出版) ・「図解 篆刻入門」(木耳社) ・その他必要に応じてプリントを配布
	学生に対する評価 ・基本的に提出作品による評価。(素点) ・欠席各-3点、遅刻・早退-1点として計算する。 ・素点から欠席及び遅刻・早退の点数を引いて成績を出す。
学期	
後期	
単位数	
2	
担当者	
野田悟	

科目名 条幅制作A	授業の到達目標及びテーマ	
	到達目標：臨書でつちかっただけの上で、個性豊かでフレッシュな作品を創作する。	
	テーマ：【前期】中国や日本の古典の臨書を通して得た技術で、漢字、近代詩文などの条幅作品を制作する。 【後期】金剛峯寺・高野山大学書道師範取得や、卒業制作にふさわしい作品の制作をめざす。近代詩文などの条幅作品を制作する。	
	授業の概要	
	【前期】○半切に漢字4～14文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。(做書も可) ○半切(正方形)に漢詩、漢語を篆書体、隸書体、又は行書体で創作する。(做書も可) 【後期】○半切に漢字・仮名まじり文を創作する。課題は授業前に提示。 2尺×8尺(52cm×約228cm)の画仙紙に自分で詩や文章を選び創作する漢詩を選んだ人は、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくづし方を覚える。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。 提出後、全体で互評会を実施。	
	授業計画	
	【前期】	【後期】
	1. この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明	1～16
	2. 半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。	2尺×8尺(52cm×228cm)の紙面に、書体、題材も自由で受講生が個性と創作意欲にあふれた作品を制作。
	3. 提出後、全体で互評会を実施する。	・題材、書体は途中変更も可能であるから、試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上する。書き込むより他に道はないと思い、時間外でもしつかり取り組んで欲しい。 ・早く仕上がった人は、書体を変えたり、題材を変えたり(漢字仮名まじり文でも可)して小品を制作したらいい。 押印して提出後、互評会を実施する。
4. 篆書体、隸書体、行書体で課題を半切(正方形)で創作。 11. 又は漢字仮名まじり文の創作。 12. どれかひとつを選び実習する。 13. 14. 15. 16.		
学期	通年	
単位数	2	
担当者	木本滋久	

科目名 条幅制作B	授業の到達目標及びテーマ	
	到達目標：【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現する方法を知る。 【後期】数種の大きさの紙にその大きさにあった筆を用い、自分のうけた感動を表現する。	
	テーマ：【前期】机上作品と条幅作品の相違点を知る。 【後期】条幅作品に自分なりのかなの美を表現すると共に感動も加えていく。	
	授業の概要	
	【前期】古筆の拡大臨書から条幅作品として個性的な表現を加えていく。条幅に表現することは筆者の人間性の深さ・生命感情の躍動の強さを「かな」を用いて十分に表現することである。そのため大きく影響する用具用材についての知識も必要である。 【後期】現代性を表現するため、現代詩などを題材として制作する。また古歌・古詩等であっても現代に生きる作品としていくために何が必要かを追求していく。	
	授業計画	
	【前期】	【後期】
	1. 条幅「かな」の解説・用具・用材等の説明	1. 228×52cmの紙に創作(1)
	2. 既成作品を鑑賞し、全体像を知る。	2. 228×52cmの紙に創作(2)
	3. 高野切第3種を半切に拡大臨書(1)	3. 228×52cmの紙に創作(3)
4. 高野切第3種を半切に拡大臨書(2)	4. 228×52cmの紙に創作(4)	
5. 高野切第3種を半切に拡大臨書(3)	5. 228×52cmの紙に創作(5)	
6. 高野切第3種を半切に拡大臨書(4)	6. 228×52cmの紙に創作(互評会)(6)	
7. 高野切第3種を半切に拡大臨書(5)	7. 228×52cmの紙に創作(7)	
8. 高野切第3種を半切に拡大臨書(6)	8. 228×52cmの紙に創作(8)	
9. 高野切第3種を半切に拡大臨書(清書)(7)	9. 228×52cmの紙に創作(9)	
9. 創作する(草稿を作る)(1)	10. 228×52cmの紙に創作(10)	
10. 創作する(2)	11. 228×52cmの紙に創作(11)	
11. 創作する(3)	12. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(1)	
12. 創作する(4)	13. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(2)	
13. 創作する(互評会)(5)	14. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(3)	
14. 創作する(6)	15. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(4)	
15. 創作する(7)	16. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(清書)(5)	
16. 創作する(清書)(8)		
学期	通年	
単位数	2	
担当者	山本圭子	

科目名 書道史(中国)	授業の到達目標及びテーマ	
	到達目標：【前期】中国文化に興味を持ち、文字の起源から芸術としての書の確立までの歴史の流れを理解することを到達目標とする。 【後期】中国文化に興味を持ち、時代別書風の変化をはじめとする書道理論の形成、発展を理解することを目標とする。	
	テーマ：【前期】中国書道及び文化史基礎知識の養成。 【後期】さまざまな書体、書風の変遷及び金石学・印学等書道理論の芽生えと発展。	
	授業の概要	
	【前期】アジア文化の根幹は漢字であることを念頭に、BC2000年前の刻符を文字の起源とし、それがどういった経緯を経て発展していったかを中国の書道史を時代的に学びながら解明する。またそれが今日の我々の生活における影響を与えたかあわせて考えてみたい。ビデオ・資料も積極的に活用し、単なる知識として理解するだけでなく、視覚的又実用的にも書道史をとらえるように促したい。その他、日中の中国書道史のとらえ方の違いなども述べてみたい。 【後期】日本の奈良時代の書道史に大きな影響を与えた、唐代の書道概観を詳細に述べ、宋・明・清代への多彩な書風及び理論が発展していく様子を多く取り入れ解説する。また書は、文学、哲学そしてその他の芸術をはじめ諸々の文化と密接に関わるものであるため、可能な限りそうした周辺の文化的事柄とも絡めて眺めていくこととした。	
	授業計画	
	【前期】	【後期】
	1. オリエントーション	1. 中唐 中唐の書道
	2. 漢字の起源 漢字の創生 六義	2. 顔真卿の書 孫過庭「書譜」と張懷瓘「書断」
	3. 先秦 秦代書道概観 篆書の制定	3. 晚唐 晚唐の書道
4. 秦 秦の刻石 権量 詔版	4. 五代 五代の書道概観	
5. 互当 碑	5. 宋 宋の書道概観	
6. 漢 漢代書道概観 隸書の盛期	6. 北宋の四大家	
7. 古隸と八分	7. 金石学の芽生え 淳化閣帖と集帖	
7. 代表的漢碑と章草 紙の発明と発展 「説文解字」	8. 南宋の能書家	
8. 三国 三国時代書道概観	9. 元 元代の書道概観 趙孟頫と吾丘衍	
9. 六朝 六朝時代書道概観	10. 明 明代の書道概観	
10. 南朝の刻帖と能書家	11. 明代古典派	
11. 王羲之と王献之 六朝楷書	12. 明末清初のロマン派 長条幅のはじまり	
12. 北朝の書道概観と代表碑刻	13. 清 清代の書道概観	
13. 隋 隋代書道概観と代表的碑刻	14. 碑学の勃興	
14. 唐 初唐の書道概観		
15. 予備	15. 予備	
16. テスト	16. テスト	
学期	通年	
単位数	4	
担当者	野田悟	

科目名	授業の到達目標及びテーマ	
	到達目標：【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現する方法を知る。 【後期】数種の大きさの紙にその大きさにあった筆を用い、自分のうけた感動を表現する。	
	テーマ：【前期】机上作品と条幅作品の相違点を知る。 【後期】条幅作品に自分なりのかなの美を表現すると共に感動も加えていく。	
	授業の概要	
	【前期】古筆の拡大臨書から条幅作品として個性的な表現を加えていく。条幅に表現することは筆者の人間性の深さ・生命感情の躍動の強さを「かな」を用いて十分に表現することである。そのため大きく影響する用具用材についての知識も必要である。 【後期】現代性を表現するため、現代詩などを題材として制作する。また古歌・古詩等であっても現代に生きる作品としていくために何が必要かを追求していく。	
	授業計画	
	【前期】	【後期】
	1. 条幅「かな」の解説・用具・用材等の説明	1. 228×52cmの紙に創作(1)
	2. 既成作品を鑑賞し、全体像を知る。	2. 228×52cmの紙に創作(2)
	3. 高野切第3種を半切に拡大臨書(1)	3. 228×52cmの紙に創作(3)
4. 高野切第3種を半切に拡大臨書(2)	4. 228×52cmの紙に創作(4)	
5. 高野切第3種を半切に拡大臨書(3)	5. 228×52cmの紙に創作(5)	
6. 高野切第3種を半切に拡大臨書(4)	6. 228×52cmの紙に創作(互評会)(6)	
7. 高野切第3種を半切に拡大臨書(5)	7. 228×52cmの紙に創作(7)	
8. 高野切第3種を半切に拡大臨書(6)	8. 228×52cmの紙に創作(8)	
9. 高野切第3種を半切に拡大臨書(清書)(7)	9. 228×52cmの紙に創作(9)	
9. 創作する(草稿を作る)(1)	10. 228×52cmの紙に創作(10)	
10. 創作する(2)	11. 228×52cmの紙に創作(11)	
11. 創作する(3)	12. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(1)	
12. 創作する(4)	13. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(2)	
13. 創作する(互評会)(5)	14. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(3)	
14. 創作する(6)	15. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(4)	
15. 創作する(7)	16. 60×60cmの紙に漢字かなまじり文を創作する(清書)(5)	
16. 創作する(清書)(8)		
学期	通年	
単位数	2	
担当者	山本圭子	

科目名	社会福祉各論Ⅰ（障害者福祉） 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：障害者についての基本的理解や具体的状況について多角的に総合的に理解する。 テーマ：障害者福祉の制度と政策 障害者福祉の体系と実践 授業の概要 障害者に対する支援と障害者自立支援制度を学び、障害者のおかれている社会情勢を理解する。 障害者の生活実態や地域生活の体制を理解し障害者の置かれている立場を考えることとする。 障害者の見方とその背景について理解し、障害者の定義と概念を理解する。 授業計画 1. 障害者をとりまく状況と諸問題① 2. 障害者をとりまく状況と諸問題② 3. 障害者のための総合的対策① 4. 障害者のための総合的対策② 5. 障害者の特性・健康・家族・地域社会① 6. 障害者の特性・健康・家族・地域社会② 7. 障害者の法体系① 8. 障害者の法体系② 9. 障害者自立支援の体系① 10. 障害者自立支援の体系② 11. 施設サービスと在宅サービス① 12. 施設サービスと在宅サービス② 13. 保健・医療・福祉の連携① 14. 保健・医療・福祉の連携② 15. 障害者の相談援助活動の実際① 16. 障害者の相談援助活動の実際② テキスト 社会福祉士養成講座『障害者福祉論』中央法規出版 参考書・参考資料等 講義の中で必要に応じ指示する。 学生に対する評価 授業参加への積極性・レポート・筆記試験で評価する。 具体的には、4分の3以上の出席・レポートの提出・筆記試験の内容をすべて考慮し評価する。 ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) レポートの評価が60点以上のもの、筆記試験が60点以上のもの 障害者についての基本的知識を理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの、筆記試験が75点以上のもの 障害者についての基本的知識と具体的状況を理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの、筆記試験が90点以上のもの 障害者についての基本的知識や具体的状況とその活動を総合的に理解している その他 出席が少ない場合は不可とする。
学期	前期
単位数	2
担当者	山口幸照

科目名	社会福祉各論Ⅰ（地域福祉） 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：地域福祉の言葉の意味や考え方、概念規定について学習する。地域福祉は比較的新しい概念である。その内容について学習する。 テーマ：地域福祉の概念と展開方法 授業の概要 地域福祉は1990年以降本格的に実体化したものである。しかし、現代では社会福祉実践そのものを指す言葉として使われることが多い。ここでは実質上社会福祉と同義語となった地域福祉の概念と展開方法について学習する。 授業計画 1. 地域福祉のあゆみ 2. 地域福祉の概念 3. 地域福祉の内容 4. 地域福祉の背景 5. 地域福祉の歴史・地域福祉準備期 6. 地域福祉の歴史・体系期 7. 地域福祉の歴史・基盤形成期 8. 地域福祉の歴史・展開期 9. セツルメントの理解 10. コミュニティーケア 11. コミュニティープラン 12. 在宅福祉サービス 13. 福祉コード把握と地域社会 14. 福祉サービスの連携 15. 住民参加の方法 16. コミュニティー形成と住民 テキスト 社会福祉士養成講座『地域福祉論』中央法規出版 参考書・参考資料等 『社会福祉士のための基礎知識』Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版 学生に対する評価 授業参加への積極性・レポート・筆記試験で評価する。 ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) レポートの評価が60点以上のもの・筆記試験が60点以上のもの 地域福祉の基礎的概念を理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの・筆記試験が75点以上のもの 地域福祉の基礎的概念と基礎的内容を理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの・筆記試験が90点以上のもの 地域福祉の基礎的概念と基礎的内容、基本的枠組みを理解している。 その他 出席が少ない場合は不可とする。
学期	前期
単位数	2
担当者	山口幸照

科目名	社会福祉各論Ⅱ（別）（地域福祉） 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：地域福祉の目標として福祉コミュニティの形成がある。地域を基盤とした社会福祉をみんなでどのように作っていくのかについて考えたい。 テーマ：地域福祉の方法と実践課題 授業の概要 地域福祉実践を展開するには①福祉・保健・医療の整備②福祉・保健・医療の総合化③福祉増進・予防活動の促進④福祉環境の整備⑤住民参加活動の支援が必要となる。この5つを柱に地域福祉実践について学習する。 授業計画 1. 相談・情報提供サービスの総合化 2. ケアマネジメント 3. 老人保健福祉計画 4. 福祉増進・予防活動 5. 福祉環境づくり 6. 住民参加の福祉活動支援 7. ボランティア活動・福祉教育 8. NPOの福祉活動 9. 民生委員・児童委員 10. 社会福祉協議会 11. 社会福祉施設 12. 社会福祉法人 13. 公的財源 14. 共同募金 15. 民間財源 16. 地域組織化と福祉組織化 テキスト 社会福祉士養成講座『地域福祉論』中央法規出版 参考書・参考資料等 『社会福祉士のための基礎知識』Ⅰ～Ⅲ 中央法規出版 学生に対する評価 授業参加への積極性・レポート・筆記試験で評価する。 ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) レポートの評価が60点以上のもの・筆記試験が60点以上のもの ケアマネジメントと老人保健福祉計画を理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの・筆記試験が75点以上のもの ケアマネジメントと老人保健福祉計画を理解している。ボランティア活動・福祉教育・NPOを理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの・筆記試験が90点以上のもの ケアマネジメントと老人保健福祉計画を理解している。ボランティア活動・福祉教育・NPOを理解している。地域組織化と福祉組織化を理解している。 その他 出席が少ない場合は不可とする。
学期	後期
単位数	2
担当者	山口幸照

科目名	社会福祉各論Ⅰ（児童福祉） 到達目標：我が国の児童・家族の現状と児童福祉の必要性について学生が十分に理解をすることを到達目標とする。 テーマ：我が国の児童・家族の現状と児童福祉政策の実態 我が国の子どもや家族の現状とニーズを把握し、これに対する社会福祉政策がどのように進展してきたかを概観する。さらに、現在の子どもを取り巻く社会の実態を理解し、諸外国（イギリス・オランダ・ドイツ）の取り組みとの比較を行う。 授業計画 1. オリエンテーション 授業内容の解説と自己紹介 2. 児童福祉の理念 3. 児童福祉の概念と歴史 4. 現代社会と児童家庭福祉 5. 少子・高齢社会における福祉課題 6. 児童福祉の法体系と実施体制 7. 児童福祉法 8. 母子保健 9. 児童福祉法に基づく障害児の福祉 10. 保育 11. 児童虐待の内容 12. 児童虐待防止法の体系 13. 児童虐待防止と学校の役割 14. ひとり親家庭の福祉 15. 児童福祉援助活動の実際① 16. 児童福祉援助活動の実際② テキスト 新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度－児童福祉論』中央法規 参考書・参考資料等 『児童虐待防止と学校の役割』信山社 『現代福祉学レキシコン第二版』雄山閣出版 『社会福祉法制要説』有斐閣 学生に対する評価 授業参加の積極性、レポート・筆記試験で評価する。 ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) レポートの評価が60点以上のもの・筆記試験が60点以上のもの 児童福祉の基本的理念を理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの・筆記試験が75点以上のもの 児童福祉の基本的理念と概念・歴史を理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの・筆記試験が90点以上のもの 児童福祉の基本的理念と概念・歴史、児童福祉の法体系を理解している。 その他 出席が少ない場合は不可とする。
学期	前期
単位数	2
担当者	山口幸照

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：進展する高齢社会を理解することによって現代社会の抱えている問題を明らかにする テーマ：老人福祉の制度と政策 老人福祉の体系と実践
社会福祉各論Ⅱ(高齢者福祉)	
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	山口幸照
山口幸照	
授業の概要	進展する高齢社会は、これから団塊の世代が高齢期になることでいよいよ本格化する。そのような中で社会福祉分野では、はじめて社会保険制度による方式つまり介護保険制度が導入された。当然その前提となる福祉理念も大きく変化することとなった。 ここでは、最新の福祉理念を盛り込んだ高齢者福祉制度を学ぶと同時に、高齢者をとりまく医療・保健その他関連制度も学ぶこととする。
授業計画	1. 少子高齢社会の到来 2. 高齢者をとりまく状況と諸問題 3. 高齢者のための総合的対策 4. 高齢者の特性 5. 高齢者の健康・家族・地域社会 6. 老人福祉法 7. 介護保険法 8. 老人保健法 9. 高齢者生活支援の体系 10. 施設サービス 11. 在宅サービス 12. ボランティア活動と社会福祉協議会 13. 高齢者と生きがい・社会参加活動 14. 保健・医療・福祉の連携 15. 高齢者の相談援助活動の実際① 16. 高齢者の相談援助活動の実際②
テキスト	社会福祉士養成講座『高齢者福祉論』中央法規出版
参考書・参考資料等	講義の中で必要に応じ指示する。
学生に対する評価	授業参加の積極性・レポート・筆記試験で評価する。 具体的には、4分の3以上の出席・レポートの提出・筆記試験の内容をすべて考慮し評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) レポートの評価が60点以上のもの・筆記試験が60点以上のもの 少子高齢社会について理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの・筆記試験が75点以上のもの 少子高齢社会について理解している。高齢者の特性を理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの・筆記試験が90点以上のもの 少子高齢社会について理解している。高齢者の特性を理解している。関連法を理解している。
その他	出席が少ない場合は不可とする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会保障は、社会福祉・医療・年金・雇用・子育て支援という広範囲は領域を取り扱う分野である。その領域の多くの分野は、国民の生活と直結している。利用者の生活支援を考えるとき総合的に生活関連の分野を学習することが重要である テーマ：社会保障の歴史と現状
社会保障1(別)	
学期	前期
前期	
単位数	2
2	
担当者	山口幸照
山口幸照	
授業の概要	わが国では、人口の高齢化がますます進んでいる。少子化も歯止めがかからない。社会保障は高齢化社会で重要な位置をしめるにも関わらず国民的な理解が必ずしもあるとはいえない。ここでは社会保障の基本的な事項について理解することを目的としたい。
授業計画	1. 社会保障の概念と範囲 2. ベバリッジの社会保障計画 3. 社会保障の歴史 4. 社会保障の機能 5. 社会保障と労働力 6. 社会保障の方法 7. 社会保険の財政 8. 年金制度の遠隔 9. 年金制度の現状と課題 10. 医療保障制度の沿革 11. 医療保障制度の現状と課題 12. 介護保険制度の創設 13. 介護保険制度の意義 14. 介護保険制度の内容 15. 介護保険制度の課題 16. まとめ・社会保障制度の実際
テキスト	社会福祉士養成講座『社会保障論』中央法規出版
参考書・参考資料等	『社会福祉士のための基礎知識Ⅰ～Ⅲ』中央法規出版
学生に対する評価	授業参加の積極性・レポート・筆記試験で評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) レポートの評価が60点以上のもの・筆記試験が60点以上のもの 社会保障の基本的概念と範囲を理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの・筆記試験が75点以上のもの 社会保障の基本的概念と範囲を理解している。社会保険の財政を理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの・筆記試験が90点以上のもの 社会保障の基本的概念と範囲を理解している。社会保険の財政を理解している。
その他	出席が少ない場合は不可とする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：社会保障の目的を実現するための方法としての種類について学習する。費用負担について国民的理解をどのようにして得るのかを理解する。 テーマ：社会保障の方法と費用負担
社会保障2(別)	
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	山口幸照
山口幸照	
授業の概要	社会保障を実現するためには具体的な社会政策が必要である。そのためには社会保険、社会サービスの利用者の基準を綿密に決定していくことが重要である。すべての国民に平等にサービスがいきわたることが求められている。そのための要件を学習する。
授業計画	1. 労働保険制度の沿革 2. 雇用保険制度の沿革、現状 3. 労災保険制度の現状と課題 4. 生活保障と民間保険 5. 生活リスクと民間保険の役割 6. 社会保険の管理運営 7. 権利救済制度 8. 社会保障費の構造と経済社会の変動 9. 社会保障改革と将来ビジョン 10. 社会保障費の国民負担 11. 諸外国の社会保障・フランス 12. 諸外国の社会保障・ドイツ 13. 諸外国の社会保障・スウェーデン 14. 諸外国の社会保障・イギリス 15. 諸外国の社会保障・アメリカ 16. 諸外国の社会保障・アジア
テキスト	社会福祉士養成講座『社会保障論』中央法規出版
参考書・参考資料等	『社会福祉士のための基礎知識Ⅰ～Ⅲ』中央法規出版
学生に対する評価	授業参加の積極性・レポート・筆記試験で評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) レポートの評価が60点以上のもの・筆記試験が60点以上のもの 労働保険制度を理解している。 (良) レポートの評価が75点以上のもの・筆記試験が75点以上のもの 労働保険制度を理解している。雇用保険制度を理解している。 (優) レポートの評価が90点以上のもの・筆記試験が90点以上のもの 労働保険制度を理解している。雇用保険制度を理解している。労災保険制度を理解している。
その他	出席が少ない場合は不可とする。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：教職への情熱と専門家としての力量、総合的な人間力が、教師の条件であることを理解し、教員としての使命感や責任感、資質・能力を形成する。また、教員の職務内容を十分理解し安易な職務選択をすることがないよう、将来設計・意思決定を図ることを目標とする。 テーマ：教員の職務と使命
教職入門	授業の概要 教師に対する揺るぎない信頼を確立することが、教育国家戦略として掲げられている。本講義は、教育改革の動向と種々の答を踏まえ、教員の職務について解説し教職への導入の役割を果たす。また、表面化しない教員の職務の現状について、現場の事例を多く取り入れ解説する。
前期	授業計画 1. 講義の目的と概要を説明する。 2. 教職の意義と教員の役割について解説する。 3. 教員養成・教職課程の変遷について解説する。 4. 教員の種類と職階及び教員の役割と社会的使命について解説し考察する。 5. 教員の職務と学習指導要領の関係について説明し考察する。 6. 教員の職務と校務分掌の関係について解説する。 7. 生徒指導と教員の職務について、事例を中心に解説する。 8. 進路指導・教育相談・キャリア教育と教員の役割について、事例を中心に解説する。 9. 学級経営と担任教員の役割について解説し考察する。 10. 教員の研修について職務研修を中心に現状を解説し考察する。 11. 教員の服務と身分保障について説明する。 12. 服務の根本基準について説明する。 13. 職務上の服務と身分上の服務について説明する。 14. 教員採用の現状と進路選択について考察する。 15. 近年の学校をめぐる諸課題について考察する。 16. 教員のリスクマネジメントと危機管理について考察する。
学期	テキスト 伊藤一雄著『教職基礎論』サンライズ出版 2012.4 発行 書店で購入
単位数	参考書・参考資料等 教職問題研究会著『教師論』（改訂版）2012.4 発行
2	参考書・参考資料等 定期試験（60%）、小テスト（20%）、提出すべきレポート及び小作文（20%）
担当者	ルブリック（目標に準拠した評価） （可）教員の使命と責任、職務の内容について理解できる。 （良）教員の職務内容を理解し、期待される教員の在り方について説明できる。 （優）教員の職務及び教職の課題を知り、教員の役割を達成できる知識・技能、自信と誇りを持つことができる
嶋田博	その他 学校教育や教育行政に関する新聞、雑誌などの記事を収集し、教職への問題意識や意欲を高めるよう努めておきたい。に注目しておいてほしい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：将来教員を志望する学生を対象に、教育の機能と社会について理解することを目標とする。 テーマ：教育の理念並びに教育の関する歴史及び思想																
教育原論	授業の概要 教育という営みは人間形成という個人的な面と、文化を伝達し社会に役立てるといふ社会的な面の二面性がある。本講義は教育の目的や機能について解説し、教育とはどのような営みなのかを考察する。また、現代の日本社会の学校が抱えている教育の病理について、構造的な側面から解説する。																
前期	授業計画 1. 人間形成と教育及び子どもの発達と教育 第1回：教育の目的と国家 第2回：子どもの発達と教育 第3回：子どもの生活と教育 2. 近代の教育思想とわが国の教育の変遷について概説する。 第4回：ヨーロッパにおける教育思想の変遷を概説する。 第5回：アジアにおける教育思想の変遷を概説する。 第6回：わが国の教育思想の変遷を概説する。 第7回：第1回～第6回の講義内容についてのまとめ。小テストを行う。 3. 学校教育 第8回：義務教育について解説する。 第9回：後期中等教育について解説する。 第10回：高校の多様化と教育課程について解説する。 第11回：高校教育から義務教育と大学教育を考える。 第12回：障害者教育について解説する。 4. 教育と社会 第13回：国際化と教育との関わりについて論じる。 第14回：学校教育の大衆化について論じる。 第15回：第8回～14回の講義内容についてのまとめ、小テストを行う 第16回：まとめ																
学期	テキスト 田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣																
単位数	学生に対する評価 伊藤一雄他著『教職への道標』サンライズ出版																
2	参考書・参考資料等 小テスト（30%）、定期試験（70%）+授業への参加を加味する。																
担当者	ルブリック（目標に準拠した評価）																
山脇雅夫	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>論理的思考力</th> <th>問題発見力</th> <th>教育学の基礎知識</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>講義の内容を理解できる</td> <td>それぞれのテーマを理解できる</td> <td>教科書に基づいて、教育学の基礎知識を理解できる</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる</td> <td>教科書に基づいて教育学の基礎知識を理解し、参考資料を調査できる</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる</td> <td>教育学についての基礎知識に基づき、特定のテーマについての参考資料を自分なりに調査・検討できる</td> </tr> </tbody> </table>		論理的思考力	問題発見力	教育学の基礎知識	可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	教科書に基づいて、教育学の基礎知識を理解できる	良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる	教科書に基づいて教育学の基礎知識を理解し、参考資料を調査できる	優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	教育学についての基礎知識に基づき、特定のテーマについての参考資料を自分なりに調査・検討できる
	論理的思考力	問題発見力	教育学の基礎知識														
可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	教科書に基づいて、教育学の基礎知識を理解できる														
良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる	教科書に基づいて教育学の基礎知識を理解し、参考資料を調査できる														
優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	教育学についての基礎知識に基づき、特定のテーマについての参考資料を自分なりに調査・検討できる														
その他																	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：教育活動に関する心理学的な法則や事実を把握する。 テーマ：学習指導と生徒指導に心理学を援用して効果をあげる。
教育心理学	授業の概要 学校教育に限らず、教育活動において、より一層効果的にその指導効果が得られるように、心理学がどのように応用されて用いられているかを学ぶ。
後期	授業計画 1. オリエンテーション。教育心理学の歴史と研究法の紹介。 2. 発達段階と発達課題について。 （ビューラー・ハヴィガーストの理論） 3. 発達段階と発達課題について。 （乳児期から成人期の発達の特徴） 4. 言語の発達のメカニズムについて。 5. 学習のメカニズムについて。学習の動機づけについて。 6. 学習のメカニズムについて。学習における記憶の役割。 7. 学習指導の心理学的理論。プログラム学習と協同学習について。 8. 知的能力の発達について。表象的思考の発達と創造性の発達。 9. 学習評価について。 10. パーソナリティの理解について。 11. 学級の心理学と学校カウンセリングについて。 12. 子どもの不適応とストレスの対処法について。 13. スクールカウンセラーと教師の役割について。 14. 障害児の心理と特別支援教育について。 15. 試験。 16. 試験の返却と解説。
学期	テキスト 桜井茂男編、『教育心理学』、図書文化、2013年
単位数	参考書・参考資料等 伊藤良高・永野典詞・大津尚志・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』見洋書房、2012年。
2	学生に対する評価 小レポート（10%）・授業内の課題（10%）・試験（80%）
担当者	ルブリック（目標に準拠した評価） （可）動機づけ・愛着などの基本的な用語の説明ができる。 （良）テキストを見て「発達段階と発達課題」を説明できる。 （優）テキストを見て、「子どもの思考の発達」について説明できる。
戸來知子	その他 学校生活で体験する様々な出来事を、自分の経験と重ねて分析してみて下さい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：本講義では、現代の日本社会の教育課題に対して社会的視点から考察する力を身に付け、教師としての基礎力を養う。 テーマ：日本社会の構造と学校教育
教育社会学	授業の概要 日本社会の学校教育はどのように変化してきたのか、1947年以後の変化について、中学・高校の変化を中心に解説し、あわせて現代の日本社会の抱える「教育病理」ともいえるさまざまな課題に、社会的な視点から考察する。
後期	授業計画 1. 教育社会学とは 2. 教育現象の社会的捉え方 3. 日本社会の変化と学校教育 (1) 6.3.34 制度の発足から1960年まで 4. 日本社会の変化と学校教育 (2) 高度成長期の学校教育 5. 日本社会の変化と学校教育 (3) 情報化の進展期の学校教育 6. 日本社会の変化と学校教育 (4) 自由競争の激化期の学校教育 7. 日本社会の変化と学校教育 (5) ゆとり教育期の学校教育 8. 日本社会の変化と学校教育 (6) 脱ゆとり教育 9. 「学校病理」の社会的考察 (1) 不登校と学校嫌い 10. 「学校病理」の社会的考察 (2) 不登校と引きこもり 11. 「学校病理」の社会的考察 (3) 学級崩壊 12. カリキュラムの社会学 (1) 見えるカリキュラム 13. カリキュラムの社会学 (2) 隠れたカリキュラム 14. 教育指導と隠れたカリキュラム 15. 定期試験 16. 日本社会の変化と学校教育の方向
学期	テキスト なし
単位数	参考書・参考資料等 ・久富善之・長谷川裕編『教育社会学（教師教育テキストシリーズ）』学文社、2008年。 ・丸谷剛彦・濱名陽子ほか『教育の社会学－〈常識〉の問い方、見直し方 新版』有斐閣、2010年。 ・木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。
2	学生に対する評価 定期試験（70%）、授業中の小テストおよび小作文（30%）で評価する。
担当者	ルブリック（目標に準拠した評価） （可）基本的用語が説明できる。 （良）講義内容を理解し、教育の現状を説明できる。 （優）現在の学校教育の問題について自分の意見を述べることができる。
森本一彦	その他 真剣に教師を目指すことを受講条件とする。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：教育課程とは何かを理解し、小学校・中学校及び高等学校の学習指導要領の意図するものは何か、またそれはどのように構成されているのかを、どれだけ把握できたかを到達目標とする。 テーマ：学習指導要領と学校の教育課程
教育課程論	授業の概要 教育課程は学校の教育実践の基盤となるものである。教育課程の意図する点について、本講義を通じて現行学習指導要領を中心に解説する。併せて、その変遷について述べる。さらに、学校教育と学習指導要領の間にある「隠れたカリキュラム」の実践的意義について考察する。
学期	授業計画 第1回：教育課程とは何か及び教育課程の目標とするところについて解説する。 第2回：教育課程の内容構成について解説する。 第3回：学校の教育活動と教育課程の編成について解説する。 第4回：教育課程と教科の構成について解説する。 第5回：教育課程の評価方法について解説する。 第6回：学習指導要領と教育課程の変遷(1) 発足時から1958年改訂までを解説する。 第7回：学習指導要領と教育課程の変遷(2) 1958年改訂から1977年改訂までを解説する。 第8回：学習指導要領と教育課程の変遷(3) 1977年改訂から1998年改訂までを解説する。 第9回：学習指導要領と教育課程の変遷(4) 1998年改訂から2007年改訂までを解説する。 第10回：学習指導要領と教育課程の変遷(5) 2008年改訂から現在までを解説する。 第11回：現行学習指導要領の意図するものについて解説し考察する。 第12回：学習指導要領の法的拘束性について考察する。 第13回：教育課程と「隠れたカリキュラム」について解説し考察する(1) 第14回：教育課程と「隠れたカリキュラム」について解説し考察する(2) 第15回：中等教育カリキュラムの国際比較 日・米・欧(ドイツ・フランス)について比較し考察する。 第16回：教育課程の編成と学校の教育活動の現状について考察する。
後期	テキスト 伊藤一雄他著『教育課程論』見陽書房 2010.4 発行 書店で購入
単位数	2
2	参考書・参考資料等 伊藤一雄著『教職基礎論』サンライズ出版 2020.12.10 発行 平成21年度版 学習指導要領(中学校編及び高校編)文部科学省
担当者	学生に対する評価 定期試験(50%)、小テスト(30%)、提出すべきレポート及び小作文(20%)
嶋田博	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 教育課程と学習指導要領の意義・基準・変遷について理解できる。 (良) 教育課程と学習指導要領の編成及び実践上の配慮事項、評価について説明できる。 (優) 教育課程と学習指導要領の趣旨に基づく実践的な知識・技能を身に付け活用することができる。
	その他 ・学校教育や子どもの健全育成に関わる報道等について、意識的に情報収集に努めて欲しい。 ・日本国憲法や教育基本法、学校教育法等の関連法令等について、予習・復習を通して精読して欲しい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。 テーマ：宗教教育の理論と実際
宗教科教育法Ⅰ	授業の概要 学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。
学期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞(積尊の生涯に関するもの) 2. 宗教教育とは：①宗教と宗教教育 3. 宗教教育とは：②宗教の定義 4. 宗教教育とは：③道徳教育と宗教教育 5. 宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由 6. 宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由 7. 宗教科教育法について：③教育基本法と宗教 8. 宗教教育の歴史：①日本における宗教教育 9. 宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連 10. 宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相 11. カリキュラム構成の実際と計画 12. 学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する(釈尊と弘法大師) 13. 学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する 14. 学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する 15. 試験およびレポート提出 16. 試験とレポートの講評
前期	テキスト 齊藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会(コピー配布)
単位数	2
2	参考書・参考資料等 教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版 藤原聖子『教科書の中の宗教』(岩波新書)岩波書店 小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他
担当者	学生に対する評価 試験(60%)、レポート(釈尊伝の感想文)(40%)
乾仁志	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 宗教教育の意義を認識している。 (良) 宗教教育の問題点と課題に通じている。 (優) 宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
	その他 宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意図をよく考えることが必要である。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。 テーマ：模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。
宗教科教育法Ⅱ	授業の概要 受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。
学期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞(弘法大師の生涯に関するもの) 2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪(一心院谷と女人堂) 3. 教材研究と学習指導案の作成 4. 学習指導案の点検 5. 模擬授業「積尊の生涯」①誕生 6. 模擬授業「積尊の生涯」②出家 7. 模擬授業「積尊の生涯」③成道 8. 模擬授業「積尊の生涯」④初転法輪 9. 授業記録の提出と反省会 10. 模擬授業「弘法大師の生涯」①誕生 11. 模擬授業「弘法大師の生涯」②青年時代 12. 模擬授業「弘法大師の生涯」③入唐求法 13. 模擬授業「弘法大師の生涯」④高野山開創 14. 授業記録の提出と反省会 15. レポート提出 16. 模擬授業全体の反省とレポートの講評
後期	テキスト 中村元・田辺和子共著『ブツ物語』(岩波ジュニア新書)岩波書店 松長有慶『空海・心の眼をひらくー弘法大師の生涯と密教ー』大法輪閣 富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所
単位数	2
2	参考書・参考資料等 齊藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会 教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林
担当者	学生に対する評価 模擬授業(学習指導案と教材研究を含む)(80%)、レポート(弘法大師伝の感想文)(40%)
乾仁志	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。 (良) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。 (優) 仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
	その他 宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：中学生を対象とした宗教教育科の授業方法や実際について学ぶ。 テーマ：模擬授業を通してみた中学生に対する宗教教育の可能性
宗教科教育法Ⅲ	授業の概要 受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした宗教教育の可能性や具体的な授業内容・方法について学習する。
学期	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等、ビデオ鑑賞(世界の宗教に関するもの) 2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪(奥之院「大秦景教流行中国碑」等) 3. 教材研究と学習指導案の作成 4. 学習指導案の点検 5. 模擬授業「キリスト教の歴史」①古代イスラエルの宗教 6. 模擬授業「キリスト教の歴史」②キリスト教の成立 7. 模擬授業「キリスト教の歴史」③キリスト教のひろがり 8. 模擬授業「キリスト教の教え」①十字架の死と復活、②「旧約聖書」と「新約聖書」 9. 授業記録の提出と反省会 10. 模擬授業「イスラム教の歴史」①預言者ムハンマド 11. 模擬授業「イスラム教の歴史」②政党カリフとウマイヤ朝 12. 模擬授業「イスラム教の歴史」③スンニー派とシーア派 13. 模擬授業「イスラム教の教え」①コーラン、ハディースとイスラム法、②イスラム教の信仰生活 14. 授業記録の提出と反省会 15. レポート提出 16. 模擬授業全体の反省とレポートの講評
後期	テキスト 村上重良『世界の宗教ー世界史・日本史の理解にー』(岩波ジュニア新書)岩波書店
単位数	2
2	参考書・参考資料等 齊藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会 教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林 岸本英夫『世界の宗教』原書房(または大明書房)
担当者	学生に対する評価 模擬授業(学習指導案と教材研究等を含む)(60%)、レポート(40%)
松長恵史	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。 (良) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。 (優) 広く宗教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
	その他 宗教科の教師になるということの意味をよく考え、宗教一般に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。

科目名	国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅰ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。 テーマ：学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。
授業の概要	教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。 学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。
授業計画	1. 国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校） 2. 中学校の学習指導要領（国語）の内容を読み、その意味を正しく理解する。 3. 高等学校の学習指導要領（国語）の内容を読み、その意味を正しく理解する。 4. 高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。 5. 学習指導案とは何か。その意義と目的について。 6. 教材研究の方法と指導案の作成方法（1） 外山滋比古『知的創造のヒント』（1） 7. 教材研究の方法と指導案の作成方法（2） 同上（2） 8. 教材研究の方法と指導案の作成方法（3） 古文『十訓抄』－顕宗といふ笛吹き－ 9. 教材研究の方法と指導案の作成方法（4） 古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち 10. 教材研究の方法と指導案の作成方法 漢文「返り点のつけかた」 11. 国文法の授業の問題点と課題（口語の場合） 12. 国文法の授業の問題点と課題（文語の場合） 13. 教員による実践授業（1）現代文 14. 教員による実践授業（2）古文 15. 総括講義 国語科の授業の必要性など 16. 確認テスト
学期	前期
前期	
単位数	2
2	
担当者	下西忠
下西忠	
テキスト	国語総合（第一学習社） 参考書・参考資料等 国語科教育研究（学芸図書）、学習指導要領も適宜使用する。
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	定期試験（50%）とレポート（50%） ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 国語科の授業の目的を正しく理解できていること。また適切な指導案をかけること (良) 上記に加えて、現代国語の教授能力を身につけていること (優) 上記二つに加えて、古典の教授能力を身につけていること
学生に対する評価	
その他	単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る

科目名	国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅱ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また各単元における指導案の書き方も研究することとする。 テーマ：模擬授業
授業の概要	毎時間一名による模擬授業（50分）とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導（40分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶ。また併設校で実際に教育実習をおこなっている学生の授業を参観することにより、高校の現場を知ること学ぶたい。
授業計画	1. ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の目的と意義） 2. 模擬授業（1）現代文（評論）「独創をうむ条件」 3. 模擬授業（2）古文（物語）「伊勢物語」 4. 模擬授業（3）国語表現「文章を要約する」 5. 模擬授業（4）古典文法「動詞の活用」 6. 模擬授業（5）現代文（小説）「羅生門」 7. 高校現場を体感する（1） 8. 高校現場を体感する（2） 9. 現場体験の反省会 10. 模擬授業（6）漢文「漁夫の利」 11. 模擬授業（7）古文（物語）「竹取物語」 12. 模擬授業（8）国語表現「報告文と手紙を書く」 13. 模擬授業（9）現代文（詩歌）「一つのメルヘン」 14. 模擬授業（10）古文（詩歌）「新古今集」 15. 総括 教材研究と模擬授業の反省点 16. 確認試験
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	下西忠
下西忠	
テキスト	国語総合（第一学習社） 参考書・参考資料等 国語科教育研究（学芸図書）、学習指導要領も適宜使用する。
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	定期試験（50%）とレポート（50%） ルーブリック（目標に準拠した評価） (可) 模擬授業の出来具合 (良) 上記に付け加えて、適切な指導案の作成 (優) 上記二つに加えて、十分な教材研究ができていること
学生に対する評価	
その他	単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る

科目名	国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅲ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：現代文、古文の指導法を習得する。 テーマ：教材研究と実践
授業の概要	教壇に立つて授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。そこで本講義はまず、『中学校学習指導要領 国語』『高等学校学習指導要領 国語総合』を用いて、その理念や内容を理解し、理想とする国語科教員のイメージについて考える。次に、現代文、古文からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、毎回講義始めに小テストを行い、基礎学力の向上をめざす。
授業計画	1. ガイダンス（講義の進め方、成績評価） 2. 『中学校学習指導要領 国語』の研究① 3. 『中学校学習指導要領 国語』の研究② 4. 『高等学校学習指導要領 国語総合』の研究① 5. 『高等学校学習指導要領 国語総合』の研究② 6. 高等学校国語総合の実践研究①－教材研究－ 7. 高等学校国語総合の実践研究②－学習指導案作成－ 8. 高等学校国語総合の実践研究③－模擬授業A－ 9. 高等学校国語総合の実践研究④－模擬授業B－ 10. 高等学校古典の実践研究①－教材研究－ 11. 高等学校古典の実践研究②－学習指導案作成－ 12. 高等学校古典の実践研究③－模擬授業A－ 13. 高等学校古典の実践研究④－教材研究B－ 14. 文学史の知識とその活用法 15. 総括 16. 確認テスト
学期	前期
前期	
単位数	2
2	
担当者	浜下畑西圭吾
浜下畑西圭吾	
テキスト	中学校「国語Ⅰ」および高等学校「現代文」「古文」に採られた教材を使用する。副読本などは教員が適宜用意する。
参考書・参考資料等	『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・東洋館出版） 『高等学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・教育出版）
学生に対する評価	受講態度（50%）模擬授業（25%）小テスト・確認テスト（25%）、3回以上の欠席、担当模擬授業の無断欠席は除籍する。
学生に対する評価	
その他	受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

科目名	国語科教育法Ⅳ 国語科教育法Ⅳ
授業の到達目標及びテーマ	到達目標：基礎学力の向上と指導法の練成 テーマ：教壇に立つための基盤をつくる
授業の概要	教壇に立つためには基礎的な国語力が当然ながら必要である。本講義では、評論や小説、古文の読解を通して、それぞれの教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。また、高等学校の現代文、古文の教材からそれぞれ選び、教材研究、指導案作成、模擬授業を行う。さらに基礎学力向上のために毎回小テストも行う。国語科教育法Ⅲで学んだ方法の深化を旨とする。
授業計画	1. ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準） 2. 評論とは 3. 評論文の研究① 4. 評論文の研究② 5. 評論文の研究③ 6. 評論文の研究④ 7. 現代文の教材研究 8. 現代文の指導案作成 9. 現代文の模擬授業 10. 小説の研究①－なぜ小説を学ぶのか－ 11. 小説の研究②－小説の読み方－ 12. 古文の研究－古文とは－ 13. 小説・古文の教材研究 14. 小説・古文の指導案作成 15. 小説・古文の模擬授業、総括 16. 確認テスト
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	浜下畑西圭吾
浜下畑西圭吾	
テキスト	中学校「国語Ⅰ」および高等学校「現代文」「古文」に採られた教材を使用する。副読本などは教員が適宜用意する。
参考書・参考資料等	『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・東洋館出版） 『高等学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・教育出版） 岩間輝生他編『ちくま評論入門』（筑摩書房）
学生に対する評価	教材研究・指導案作成（50%）模擬授業（25%）、小テスト・確認テスト（25%）
学生に対する評価	
その他	受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

科目名	授業の到達目標及びテーマ																
	到達目標：(1) 教育方法に関する基礎理論を理解する。 (2) 様々な教育方法の特色や考えかたを理解する。 (3) 学んだ教育方法を授業の場で活用できる。 テーマ：様々な教育方法を理解し、活用する力を養う。																
教育方法論	授業の概要																
	様々な教育方法について理解を深め、学習者が主体的に学ぶことができる授業の原理と技術を修得することをめざす。その為に、問題意識と認識や学習意欲について触れ、それらと教育方法との関係性を基にして方法論的理解を深め、模擬授業を全員で検討する。																
学期	授業計画																
	1. イントロダクション - 教育、学校、勉強の意味 2. 教育内容と教育方法 3. 分かる授業と楽しい授業 4. 見れども見れず - 情報の獲得とその認識 5. 科学の方法と教育の方法 細胞の授業を例にして 6. PISA リテラシーと授業改革 7. 学習意欲と教育方法 - 意欲を高める教材 8. - 意欲を高める授業 9. 仮説実験授業の理論と方法 10. 総合的学習の展開 11. アクティブラーニング 12. プロジェクト学習の基本 13. 授業案を作ってみよう 14. 模擬授業 - マイクロティーチング 15. 授業のまとめ - 総括テスト - 16. テストの講評																
後期	テキスト																
単位数	特になし。授業で資料配布する。																
	参考書・参考資料等																
2	適宜紹介する。																
	学生に対する評価																
担当者	授業中の課題達成度 (50%)、模擬授業 (30%) 授業参加度 (20%) により評価する。 受験資格は 2/3 以上出席とする。																
	ルーブリック (目標に準拠した評価)																
山岡 脇本 雅正 夫志	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>論理的思考力</th> <th>問題発見力</th> <th>教育方法についての知識</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>講義の内容を理解できる</td> <td>それぞれのテーマを理解できる</td> <td>さまざまな教育方法を理解できる</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる</td> <td>異なったテーマ間の違いや関連性を理解できる</td> <td>さまざまな教育方法について、意義と問題点を理解する</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>講義の内容を、自分なりの問題へと展開できる</td> <td>それぞれのテーマについて、自分なりに展開できる</td> <td>さまざまな教育方法を、自らの授業設計に応用できる</td> </tr> </tbody> </table>		論理的思考力	問題発見力	教育方法についての知識	可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	さまざまな教育方法を理解できる	良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	異なったテーマ間の違いや関連性を理解できる	さまざまな教育方法について、意義と問題点を理解する	優	講義の内容を、自分なりの問題へと展開できる	それぞれのテーマについて、自分なりに展開できる	さまざまな教育方法を、自らの授業設計に応用できる
		論理的思考力	問題発見力	教育方法についての知識													
可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	さまざまな教育方法を理解できる														
良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	異なったテーマ間の違いや関連性を理解できる	さまざまな教育方法について、意義と問題点を理解する														
優	講義の内容を、自分なりの問題へと展開できる	それぞれのテーマについて、自分なりに展開できる	さまざまな教育方法を、自らの授業設計に応用できる														
その他	授業中にディスカッションやレポート作成を求められることがある。																

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：① コンピュータの構成と情報処理の基本知識を学ぶ。 ② 教師の仕事をごこなすために必要なパソコン技術を習得する。 ③ 情報社会の抱える問題点を理解し、情報モラルおよびマナーを身につける。 テーマ：① 情報活用の実践力を習得すると共に、情報の技術が社会や環境に果たす役割を理解する。 ② 教科教育に情報機器を取り入れる方法を学ぶ。 ③ 総合的な学習の時間や特別な教科「道徳」との関連で、情報モラルや社会のあり方を考える。
情報技術論	授業の概要
	パソコンの使い方を習得しながら、情報処理の基本知識や情報社会のモラルを学ぶ。教科の学習、総合的な学習の時間、特別な教科「道徳」の時間との関連において、それぞれの課題や目的に応じて、情報を収集・処理・表現・創造する力を育成する。
学期	授業計画
	1. オリエンテーション。授業の概要を説明する。情報化社会の現状を認識する。 2. インターネットの匿名性の持つ危険と情報社会でのマナーについて。 3. 個人情報の取り扱いとプライバシーの保護について。ネット被害の事例を紹介。 4. HR運営・特別な教科「道徳」における情報機器の活用を考える。 5. HRの課題として、Wordを使って「学級通信」を作成する。 6. 教科指導・総合的な学習の時間における情報機器の活用を考える。Excelを使用して分布図やグラフを描いてみる。 7. 情報検索を体験する。情報通信ネットワークの仕組みを知る。 8. SNSの利便性と危険について。ブログやフェイスブックについて考える。 9. 情報セキュリティとセキュリティ対策について。 10. 教科指導における情報機器の活用としてパワーポイントの使用を学ぶ。 11. アニメーションのつけ方、写真の挿入の仕方。情報に関する知的財産権と著作権について学ぶ。 12. パワーポイントを使用するスライド作成。 13. 特別活動における情報機器の活用として「修学旅行の資料」を作成する。 14. 「修学旅行の資料」を用いたプレゼンテーション。 15. 試験。 16. 試験の返却。および、授業を振り返りの反省会。
後期	テキスト
単位数	『インターネット社会を生きるための情報倫理』(情報教育学研究会 情報倫理教育グループ)
	参考書・参考資料等
2	『エクセル & ワード・パワーポイント便利技ぜんぶ!』TJMook
	学生に対する評価
担当者	課題の提出、50%。試験、30%。平常点20%。
	ルーブリック (目標に準拠した評価)
戸 來 知 子	(可) パソコンの基本的な操作ができる。情報社会のマナーについて言える。 (良) Excelを使ってグラフが描ける。個人情報保護の取り組みが言える。 (優) パワーポイントを使って、教科や総合的な学習の時間に発表することができる。
	その他
その他	授業時間以外に作業する時間(宿題として)が必要である。

科目名	授業の到達目標及びテーマ																
	到達目標：①学習指導要領における道徳の目標、内容を理解する。 ②「道徳の時間」の実践的指導力を修得する。 ③道徳教育の理念と歴史を理解する。 テーマ：1) 道徳の本質、2) 道徳教育の歴史、3) 道徳教育の方法について、講義する。																
道徳教育の研究	授業の概要																
	道徳教育における実践的教育力を獲得することを旨とする。そのために、1) 道徳の本質、2) 道徳教育の歴史、3) 道徳教育の方法について、講義する。																
学期	授業計画																
	第1回 人間存在と道徳(学習指導要領における道徳の目標と内容) 第2回 承前 第3回 西洋の道徳教育の歴史①、ソクラテスの対話法 第4回 西洋の道徳教育の歴史②、プラトンとギリシャの四元徳 第5回 西洋の道徳教育の歴史③、アリストテレスの徳の倫理 第6回 西洋の道徳教育の歴史④、ルソーの自然主義 第7回 日本の道徳教育の歴史①、明治以前の道徳教育 第8回 日本における道徳教育②、明治期の道徳教育 第9回 道徳教育の授業理論①(インカルケーション) 第10回 道徳教育の授業理論②(価値の明確化) 第11回 道徳教育の授業理論③(コルバーク理論に基づく道徳教育) 第12回 学習指導案の作成(中学の副教材・資料から) 第13回 模擬授業(数グループに分かれ、グループごとに発表) 第14回 承前 第15回 全体の振り返り 第16回 テストの講評																
後期	テキスト																
単位数	『中学学習指導要領解説 道徳編』文部科学省																
	参考書・参考資料等																
2	授業内で指示する。																
	学生に対する評価																
担当者	学習指導案作成と模擬授業40点、学期末レポート60点。																
	ルーブリック (目標に準拠した評価)																
山岡 脇本 雅正 夫志	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>指導要領の理解</th> <th>問題発見力</th> <th>実践教育力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>指導要領の内容を理解する</td> <td>それぞれのテーマを理解できる</td> <td>「道徳の時間」について理解する</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>指導要領の内容をその背景を含めて理解する</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる</td> <td>「道徳の時間」のさまざまな指導法を理解する</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>指導要領の内容を、その背景から理解し、道徳教育の本質を理解する</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる</td> <td>道徳の時間とは何かを理解し、その指導法を学ぶ、それを実践できる</td> </tr> </tbody> </table>		指導要領の理解	問題発見力	実践教育力	可	指導要領の内容を理解する	それぞれのテーマを理解できる	「道徳の時間」について理解する	良	指導要領の内容をその背景を含めて理解する	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる	「道徳の時間」のさまざまな指導法を理解する	優	指導要領の内容を、その背景から理解し、道徳教育の本質を理解する	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	道徳の時間とは何かを理解し、その指導法を学ぶ、それを実践できる
		指導要領の理解	問題発見力	実践教育力													
可	指導要領の内容を理解する	それぞれのテーマを理解できる	「道徳の時間」について理解する														
良	指導要領の内容をその背景を含めて理解する	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる	「道徳の時間」のさまざまな指導法を理解する														
優	指導要領の内容を、その背景から理解し、道徳教育の本質を理解する	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	道徳の時間とは何かを理解し、その指導法を学ぶ、それを実践できる														
その他																	

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：学校教育の総合的理解。特別教育活動の内容と必要性を理解する。 テーマ：学校生活において、教科の授業以外の時間の教育的意味の理解と考察。
特別教育活動	授業の概要
	特別活動の意味するものを理解し、学級という共同体が持つ教育的役割を把握する。加えて人間の発達と教育という営みについて、現実の学校生活との関連から具体的に考察する。
学期	授業計画
	1. オリエンテーション。特別活動の意味するものの概説。 2. カリキュラムと特別活動の関係について。 3. 学級集団について学ぶ。学級のもつ特質について。 4. 学級集団について学ぶ。学習集団および生活集団としての学級。 5. 学級のもつ可能性について。隠れたカリキュラム、集団の教育力など。 6. 特別活動を支える教育の理論の紹介。(日本の学校教育を中心に) 7. 特別活動を支える教育の理論の紹介。(デュエイの教育理論) 8. 特別活動において教師が果たす役割について。 9. 総合的な学習の時間について。(背景・目的・経緯) 10. 総合的な学習の時間について。(体験学習の意味するもの・現状) 11. 人間の成長・発達の理論と教育との関連性について。エリクソンのライフサイクル論の紹介。(乳児期から青年期) 12. 人間の成長・発達の理論と教育との関連性について。エリクソンのライフサイクル論の紹介。(青年期から成人期) 13. 多様化する学校と個人の人間形成について。 14. 新しい学習形態と進路保障に関すること。 15. 試験。 16. 試験の返却と解説。
前期	テキスト
単位数	特にしてしない。適宜、プリントを配布する。
	参考書・参考資料等
2	『よくわかる授業論』、田中耕治編著、ミネルヴァ書房。
	学生に対する評価
担当者	小レポート(10%)・試験(80%)・授業内の課題(10%)
	ルーブリック (目標に準拠した評価)
戸 來 知 子	(可) 特別教育活動は学校生活のどのような部分であるかを答えられる。 (良) 特別教育活動の目標を理解している。 (優) テキストを見ればデュエイの教育理論の基礎を説明できる。
	その他
その他	受講者の積極的な発言を求め、双方向の授業を目標にしている。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：生徒指導と進路指導の基礎理論を理解した上で、生徒指導、進路指導の事例をあげ、その課題にどれだけ接近できたかにより到達点を測る。
	テーマ：キャリアガイダンス・カウンセリングを活かした生徒指導・進路指導を行う。
	授業の概要
	自分の将来をどう展望するか、進路指導の課題に真剣に取りくめば、それは生徒指導に活かしていく。この授業では、中・高等学校の生徒指導・進路指導を進める上での基礎的事項を解説した後、担当者の生徒指導主事、進路指導主事の現場経験を活かし、実践例を多く入れ課題解決型の授業にしたい。
	授業計画
	1. 生徒指導の目的。日本の生徒指導の歴史の変遷について。 2. 生徒の現状と生徒理解の方法を把握する。 3. 社会変化と子どもの生活の変化を解説する。 4. 社会変化と中・高校生の問題行動を知る。 5. 生徒の生育歴と問題行動の関係を把握する。 6. 生徒指導の実際（反社会的問題行動を中心に）を解説する。 7. 生徒指導の実際（非社会的問題行動を中心に）を解説する。 8. 進路指導の基礎（職業指導から進路指導）を解説する。 9. 進路指導の基礎（進路指導からキャリア教育）を解説する。 10. 進路選択の基礎理論を解説する。 （特性・因子理論から職業論までとその後） 11. 進路指導におけるガイダンスの役割を理解する。小レポートを実施する。 12. ガイダンスとスーパーのキャリアエデュケーションを解説する。 13. ミネソタプランに見るアメリカのキャリアエデュケーションと日本のキャリア教育の比較。 14. 新しい生徒指導の理論の紹介。 （認知行動療法を取り入れた生徒指導） 15. 講義の総括とレポート提出。 16. レポート返却
	テキスト
	伊藤一雄著「新・教育指導の理論と実践」 サンライズ出版 2007.4
	参考書・参考資料等
伊藤一雄著「キャリア開発と職業指導」 法律文化社 2011.4	
学期	後期
単位数	2
担当者	戸來知子
学生に対する評価	定期試験（60%）、小試験（20%）、授業参加（単なる出席でなく質疑、発表などどれだけ主体的に授業に取組んだか）（20%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）生徒指導の目標とキャリアエデュケーションの目的・現状の取り組みについて言える。 （良）生徒指導の目標と歴史の変遷を説明できる。キャリアエデュケーションの基礎理論を理解している。 （優）生徒指導の目標、教師の取り組みの実際を説明できる。キャリアエデュケーションの基礎理論に加えて、ミネソタプランと日本の文部科学省と厚生労働省の取り組みについて説明できる。
その他	各自の中学、高校時代の生徒指導、進路指導上の課題を素材として指導方法を考察したい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：学校教育相談の実情を理解すると共に必要な基礎的知識を習得する。教育相談の基礎理論である教育学や心理学の基礎知識を身につける。児童・生徒の抱える様々な問題や悩みに対応できるようにする。
	テーマ：児童・生徒が学校や家庭の生活で抱える様々な問題とその対処方法を理解する。生徒の発達段階の理解や、自尊感情の育成についての理論を理解する。学習障害や、ADHDなどの広汎性発達障害についても学習する。
	授業の概要
	基本的には講義形式で進めるが、学生と双方向の授業であるように常に意見を求める。テーマを決めてディスカッションを行う。考えるヒントとなるビデオ教材も鑑賞する。
	授業計画
	1. オリエンテーション。授業計画、授業の概要の説明。教育相談の定義。 2. 教育相談の概念、枠組み、範疇。学校教育相談の具体例。 3. 人間の発達段階と児童期や青年期の特性について。 4. 自尊感情の育成方法。 5. 児童期の子どもは様々な悩みについて。 6. 学校内外でのいじめや不登校の問題について。 7. 子どもを取りまく家庭の問題について。（DVや虐待の問題も含む） 8. 様々な不適応問題の原因と解決策。 9. 発達障害について。（学習障害、ADHD、アスペルガー症候群等） 10. 発達障害を持つ子どもと家族への援助。（大人のADHDも含める。） 11. カウンセリングの基本的なテクニックと理論の紹介 12. 国際化に伴う教育相談。（外国人未就学児童の問題など） 13. 社会問題化するドラッグや非行、引きこもり等の問題について。 14. 教育者としての教師の自己管理について （教師の燃え尽き症候群、教師への援助） 15. 試験。 16. 試験の返却と解説。
	テキスト
	『教職基礎論』サンライズ出版
	参考書・参考資料等
滝口俊子『スクールカウンセリング』放送大学 春日井敏之、伊藤美奈子編『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房	
学期	前期
単位数	2
担当者	戸來知子
学生に対する評価	授業内の課題（20%）・試験（80%）
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）教育相談をどこで受けることができるかを答えられる。 （良）自尊感情について説明できる。 （優）カウンセリングの基本的な知識を説明できる。
その他	毎回、出席をとる。自分の意見を積極的に発言することを求める。

科目名	授業の到達目標及びテーマ
	到達目標：4年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確証し、具体的な指導方法の向上を図る。
	テーマ：教職に対する理解の深化と意欲の伸長をはかる。
	授業の概要
	4年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。
	授業計画
	1. 本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。 2. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。Ⅰ 3. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。Ⅱ 4. 生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。 5. 生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。 6. 教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。 7. 自分自身の学校生活を振り返り、生徒指導についての意見交換。 8. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅰ －進学希望生徒の場合－ 9. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱ －就職希望生徒の場合－ 10. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲ －進路未決定生徒の場合－ 11. ミニ模擬授業Ⅰ－授業方法と技術－ 12. ミニ模擬授業Ⅱ－授業構成と評価－ 13. 授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかりについて考察する。 14. 教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。 15. 教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。 16. 総括講義
	テキスト
	なし、必要に応じプリントを配布する
	参考書・参考資料等
伊藤一雄 他著「新・教育指導の理論と実践」サンライズ出版 2006.4	
学期	後期
単位数	2
担当者	戸來知子
学生に対する評価	発表レジュメの内容（20%）、発表方法・技術（20%）、ガイダンス・カウンセリングの技術（20%）、ミニ模擬授業（20%）、総括レポート（20%）を総合する。
ルーブリック（目標に準拠した評価）	（可）教員として必要な最低の実務能力が身についているか。 （良）教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解が深まったか。 （優）教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
その他	演習にいかにか意欲的に参加できたかが大切である。教育実習ノートを持参すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ																
	教育実習の意義は、第一に、受講生による教師論・教育論を主体的に再構築することである。これまで大学で学んだ教養的教育、教科専門教育及び教職専門教育の知識を学校現場で実践・検証し、自らの教師論・教育論を再構築することを目標とする。第二に、教員になるための職能を感得する機会を得ることである。現代の学校教育の状況、今日の教員や児童・生徒の考え方や実態を捉える中で、教員となるための職能を自ら高めしていくことを目標とする。																
	授業の概要																
	教育実習の事前・事後指導を通じて、教員になるための動機づけ・意義づけを強め、教育実習に必要な基礎知識・技能を習得させる。																
	授業計画																
	1. 事前指導（5回） 第1回：教育実習の意義と目標 第2回：教育実習の基礎知識 第3回：学校現場の1日と実習日誌の書き方 第4回：授業の進め方、指導案の書き方 第5回：教育実習の心得の確認と教育実習レポートの書き方 2. 教育実習（中学校または高等学校において90時間の委託実習を行う） 3. 事後指導（2回） 第6回：教育実習の報告 教職の意義の相互確認 第7回：教育実習の総括 第8回：教員採用試験について （公立・私立の採用試験の実情。試験対策等）																
	テキスト																
	各教科書																
	参考書・参考資料等																
	教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林 教育実習日誌・教科指導案																
学期	前期																
単位数	1																
担当者	戸山來脇知雅子																
学生に対する評価	実習校からの教育実習評価表、教育実習レポート・教育実習日誌・指導案、授業態度・授業参加を加味する																
ルーブリック（目標に準拠した評価）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業実践力</th> <th>学校における人間関係力</th> <th>専門職としての教師の理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>授業参加において、授業技術を観察できる。</td> <td>生徒、同僚教員と円滑に接することができる。</td> <td>専門職としての教師の業務の特性を理解できる。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>授業参加において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。</td> <td>生徒、同僚教員と積極的に関わりあうことができる。</td> <td>専門職としての教師の業務の特性を深く理解できる。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>授業参加において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。</td> <td>生徒、同僚教員と積極的に関わりあうことができるとともに、その教育的意義を理解できる。</td> <td>専門職としての教師の業務の特性を深く理解し、教師としての使命を自覚している。</td> </tr> </tbody> </table>		授業実践力	学校における人間関係力	専門職としての教師の理解	可	授業参加において、授業技術を観察できる。	生徒、同僚教員と円滑に接することができる。	専門職としての教師の業務の特性を理解できる。	良	授業参加において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。	生徒、同僚教員と積極的に関わりあうことができる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解できる。	優	授業参加において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。	生徒、同僚教員と積極的に関わりあうことができるとともに、その教育的意義を理解できる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解し、教師としての使命を自覚している。
	授業実践力	学校における人間関係力	専門職としての教師の理解														
可	授業参加において、授業技術を観察できる。	生徒、同僚教員と円滑に接することができる。	専門職としての教師の業務の特性を理解できる。														
良	授業参加において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。	生徒、同僚教員と積極的に関わりあうことができる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解できる。														
優	授業参加において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。	生徒、同僚教員と積極的に関わりあうことができるとともに、その教育的意義を理解できる。	専門職としての教師の業務の特性を深く理解し、教師としての使命を自覚している。														
その他	今年度の教育実習Ⅰに行く学生は、必ず木曜日1講時（前期）の「教育実習の研究」を受講すること。																

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：自己の能力を確認し、就職活動に必要なスキルを習得する。 テーマ：就職活動の意識づけと行動化
就職スキル講座	授業の概要 社会に対して視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につけます。 社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力を養います。 演習、フィードバックを通して実践的な授業を展開します。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 社会人として求められる能力（社会人基礎能力） 3. 就職活動の流れと構造 4. 自己の能力と業種の特性と合致 5. ビジスマナー①（言葉遣い、立居振舞、身だしなみ） 6. ビジスマナー②（会社訪問） 7. ビジスマナー③（電話応対） 8. 演習①（自己PRの作成） 9. 演習②（履歴書の作成） 10. 演習③（エントリーシートの作成） 11. 演習④（志望動機の作成） 12. 演習⑤（面接の流れと方法） 13. 演習⑥（模擬面接、グループ面接） 14. 演習⑦（模擬面接、個人面接） 15. 演習⑧（模擬面接、グループディスカッション） 16. まとめ
後期	テキスト 教員作成の資料を配布する。
単位数	参考書・参考資料等 中沢孝夫『就活のまえに』（ちくまプリマー新書）
2	学生に対する評価 授業内課題の完成度（30%）、授業内演習の参加度・習熟度（40%）、 学期末レポートの完成度（30%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）社会人に必要な能力を理解し、演習①～⑧について書類作成、 基本動作ができる。 （良）社会人に必要な能力を説明でき、演習①～⑧について書類作 成、基本動作がスムーズにできる。 （優）社会人に必要な能力を身につけ、演習①～⑧についてアビール 性の高い書類作成や行動ができる。
田村美幸	その他 実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組んでください。 受ける授業でなく、自らが行動する授業にしていきたいと思います。 各授業は連続性があるので欠席しないようにしてください。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：大学での学びへの導入を図ります。 テーマ：地域に出て学ぶ																
人間学基礎ゼミⅠ	授業の概要 藻谷浩介さんの『里山資本主義』を読み、地域と経済の問題について理解します。あわせて、ゼミでの学びのやり方を学びます。人前で自分の意見を発表し、仲間と一緒に検討する方法を身につけることが目標です。また、教室の外に出て、高野山の地域社会を学ぶ現地学習を行います。																
前期	授業計画 1. オリエンテーション 2. マナビシステム紹介 3. 藻谷浩介『里山資本主義』の紹介 4. 現地学習 5. 発表レジュメの作り方 6. 発表レジュメ作りの練習 7. パワーポイントの使い方 8. 発表と討論① 9. 発表と討論② 10. ゲストスピーカーによる講演 11. ゲストスピーカーの講演への振り返り 12. 講演に基づく自分のテーマ 13. 自分のテーマの発表 14. 相互検討 15. 受講生による全体のまとめ 16. 講評																
2	テキスト 藻谷浩介『里山資本主義』（角川新書）																
山脇雅夫	参考書・参考資料等																
	学生に対する評価 授業内での発表（50%） 授業への参加度（50%）																
	ルーブリック（目標に準拠した評価）																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>論理的思考力</th> <th>問題発見力</th> <th>作文力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>講義の内容を理解できる</td> <td>それぞれのテーマを理解できる</td> <td>自分の考えを正確な日本語で表現できる。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。</td> <td>自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる。</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる</td> <td>自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。</td> </tr> </tbody> </table>		論理的思考力	問題発見力	作文力	可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	自分の考えを正確な日本語で表現できる。	良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。	優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。
	論理的思考力	問題発見力	作文力														
可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	自分の考えを正確な日本語で表現できる。														
良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。														
優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。														
	その他																

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：大学での学びへの導入を図ります。 テーマ：地域に出て学ぶ																
人間学基礎ゼミⅡ	授業の概要 前期の人間学基礎ゼミⅠを受けて、ゼミ活動の基本を学びます。前期に引き続き、藻谷浩介『里山資本主義』を検討するとともに、別の文献と比較検討するというのもやってもらいます。また、地元高野山の抱える問題について、調査してもらいます。																
後期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 『里山資本主義』の検討 3. 発表と討論① 4. 発表と討論② 5. 地元高野町の問題点 6. ゼミ生の地元の問題点についての発表① 7. ゼミ生の地元の問題点についての発表② 8. ゲストスピーカーの講演 9. ゲストスピーカーの講演の振り返り 10. 現地授業 11. 調査報告 12. レポートの書き方 13. テーマとはなにか 14. レポート作成練習 15. レポート発表 16. 講評																
2	テキスト 藻谷浩介『里山資本主義』（角川新書）																
山脇雅夫	参考書・参考資料等																
	学生に対する評価 授業内の発表（40%）、小論文（30%）、授業参加度（30%）																
	ルーブリック（目標に準拠した評価）																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>論理的思考力</th> <th>問題発見力</th> <th>作文力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可</td> <td>講義の内容を理解できる</td> <td>それぞれのテーマを理解できる</td> <td>自分の考えを正確な日本語で表現できる。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。</td> <td>自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる。</td> <td>それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる</td> <td>自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。</td> </tr> </tbody> </table>		論理的思考力	問題発見力	作文力	可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	自分の考えを正確な日本語で表現できる。	良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。	優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。
	論理的思考力	問題発見力	作文力														
可	講義の内容を理解できる	それぞれのテーマを理解できる	自分の考えを正確な日本語で表現できる。														
良	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。	自分の考えを正確かつ論理的な日本語で表現できる。														
優	講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる。	それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる	自分の考えを正確かつ論理的で、説得力を持った日本語で表現できる。														
	その他																

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：大学生生活と社会の接点、キャリアデザインの考え方を習得する。 テーマ：労働と社会と自分
キャリアアカウンセリングⅠ	授業の概要 職業社会を理解する上で必要な基礎知識の習得を目指します。 今後の自分のキャリアを設計していくために、大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進めていきます。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. キャリアデザインの意味 3. 自己を見つめる①（ライフライン） 4. 自己を見つめる②（交流分析とストローク） 5. 他者を認める（交流分析とストローク） 6. 会社とはなにか（社会における企業の役割） 7. 学校と職場の違い 8. 就職とはどういうことか 9. いろいろな働き方（業種・業界） 10. 社会と専門領域との合致（学びの意味） 11. キャリアデザインの方法 12. すべての仕事に共通する能力 ①対人能力 13. すべての仕事に共通する能力 ②對自己能力 14. すべての仕事に共通する能力 ③課題能力 15. すべての仕事に共通する能力 ④実践力 16. まとめ
後期	テキスト 教員作成の資料 大久保幸夫『キャリアデザイン入門＜1＞基礎力編』（日経文庫） 「書店で購入」
単位数	参考書・参考資料等 池上彰『会社のことをよくわからないまま社会人になった人へ』（海竜社） 中沢孝夫『就活のまえに』（ちくまプリマー新書）
2	学生に対する評価 授業内課題（グループ討議・レポート発表・実技演習）の参加度・習熟度（60%）、学期末レポートの完成度（40%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）テキストの内容を理解できる。 （良）テキストを見ながら内容を説明できる。 （優）テキストの内容を自分の言葉で説明できる表現力、行動力がある。
田村美幸	その他 就職活動の準備のためだけでなく、大学で学ぶ専門領域が自分のキャリア形成にとって、どんな意味を持つかということを考える授業です。積極的な参加を期待します。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：哲学、文学の考え方を理解するとともに、「宗教」の意味を考える。 テーマ：話し、聴き、議論する力を育てる
人間学概論Ⅰ	授業の概要 哲学、文学の担当者が「宗教」についてリレー授業を行い、各分野における「宗教」の考え方を紹介し、宗教が人間にとって持つ意味を考察する。
学期	授業計画 1. 人間学概論の課題と展望 2. 人間の定義 3. 人間と宗教 4. 宗教的世界観の特徴 5. 宗教の起源 6. アニミズムの諸形態 7. 動物崇拜 8. 高野山における宗教文化（現地授業） 9. 高野山における宗教文化（かるかや物語①） 10. 高野山における宗教文化（かるかや物語②） 11. 宗教と絵巻物 12. 〈聖遺物〉と文学 13. 唱導と文学 14. 宗教と軍記文学① 15. 宗教と軍記文学② 16. 宗教を考える
前期	テキスト テキストを指定せず、プリントを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 授業中に紹介する。
2	学生に対する評価 最終レポート（70%）、小レポートなどの課題（30%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）「宗教」に関する基本用語が説明できる。 （良）「宗教」に関する各分野の考え方を説明できる。 （優）「宗教」について自分の考え方が説明できる。
浜山畑脇圭雅吾夫	その他 文学の講義ではリアクションペーパーを書いてもらう。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：歴史学、心理学、社会学の考え方を理解するとともに、「宗教」の意味を考える。 テーマ：「宗教」を考える
人間学概論Ⅱ	授業の概要 歴史学、心理学、社会学の担当者が「宗教」についてリレー授業を行い、各分野における「宗教」の考え方を紹介し、宗教が人間にとって持つ意味を考察する。
学期	授業計画 1. 社会学における宗教 2. カリスマ 3. カルト 4. 民俗宗教 5. 宗教と現代社会 6. 宗教と心理学 - 概論 - 7. 信仰と心理学（1） - 崇り考 - 8. 信仰と心理学（2） - おかげ考 - 9. 回心論 10. 宗教的世界観と心理学的信念 11. 中世仏教をめぐる呪術性と合理性 12. 中世の出生と信仰 13. 中世の死と信仰 14. 中世の他界観 15. 中世の夢観念 16. 宗教を考える
後期	テキスト テキストを指定せず、プリントを配布する。
単位数	参考書・参考資料等 授業中に紹介する。
2	学生に対する評価 最終レポート（70%）、小レポートなどの課題（30%）
担当者	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）「宗教」に関する基本用語が説明できる。 （良）「宗教」に関する各分野の考え方が説明できる。 （優）「宗教」について自分の考え方が説明できる。
坂森森口崎本太雅一郎好彦	その他

科目名 人間学基礎ゼミⅢ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：現代社会における歴史学の意義、歴史家の営みについて理解する。 テーマ：「歴史学へのいざない」
	授業の概要 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』を輪読しながら、歴史学に対する思考力・問題意識を高めることを目指す。毎回担当者を決めてテキストを読むとともに、その記述の根拠や背景を勉強し、現代歴史学に関する基礎的な知識の習得につなげる。 なお、導入として、レジメの作り方、発表の仕方、本学図書館の専門的な使い方、データベースの使い方、文献目録の作成方法を教える。また、高野山霊宝館の展示の見学会も行いたい。
	授業計画 1. オリエンテーション-レジメの作り方、発表の仕方など 2. 図書館の専門的な使い方 3. データベースの使い方、文献目録の作成方法 4. 「悩める歴史学」(以下、小田中直樹『歴史学ってなんだ?』の目次) 5. 「歴史書と歴史小説」 6. 「大きな物語は消滅したか」 7. 「正しい」認識は可能なのか 8. 高野山霊宝館の見学会 9. 「従軍慰安婦論争と歴史学」 10. 「歴史学の社会的な有用性」 11. 「高校世界史の教科書を読みなおす」 12. 「日本の歴史学の戦後史」 13. 「歴史家の営み」 14. 「歴史学の枠組みを考える」 15. 受講生による全体のまとめ 16. まとめ
	テキスト 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』(PHP新書、2004年) 書店で購入
	参考書・参考資料等 ジョン・H. アーノルド著、新広記訳『1冊でわかる』シリーズ 歴史(岩波書店、2003年) ※この他は、授業中に紹介する。
学期 前期	学生に対する評価 授業時に課す発表(50%) 授業への参加度(50%)
単位数 2	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 歴史学に関する基本用語が説明できる。 (良) 現代歴史学をとりまく諸問題について理解している。 (優) この授業で得た専門的知識を用いて、自分なりの「歴史」の探求する営みに展開できる。
担当者 坂口太郎	その他 受講生には担当を割り振って発表を求めるので、毎回予習が必要である。 授業中における活発な討論、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名 人間学基礎ゼミⅣ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：歴史学における史料調査の重要性、問題発見のプロセスについて理解するとともに、実証的な研究方法の習得をめざす。 テーマ：「歴史学と史料-常識を疑うこと、問題を発見すること-」
	授業の概要 前半部では、中塚明『歴史家の仕事』第2章「歴史家の基礎的な仕事」を輪読しながら、歴史学にとっての史料の重要性、課題発見へのプロセスを学ぶ。 後半部では、高野山における著名な伝承を取り上げ、その関係史料(古代・中世の古文書・聖教)を精読する。とくに、古い史料に遡って検討を加えることで、我々をとりまく「常識」がどのようにして成立したのかを探求していきたい。
	授業計画 1. オリエンテーション 2. 「史料にあたる」①(以下、第8回までは、中塚明『歴史家の仕事』第2章の目次) 3. 「史料にあたる」② 4. 「史料にあたる」③ 5. 「通念・既成の研究に疑問をもって仕事をしよう」 6. 「新しい史料はどのようにして見つかるか」 7. 「発見はまたつきつきと新しい研究課題を生む」 8. 「史料のつまみ食い」を排す 9. 古代・中世の高野山に関する史料を読む① 10. 古代・中世の高野山に関する史料を読む② 11. 古代・中世の高野山に関する史料を読む③ 12. 古代・中世の高野山に関する史料を読む④ 13. 古代・中世の高野山に関する史料を読む⑤ 14. 古代・中世の高野山に関する史料を読む⑥ 15. 受講生による全体のまとめ 16. まとめ
	テキスト 中塚明『歴史家の仕事』(高文協、2000年)第2章「歴史家の基礎的な仕事」 ※コピーを配布するので、購入する必要はない。
	参考書・参考資料等 セニョボス・ラングロア著、八木本浄訳『歴史学研究入門』(校倉書房、1989年) 上横手雅敏『日本史の快楽』(角川書店、2002年) 松長有慶『高野山』(岩波書店、2014年) 山陰加寿夫『歴史の旅 中世の高野山を歩く』(吉川弘文館、2014年) 丹米一志著、日本史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録調読法』(吉川弘文館、2015年) ※この他は、授業中に紹介する。
学期 後期	学生に対する評価 授業時に課す発表・参加度(60%) 自分が関心を持つテーマに関するレポート(40%)
単位数 2	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 歴史学における史料の意義について説明できる。 (良) 歴史学の史料批判の方法について理解している。 (優) この授業で得た研究手法を用いて、自分なりに「歴史」の探求する営みに応用できる。
担当者 坂口太郎	その他 受講生には担当を割り振って発表を求めるので、毎回予習が必要である。とくに、後半部の史料読解は、漢文の読解能力を必要とするので、各自漢文の予習に励んでもらう。 授業中における活発な討論、積極的な質問を大いに歓迎する。

科目名 伝統文化実習(茶道)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：茶の湯の歴史・思想の理解と精神・美意識への考察、および、基本的な所作や点前の修得。 テーマ：茶の湯における主客の心と感応
	授業の概要 日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯の歴史や思想についての理解を深めるとともに、実際に所作や点前を経験・修得したうえで、受講生自らが茶会を企画し実践する。 その体験などをとおして、茶の湯の精神や美意識について考える。
	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 講義 茶事のながれ 3. 客の所作と心得1 お茶のいただき方(薄茶) 4. 客の所作と心得2 席入りの仕方 5. 初風炉の茶会 6. 講義 茶道史1 7. 盆略点前1 割稽古 8. 盆略点前2 割稽古 9. 盆略点前3 割稽古の復習 10. 講義 茶道の道具について 11. 盆略点前4 通し稽古 12. 盆略点前5 通し稽古 13. 盆略点前6 通し稽古 14. 講義 茶の湯の文化1 15. 盆略点前7 通し稽古 16. まとめ 【後期】 1. 講義 茶道史2 2. 盆略点前の復習1 3. 盆略点前の復習2 4. 盆略点前の復習3 5. 茶の湯の文化2 6. 客の所作と心得3 お茶のいただき方(濃茶) 7. 炉開きの茶会 8. 講義 茶道史3 9. 講義 茶の湯の文化3 10. 茶会の企画と実践1 11. 茶会の企画と実践2 12. 茶会の企画と実践3 13. 茶会の企画と実践4 14. 茶会の企画と実践5 15. 初釜の茶会 16. まとめ
	テキスト 『学校茶道(初級編)』財団法人茶道文化振興財団発行 授業時に一括購入
	参考書・参考資料等 谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 谷見著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社
学期 通年	学生に対する評価 授業時に随時課す提出物 30% 茶会の企画と実践 35% 期末試験 35%
単位数 2	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 基本的な客の所作と盆略点前ができる (良) 基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある (優) 茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる
担当者 岡本文音	その他 実習の費用(茶・菓子・炭)として、前期・後期、それぞれ3000円必要です。 茶室に入れる人数に限りがありますので、受講生を制限する場合があります。

科目名 伝統文化実習(民俗調査)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：受講生自らが調査計画を立て、地域調査を行い、報告書を作成する。 テーマ：地域調査
	授業の概要 地域調査法の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。
	授業計画 1. 地域調査の概要 2. テーマを設定する(1) 3. 地域を歩く(1) 4. テーマの設定する(2) 5. 地図を読む(1) 6. 地域を歩く(2) 7. 地図を読む(2) 8. 調査計画書を作成する(1) 9. 調査法について知る 10. 質的調査について知る 11. 量的調査について知る 12. 調査計画書を作成する(2) 13. 既存資料を収集する(1) 14. 既存資料を収集する(2) 15. 調査項目を検討する(1) 16. 調査項目を検討する(2) 17. 調査を実施する(1) 18. 調査を実施する(2) 19. 調査を実施する(3) 20. 中間報告(1) 21. 追加調査を実施する(1) 22. 追加調査を実施する(2) 23. 追加調査を実施する(3) 24. 中間報告(2) 25. 調査報告書を作成する(1) 26. 調査報告書を作成する(2) 27. 調査報告書を作成する(3) 28. 調査報告書を作成する(4) 29. 受講生の報告(1) 30. 受講生の報告(2) 31. 調査報告書を修正する 32. 調査を振り返る
	テキスト プリントを配布する。
	参考書・参考資料等 上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館 その他授業中に紹介する。
学期 通年	学生に対する評価 報告書(50%)、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度(50%)
単位数 2	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 高野山の地図の作成において、自らテーマを選び、調査計画を立てることができる。 (良) 調査計画に基づいて、調査ができる。 (優) 自らの調査に基づき、高野山の地図が作成するとともに、地図についての説明ができる。
担当者 森本一彦	その他 本授業は、受講生の積極的な授業参加とともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 21世紀の今日、社会から必要とされ期待される人材とはコミュニケーション力と協調力、そして将来力を持つ「本人力」と、変動する社会に対し情報収集力と理解力を備えた「社会的教養力」、この2つの「社会人基礎力」を身につけます。	科目名
(キャリアカウンセリングⅡ) 社会人基礎力	授業の概要 「社会人基礎力」の重要性を学び、日本及び世界の社会状況、日本の特性を政治・風土・経済産業・文化等すべての面から社会教養力向上を目指す。またコミュニケーション、マナー、自己管理など実践的トレーニングにより修得する。	
学期	授業計画 1. 日本のこれまでとこれから 2. 日本の産業構造の特色と内容①-社会インフラ産業の特色と内容 3. 日本の産業構造の特色と内容②-日本の製造業界(メーカー)の特色と内容 4. 日本の産業構造の特色と内容③-日本の流通・販売業界の特色と内容 5. 日本の産業構造の特色と内容④-日本のサービス業界の特色と内容 6. 日本の産業構造の特色と内容⑤-日本の金融業界の特色と内容 7. 日本の企業社会構造の特色と内容①-企業理念の重要性・企業の組織構造 8. 日本の企業社会構造の特色と内容②-企業の部門と業務内容 9. 企業の社会的責任-従業員として働くことの基本知識 10. 社会人に必要な基本能力①-社会人マナー力の内容と方法 11. 社会人に必要な基本能力②-社会人コミュニケーション力の内容と方法 12. 社会人に必要な基本能力③-社会情報力の内容と方法 13. 社会人に必要な基本能力④-目標開発力の内容と方法 14. 社会人に必要な基本能力⑤-自己管理力の内容と方法 15. 社会人に必要な基本能力⑥-自己PR力の内容と方法 16. 期末試験	学期
後期		
単位数	テキスト 講師作成資料を配布する。	単位数
2	参考書・参考資料等 改訂版「社会人基礎力」加賀 博 著 (2015年 公益財団法人 日本生産性本部 発行) 他は授業内で紹介する。	
担当者	学生に対する評価 授業態度・自己チェックレポート(毎回提出)(40%) 期末試験(60%)	担当者
加賀博	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 講義内容を理解でき、積極的意見発表、質問ができる。 (良) 講義テーマについてセルフワークが十分でき、グループワークで議論ができる。 (優) 講義テーマについてプレゼンテーションやマネジメントができる。	
	その他 将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考え、学生相互に刺激し合い、啓発し合うことを望みます。	

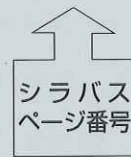
科目名		科目名
学期		学期
単位数		単位数
担当者		担当者

大 学 院

◆目次について

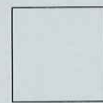
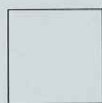
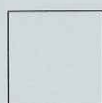
この『平成 28 年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学年のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備 考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門	藤 田 光 寛	2	1 年次	-		1



◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。



(5ケタ)

課程

5 = 文学部生用
8 = 別科生用
9 = 大学院生用

曜日

1 = 月曜日
2 = 火曜日
3 = 水曜日
4 = 木曜日
5 = 金曜日
6 = 土曜日
7 = 集中講義
8 = 実習
9 = 論文

時限

1 = 1 講時
2 = 2 講時
3 = 3 講時
4 = 4 講時
5 = 5 講時

通し番号

01 ~ 49 = 前期授業
および通年授業
51 ~ 99 = 後期授業

◆受講登録について

- 1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、4月7日（木）から4月15日（金）午後5時までに教務係へ提出してください。
- 2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。
 - ① 学籍番号（※ 身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。
 - ② 履修登録欄には、今年度受講するすべての授業科目を、『平成28年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（修士論文も含む）を記入してください。
- 3 履修登録票を教務係へ提出した学生は、4月22日（金）から4月26日（火）午後5時までに、教務係で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務係へ提出してください。
- 4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。
- 5 後期（9月26日開講）授業科目の追加及び登録変更は、9月26日（月）から9月30日（金）午後5時までの後期履修登録変更期間に、教務係へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。

それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」になりますので留意してください。

◆報恩日（21日）の授業実施について

報恩日（21日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

1. 文学研究科修士課程（修了要件：30 単位）

[密教学専攻 博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
後期	月	2	91251	密教学講義（大）	乾 仁 志	2	8 単位を超えて修了要件に参入できない。	院-1
後期	木	1	94151	仏教学講義（大）	加 納 和 雄	2		院-1
後期	金	2	95251	インド学講義（大）	奥 山 直 司	2		院-1
前期	月	3	91301	祖典演習（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-1

2) 主要科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究 A-1（大）	T. ドライトライン	2	8/4 ~ 8/8	院-2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究 A-2（大）	T. ドライトライン	2		院-2
集中	-	-	97001	密教学特殊研究 B（大）	田 中 公 明	2		院-2
前期	金	2	95201	密教史特殊研究 1（大）	土 居 夏 樹	2		院-2
後期	金	2	95252	密教史特殊研究 2（大）	土 居 夏 樹	2	主要科目 12 単位必修	院-3
前期	水	1	93101	密教学演習 A-1（大）	南 昌 宏	2		院-3
後期	水	1	93151	密教学演習 A-2（大）	南 昌 宏	2		院-3
前期	水	2	93201	密教学演習 B-1（大）	乾 仁 志	2		院-3
後期	水	2	93251	密教学演習 B-2（大）	乾 仁 志	2		院-4
前期	火	3	92301	密教史演習 A-1（大）	奥 山 直 司	2		院-4
後期	火	3	92351	密教史演習 A-2（大）	奥 山 直 司	2		院-4
前期	水	2	93202	密教史演習 B-1（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-4
後期	水	2	93252	密教史演習 B-2（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-5
後期	月	3	91351	密教学講読（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-5
前期	月	2	91201	密教史講読 1（大）	松 長 恵 史	2		院-5
後期	月	2	91252	密教史講読 2（大）	松 長 恵 史	2		院-5
後期	水	1	93152	現代社会と宗教（大）	奥 山 直 司	2	社会人コースは 4 単位必修	院-6
前期	水	1	93102	密教と文化（大）	前 谷 彰	2		院-6
前期	金	3	95301	事相研究 I-1（大）	齋 藤 天 譽	2	僧侶コースは 4 単位必修	院-6
後期	金	3	95351	事相研究 I-2（大）	齋 藤 天 譽	2		院-6
前期	木	3	94303	事相研究 II-1（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-7
後期	木	3	94352	事相研究 II-2（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-7

3) 関連科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	3	94301	仏教学特殊研究（大）	前 谷 彰	2		院-7
後期	水	1	93153	仏教史特殊研究（大）	加 納 和 雄	2		院-7
前期	水	2	93203	仏教学演習 1（大）	加 納 和 雄	2		院-8
後期	水	2	93253	仏教学演習 2（大）	加 納 和 雄	2		院-8
前期	火	3	92302	仏教史演習 A-1（大）	前 谷 彰	2		院-8
後期	火	3	92352	仏教史演習 A-2（大）	前 谷 彰	2		院-8
前期	月	5	91501	仏教史講読 1（大）	浜 畑 圭 吾	2		院-9
後期	月	5	91551	仏教史講読 2（大）	浜 畑 圭 吾	2		院-9

4) 共通科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	備 考	頁
集中	-	-	97002	密教実践法の研究 1 (大)	甲 田 宥 咩	2	8/1 ~ 8/3	院 -9
集中	-	-	97003	密教実践法の研究 2 (大)	甲 田 宥 咩	2	9/12 ~ 9/14	院 -9
前期	水	3	93301	仏教芸術の研究 1 (大)	和 田 圭 子	2		院 -10
後期	水	3	93351	仏教芸術の研究 2 (大)	和 田 圭 子	2		院 -10
後期	水	1	93154	アジア地域の宗教文化の研究 (大)	井 上 ウ ィ マ ラ	2		院 -10
前期	木	2	94202	比較宗教の研究 (大)	森 本 一 彦	2		院 -10
前期	木	3	94302	現代社会と仏教の研究 1 (大)	T.ドライトライン	2		院 -11
後期	木	3	94351	現代社会と仏教の研究 2 (大)	T.ドライトライン	2		院 -11
集中	-	-	97004	教育学特殊研究 (大)	山 脇 雅 夫	2		院 -11

5) 修士論文

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	備 考	頁
通年	-	-	99001	修士論文 (密教学)	副 学 長	0		-
前期	-	-	99003	修士論文 (密教学) (前期)	副 学 長	0	7月提出許可者	-

2. 文学研究科修士課程（修了要件：30 単位）

[仏教学専攻 博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
後期	月	2	91251	密教学講義（大）	乾 仁 志	2	8 単位を超えて修了要件に 参入できない。	院-1
後期	木	1	94151	仏教学講義（大）	加 納 和 雄	2		院-1
後期	金	2	95251	インド学講義（大）	奥 山 直 司	2		院-1
前期	月	3	91301	祖典演習（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-1

2) 主要科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	3	94301	仏教学特殊研究（大）	前 谷 彰	2	主要科目12単位必修	院-7
後期	水	1	93153	仏教史特殊研究（大）	加 納 和 雄	2		院-7
前期	水	2	93203	仏教学演習 1（大）	加 納 和 雄	2		院-8
後期	水	2	93253	仏教学演習 2（大）	加 納 和 雄	2		院-8
前期	火	3	92302	仏教史演習 A-1（大）	前 谷 彰	2		院-8
後期	火	3	92352	仏教史演習 A-2（大）	前 谷 彰	2		院-8
前期	月	5	91501	仏教史講読 1（大）	浜 畑 圭 吾	2		院-9
後期	月	5	91551	仏教史講読 2（大）	浜 畑 圭 吾	2		院-9
後期	水	1	93152	現代社会と宗教（大）	奥 山 直 司	2		社会人コースは 4 単位必修
前期	水	1	93103	仏教と文化（大）	前 谷 彰	2	院-6	
前期	金	3	95301	事相研究 I-1（大）	齋 藤 天 譽	2	僧侶コースは 4 単位必修	院-6
後期	金	3	95351	事相研究 I-2（大）	齋 藤 天 譽	2		院-6
前期	木	3	94303	事相研究 II-1（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-7
後期	木	3	94352	事相研究 II-2（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-7

3) 関連科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究 A-1（大）	T. ドライトライン	2		院-2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究 A-2（大）	T. ドライトライン	2		院-2
集中	-	-	97001	密教学特殊研究 B（大）	田 中 公 明	2	8/4 ~ 8/8	院-2
前期	金	2	95201	密教史特殊研究 1（大）	土 居 夏 樹	2		院-2
後期	金	2	95252	密教史特殊研究 2（大）	土 居 夏 樹	2		院-3
前期	水	1	93101	密教学演習 A-1（大）	南 昌 宏	2		院-3
後期	水	1	93151	密教学演習 A-2（大）	南 昌 宏	2		院-3
前期	水	2	93201	密教学演習 B-1（大）	乾 仁 志	2		院-3
後期	水	2	93251	密教学演習 B-2（大）	乾 仁 志	2		院-4
前期	火	3	92301	密教史演習 A-1（大）	奥 山 直 司	2		院-4
後期	火	3	92351	密教史演習 A-2（大）	奥 山 直 司	2		院-4
前期	水	2	93202	密教史演習 B-1（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-4
後期	水	2	93252	密教史演習 B-2（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-5
後期	月	3	91351	密教学講読（大）	佐 藤 隆 彦	2		院-5
前期	月	2	91201	密教史講読 1（大）	松 長 恵 史	2		院-5
後期	月	2	91252	密教史講読 2（大）	松 長 恵 史	2		院-5

4) 共通科目

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	備 考	頁
集中	-	-	97002	密教実践法の研究 1 (大)	甲 田 宥 呷	2	8/1 ~ 8/3	院-9
集中	-	-	97003	密教実践法の研究 2 (大)	甲 田 宥 呷	2	9/12 ~ 9/14	院-9
前期	水	3	93301	仏教芸術の研究 1 (大)	和 田 圭 子	2		院-10
後期	水	3	93351	仏教芸術の研究 2 (大)	和 田 圭 子	2		院-10
後期	水	1	93154	アジア地域の宗教文化の研究 (大)	井 上 ウ ィ マ ラ	2		院-10
前期	木	2	94202	比較宗教の研究 (大)	森 本 一 彦	2		院-10
前期	木	3	94302	現代社会と仏教の研究 1 (大)	T.ドライトライン	2		院-11
後期	木	3	94351	現代社会と仏教の研究 2 (大)	T.ドライトライン	2		院-11
集中	-	-	97004	教育学特殊研究 (大)	山 脇 雅 夫	2		院-11

5) 修士論文

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	備 考	頁
通年	-	-	99002	修士論文 (仏教学)	副 学 長	0		-
前期	-	-	99004	修士論文 (仏教学) (前期)	副 学 長	0	7月提出許可者	-

3. 文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

〔密教学専攻〕

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究 A-1 (大)	T.ドライトライン	2	8/4~8/8 密教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。 (複数回履修可)	院-2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究 A-2 (大)	T.ドライトライン	2		院-2
集中	-	-	97001	密教学特殊研究 B (大)	田 中 公 明	2		院-2
前期	金	2	95201	密教史特殊研究 1 (大)	土 居 夏 樹	2		院-2
後期	金	2	95252	密教史特殊研究 2 (大)	土 居 夏 樹	2		院-3
前期	水	1	93101	密教学演習 A-1 (大)	南 昌 宏	2		院-3
後期	水	1	93151	密教学演習 A-2 (大)	南 昌 宏	2		院-3
前期	水	2	93201	密教学演習 B-1 (大)	乾 仁 志	2		院-3
後期	水	2	93251	密教学演習 B-2 (大)	乾 仁 志	2		院-4
前期	火	3	92301	密教史演習 A-1 (大)	奥 山 直 司	2		院-4
後期	火	3	92351	密教史演習 A-2 (大)	奥 山 直 司	2		院-4
前期	水	2	93202	密教史演習 B-1 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-4
後期	水	2	93252	密教史演習 B-2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-5
後期	月	3	91351	密教学講読 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-5
前期	月	2	91201	密教史講読 1 (大)	松 長 恵 史	2		院-5
後期	月	2	91252	密教史講読 2 (大)	松 長 恵 史	2		院-5
前期	金	4	95401	密教特殊演習 1 (大)	南 昌 宏	2	院-12	
後期	金	4	95451	密教特殊演習 2 (大)	南 昌 宏	2	院-12	

〔仏教学専攻〕

学期	曜日	時限	コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	3	94301	仏教学特殊研究 (大)	前 谷 彰	2	仏教特殊演習 4 単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。 (複数回履修可)	院-7
後期	水	1	93153	仏教史特殊研究 (大)	加 納 和 雄	2		院-7
前期	水	2	93203	仏教学演習 1 (大)	加 納 和 雄	2		院-8
後期	水	2	93253	仏教学演習 2 (大)	加 納 和 雄	2		院-8
前期	火	3	92302	仏教史演習 A-1 (大)	前 谷 彰	2		院-8
後期	火	3	92352	仏教史演習 A-2 (大)	前 谷 彰	2		院-8
前期	月	5	91501	仏教史講読 1 (大)	浜 畑 圭 吾	2		院-9
後期	月	5	91551	仏教史講読 2 (大)	浜 畑 圭 吾	2		院-9

講 義 概 要

•

授 業 計 画

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。 テーマ：密教の基礎知識の養成
	授業の概要 インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにはならなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。
	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 真言密教の仏陀観：①釈迦如来から大日如来へ 3. 真言密教の仏陀観：②大日如来と四仏（五仏）・密教の仏身観 4. 真言密教の仏陀観：③様々な信仰の対象、密教の祖師 5. 曼荼羅：①两部曼荼羅の成立 6. 曼荼羅：②四種曼荼羅とは 7. 真言密教の人間観：①空海と心の本性の探求 8. 真言密教の人間観：②心性本淨思想の源流 9. 即身成仏への道：①密教の三昧耶戒 10. 即身成仏への道：②浄菩提心と観法 11. 即身成仏への道：③四重禁戒と十善戒 12. 即身成仏思想：①六大・四曼・三密 13. 即身成仏思想：②即身の意味と三種即身成仏 14. 密教の特性 15. 試験 16. 試験の解答と確認
	学期
	後期
	単位数
2	
担当者	学生に対する評価 試験（80%）、授業参加への積極性（20%）
乾 仁 志	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）密教の基本的な用語を理解している。 （良）配布した資料の説明ができる。 （優）密教の基本的な概念に対する理解ができています。
	その他 講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。 授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートすること。 （注）上記「授業参加への積極性」はノートを点検して採点します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教の基礎知識についての確認作業を行い、仏教の思想が将来的にどのように生かされるかについて、それぞれの認識を深めてもらう。 テーマ：仏教とは何か
	授業の概要 仏教とは何かについての基本的疑問を提示することによって、仏教が初期・大乘・密教と歴史的に展開してきた足跡を追うことによって、仏教の何たるかについての基本的問題に焦点を絞る。
	授業計画 1. オリエンテーション 2. 初期仏教の基礎知識の確認（1） 3. 初期仏教の基礎知識の確認（2） 4. アビダルマの基礎知識の確認 5. 大乘仏教の起源について（1） 6. 大乘仏教の起源について（2） 7. 大乘とは何か（1） 8. 大乘とは何か（2） 9. 密教とは何か（1） 10. 密教とは何か（2） 11. 初期仏教思想を現代にどのように生かすか 12. 大乘・密教を現代にどのように生かすか 13. 現代への応用とその方法論的疑問（1） 14. 現代への応用とその方法論的疑問（2） 15. 現代への応用とその方法論的疑問（3） 16. 総まとめ
	学期
	後期
	単位数
2	
担当者	学生に対する評価 授業時に指示する課題をどれだけこなしているか（50%）、学期末のレポート（50%）によって評価する
加 納 和 雄	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）仏教の基礎語彙を抑えている。 （良）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。 （優）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。
	その他 受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：①インド・チベットの仏教図像に関する基礎的な知識と研究方法を身につける。 ②チベットの仏像を見た時に、その名称が言えるようになる。 ③インド・チベット仏教史の流れを理解する。 テーマ：インド・チベット密教の図像資料の研究
	授業の概要 チベット探検で知られる河口慧海が持ち帰った図像資料などに基づいて、インド・チベット仏教美術の主題と表現形式及び、さらに『三百尊図像集』などを用いて、図像の解説の練習を行う。あわせてインド・チベット仏教史の流れについて基礎的な知識の整理を行う。
	1. イントロダクション：チベットのタンカをどう見るか 2. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式1 3. インド・チベット仏教美術の主題と表現形式2 4. 河口慧海とそのコレクション 5. 河口慧海コレクション1 6. 河口慧海コレクション2 7. 河口慧海コレクション3 8. 河口慧海コレクション4 9. 『三百尊図像集』1 10. 『三百尊図像集』2 11. 『三百尊図像集』3 12. 『三百尊図像集』4 13. 『三百尊図像集』5 14. 『三百尊図像集』6 15. 『三百尊図像集』7 16. まとめ
	学期
	後期
	単位数
2	
担当者	学生に対する評価 提出物の評価を含む授業参加状況（60%）、期末レポート（40%）
奥 山 直 司	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）チベット仏教と日本仏教の尊各分類法の違いを述べることができる。 （良）資料を参照しながら、チベット仏教の尊像を同定できる。 （優）チベット仏教の尊像の特徴が大体において頭に入っている。
	その他 遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：『呬字義』の総合的理解 テーマ：密教実践の教理的解釈
	授業の概要 『呬字義』は『即身義』『声字義』とあわせて三部書といわれる。ところが、内容には密教の実践法とも密接なかわりがありが想定される。そこで、『呬字義』と密教実践について着目してみたい。特に密教教理と密教実践との接点を『呬字義』に探り、多角的総合的に理解を深めたい。
	授業計画 1. オリエンテーション 2. 『呬字義』の成立背景 3. 『呬字義』の綱領 4. 『呬字義』の講読 5. 『呬字義』の講読 6. 『呬字義』の講読 7. 『呬字義』の講読 8. 『呬字義』の講読 9. 『呬字義』と『阿字観用心口訣』 10. 『呬字義』と『阿字観用心口訣』 11. 『呬字義』と『秘藏記』 12. 『呬字義』と『秘藏記』 13. 『呬字義』と字輪観 14. 『呬字義』と字輪観 15. 総復習とレポート提出 16. 総括
	学期
	前期
	単位数
2	
担当者	学生に対する評価 授業参加の積極性（40%）・試験（60%）で評価する。
佐 藤 隆 彦	ルーブリック（目標に準拠した評価） （可）漢文にて『呬字義』が読める （良）『呬字義』について自分の言葉で説明ができる。 （優）『呬字義』について独自の知見を合理的に説明できる。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：空海の英訳三部作の現代語訳を通じてその思想を理解し、わかりやすく他に伝えることができる。 テーマ：空海の英訳三部作を現代語訳する－英訳から現代日本語へ－
密教学特殊研究A-1(大)	授業の概要 高木神元・T. ドライトラインの共著である空海の三部作の英訳をテキストとして現代和訳をしながら、空海の思想の現代における意義を吟味し、意見交換、ディスカッションや発表で進めていく。
学期	授業計画 1. 空海の思想的展開とその思想史意義 2. 『即身成佛義』1 3. 同上2 4. 同上3 5. 同上4 6. 同上5 7. 同上6 8. 同上7 9. 同上8 10. 同上9 11. 同上10 12. 同上11 13. 同上12 14. 同上13 15. 同上14 16. まとめ
前期	テキスト Takagi, Shingen and Dreitlein, Thomas Eijō. <i>Kūkai on the Philosophy of Language</i> . Tokyo: Keio University Press, 2010.
単位数	参考書・参考資料等 『定本弘法大師全集』、小田慈舟『十巻章講説』、Hakeda, Yoshito, <i>Kūkai: Major Works</i> 、その他
2	学生に対する評価 レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 原文と英訳を解説し現代日本語で解説できる。 (良) 原文と英訳を解説し現代日本語で解説し、その意義について説明できる。 (優) 原文と英訳を解説し現代日本語で解説し、空海の思想をまとめることができる。
T. ドライトライン	その他 参加型の授業で、受講生全員は予習として毎回該当する英文のテキストを和訳・研究する。 テキストのテーマに合わせて、空海の思想について受講生による発表を行う。 上級の英文読解力を必要とする。授業は日本語で進める。 プログラムは改訂される場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：空海の英訳三部作の現代語訳を通じてその思想を理解し、わかりやすく他に伝えることができる。 テーマ：空海の英訳三部作を現代語訳する－英語から現代日本語へ－
密教学特殊研究A-2(大)	授業の概要 高木神元・T. ドライトラインの共著である空海の三部作の英訳をテキストとして現代和訳をしながら、空海の思想の現代における意義を吟味し、意見交換、ディスカッションや発表で進めていく。
学期	授業計画 1. 空海の思想的展開とその思想史意義 2. 『声字実相義』1 3. 同上2 4. 同上3 5. 同上4 6. 同上5 7. 同上6 8. 同上7 9. 『卍字義』1 10. 同上2 11. 同上3 12. 同上4 13. 同上5 14. 同上6 15. 同上7 16. まとめ
後期	テキスト Takagi, Shingen and Dreitlein, Thomas Eijō. <i>Kūkai on the Philosophy of Language</i> . Tokyo: Keio University Press, 2010.
単位数	参考書・参考資料等 『定本弘法大師全集』、小田慈舟『十巻章講説』、Hakeda, Yoshito, <i>Kūkai: Major Works</i> 、その他
2	学生に対する評価 レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 原文と英訳を解説し現代日本語で解説できる。 (良) 原文と英訳を解説し現代日本語で解説し、その意義について説明できる。 (優) 原文と英訳を解説し現代日本語で解説し、空海の思想をまとめることができる。
T. ドライトライン	その他 参加型の授業で、受講生全員は予習として毎回該当する英文のテキストを和訳・研究する。 テキストのテーマに合わせて、空海の思想について受講生による発表を行う。 上級の英文読解力を必要とする。授業は日本語で進める。 プログラムは改訂される場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言密教の思想を象徴する曼荼羅が、インドでどのように成立したかを理解する。 テーマ：曼荼羅の歴史的発展
密教学特殊研究B(大)	授業の概要 弘法大師空海によってわが国に請来された両界曼荼羅の成立過程を説明するとともに、日本における独自の展開、チベット・ネパールに伝えられた後期密教の曼荼羅までを概観する。
学期	授業計画 1. 序章－両界曼荼羅の伝播－ 2. 胎藏曼荼羅の成立(1) 三尊形式から三部へ 3. 胎藏曼荼羅の成立(2) 胎藏曼荼羅と八大菩薩 4. 胎藏曼荼羅の成立(3) 胎藏五仏の成立 5. 金剛界曼荼羅の成立(1) 三部から五部へ 6. 金剛界曼荼羅の成立(2) 『理趣経』と金剛界曼荼羅 7. 金剛界曼荼羅の成立(3) 南天鉄塔の謎を解く 8. 別尊曼荼羅の世界 9. 曼荼羅の日本的展開(1) 浄土系・法華日蓮系の曼荼羅 10. 曼荼羅の日本的展開(2) 神仏習合・修験系の曼荼羅 11. 東北チベットに両界曼荼羅の源流を訪ねる 12. 後期密教の曼荼羅(1) 『秘密集会タントラ』 13. 後期密教の曼荼羅(2) 『時輪タントラ』 14. CGを用いた曼荼羅の図像データベース 15. エミール・ギメの立体曼荼羅 16.
集中	テキスト 田中公明著『両界曼荼羅の誕生』(春秋社) [昨春秋の慶応大学の講義で完売品切、現在善後策を検討中]
単位数	参考書・参考資料等
2	学生に対する評価 授業参加の積極性・レポート各50点、100点満点で採点。50点以上を単位取得とする。 レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 講義の内容を一通り理解しているが、一部に記憶違い等がある。(66-50) (良) 講義の内容を一通り理解し、自分の意見を表明している。(83-67) (優) 講義の内容を正しく理解し、自分の意見を的確に表明している。(100-84)
田中公明	その他 レポートの誤字脱字・ワープロの変換間違いなどは、減点の対象となるので注意すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山の伝統教学を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたかについて理解する。 テーマ：『即身義開書附録〈首竹〉』を読む1。
密教史特殊研究1(大)	授業の概要 空海以降の真言宗では、台密の展開や新しい宗派の興隆など、さまざまな状況にさらされることとなる。その中で、平安時代後期から真言密教の教学研究が盛んとなり、鎌倉期に入ると高野山上でも「高野の四哲」「高野八傑」といった学僧が出現する。しかしながら、彼らの教学については、そのほとんどが不明と言わざるを得ない。この講義では、嘉禄元年(1225)に勝蓮華院で行われたとの奥書を持つ『即身成佛義』に関する論叢集を取り上げ、鎌倉期高野山の教学状況をうかがうとともに、真言教学史における高野山の位置づけについて、受講生とともに考えたい。
学期	授業計画 1. 概論(講義の進め方についてのオリエンテーション) 2. 高野山の教学① 高野山学道史概観 3. 〃 〃 ② 覚海・四哲・八傑 4. 『即身義開書附録〈首竹〉』について 5. 『問不改迷情所見凡身可即身成佛耶』① 6. 〃 〃 ② 7. 『問後十六大生成正覚(文)所云正覚指金剛拳位歟』① 8. 〃 〃 ② 9. 『問而成身秘密(文)大師何釈給耶』① 10. 〃 〃 ② 11. 『問現世得成無上覚(文)心王心教成仏中可云何耶』① 12. 〃 〃 ② 13. 『問一切真言行者悉可即身成佛乎』① 14. 〃 〃 ② 15. 期末テスト 16. まとめ
前期	テキスト 『即身義開書附録〈首竹〉』(『カリフォルニア大学所蔵梅尾コレクション頻密密教文書集成』第五巻、教相編5、平河出版社、1981年)。 ※授業中にコピーを配布します。
単位数	参考書・参考資料等 梅尾祥雲『日本密教史』、『梅尾祥雲全集』6、密教文化研究所、1982年。 ※その他、授業中に指示します。
2	学生に対する評価 授業内での発表(70%)、レポート(30%)で評価します。
担当者	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 写本資料の内容を解説することができる。 (良) 論義の内容を、他の類似する論義と比較してその特徴を論じることができる。 (優) 同類の論義も含めた問題の発生原因を説明することができる。
土居夏樹	その他 ・この授業は特殊研究ですが、担当を決めて発表資料を作り、発表してもらいます。 ・担当に無断で欠席した者は、失格にします。 ・受講生の理解や希望に応じて進捗や進め方を変更する場合があります。

科目名 密教史特殊研究2(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山の伝統教学を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたかについて理解する。 テーマ：『即身義開書附録(首竹)』を読む。
	授業の概要 空海以降の真言宗では、空海の展開や新しい宗派の興隆など、さまざまな状況にさらされることとなる。その中で、平安時代後期から真言密教の教学研究が盛んとなり、鎌倉期に入って高野山上でも「高野の四哲」「高野八傑」といった学僧が出現する。しかしながら、彼らの教学については、そのほとんどが不明と言わざるを得ない。この講義では、前期に引き続き、『即身義開書附録(首竹)』を読み進める。『即身義』の内容が、後世様々な解釈され、今日の「即身成仏」理解にどのように関わっているのか、さらには教相と事相との関連から問題が発生していることを、具体的な議論の考察を通して、受講生とともに確認したい。
	授業計画 1. 概論(講義の進め方についてのオリエンテーション) 2. 問六大無碍常瑜伽等二行即身成仏四字配釈如何① 3. ② 4. 「問六大四曼可云有互為能生所生の義耶」① 5. ② 6. 「問自宗意第六識大可有形色形耶」① 7. ② 8. 「問一大処余五大涉入相应乎」① 9. ② 10. 「問諸法与法相等項中以菩薩声聞配釈化身有何故乎」① 11. ② 12. 「探総大曼控錫現磨可云在法界宮中乎」① 13. ② 14. 『即身義開書附録(首竹)』のまとめ 15. 期末テスト 16. まとめ
	テキスト 『即身義開書附録(首竹)』(『カリフォルニア大学所蔵梅尾コレクション 顯密典籍文書集成』第五巻、教相編5、平河出版社、1981年)。 ※授業中にコピーを配布します。
	参考書・参考資料等 梅尾祥雲『日本密教史』、『梅尾祥雲全集』6、密教文化研究所、1982年。 ※その他、授業中に指示します。
	学生に対する評価 授業内での発表(70%)、レポート(30%)で評価します。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 写本資料の内容を解説することができる。 (良) 論義の内容を、他の類似する論義と比較してその特徴を論じることができる。 (優) 同類の論義も含めた問題の発生原因を説明することができる。
	その他 ・この授業は特殊研究ですが、担当を決めて発表資料を作り、発表をしてもらいます。 ・担当回に無断で欠席した者は、失格にします。 ・受講生の理解や希望に応じて進捗や進め方を変更する場合があります。
	学期 後期
	単位数 2
担当者 土居夏樹	

科目名 密教史特殊研究2(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査手法を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。 テーマ：『高野春秋編年輯録』を読む。
	授業の概要 受講者は、授業に際して、文献の書き下し文、語彙の解説などを作成し、必要に応じて、補助的な資料を準備しなければならない。受講生相互の質疑によって、理解を深める。受講生には、板書による発表を求める。小テストを毎回行う。
	授業計画 1. ガイダンス 2. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 3. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 4. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 5. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 6. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 7. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 8. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 9. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 10. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 11. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 12. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 13. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 14. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 15. 期末試験 16. 答案返却
	テキスト 日野西真定『高野春秋編年輯録』のコピーを配布する。
	参考書・参考資料等 『密教大辞典』『仏教語大辞典』『大漢和辞典』『国史大辞典』など。
	学生に対する評価 発表50%。発表回数最多の者を50点とし、回数に応じて比例配点する。期末試験50%。授業中に発言がない者は欠席とする。合格点に満たない者には、小テスト1回を1点として加算する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 漢文を書き下し文にできる。 (良) 専門用語を除けば、漢文を読解できる。 (優) 専門用語を十分に理解し、漢文を読解できる。
	その他 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。
	学期 前期
	単位数 2
担当者 南昌宏	

科目名 密教史特殊研究2(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：文献研究に関わる者としての基本的な読解力・調査手法を養い、論文執筆に際しての形式などを修得し、文献を批判的に読む訓練をする。 テーマ：『高野春秋編年輯録』を読む。
	授業の概要 受講者は、授業に際して、文献の書き下し文、語彙の解説などを作成し、必要に応じて、補助的な資料を準備しなければならない。受講生相互の質疑によって、理解を深める。受講生には、板書による発表を求める。小テストを毎回行う。
	授業計画 1. ガイダンス 2. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 3. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 4. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 5. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 6. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 7. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 8. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 9. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 10. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 11. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 12. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 13. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 14. 『高野春秋編年輯録』 巻第12の読解 15. 期末試験 16. 答案返却
	テキスト 日野西真定『高野春秋編年輯録』巻第12のコピーを配布する。
	参考書・参考資料等 『密教大辞典』『仏教語大辞典』『大漢和辞典』『国史大辞典』など。
	学生に対する評価 発表50%。発表回数最多の者を50点とし、回数に応じて比例配点する。期末試験50%。授業中に発言がない者は欠席とする。合格点に満たない者には、小テスト1回を1点として加算する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 漢文を書き下し文にできる。 (良) 専門用語を除けば、漢文を読解できる。 (優) 専門用語を十分に理解し、漢文を読解できる。
	その他 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。
	学期 後期
	単位数 2
担当者 南昌宏	

科目名 密教史特殊研究2(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：末註書を通じて漢文読解力と密教経典や註釈書等に対する知識を培う。 テーマ：『大日経』を読む。
	授業の概要 空海の代表的な著作に『十住心論』がある。悟りにいたるまでの心の過程を十段階に分け、それらの十段階に教理的な説明を加えて、当時の諸思想を批判し、真言密教の深義を宣揚したものである。この十住心思想の骨格を形成するための典拠となっているのが『大日経』および『大日経疏』である。本年度も『大日経疏』の末註書の一つである有快口説『大日経疏鈔』を読み進めながら、『大日経』についての理解を深めていく。
	授業計画 1. シラバスの説明、講義の進め方等 2. 『大日経』の原典資料と研究資料の紹介 3. 『大日経』の内容概略の説明 4. 『大日経疏鈔』を読む1 5. 同上2 6. 同上3 7. 同上4 8. 同上5 9. 同上6 10. 同上7 11. 同上8 12. 同上9 13. 同上10 14. 同上11 15. レポート提出 16. レポート講評
	テキスト 有快口説『大日経疏鈔』大正60巻・2218番(主に高野山大学図書館版本を使用。コピー配布) 【付】1) 善無畏・一行共訳『大毘盧遮那成佛神變加持經』大正18巻848番 2) 一行記『大毘盧遮那成佛經疏』大正39巻1796番
	参考書・参考資料等 福田成成訳『大日経』(新国訳大蔵経 密教部1)大蔵出版 神林隆澄訳『大日経疏上』(国訳一切経 和漢撰述部 経疏部14)大東出版社 松長有慶『密教経典解説』(現代密教講座 第二巻)大東出版社 頼富本宏著『大日経入門』大法輪閣 その他
	学生に対する評価 レポート(80%)、授業参加への積極性(20%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) テキストの漢文を訓読することができる。 (良) テキストの漢文を訓読し、用語について説明できる。 (優) テキストの漢文を訓読し、用語について説明でき、引用文の典拠を確認できる。
	その他 授業に望むにあたっては、予め漢文が読めるように予習しておくこと。その上で、用語の意味を調べ、内容が理解できるように努めること。また引用文については典拠を確認しておくこと。
	学期 前期
	単位数 2
担当者 乾仁志	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：末註書を通じて漢文読解力と密教經典や註釈書等に対する知識を培う テーマ：『大日経』を読む
密教学演習B12(大)	
学期	後期
単位数	2
担当者	乾仁志
授業の概要	前期に引き続いて『大日経疏鈔』(続き)を取り上げる。なお後期には卒業論文・修士論文の中間報告会を実施する。
授業計画	1. 卒論・修論 中間報告会 2. 卒論・修論 中間報告会 3. 『大日経疏鈔』を読む1 (前期分の確認) 4. 同上2 (前期分の続き) 5. 同上3 6. 同上4 7. 同上5 8. 同上6 9. 同上7 10. 同上8 11. 同上9 12. 同上10 13. 同上11 14. 同上12 15. レポート提出 16. レポート講評
テキスト	有快口説『大日経疏鈔』大正60巻・2218番(主に高野山大学図書館版本を使用。コピー配布) 〔参考〕1) 善無畏・一行共訳『大毘盧遮那成佛神變加持經』大正18巻848番 2) 一行記『大毘盧遮那成佛経疏』大正39巻1796番
参考書・参考資料等	福田亮成訳『大日経』(新国訳大藏経 密教部1) 大藏出版 神林隆浄訳『大日経疏上』(国訳一切経 和漢撰述部 経疏部14) 大東出版社 松長有慶『密教經典解説』(現代密教講座 第二巻) 大東出版社 頼富本宏著『『大日経』入門』大法輪閣 その他
学生に対する評価	レポート(80%)、授業参加への積極性(20%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) テキストの漢文を訓読することができる。 (良) テキストの漢文を訓読し、用語について説明できる。 (優) テキストの漢文を訓読し、用語について説明でき、引用文の典拠を確認できる。
その他	授業に望むにあたっては、予め漢文が読めるように予習してくる。その上で、用語の意味を調べ、内容が理解できるように努めること。また引用文については典拠を確認しておくこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：明治・大正期の文語を読解し、内容をまとめ、それを史的 文脈に当てはめて解釈できるようになること。 テーマ：土宜法龍の研究
密教史演習A11(大)	
学期	前期
単位数	2
担当者	奥山直司
授業の概要	土宜法龍(どぎ・ほうりゅう 1854 - 1923)は日本近代の代表的な真言僧の一人である。彼は真言宗法務所課長から仁和寺門跡・御室派管長、真言宗各派連合総裁、金剛峯寺座主・高野派管長などの要職を歴任し、明治から大正にかけての真言宗をリードした。その生涯には、シカゴ万国宗教会議への出席、真言宗僧侶初の世界一周、博物学者南方熊楠との交流など注目すべき事績が多い。本授業は、彼の思想と行動を遺文集『木母堂全集』の読解を通じて探ってゆく。基本的には、当番制発表形式で授業を進めるので、十分な予習が必要である。
授業計画	1. ガイダンス 2~4. 土宜法龍の生涯 5~15. 『木母堂全集』を読む 16. まとめ
テキスト	宮崎忍海編『木母堂全集』大空社
参考書・参考資料等	奥山直司『近代日本仏教史の中の土宜法龍』『環』vol.35、2008年 奥山直司『土宜法龍と南方熊楠』『南方熊楠の森』方丈堂出版、2003年
学生に対する評価	予習・発表準備状況(60%)、授業参加状況(40%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 法龍の書いた文章の内容を理解し、まとめることができる。 (良) 法龍の書いた文章の内容を分析し、そこに込められた思想のアウトラインを描くことができる。 (優) 法龍の思想と行動を近代日本密教史の中に位置づけることができる。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：明治・大正期の文語を読解し、内容をまとめ、それを史的 文脈に当てはめて解釈できるようになること。 テーマ：土宜法龍の研究
密教史演習A12(大)	
学期	後期
単位数	2
担当者	奥山直司
授業の概要	土宜法龍(どぎ・ほうりゅう 1854 - 1923)は日本近代の代表的な真言僧の一人である。彼は真言宗法務所課長から仁和寺門跡・御室派管長、真言宗各派連合総裁、金剛峯寺座主・高野派管長などの要職を歴任し、明治から大正にかけての真言宗をリードした。その生涯には、シカゴ万国宗教会議への出席、真言宗僧侶初の世界一周、博物学者南方熊楠との交流など注目すべき事績が多い。本授業は、彼の思想と行動を遺文集『木母堂全集』の読解を通じて探ってゆく。基本的には、当番制発表形式で授業を進めるので、十分な予習が必要である。
授業計画	1. ガイダンス 2~4. 土宜法龍の生涯 5~15. 『木母堂全集』を読む 16. まとめ
テキスト	宮崎忍海編『木母堂全集』大空社
参考書・参考資料等	奥山直司『近代日本仏教史の中の土宜法龍』『環』vol.35、2008年 奥山直司『土宜法龍と南方熊楠』『南方熊楠の森』方丈堂出版、2003年
学生に対する評価	予習・発表準備状況(60%)、授業参加状況(40%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 法龍の書いた文章の内容を理解し、まとめることができる。 (良) 法龍の書いた文章の内容を分析し、そこに込められた思想のアウトラインを描くことができる。 (優) 法龍の思想と行動を近代日本密教史の中に位置づけることができる。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教經典を解説することによって漢文読解力と修士論文を 作成するための力を養う。 テーマ：『宿曜經』を読む。
密教史演習B11(大)	
学期	前期
単位数	2
担当者	佐藤隆彦
授業の概要	『宿曜經』を講読することによって漢文文獻を取り扱う方法論を身につけてもらいたい。あわせて、修士論文についての個別指導を行なう。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 『宿曜經』講読演習 3. 『宿曜經』講読演習 4. 『宿曜經』講読演習 5. 『宿曜經』講読演習 6. 『宿曜經』講読演習 7. 修論中間発表 8. 修論中間発表 9. 『宿曜經』講読演習 10. 『宿曜經』講読演習 11. 『宿曜經』講読演習 12. 『宿曜經』講読演習 13. レポート、論文の書き方 14. レポート、論文の書き方 15. レポート提出 16. 講評
テキスト	『宿曜經』(大正21 No. 1299 担当者がコピーを配布します)(和本 担当者用意)
参考書・参考資料等	森田龍徳著『密教占星法』(臨川書店) 矢野道雄『密教占星術』(東洋書院) 松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館)
学生に対する評価	レポート(60%) 演習発表討論参加(40%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 漢文文獻を用いて研究発表ができる。 (良) 先行研究を調べた上で問題点を見つけ自分の考え方を合理的に述べることが出来る。 (優) 自分独自の見解を他人に対して合理的に説明でき、その内容を文章にまとめることが出来る。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教経典を解説することによって漢文読解力と修士論文を作成するための力を養いたい。 テーマ：『宿曜経』を読む。
密教史演習B12(大)	
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	佐藤隆彦
佐藤隆彦	
授業の概要	『宿曜経』を講読することによって漢文文献を取り扱う方法論を身につけてもらいたい。あわせて、修士論文についての個別指導を行なう。特に、後期には修論作成の個別指導に力を入れたい。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 修論目次の作成 3. 修論目次の作成 4. 『宿曜経』講読演習 5. 『宿曜経』講読演習 6. 『宿曜経』講読演習 7. 修論発表 8. 修論発表 9. 『宿曜経』講読演習 10. 『宿曜経』講読演習 11. 『宿曜経』講読演習 12. 『宿曜経』講読演習 13. 修論発表 14. 修論発表 15. 修論発表 16. まとめ
テキスト	『宿曜経』(大正21 No. 1299 担当者がコピーを配布します)
参考書・参考資料等	森田龍徳著『密教占星法』(臨川書店) 矢野道雄『密教占星術』(東洋書院) 松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館)
学生に対する評価	レポート(60%) 演習発表討論参加(40%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 漢文文献を用いて研究発表ができる。 (良) 先行研究を調べた上で問題点を見つけ自分の考え方を合理的に述べることが出来る。 (優) 自分独自の見解を他人に対して合理的に説明でき、その内容を文章にまとめることが出来る。
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：『菩提心論』の講読を通して密教瞑想法の理解を深めることを目的とする。 テーマ：『菩提心論』の研究
密教史講読(大)	
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	佐藤隆彦
佐藤隆彦	
授業の概要	『菩提心論』は勝義、行願、三摩地の三種心を説く。このうち、三摩地は古来不説段に触れる場合が少ない。そこで今回は、『菩提心論』の三摩地に着目して講義を進める。『菩提心論』の講読を通して密教の構造を解明する端緒としたい。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 『菩提心論』梗概 3. 『菩提心論』梗概 4. 『釈摩訶衍論』梗概 5. 『菩提心論』「菩提心の概説」① 6. 『菩提心論』「大悲行願心について」② 7. 『菩提心論』「大悲行願心について」③ 8. 『菩提心論』「大智勝義心について」④ 9. 『菩提心論』「大智勝義心について」⑤ 10. 『菩提心論』「大智勝義心について」⑥ 11. 『菩提心論』「大定三摩地心について」⑦ 12. 『菩提心論』「大定三摩地心について」⑧ 13. 『菩提心論』「大定三摩地心について」⑨ 14. 『菩提心論』「大定三摩地心について」⑩ 15. 三種心の総復習とレポート提出 16. 総括
テキスト	『菩提心論』(「十巻章」高野山大学出版部)
参考書・参考資料等	吉祥真雄著『菩提心論講読』藤井佐兵衛 小田慈舟著『十巻章講読』高野山出版社 田中千秋著『田中千秋著作講話集』高野山出版社 生井智紹著『密教 自心の探求「菩提心論」を読む』大法輪閣
学生に対する評価	授業参加への積極性(40%)・レポート(60%)とし評価する。
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 漢文によって『菩提心論』を読む事ができる。 (良) 『菩提心論』に関する注釈書を読み理解できる。 (優) 『菩提心論』について先行研究を踏まえて自分の独自の見解を合理的に説明できる。
その他	演習形式で講義を進めるので予習して準備をしておいてください。なお原則毎回出席をお願いします。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高める。 テーマ：『秘密漫荼羅教付法傳』を読む。
密教史講読1(大)	
学期	前期
前期	
単位数	2
2	
担当者	松長恵史
松長恵史	
授業の概要	『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深めることを目的とする。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。
授業計画	1. ガイダンス 2. 付法傳の歴史的背景 3. 『広付法傳』講読1 因起感通分第一 叙意 4. 『広付法傳』講読2 叙意 5. 『広付法傳』講読3 第一祖大日如来 金剛薩埵 6. 『広付法傳』講読4 龍猛① 7. 『広付法傳』講読5 龍猛② 8. 『広付法傳』講読6 龍智 9. 『広付法傳』講読7 金剛智① 10. 『広付法傳』講読8 金剛智② 11. 『広付法傳』講読9 金剛智③ 12. 『広付法傳』講読10 金剛智④ 13. 『広付法傳』講読11 金剛智⑤ 14. 『広付法傳』講読12 金剛智⑥ 15. 『広付法傳』講読13 金剛智⑦ 16. まとめ
テキスト	『定本弘法大師全集』第一巻
参考書・参考資料等	『密教』中央文庫 松長有慶 『弘法大師空海全集』第二巻 筑摩書房
学生に対する評価	予習状況(50%)、授業参加状況(50%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 付法傳を正確に読むことができる。 (良) 付法傳の内容を理解できる。 (優) 付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
その他	十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高める。 テーマ：『秘密漫荼羅教付法傳』を読む。
密教史講読2(大)	
学期	後期
後期	
単位数	2
2	
担当者	松長恵史
松長恵史	
授業の概要	『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深めることを目的とする。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。
授業計画	1. ガイダンス 2. 付法傳 前期授業のまとめ 3. 『広付法傳』講読14 不空① 4. 『広付法傳』講読15 不空② 5. 『広付法傳』講読16 不空③ 6. 『広付法傳』講読17 不空④ 7. 『広付法傳』講読18 不空⑤ 8. 『広付法傳』講読19 不空⑥ 9. 『広付法傳』講読20 不空⑦ 10. 『広付法傳』講読21 不空⑧ 11. 『広付法傳』講読22 恵果① 12. 『広付法傳』講読23 恵果② 13. 『広付法傳』講読24 恵果③ 14. 『広付法傳』講読25 恵果④ 15. 『広付法傳』講読26 問答決疑 16. まとめ
テキスト	『定本弘法大師全集』第一巻
参考書・参考資料等	『密教』中央文庫 松長有慶 『弘法大師空海全集』第二巻 筑摩書房
学生に対する評価	予習状況(50%)、授業参加状況(50%)
ルーブリック(目標に準拠した評価)	(可) 付法傳を正確に読むことができる。 (良) 付法傳の内容を理解できる。 (優) 付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
その他	十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：現代仏教の抱える問題点について理解を深める テーマ：アジアの社会参加仏教
現代社会と宗教(大)	授業の概要 現代仏教の特徴のひとつは、エンゲイジド・ブディズムの隆盛である。本授業では、アジア各地の仏教が現代社会の抱えている問題にどのように取り組んでいるかを、「社会参加仏教」の視点から検討してゆく。基本的には当番がテキストを読んでレジュメを作り、発表する形式で授業を進める。
学期	授業計画 1. ガイダンス 2. 東アジアの政教関係と福祉① 3. 東アジアの政教関係と福祉② 4. 妹尾義郎と新興仏教青年同盟の反戦・平和運動① 5. 妹尾義郎と新興仏教青年同盟の反戦・平和運動② 6. チベット問題をめぐる宗教と政治① 7. チベット問題をめぐる宗教と政治② 8. 戦後台湾の社会参加仏教① 9. 戦後台湾の社会参加仏教② 10. タイの開発僧と社会参加仏教① 11. タイの開発僧と社会参加仏教② 12. スリランカの民族紛争と宗教① 13. スリランカの民族紛争と宗教② 14. 近現代インドの仏教に見る「社会性」① 15. 近現代インドの仏教に見る「社会性」②
後期	テキスト 櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編著『アジアの社会参加仏教 政教関係の視座から』北海道大学出版会、2015年
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 教室で指示する。
奥山直司	学生に対する評価 授業への参加度(40%)・レポート(60%)で評価する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) テキストを正確に読解できる (良) テキストの内容を要約し、問題点を析出できる (優) 現代仏教の抱える諸問題を分析し、解決策を提言できる
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：インド人は古代からいかなる思考性を持ち、いかなる思想体系を形成して来たかについて考えて行く。 テーマ：インド的思考の様相を知る。
密教と文化／仏教と文化(大)	授業の概要 仏教とはいったい何なのかという基本命題から入り、現代の仏教が直面している危機的状況を探り、今後仏教がどのような形で展開して行くかについて考察する。
学期	授業計画 1. 導入(問題の所在) 2. インド思想へのいざない(インドの自然・言語・民族) 3. インド思想のながれ 4. 宇宙生成論(宇宙の生成) 5. 宇宙生成論(原人解体による宇宙の創造) 6. 宇宙生成論(かの唯一物) 7. 人間観(人間とは) 8. 人間観(神と世界と人間の関係) 9. 人間観(人間と社会と平等) 10. 人間観(アトマンとブラフマン) 11. 業・輪廻・解脱(解脱をめざす哲学) 12. 業・輪廻・解脱(業) 13. 業・輪廻・解脱(輪廻) 14. 業・輪廻・解脱(解脱) 15. 業・輪廻・解脱(解脱) 16. 総まとめ
前期	テキスト 前田専学『インドの思考』春秋社
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 必要に応じて担当者が紹介する。
前谷彰	学生に対する評価 学期末に提出してもらったレポートによって評価(100%)する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) インド神話の基本的構造を理解していること。 (良) 梵我一如のあり方について説明できること。 (優) インド人の思考性について時代を追って詳しく説明できること。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：引導作法と葬儀に関する知識の習得 テーマ：葬送儀礼の実践習得
事相研究Ⅰ-1(大)	授業の概要 葬送儀礼に関する様々な知識を習得し、高野山の寺家の葬儀等も学ぶ。
学期	授業計画 1. 葬送儀礼の歴史 2. 真言宗の葬儀 3. } 4. } 5. } 6. 導師と職衆の心得 7. 高野山の寺家の葬儀(1)～(9) 8. 戒名について 9. 葬儀に用いる梵字と書き様(塔婆等) 10. 葬儀に関する質疑応答 11. } 12. } 13. } 14. } 15. } 16. }
前期	テキスト 宮野宥智 編輯『引導作法全集(上・下)』松本日進堂 大栗道榮 編集『引導作法』高野山出版社
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 自習は不要、予習は厳禁。年間の最終段階に明かします。
齋藤天譽	学生に対する評価 レポート提出により採点(100%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 「高野山の寺家と在家の葬儀」について理解している。 (良) 「高野山の寺家と在家の葬儀」について大まかに説明できる。 (優) 「高野山の寺家と在家の葬儀」について、よく理解し、詳しい説明が出来る。
	その他 【受講資格について】 原則として伝法灌頂修了者であるが、加行前期修了者も受講可とします。但し、已灌頂者と未灌頂者は、きっちり区別して講義します。(詳細は開講時に説明します)

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：引導作法と葬儀に関する知識の習得 テーマ：葬送儀礼の実践習得
事相研究Ⅰ-2(大)	授業の概要 『引導略作法(二巻疏)』を基に、引導作法の伝授と葬儀に関する知識の習得を目的とする。
学期	授業計画 1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 7. } 8. 『引導略作法(二巻疏)』の伝授と解説(1)～(15) 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. } 16. }
後期	テキスト 宮野宥智 編輯『引導作法全集(上・下)』松本日進堂 大栗道榮 編集『引導作法』高野山出版社
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 自習は不要、予習は厳禁。年間の最終段階に明かします。
齋藤天譽	学生に対する評価 レポート提出により採点(100%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 「二巻疏」と「葬儀の構成」を理解している。 (良) 「二巻疏」について説明が出来る。 (優) 「二巻疏」の詳しい説明を後進の者に伝えられる。
	その他 【受講資格について】 原則として伝法灌頂修了者であるが、加行前期修了者も受講可とします。但し、已灌頂者と未灌頂者は、区別して講義します。(詳細は開講時に)

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：秘密事相の基礎知識を習得することを授業の目的とする。 テーマ：秘密事相の研究
事相研究Ⅱ-1 (大)	
授業の概要	初心者を対象に基礎知識の習得に重点を置く。浄厳の『通用字輪観口訣』を読む。
授業計画	1. 授業についてのオリエンテーション 2. 三種秘観について 3. 浄厳和尚について 4～15. 『通用字輪観口訣』を読む 16. 総括 上記項目にしたがって、1～3は講義形式。4～15は講義と演習討論形式とを併用しながら授業を行う。これによって、事相研究の方法論を身につけるようにする。
学期	
前期	テキスト コピーにて配布する。
単位数	参考書・参考資料等 『新安流四度口訣集』
2	
担当者	学生に対する評価 期末レポート (65%) 課題発表 (20%) 小テスト (15%)
佐藤隆彦	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) テキスト (漢文写本) を読み下すことができる。 (良) 字輪観についてテキストに従って説明できる。 (優) 字輪観についてテキスト以外の文献を参照して説明することができる。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：理趣経法の専門知識を習得することを授業の目的とする。 テーマ：理趣経法の研究
事相研究Ⅱ-2 (大)	
授業の概要	灌頂終了者を対象に理趣経法の高度な知識の習得に重点を置く。
授業計画	1. 授業についてのオリエンテーション 2. 事相の歴史 3. 四度の行法と次第 4. 灌頂と印可 5. 各種の修法 6. 諸流派の行要 7. 印と真言 8. 聖教の解説 9. 『理趣経法』の歴史 10～15 『理趣経法』の実際 (伝受) 16. レポート講評 上記項目にしたがって、講義形式で授業を行う。
学期	
後期	テキスト 中川善教『理趣経法』(数珠屋四郎兵衛)
単位数	参考書・参考資料等 梅尾祥雲『秘密事相の研究』(臨川書店) 上田靈城『真言密教事相概説』四度部、諸尊法灌頂部上、下 (同朋舎) 高見寛恭『理趣法の意得』
2	
担当者	学生に対する評価 期末レポート (65%) 課題発表 (20%) 小テスト (15%)
佐藤隆彦	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 『理趣経法』が修法できる。 (良) 『理趣経法』についてその構成を説明できる。 (優) 『理趣経法』の目指す方向を合理的に説明できる。 その他 伝受については僧衣で受講のこと。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：原語と漢訳語の比較作業を通して、仏教思想のある意味での「歪み」を修正できればよいと考えている。 テーマ：原典における原語と漢訳語の異相
仏教学特殊研究 (大)	
授業の概要	サンスクリット語やバーリ語の原典における原語と、漢訳語の間には仏教思想を根底から覆さなければならないような重要な異相を認めることができるので、当講義では重要な原語を取り上げ、それらの語がどのような漢語に置き換えられているかを検証することによって、仏教思想の誤謬性について考察する。
授業計画	1. 原語と翻訳語の異相全般について概略する。 2. 八正道について 3. 梵行・清浄行について 4. 顕示・開顕について 5. 同上 6. 苦行について 7. 清浄について 8. 菩提心・菩薩について 9. 一乗・一趣道について 10. 一心について 11. 涅槃について 12. 渴愛について 13. 小乗・大乘・密教について 14. 同上 15. まとめ 16.
学期	
前期	
単位数	テキスト 担当者がプリントを用意する。
2	
担当者	参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。 学生に対する評価 学期末のレポートによって評価 (100%) する。
前谷彰	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 漢訳語の曖昧さを疑う力を身につける。 (良) 原典と漢訳経典におけるキーワードを比較することができる。 (優) 仏教における問題のある原語を自分の言葉で説明できる。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：サンスクリット原典読解能力を習得し、梵文写本にもとづく原典校訂のノウハウを培う テーマ：梵文『宝性論』読解
仏教史特殊研究 (大)	
授業の概要	五世紀に成立したインド大乘仏教論書『宝性論』(Ratnagotravibhāga) は、それまで諸々の大乘経典に説かれてきた如来蔵思想を初めて体系的にとりまとめ、一大思想体系に仕立て上げた。やがて時代が下ると『宝性論』は弥勒に帰され、種々のインド仏教文献に引用されるようになる。その際、『宝性論』は中観派、時には瑜伽行派の立場から多様かつ自由な解釈がなされ、その思想が展開する。授業では『宝性論』の梵文原典を精読し、如来蔵思想の形成と展開の軌跡をたどる。読解に際しては、梵文写本を用いて刊行本の読みを検討する。参加者は毎回の予習においてサンスクリットの和訳を準備し、さらに正誤表を作成し、毎回授業で発表する。これによりサンスクリットの厳密な原典批判の姿勢を養う。
授業計画	1. 授業の梗概 2. インド仏教思想史における如来蔵思想の位置づけ 3. 梵文『宝性論』読解 1 4. 梵文『宝性論』読解 2 5. 梵文『宝性論』読解 3 6. 梵文『宝性論』読解 4 7. 梵文『宝性論』読解 5 8. 梵文『宝性論』読解 6 9. 梵文『宝性論』読解 7 10. 梵文『宝性論』読解 8 11. 梵文『宝性論』読解 9 12. 梵文『宝性論』読解 10 13. 梵文『宝性論』読解 11 14. 梵文『宝性論』読解 12 15. 梵文『宝性論』読解 13 16. 梵文『宝性論』読解 14
学期	
後期	
単位数	テキスト 授業で指示します。
2	
担当者	参考書・参考資料等 E.H. Johnston, Ratnagotravibhāga. Patna. 1950. 学生に対する評価 授業中の発表など (梵文の和訳) (90%)、レポート (10%)
加納和雄	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) サンスクリット写本を読解し校訂する技術の基礎を抑えている。 (良) サンスクリットの既刊本校訂本を適宜訂正しながら読み進めることができる。 (優) サンスクリットテキストの最も難解な乱脱箇所について、適切な仮説を提示し原典を修復することができる。 その他 出席条件は、サンスクリットの基礎文法を終えていること。そして上級の授業を受け終えていること。授業は参加者が各自予習で準備した和訳を発表する、輪読形式。毎回の授業で出席者は予習してきた内容を発表することになる。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言宗の常用経典である『理趣経』原典の読解を通じて仏教学を学ぶための文献学的・図像学的方法論を習得する。 テーマ：『理趣経』と密教思想・密教美術の形成、およびその背景にある初期仏教・大乘仏教・ヒンドゥー教を理解する
仏教学演習1(大)	授業の概要 仏教思想を学ぶための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書など、研究に必要な「工具」について学び、その基礎知識を活用して、各自が実際に論文を作成してゆくための方法を習得する。そして一例として梵文および漢文にて『理趣経』原典を読み進めながら、文献に接する態度、基本的な読み方、難解な箇所に出遇した際の対処方法を身につけてゆく。出席者は授業で扱う文献または各自が選んだテーマについて調査結果を発表することを通じて、方法論を習得する。
学期	授業計画 1. 導入 2. 仏教を学ぶための基礎知識 (1) 3. 仏教を学ぶための基礎知識 (2) 4. 『理趣経』原典の読解 (1) 5. 『理趣経』原典の読解 (2) 6. 『理趣経』原典の読解 (3) 7. 『理趣経』原典の読解 (4) 8. 『理趣経』原典の読解 (5) 9. 『理趣経』原典の読解 (6) 10. 『理趣経』原典の読解 (7) 11. 『理趣経』原典の読解 (8) 12. 『理趣経』原典の読解 (9) 13. 文献読解の結果を分析する (1) 13. 文献読解の結果を分析する (2) 14. 文献読解の結果を分析する (3) 15. 文献読解の結果を分析する (4) 16. 総括
前期	テキスト 高野山大学仏教学科編『卒業論文の手引き』。 松長有慶、『理趣経講読』、大法輪閣。 松長有慶、『理趣経』中公文庫 BIBLIO。 Toru Tomabechi, <i>Adhyardhasatika Prajnaparamita</i> , Vienna/Beijing, 2009.
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 学生に対する評価 授業中の発表など (60%)、レポート (40%)
加納和雄	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 自らテーマを選び、調査し、プレゼンテーションするための基礎を抑える。 (良) 十分な調査と所定時間に沿ったプレゼンテーションができる。 (優) 高度な内容を平易に説明する高度なプレゼンテーション能力を備える。
	その他 主にインド・チベットのことを卒業論文で扱いたい人を対象としますが、熱意のある学生であれば誰でも歓迎します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言宗の常用経典である『理趣経』原典の読解を通じて仏教学を学ぶための文献学的・図像学的方法論を習得する。 テーマ：『理趣経』と密教思想・密教美術の形成、およびその背景にある初期仏教・大乘仏教・ヒンドゥー教を理解する
仏教学演習2(大)	授業の概要 仏教思想を学ぶための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書など、研究に必要な「工具」について学び、その基礎知識を活用して、各自が実際に論文を作成してゆくための方法を習得する。そして一例として梵文および漢文にて『理趣経』原典を読み進めながら、文献に接する態度、基本的な読み方、難解な箇所に出遇した際の対処方法を身につけてゆく。出席者は授業で扱う文献または各自が選んだテーマについて調査結果を発表することを通じて、方法論を習得する。
学期	授業計画 1. 導入 2. 仏教を学ぶための基礎知識 (1) 3. 仏教を学ぶための基礎知識 (2) 4. インド大乘仏教文献の読解 (1) 5. インド大乘仏教文献の読解 (2) 6. インド大乘仏教文献の読解 (3) 7. インド大乘仏教文献の読解 (4) 8. インド大乘仏教文献の読解 (5) 9. インド大乘仏教文献の読解 (6) 10. インド大乘仏教文献の読解 (7) 11. インド大乘仏教文献の読解 (8) 12. インド大乘仏教文献の読解 (9) 13. 文献読解の結果を分析する (1) 13. 文献読解の結果を分析する (2) 14. 文献読解の結果を分析する (3) 15. 文献読解の結果を分析する (4) 16. 総括
後期	テキスト 授業において指示します。
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 高野山大学仏教学科編『卒業論文の手引き』。 松長有慶、『理趣経講読』、大法輪閣。 松長有慶、『理趣経』中公文庫 BIBLIO。 Toru Tomabechi, <i>Adhyardhasatika Prajnaparamita</i> , Vienna/Beijing, 2009.
加納和雄	学生に対する評価 授業中の発表など (60%)、レポート (40%)
	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 自らテーマを選び、調査し、プレゼンテーションするための基礎を抑える。 (良) 十分な調査と所定時間に沿ったプレゼンテーションができる。 (優) 高度な内容を平易に説明する高度なプレゼンテーション能力を備える。
	その他 主にインド・チベットのことを卒業論文で扱いたい人を対象としますが、熱意のある学生であれば誰でも歓迎します。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師の書簡を読む。 テーマ：弘法大師の世界観を知る。
仏教史演習A-1(大)	授業の概要 弘法大師の書簡を通して、思想書とは異なる視点から弘法大師の世界観 (自然観や国家観) を探って行く。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2～15回は、弘法大師の書簡を読む。
前期	テキスト 高木神元『弘法大師の書簡』(法蔵館)
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 必要に応じて担当者が紹介する。
前谷彰	学生に対する評価 学期末のレポート (100%) によって評価する。
	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 講義で指示する課題をこなすこと。 (良) 弘法大師の書簡を通して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。 (優) 講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：科学とは何か、宗教とは何か。そして、科学と宗教とはどのように対話すべきか。 テーマ：宗教と科学の対話
仏教史演習A-2(大)	授業の概要 言葉を厳密に用いるトレーニングを行いながら、宗教と科学とがいかに対話すべきなのかについて考えて行く。
学期	授業計画 1. オリエンテーション 2. 『岩波講座 宗教と科学1 宗教と科学の対話』所収、8 仏教徒の場合 (武藤義一)「はじめに」 3. 「真理について」を読む。 4. 「技術とのかかわりあい」を読む。 5. 「死について」を読む。 6. 「科学との対話」「むすび」を読む。 7. 9日本人の場合 (山折哲雄)「序」を読む。 8. 「対話」の日本類型 - 寺田寅彦を読む。 9. 「対話」の究極 - 宮沢賢治を読む。 10. 「対話」の葛藤 - 水子供養を読む。 11～15. 2から10までに読んだ内容から、矛盾点や問題点を抽出し、それらについて議論する。
後期	テキスト 『岩波講座 宗教と科学1 宗教と科学の対話』
単位数	2
担当者	参考書・参考資料等 必要に応じて担当者が紹介する。
前谷彰	学生に対する評価 学期末のレポート (100%) によって評価する。
	ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 講義で支持する課題をこなすこと。 (良) 書籍を読んで、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。 (優) 疑問点や問題点を文章としてまとめる能力を身につけること。
	その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山に関する軍記文学の特徴を理解する。 テーマ：高野山関係軍記文学の研究
仏教史講読1(大)	授業の概要 織田信長の高野攻めを描く軍記文学『天正高野治乱記』を取り上げる。受講者と相談の上、各回の発表者を決め、本文を翻刻して諸本を対観、注釈をつける。同作品の構造や表現、または背景となった事柄について発表してもらう。
前期	授業計画 1. ガイダンス—講義の進め方— 2. 後期軍記の世界① 3. 後期軍記の世界② 4. 後期軍記の世界③ 5. 『天正高野治乱記』読解① 6. 『天正高野治乱記』読解② 7. 『天正高野治乱記』読解③ 8. 『天正高野治乱記』読解④ 9. 『天正高野治乱記』読解⑤ 10. 『天正高野治乱記』読解⑥ 11. 『天正高野治乱記』読解⑦ 12. 『天正高野治乱記』読解⑧ 13. 『天正高野治乱記』読解⑨ 14. 『天正高野治乱記』読解⑩ 15. 『天正高野治乱記』読解⑪ 16. まとめ
学期	テキスト 教員が用意する。
単位数	参考書・参考資料等 古典遺産の会編『戦国軍記事典』群雄割拠篇・天下統一篇(和泉書院)
2	学生に対する評価 発表(30%)、受講態度(30%)、レポート(40%)によって評価する。
担当者	ループリック(目標に準拠した評価) (可)『天正高野治乱記』の基本的な事柄について理解している。 (良)『天正高野治乱記』について、他文献を利用して、その特徴を述べることができる。 (優)『天正高野治乱記』を基にして、高野山関係軍記文学の特徴を述べることができる。
浜畑圭吾	その他 4回以上理由もなく無断で欠席した者は、受講者名簿から削除するので注意すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：高野山に関する軍記文学の特徴を理解する。 テーマ：高野山関係軍記文学の研究
仏教史講読2(大)	授業の概要 織田信長の高野攻めを描く軍記文学『天正高野治乱記』を取り上げる。前期の続きとして受講者と相談の上、各回の発表者を決め、本文を翻刻して諸本を対観、注釈をつける。同作品の構造や表現、または背景となった事柄について発表してもらう。
後期	授業計画 1. ガイダンス—講義の進め方— 2. 『天正高野治乱記』読解① 3. 『天正高野治乱記』読解② 4. 『天正高野治乱記』読解③ 5. 『天正高野治乱記』読解④ 6. 『天正高野治乱記』読解⑤ 7. 『天正高野治乱記』読解⑥ 8. 『天正高野治乱記』読解⑦ 9. 『天正高野治乱記』読解⑧ 10. 『天正高野治乱記』読解⑨ 11. 『天正高野治乱記』読解⑩ 12. 『天正高野治乱記』読解⑪ 13. 『天正高野治乱記』読解⑫ 14. 『天正高野治乱記』読解⑬ 15. 『天正高野治乱記』読解⑭ 16. まとめ
学期	テキスト 教員が用意する。
単位数	参考書・参考資料等 古典遺産の会編『戦国軍記事典』群雄割拠篇・天下統一篇(和泉書院)
2	学生に対する評価 レポート(60%)、リアクションペーパー(40%)によって評価する。
担当者	ループリック(目標に準拠した評価) (可)『天正高野治乱記』の基本的な事柄について理解している。 (良)『天正高野治乱記』について、他文献を利用して、その特徴を述べることができる。 (優)『天正高野治乱記』を基にして、高野山関係軍記文学の特徴を述べることができる。
浜畑圭吾	その他 4回以上理由もなく無断で欠席した者は、受講者名簿から削除するので注意すること。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：伝統的な事相門の教授方法を体験し、且つ日常の修法・実践法への教理的意義に基づいて理解を深め、実際の所作・作法を習得する。 テーマ：密教の修法を実践するに当り、基礎的な知識・理解を深める。
密教実践法の研究1(大)	授業の概要 真言宗の伝統的な宗学の内、事相門の教授方法に則り、日常の実践法である一修行法等を、中院流に基づいて伝授・解説する。自行のみならず、法会等の導師に必要な作法も指導し、時間の許す限り、主要な本尊の尊法を伝授する。
前集中	授業計画 1. 講義の概要、略許可 2. 伝授についての序説 3. 一修行法の伝授・解説(1) 4. 一修行法の伝授・解説(2) 5. 一修行法の伝授・解説(3) 6. 一修行法の伝授・解説(4) 7. 一修行法の伝授・解説(5) 8. 一修行法の伝授・解説(6) 9. 一修行法の伝授・解説(7) 10. 一修行法の伝授・解説(8) 11. 一修行法の伝授・解説(9) 12. 一修行法の伝授・解説(10) 13. 一修行法の伝授・解説(11) 14. 一修行法の伝授・解説(12) 15. 一修行法の伝授・解説(13) 16. テスト
学期	テキスト 中川善教編『諸尊通用次第(中院)』3帖1帙 東方出版 価格10,000円程度 (※入手方法に就いては、事前に公示する)
単位数	参考書・参考資料等 中川善教『諸尊通用次第撮要』 東方出版 大山公淳『中院流の研究』 高野山大学、東方出版 等
2	学生に対する評価 講義に臨む姿勢(出欠席を含む)(50%)、テストによる採点(50%)
担当者	ループリック(目標に準拠した評価) (可)密教及びその実践法についての基礎的な知識を習得している。 (良)密教の実践法についての基礎的な知識を有するのみならず、その内容をよく理解している。 (優)密教の実践法についての教理的な理解を自分の言葉・文章で説明することができる。
甲田宥咩	その他 1. 受講者は真言宗の僧侶で、已灌頂者(※伝法灌頂修了者)に限る。 2. 受講時は高野山における平衣(空衣・白袈裟等)又は黒衣・如法衣(尼僧は灰色の褌衫も可)を必ず着用すること。改良服・作務衣等での受講は不可。 3. 前後期通して受講すること。前期のみの受講はできない。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：伝統的な事相門の教授方法を体験し、且つ日常の修法・実践法への教理的意義に基づいて理解を深め、実際の所作・作法を習得する。 テーマ：密教の修法を実践するに当り、基礎的な知識・理解を深める。
密教実践法の研究2(大)	授業の概要 真言宗の伝統的な宗学の内、事相門の教授方法に則り、日常の実践法である一修行法等を、中院流に基づいて伝授・解説する。自行のみならず、法会等の導師に必要な作法も指導し、時間の許す限り、主要な本尊の尊法を伝授する。
後集中	授業計画 1. 一修行法の伝授・解説(14) 2. 一修行法の伝授・解説(15) 3. 一修行法の伝授・解説(16) 4. 一修行法の伝授・解説(17) 5. 一修行法の伝授・解説(18) 6. 一修行法の伝授・解説(19) 7. 一修行法の伝授・解説(20) 8. 一修行法の伝授・解説(21) 9. 一修行法の伝授・解説(22) 10. 諸尊法の伝授(1) 11. 諸尊法の伝授(2) 12. 諸尊法の伝授(3) 13. 諸尊法の伝授(4) 14. 諸尊法の伝授(5) 15. 諸尊法の伝授(6) 16. テスト
学期	テキスト 中川善教編『諸尊通用次第(中院)』3帖1帙 東方出版 価格10,000円程度 (※入手方法に就いては、事前に公示する)
単位数	参考書・参考資料等 中川善教『諸尊通用次第撮要』 東方出版 大山公淳『中院流の研究』 高野山大学、東方出版 等
2	学生に対する評価 講義に臨む姿勢(出欠席を含む)(50%)、テストによる採点(50%)
担当者	ループリック(目標に準拠した評価) (可)密教及びその実践法についての基礎的な知識を習得している。 (良)密教の実践法についての基礎的な知識を有するのみならず、その内容をよく理解している。 (優)密教の実践法についての教理的な理解を自分の言葉・文章で説明することができる。
甲田宥咩	その他 1. 受講者は真言宗の僧侶で、已灌頂者(※伝法灌頂修了者)に限る。 2. 受講時は高野山における平衣(空衣・白袈裟等)又は黒衣・如法衣(尼僧は灰色の褌衫も可)を必ず着用すること。改良服・作務衣等での受講は不可。 3. 前後期通して受講すること。後期のみの受講はできない。

科目名 仏教芸術の研究1(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏尊の種類や像容の特徴を学び、その功德や信仰の歴史についての基礎的な知識を培うことを到達目標とする。 テーマ：仏像のかたち-その姿と意味 如来・菩薩編
	授業の概要 仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。 授業では、現存する仏画、仏像等の画像資料を示しつつ、各尊の姿や手印・持物の意味を考察し、その信仰の歴史などについて概観する。
	授業計画 1. はじめに：仏教美術の基礎知識 2. 釈迦如来 3. 薬師如来 4. 阿彌陀如来 5. 毘盧遮那仏と大日如来 6. 弥勒仏と弥勒菩薩 7. その他の如来 8. 十一面観音 9. 千手観音 10. 不空絹索観音 11. 文殊菩薩 12. 普賢菩薩 13. 地藏菩薩 14. 虚空蔵菩薩 15. その他の菩薩 16. レポートの課題に関する解説と講評
	テキスト 授業内容に沿った参考資料(文字資料・画像資料)を配付する。
	参考書・参考資料等 至文堂編『日本の美術』ぎょうせい 関根俊一編『仏尊の事典』学習研究社 『日本美術全集』講談社
	学生に対する評価 授業参加への積極度(40%)、期末レポート(60%)の比率で評価する。 後期授業終了までに各自テーマを設定し、それに関する4000字程度のレポートを提出する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 各尊像の姿や形像について理解している。 (良) 各尊像の成立と信仰の歴史について基礎的な知識がある。 (優) 各尊像の代表的な作例の画像を見ながら、その特徴や形像について説明できる。
	その他 仏教美術の研究2(大)を履修・聴講することが望ましい。 霊宝館等での実際の仏像や仏画を積極的に見学し、尊像のかたちについて研究してください。
学期 前期	
単位数 2	
担当者 和田圭子	

科目名 仏教芸術の研究2(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏尊の種類や像容の特徴を学び、その功德や信仰の歴史についての基礎的な知識を培うことを到達目標とする。 テーマ：仏像のかたち-その姿と意味 明王・天・その他編
	授業の概要 仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。授業では、現存する仏画、仏像等の画像資料を示しつつ、各尊の姿や手印・持物の意味を確認し、その信仰の歴史などについて概観する。
	授業計画 1. 不動明王 2. 五大明王1 3. 五大明王2 4. 愛染明王 5. 孔雀明王 6. 梵天・帝釈天 7. 四天王 8. 毘沙門天 9. 吉祥天・弁才天 10. 十二天 11. 十二神将 12. 閻魔・十王 13. その他の天 14. 仏弟子・祖師等 15. 垂迹神等 16. レポートの課題に関する解説と講評
	テキスト 授業内容に沿った参考資料(文字資料・画像資料)を配付する。
	参考書・参考資料等 水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』 至文堂編『日本の美術』ぎょうせい 『日本美術全集』講談社
	学生に対する評価 授業参加への積極度(40%)、期末レポート(60%)の比率で評価する。 後期授業終了までに各自テーマを設定し、それに関する4000字程度のレポートを提出する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 各尊像の姿や形像について理解している。 (良) 各尊像の成立と信仰の歴史について基礎的な知識がある。 (優) 各尊像の代表的な作例の画像を見ながら、その特徴や形像について説明できる。
	その他 仏教美術の研究(1)を履修・聴講することが望ましい。 霊宝館等での実際の仏像や仏画を積極的に見学し、尊像の特徴について研究してください。
学期 後期	
単位数 2	
担当者 和田圭子	

科目名 アジア地域の宗教文化の研究(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：スリランカ、ミャンマー、タイなどの上座仏教に伝わる瞑想実践の根拠になっている基本文献を学んだ上で、それらが現代の西洋仏教においてどのように応用されているのかを知る。 テーマ：上座仏教の瞑想実践と現代的応用としてのマインドフルネス
	授業の概要 教材を読み進めながら、多角的に考察し議論していく。パーリ語による動行やヴィパッサナー瞑想の実践も取り入れて、文献に示されていることを体感理解できるように工夫する。
	授業計画 1. 自己紹介と授業の流れ(西洋仏教とアジアの伝統仏教について) 2. マインドフルネスとはなにか? 3. 三宝帰依の意味 4. 戒・定・慧という修行のステップ 5. 解脱と悟りについて 6. 「大念住経」略説を読む 7. 「大念住経」身体に関する随観を読む 8. 「大念住経」身体に関する随観を読む 9. 「大念住経」感受に関する随観を読む 10. 「大念住経」心に関する随観を読む 11. 「大念住経」法に関する随観を読む 12. 「大念住経」法に関する随観を読む 13. 仏教瞑想と心理療法 14. マインドフルネスによる燃えつき防止法：GRACEプログラムの紹介 15. ふりかえりとまとめ 16. レポート返却と講評
	テキスト 『南方仏教基本聖典』ウ・ウェーブラ 仏教書林中山書房(書店で購入)
	参考書・参考資料等 『マインドフルな生き方』クリストファー・ティットムス 産調出版 『マインドフルネスストレス低減法』ジョン・カバットジン(書店で購入) 北大路書房 『ブッダのサイコセラピー』マーク・エプスタイン 春秋社(書店で購入)
	学生に対する評価 授業への参加態度(30%)と期末レポート(70%)で評価する。
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) ヴィパッサナー、マインドフルネスについて理解できている。 (良) 講読した基礎的な文献をよく理解し、ヴィパッサナーやマインドフルネスの特徴が説明できる。 (優) 授業で学んだことをよく理解して、他の瞑想との類似点や相違点を明確に説明できる。
	その他
学期 後期	
単位数 2	
担当者 井上ウイマラ	

科目名 比較宗教の研究(大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：民俗宗教に関する論文や歴史資料を読むことを通して、日本の信仰の特徴を理解するとともに、読解力を高める。 テーマ：民俗宗教の研究
	授業の概要 日本における民俗宗教について、論文や歴史資料を講読することによって、日本の信仰の特徴について検討をする。授業中に受講者にテキストを音読するとともに、解説してもらう。
	授業計画 1. ガイダンス 2. 民俗宗教に関する論文を読む(1) 3. 民俗宗教に関する論文を読む(2) 4. 民俗宗教に関する論文を読む(3) 5. 民俗宗教に関する論文を読む(4) 6. 民俗宗教に関する論文を読む(5) 7. 民俗宗教に関する論文を読む(6) 8. 民俗宗教に関する論文を読む(7) 9. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(1) 10. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(2) 11. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(3) 12. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(4) 13. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(5) 14. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(6) 15. 民俗宗教に関する歴史資料を読む(7) 16. 日本における民俗宗教の特徴
	テキスト プリントを配布する。
	参考書・参考資料等 森本一彦『先祖祭祀と家の確立-「半檀家」から一家一寺へ』ミネルヴァ書房 日野西真定『お大師さんと高野山[奥の院]』慶友社 その他授業中に紹介する。
	学生に対する評価 レポート(60%)、論文や資料の音読、意見発表など積極的な授業態度(40%)
	ルーブリック(目標に準拠した評価) (可) 論文や資料を読むことができる。 (良) 論文や資料の内容を理解して、要約することができる。 (優) 論文や資料の内容について、自分の意見を述べるることができる。
	その他 授業で講読する論文や歴史資料については、受講生の研究関心に合わせながら初回の授業で決定する。授業は受講生が論文や歴史資料を音読・解説をする形式で進めて行くので、必ず予習をすること。
学期 前期	
単位数 2	
担当者 森本一彦	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：英文の読解力を向上しながら、仏教の基礎知識を再確認し、現代社会におけるその役割と応用を考える。 テーマ：英文を通じて仏教の教えとその現代社会における貢献を考察する。
現代社会と仏教の研究1(大)	
学期	
前期	
単位数	2
担当者	山脇雅夫
授業の概要	英語を通じて仏教の基本的な用語とテーマを学習しながら、現代社会が直面する問題に対して仏教から何を学べるかを考察する。仏教のテーマをまとめた英文の論文集を読みながら、意見交換、ディスカッションや発表で進めていく。
授業計画	1. イントロダクション 2. Buddha 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. Person 7. 同上 8. 同上 9. Death 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. Power 14. 同上 15. 同上 16. まとめ
テキスト	Lopez, Donald S., Jr. <i>Critical Terms for the Study of Buddhism</i> . Chicago University Press, 2005.
参考書・参考資料等	Keown, Damien. <i>Buddhism, A Very Short Introduction</i> , 2nd ed. Oxford University Press, 2013.
学生に対する評価	レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)
ルーブリック (目標に準拠した評価)	(可) 英文を解読し和訳でき、用語を説明できる。 (良) 英文を解読し和訳し、その意味について説明できる。 (優) 英文を解読し和訳し、その意味について仏教の思想をまとめることができる。
その他	参加型の授業で、受講生全員は予習として毎回該当する英文のテキストを和訳・研究する。 テキストのテーマに沿って、別に課題を与えて受講生による発表を行う。 英文読解力を必要とする。授業は日本語で進める。 プログラムは改訂される場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：英文の読解力を向上しながら、仏教の基礎知識を再確認し、現代社会におけるその役割と応用を考える。 テーマ：英文を通じて仏教の教えとその現代社会における貢献を考察する。
現代社会と仏教の研究2(大)	
学期	
後期	
単位数	2
担当者	山脇雅夫
授業の概要	英語を通じて仏教の基本的な用語とテーマを学習しながら、現代社会が直面する問題に対して仏教から何を学べるかを考察する。仏教のテーマをまとめた英文の論文集を読みながら、意見交換、ディスカッションや発表で進めていく。
授業計画	1. イントロダクション 2. Word 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. Practice 7. 同上 8. 同上 9. Ritual 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. Economy 14. 同上 15. 同上 16. まとめ
テキスト	Lopez, Donald S., Jr. <i>Critical Terms for the Study of Buddhism</i> . Chicago University Press, 2005.
参考書・参考資料等	Keown, Damien. <i>Buddhism, A Very Short Introduction</i> , 2nd ed. Oxford University Press, 2013. その他
学生に対する評価	レポート (50%)、発表 (20%)、授業参加の積極性 (30%)
ルーブリック (目標に準拠した評価)	(可) 英文を解読し和訳でき、用語を説明できる。 (良) 英文を解読し和訳し、その意味について説明できる。 (優) 英文を解読し和訳し、その意味について仏教の思想をまとめることができる。
その他	参加型の授業で、受講生全員は予習として毎回該当する英文のテキストを和訳・研究する。 テキストのテーマに沿って、別に課題を与えて受講生による発表を行う。 英文読解力を必要とする。授業は日本語で進める。 プログラムは改訂される場合がある。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：学校経営・管理とキャリア教育がどれだけ密接に関わっているかの理解度に焦点を当てる。 テーマ：キャリア教育を活かした学校経営・管理
教育学特殊研究(大)	
学期	
集中	
単位数	2
担当者	山脇雅夫
授業の概要	本講義は中学校及び高等学校教諭の専修免許状を取得することを目的とした科目である。学校管理・経営とキャリア教育という一見関係のなさそうに見えるこの問題は、根幹のところ深くつながっていることを考察する。
授業計画	1. 学校経営とはどのような営みなのか解説し考察する。(1) 2. 学校管理とはどのような営みなのか解説し考察する。(2) 3. 学校管理と組織運営の問題について考察する。(1) 4. 学校管理と組織運営の問題について考察する。(2) 5. 学校管理と組織運営の問題について考察する。(3) 6. 日本のキャリア教育について考察する。(1) 7. 日本のキャリア教育について考察する。(2) 8. 米国のキャリア教育の現状について解説する。 9. 欧州(独仏中心)のキャリア教育について解説する。 10. キャリア教育と学校経営・管理との有効な関係を考察する。(1) 11. キャリア教育と学校経営・管理との有効な関係を考察する。(2) 12. キャリア教育と学校経営・管理との有効な関係を考察する。(3) 13. 学校管理の問題とキャリア教育、進路指導、職業指導の関係を明らかにする。 14. 学校管理の問題とキャリア教育、真の指導、職業指導の関係を考察する。 15. 総括講義 16. 参加者による振り返り
テキスト	なし、必要に応じて資料を配布する。
参考書・参考資料等	伊藤一雄著「キャリア開発と職業指導」法律文化社 2011
学生に対する評価	講義内容に対する理解と考察の深さで判断する。 課題レポート (70%)、議論への参加 (30%)
ルーブリック (目標に準拠した評価)	論理的思考力 問題発見力 キャリア教育についての理解 可 講義の内容を理解できる それぞれのテーマを理解できる キャリア教育について概括的な理解を持っている 良 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解できる。 キャリア教育についての概括的な理解と、現代のキャリア教育の問題点を理解している 優 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現でき、自分なりの問題へと展開できる それぞれのテーマを理解し、それらのあいだの連環を理解し、自分なりのテーマへと展開できる 現代のキャリア教育の問題点についての、自分なりの対応案を持っている
その他	教職関係科目を履修していることが望ましい。

科目名	
学期	
単位数	
担当者	

科目名 密教特殊演習 1 (大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：空海在唐期の漢詩文を精確に読解し、語句の典拠・用例等について詳細に検討する。中国の古典や仏典、あるいは空海自身の著述と比較することにより、文章表現の特徴を明らかにする。 テーマ：『性霊集』を読む。
	授業の概要 空海在唐期の漢詩文の一つである「大唐神都青龍寺故三朝国師灌頂阿闍梨惠果和尚碑」を読み、書き下し文を作成する。語釈を必要とする語句を選定し、その用法について、他の著作物と比較し、空海の文章表現の特徴を論じる。
	授業計画 1. ガイダンス 2. 「惠果和尚碑」の読解 (1) 3. 「惠果和尚碑」の読解 (2) 4. 「惠果和尚碑」の読解 (3) 5. 「惠果和尚碑」の読解 (4) 6. 「惠果和尚碑」の読解 (5) 7. 「惠果和尚碑」の読解 (6) 8. 「惠果和尚碑」の読解 (7) 9. 「惠果和尚碑」の読解 (8) 10. 「惠果和尚碑」の読解 (9) 11. 「惠果和尚碑」の読解 (10) 12. 「惠果和尚碑」の読解 (11) 13. 「惠果和尚碑」の読解 (12) 14. 「惠果和尚碑」の読解 (13) 15. 「惠果和尚碑」の読解 (14) 16. 「惠果和尚碑」の読解 (15)
	テキスト 『性霊集』のコピーを配布する。
	参考書・参考資料等 『性霊集便蒙』『性霊集私記』など。
学期	前期
単位数	2
担当者	南 昌 宏
学生に対する評価 発表 50%。期末レポート 50%。授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算。 ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 正確な書き下し文を作成できる。 (良) 典故を正確に指摘できる。 (優) 空海の文章表現の特徴を明確に説明できる。 その他 博士後期課程の大学院生を対象とするが、聴講は自由とする。	

科目名 密教特殊演習 2 (大)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：空海在唐期の漢詩文を精確に読解し、語句の典拠・用例等について詳細に検討する。中国の古典や仏典、あるいは空海自身の著述と比較することにより、文章表現の特徴を明らかにする。 テーマ：『性霊集』を読む。
	授業の概要 空海在唐期の漢詩文の一つである「大唐神都青龍寺故三朝国師灌頂阿闍梨惠果和尚碑」を読み、書き下し文を作成する。語釈を必要とする語句を選定し、その用法について、他の著作物と比較し、空海の文章表現の特徴を論じる。
	授業計画 1. ガイダンス 2. 「惠果和尚碑」の読解 (1) 3. 「惠果和尚碑」の読解 (2) 4. 「惠果和尚碑」の読解 (3) 5. 「惠果和尚碑」の読解 (4) 6. 「惠果和尚碑」の読解 (5) 7. 「惠果和尚碑」の読解 (6) 8. 「惠果和尚碑」の読解 (7) 9. 「惠果和尚碑」の読解 (8) 10. 「惠果和尚碑」の読解 (9) 11. 「惠果和尚碑」の読解 (10) 12. 「惠果和尚碑」の読解 (11) 13. 「惠果和尚碑」の読解 (12) 14. 「惠果和尚碑」の読解 (13) 15. 「惠果和尚碑」の読解 (14) 16. 「惠果和尚碑」の読解 (15)
	テキスト 『性霊集』のコピーを配布する。
	参考書・参考資料等 『性霊集便蒙』『性霊集私記』など。
学期	後期
単位数	2
担当者	南 昌 宏
学生に対する評価 発表 50%。期末レポート 50%。授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算。 ルーブリック (目標に準拠した評価) (可) 正確な書き下し文を作成できる。 (良) 典故を正確に指摘できる。 (優) 空海の文章表現の特徴を明確に説明できる。 その他 博士後期課程の大学院生を対象とするが、聴講は自由とする。	

科目名
学期
単位数
担当者

科目名
学期
単位数
担当者

教 員 別 索 引

【あ 行】

乾 仁 志	密教学概論 I	文 - 6
	密教学概論 II	文 - 6
	真言宗の教え (別)	文 - 6
	密教学講読演習 B	文 - 9
	密教学演習 F	文 - 18
	宗教科教育法 I	文 - 42
	宗教科教育法 II	文 - 42
	密教学講義 (大)	院 - 1
	密教学演習 B - 1 (大)	院 - 3
	密教学演習 B - 2 (大)	院 - 4
井上ウイマラ	仏教学特殊講義 A	文 - 15
	密教学演習 A	文 - 17
	企画科目 (マインドフルネス)	文 - 20
	アジア地域の宗教文化の研究 (大)	院 - 10
上 田 恭 寿	国語学 I	文 - 28
	国語学 II	文 - 28
	国語学講義 I	文 - 34
	国語学講義 II	文 - 34
上 山 雄 慈	企画科目 (詠歌)	文 - 22
内 海 周 浩	法式	文 - 30
	法式 (別)	文 - 30
岡 本 文 音	伝統文化実習 (茶道)	文 - 48
岡 本 正 志	教育方法論	文 - 44
奥 山 直 司	密教史概説 I	文 - 6
	密教学特殊講義 I	文 - 14
	密教学演習 C	文 - 17
	インド学講義 (大)	院 - 1
	密教史演習 A - 1 (大)	院 - 4
	密教史演習 A - 2 (大)	院 - 4
	現代社会と宗教 (大)	院 - 6

【か 行】

加 賀 博	企画科目 (寺院経営講座)	文 - 20
	キャリアアカウンセリング II	文 - 49
加 納 和 雄	仏教学概論 I	文 - 6
	仏教学概論 II	文 - 6
	真言密教講読演習 A	文 - 11
	真言宗典講読 2 - 2 (別)	文 - 11
	密教学演習 G	文 - 18
	サンスクリット語 II	文 - 24
	チベット語	文 - 24
	チベット語 (別)	文 - 24
	仏教学講義 (大)	院 - 1
	仏教史特殊研究 (大)	院 - 7
	仏教学演習 1 (大)	院 - 8
	仏教学演習 2 (大)	院 - 8
加 陽 生 子	体育実技	文 - 25
川 崎 一 洋	宗教思想史 I	文 - 26
	宗教思想史 II	文 - 26
	宗教学 I	文 - 31
	宗教学 II	文 - 31
	世界の宗教 (別)	文 - 31
	宗教史 I	文 - 31
	宗教史 II	文 - 31
	宗教の歴史 (別)	文 - 31
木 地 茂 典	企画科目 (おもしろ数学思考力)	文 - 20
木 本 滋 久	漢字 II	文 - 36
	条幅制作 A	文 - 38
梶 谷 有 桜	企画科目 (芸能)	文 - 21
高 祖 彩 恵子	企画科目 (舞踊)	文 - 19
甲 田 宥 咩	企画科目 (一流伝授 I)	文 - 23
	企画科目 (一流伝授 II)	文 - 23
	密教実践法の研究 1 (大)	院 - 9
	密教実践法の研究 2 (大)	院 - 9
五 味 和 樹	企画科目 (華道)	文 - 20
近 藤 堯 寛	布教	文 - 30
	布教 (別)	文 - 30

【さ 行】

齋 藤 天 譽	真言密教特殊講義 B	文 - 16
	真言密教特殊講義 C	文 - 16
	密教儀礼の理論と実習 (別)	文 - 16
	梵字悉曇	文 - 29

	梵字悉曇 (別)	文 - 29
	事相研究 I - 1 (大)	院 - 6
	事相研究 I - 2 (大)	院 - 6
坂 口 太 郎	総合科目 (書誌学)	文 - 19
	総合科目 (古文書入門)	文 - 19
	企画科目 (歴史学 I)	文 - 22
	企画科目 (歴史学 II)	文 - 23
	日本文化特殊講義 A	文 - 34
	日本文化特殊講義 B	文 - 34
	人間学概論 II	文 - 47
	人間学基礎ゼミ III	文 - 48
	人間学基礎ゼミ IV	文 - 48
櫻 木 潤	日本語 B	文 - 2
	日本語 (再履修)	文 - 2
	弘法大師伝 A	文 - 3
	弘法大師伝 B	文 - 3
	弘法大師空海の生涯 A (別)	文 - 3
	弘法大師空海の生涯 B (別)	文 - 3
	密教史概説 II	文 - 7
	仏教学講読演習 A	文 - 10
	仏教学講読演習 B	文 - 10
佐 藤 隆 彦	密教学演習 H	文 - 18
	企画科目 (阿息観)	文 - 21
	企画科目 (月輪観と阿字観)	文 - 22
	観法の理論と実習 (別)	文 - 22
	祖典演習 (大)	院 - 1
	密教史演習 B - 1 (大)	院 - 4
	密教史演習 B - 2 (大)	院 - 5
	密教学講読 (大)	院 - 5
	事相研究 (聖教の伝授と実習) (別)	院 - 7
	事相研究 II - 1 (大)	院 - 7
	事相研究 II - 2 (大)	院 - 7
静 慈 圓	密教学特殊講義 E	文 - 13
	密教学特殊講義 F	文 - 13
	仏教芸術 (別)	文 - 13
静 春 樹	英語 I B	文 - 1
	英語 II B	文 - 5
	英会話	文 - 24
嶋 田 博	教職入門	文 - 41
	教育課程論	文 - 42
下 西 忠	国文法 I	文 - 27
	国文法 II	文 - 27
	日本文学史概説 I	文 - 33
	日本文学史概説 II	文 - 33
	国語科教育法 I	文 - 43
	国語科教育法 II	文 - 43
	国語科教育法 III	文 - 43
	国語科教育法 IV	文 - 43

【た 行】

高 倉 正 行	英語 I A	文 - 1
	英語 I (再履修)	文 - 2
	英語 II A	文 - 5
	英語 II (再履修)	文 - 5
	企画科目 (時事英語)	文 - 19
竹 村 和 也	現代の人権	文 - 29
	日本国憲法	文 - 29
	人権と福祉 (別)	文 - 29
田 中 公 明	密教学特殊研究 B (大)	院 - 2
田 村 美 幸	就職スキル講座	文 - 46
	キャリアアカウンセリング I	文 - 47
辻 佐 智子	企画科目 (舞踊)	文 - 19
辻 秀 道	企画科目 (詠歌)	文 - 22
	企画科目 (声明上級)	文 - 23
	声明上級 (別)	文 - 23
	声明	文 - 30
	声明 (別)	文 - 30
土 居 夏 樹	日本語 A	文 - 2
	祖典講読 I B	文 - 8
	祖典講読 II B	文 - 8
	祖典講読 III A	文 - 8
	祖典講読 IV A	文 - 9
	真言密教講読演習 F	文 - 12
	密教史特殊研究 1 (大)	院 - 2
	密教史特殊研究 2 (大)	院 - 3

T.ドライトライン	真言密教講読演習B	文-11
	真言密教講読演習C	文-11
	真言密教講読演習D	文-11
	真言密教講読演習E	文-12
	密教学特殊講義G	文-14
	密教学特殊講義H	文-14
	密教学特殊研究A-1(大)	院-2
	密教学特殊研究A-2(大)	院-2
	現代社会と仏教の研究1(大)	院-11
	現代社会と仏教の研究2(大)	院-11

【な行】

中西雄泰	密教学特殊講義A	文-12
	密教学特殊講義B	文-12
中安真理	密教学特殊講義J	文-14
野田悟	密教学演習B	文-17
	中国文化特殊講義A	文-35
	漢字I	文-36
	篆刻I	文-37
	篆刻II	文-37
	書道史(中国)	文-38
野口博司	情報処理	文-29

【は行】

土生川正賢	中国語(初級)	文-25
	中国語(上級)	文-25
浜畑圭吾	日本文学I	文-28
	日本文学II	文-28
	日本文学概論I	文-32
	日本文学概論II	文-32
	日本文化講読演習A	文-34
	日本文化講読演習B	文-34
	国語科教育法III	文-43
	国語科教育法IV	文-43
	人間学概論I	文-47
	仏教史講読1(大)	院-9
	仏教史講読2(大)	院-9
藤田光寛	空海の思想入門A	文-1
	空海の思想入門B	文-1
	宗教学方法論	文-32
淵田雲溪	企画科目(法式上級)	文-21
	法式上級(別)	文-21
戸來知子	心理学I	文-26
	心理学II	文-26
	心の科学(別)	文-26
	教育心理学	文-41
	情報技術論	文-44
	特別教育活動	文-44
	生徒指導・進路指導	文-45
	教育相談	文-45
	教職実践演習	文-45
	教育実習の研究	文-45

【ま行】

前谷彰	釈尊伝A	文-3
	釈尊伝B	文-3
	釈尊の生涯A(別)	文-3
	釈尊の生涯B(別)	文-3
	仏教史概説I	文-6
	仏教史概説II	文-6
	仏教学特殊講義E	文-16
	密教学演習D	文-17
	サンスクリット語I	文-24
	サンスクリット語(別)	文-24
	密教と文化(大)	院-6
	仏教と文化(大)	院-6
	仏教学特殊研究(大)	院-7
	仏教史演習A-1(大)	院-8
	仏教史演習A-2(大)	院-8
松長恵史	祖典講読I A	文-8
	祖典講読II A	文-8
	真言宗典講読1(別)	文-8
	祖典講読III B	文-8
	祖典講読IV B	文-9
	密教学講読演習A	文-9

	真言宗典講読2-1(別)	文-9
	真言密教特殊講義A	文-16
	宗教科教育法III	文-42
	密教史講読1(大)	院-5
	密教史講読2(大)	院-5
南昌宏	漢文I A	文-4
	漢文I B	文-4
	漢文II A	文-4
	漢文II B	文-4
	密教学演習E	文-18
	漢文学概論I	文-33
	漢文学概論II	文-33
	中国文化特殊講義B	文-35
	中国文化講読演習	文-36
	密教学演習A-1(大)	院-3
	密教学演習A-2(大)	院-3
	密教特殊演習1(大)	院-12
	密教特殊演習2(大)	院-12
宮田永明	常用經典	文-30
	常用經典(別)	文-30
村上公教	企画科目(詠歌)	文-22
森崎雅好	仏教学特殊講義D	文-15
	人間学概論II	文-47
森本一彦	人間学概論II	文-47
	人間と宗教A	文-3
	人間と宗教B	文-3
	密教学特殊講義C	文-13
	密教学特殊講義D	文-13
	企画科目(地域連携)	文-22
	社会学I	文-27
	社会学II	文-27
	伝統文化実習(民俗調査)	文-48
	教育社会学	文-41
	比較宗教の研究(大)	院-10

【や行】

山口幸照	社会福祉各論I(障害者福祉)	文-39
	社会福祉各論I(地域福祉)	文-39
	社会福祉各論II(地域福祉)	文-39
	地域福祉(別)	文-39
	社会福祉各論I(児童福祉)	文-39
	社会福祉各論II(高齢者福祉)	文-40
	社会保障総論I	文-40
	社会保障総論II	文-40
	社会保障(別)	文-40
山本圭子	かなI	文-37
	かなII	文-37
	条幅制作B	文-38
山脇雅夫	現代思想A	文-3
	哲学A(別)	文-3
	現代思想B	文-3
	哲学方法論	文-32
	哲学B(別)	文-32
	教育原論	文-41
	教育方法論	文-44
	道德教育の研究	文-44
	教育実習の研究	文-45
	人間学基礎ゼミI	文-46
	人間学基礎ゼミII	文-46
	人間学概論I	文-47
	教育学特殊研究(大)	院-11

【わ行】

和田圭子	仏教学講読演習C	文-10
	仏教学講読演習D	文-10
	仏教学特殊講義B	文-15
	仏教学特殊講義C	文-15
	企画科目(仏教芸術)	文-21
	仏教芸術の研究1(大)	院-10
	仏教芸術の研究2(大)	院-10

講義概要・授業計画 平成28年度(2016)

2016年4月1日発行

編集・発行 高野山大学

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385

Tel. (0736) 56-5027 (学務課)

Fax. (0736) 56-2746

E-mail : kyomu@koyasan-u.ac.jp

URL : <http://www.koyasan-u.ac.jp>

印刷 藤井印刷株式会社

KOYASAN UNIVERSITY